青森県埋蔵文化財調査報告書　第394集

近 野 遺 跡 Ⅷ

－県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

（第一分冊　本文・図版編）

２００５年３月

青森県教育委員会

『近野遺跡Ⅷ』正誤表

頁	誤	正
目次	第７節　Ｅ区放射性炭素年代測定分析	第７節　Ｅ区の放射性炭素年代分析結果
73	図54　第Ｅ53号竪穴住居跡	図54　第Ｅ53号竪穴住居跡(2)
157	第121図	図121
214	（表中ESK158）　ESB10PIT2より	（トル）
280	（図1グラフ中）比較試料３	（図1グラフ中）比較試料
336	（図201中）	大型住居跡の主軸方向はＮ－Ｓ
343	『三内沢部遺跡』（青森県教委1977）、	『三内澤部遺跡』（青森県教委1978）、
378	④赤変が著しく、…。⑤バケツ形の器形…	⑤赤変が著しく、…。⑥バケツ形の器形…
385	（住居番号表中15・17）　遺構番号なし	（住居番号表中15・17）　欠番
386	（住居番号表中34・46・57）　遺構番号なし	（住居番号表中34・46・57）　欠番

第394集

近野遺跡Ⅷ（第一分冊）

二〇〇五・三

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第394集

近野遺跡Ⅷ

－県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

（第一分冊　本文・図版編）

２００５年３月

青森県教育委員会

空中写真（平成13年度撮影）

空中写真（平成14年度撮影）

縄文土器集合写真

土師器・須恵器　集合写真（第E26-Ⅲ号竪穴住居跡出土）

線刻のある小型土器　展開写真（胴部）（第E30号竪穴住居跡出土）

同左　底面

序

近野遺跡は、特別史跡三内丸山遺跡の南に隣接し、縄文時代中期～後期と、平安時代の遺跡として周知されています。

県立美術館及び県道里見丸山線建設事業により、平成11年度に試掘調査を開始しました。平成12～15年度は約70,000㎡を超える大規模な区域の発掘調査を行いました。

これらの調査のうち、今年度は遺跡の中央の台地部分（E区）について報告します。ここからは、縄文時代中期後半の集落跡と平安時代の集落跡が検出されました。縄文時代については、特別史跡の一部である近野地区の南側の調査を行い、およそ4,500年前の竪穴住居跡群等を検出しました。この遺構群は、特別史跡内の集落跡に連続する同時期の集落跡の一部であることが判明しました。

これらは谷から出土した水場遺構とあわせて、縄文時代の集落跡の全体像を明らかにする貴重な資料となり得るものです。

本報告書が広く文化財の保護と研究に活用され、地域社会の歴史・文化への普及活動に資することを期待したいと存じます。最後になりましたが、発掘調査の実施と報告書作成にあたり、御協力、御指導を賜りました関係各位に対し、厚く感謝を申し上げます。

平成17年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所　長　佐　藤　　良　治

例　言

1　本報告書は、県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴い平成13～15年度に実施した青森市近野遺跡の発掘調査報告書で、中央の台地部分（Ｅ区）を収録している。

2　この遺跡は、平成10年３月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』に、遺跡番号０１０６５として登録されている。

3　本報告書の編集・作成は坂本真弓・小笠原雅行・水谷真由美・斉藤慶吏・杉野森淳子・伊藤由美子・荒谷伸郎・工藤　大・成田滋彦・畠山　昇が担当した。原稿執筆者の氏名は各文末に、依頼原稿については文頭に記している。

4　資料の分析、鑑定については、下記の方に依頼した（敬称略）。

石器の石質鑑定	弘前大学理工学部教授　　柴　正敏
火山灰分析	弘前大学理工学部教授　　柴　正敏
炭化木材樹種同定	株式会社　パレオ・ラボ
	パリノ・サーヴェイ株式会社
炭化種実同定	古代の森研究舎
リン・カルシウム含量分析	株式会社　古環境研究所
放射性炭素年代分析	株式会社　地球科学研究所
黒曜石産地同定	京都大学原子炉実験所　藁科哲男
製塩土器の自然科学分析	パリノ・サーヴェイ株式会社
鉄関連遺物の自然科学分析	JFEテクノリサーチ株式会社

5　本書に掲載した遺跡位置図は、国土地理院発行の25,000分の１地形図「青森西部」を加工したものである。

6　遺構・遺物の表現は原則として次の基準・様式に拠った。主たる遺物の分類及び凡例についての詳細は、第１章第５節に記載してある。

(1) 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。遺構は、1/60・1/30・1/80、遺物は、剥片石器・土製品・石製品1/2、縄文土器・製塩土器・支脚・鉄関連遺物1/3、土師器・須恵器1/4、礫石器1/4・1/5・1/6・1/8・1/12を基本としている。

(2) 公共座標は旧日本測地系に基づき、図中の方位は座標北を表す。

(3) 堆積土の色及び土器の色については『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄　1993）を用いた。堆積土中の混入物の大きさについては便宜的に次のとおり表記し、それ以外のものは適宜形状と大きさを記した。混入物の状態については、主たる次のものを記載している。

・粒状　「粒」＝粒経２mm以下、「中粒」＝２～５mm程度、「大粒」＝５～10mm程度

・塊状　「塊」＝粒経10mm以下、「中塊」＝10～20mm程度、「大塊」＝20～50mm程度

「斑状」斑点状。「濃集」極度に集中する。「狭在」同じ様な２枚以上の堆積層に挟まれている状態。「L・B」＝ローム塊　「焼土Ｂ」＝焼土塊　「粘土Ｂ」＝粘土塊

(4) 平安時代の竪穴住居跡の主軸方向はカマドの構築された壁に直交する壁が北からどれくらい傾いているかを示す。表記例）　Ｎ－115°－Ｅ：北から東に115度の位置

(5) 竪穴住居跡の床面積は壁溝を除く残存する床部分を２回計測した平均値である。

(6) ピットの表記は、住居跡・土坑内部は「Ｐｉｔ」と、住居跡外部と掘立柱建物跡と柱穴群は「ＰＩＴ」と区別した。ピット番号は、調査時の番号をそのまま用いている。文章中に引用される場合と出土遺物が存在する場合はピット番号を付したが、その他の場合は、ピットの深さを表示するに留めた。ピットの深さは住居跡は床面から、それ以外は検出面から計測し、－○で表した。

(7) 本稿で使用した遺構の略号は、本遺跡のＥ区検出遺構であり、略号の先頭に「Ｅ」を付している。ＥＳＩ＝竪穴住居跡、ＥＳＫ＝土坑、ＥＳＢ＝掘立柱建物跡、ＥＳＲ＝土器埋設遺構、ＥＳＤ＝溝跡、ＥＳＮ＝焼土遺構、ＥＳＸ＝その他の遺構である。

(8) 遺物番号は、竪穴住居跡出土遺物は、遺構ごとに通し番号を付し（遺構名－遺物番号）、掘立柱建物跡・土器埋設遺構・土坑・ピットは、図版ごとに通し番号を付した（図版番号－遺物番号）。本文・観察表・写真図版もこれに対応している。

(9) 竪穴住居跡は、縄文時代と平安時代の２つの時代に大別される。このため住居跡内出土遺物でも明らかにその住居跡の各時代に伴わない場合がある。この場合はその遺物を遺構外扱いとした。ただし、礫石器に関しては、第１章第５節に示したとおりである。遺構外の遺物観察表には出土した遺構名と層位をそのまま記載している。

7　出土遺物には出土地点・層位が分かるよう、遺物観察表を設けた。観察表内の計測値で（　）は現存値を表す。

8　写真図版は第二分冊に掲載している。遺物写真の縮尺は不同である。遺物写真番号は挿図番号と一致し、写真のみ掲載遺物は丸囲い数字（①、②）で表記した。

9　遺物の実測、写真撮影については、下記の方に依頼した（敬称略）。

石器実測素図作成委託	株式会社ラング
遺物写真撮影	シルバーフォト
空中写真撮影	株式会社シン技術コンサル
	株式会社みちのく計画

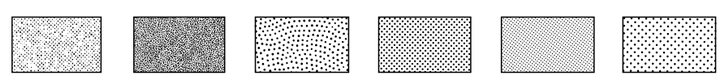
10　引用・参考文献は巻末にまとめて示した。

11　出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12　発掘調査の実施及び報告書作成にあたり、下記の方々から御協力・御指導を頂いた。

秦　光次郎、斎藤　岳

遺　構　の　凡　例



-·-·-·

目　次

序
例言
目次
図版目次

第１章　調査概要…… 1
　第１節　調査要項…… 1
　第２節　調査経過…… 4
　第３節　調査方法…… 6
　第４節　基本層序…… 7
　第５節　遺物の分類基準…… 8

第２章　検出遺構と遺物…… 17
　第１節　縄文時代の竪穴住居跡…… 17
　第２節　縄文時代の掘立柱建物跡…… 85
　第３節　縄文時代の土器埋設遺構…… 102
　第４節　平安時代の竪穴住居跡…… 104
　第５節　土坑…… 188
　第６節　その他の遺構…… 248
　　1.ピット群　2.掘立柱建物跡　3.溝跡　4.性格不明遺構　5.焼土遺構
　第７節　遺構外出土遺物…… 257
　　1 縄文土器　2.土製品（縄文）　3.石製品（縄文）　4.剥片石器　5.礫石器
　　6.土師器・須恵器　7.土製品（古代）　8.近世以降の遺物

第３章　自然科学分析…… 279
　第１節　Ｅ区埋設土器のリン・カルシウム含量分析…… 279
　第２節　Ｅ区出土黒曜石製石器の原材産地分析…… 281
　第３節　Ｅ区遺構内出土炭化材の樹種…… 292
　第４節　Ｅ区遺構内出土炭化種実…… 302
　第５節　Ｂ・Ｅ区出土製塩土器の自然科学分析…… 306
　第６節　Ｅ区遺構内出土鉄滓の自然科学分析…… 313
　第７節　Ｅ区放射性炭素年代分析…… 326
　第８節　Ｅ区火山灰分析…… 332

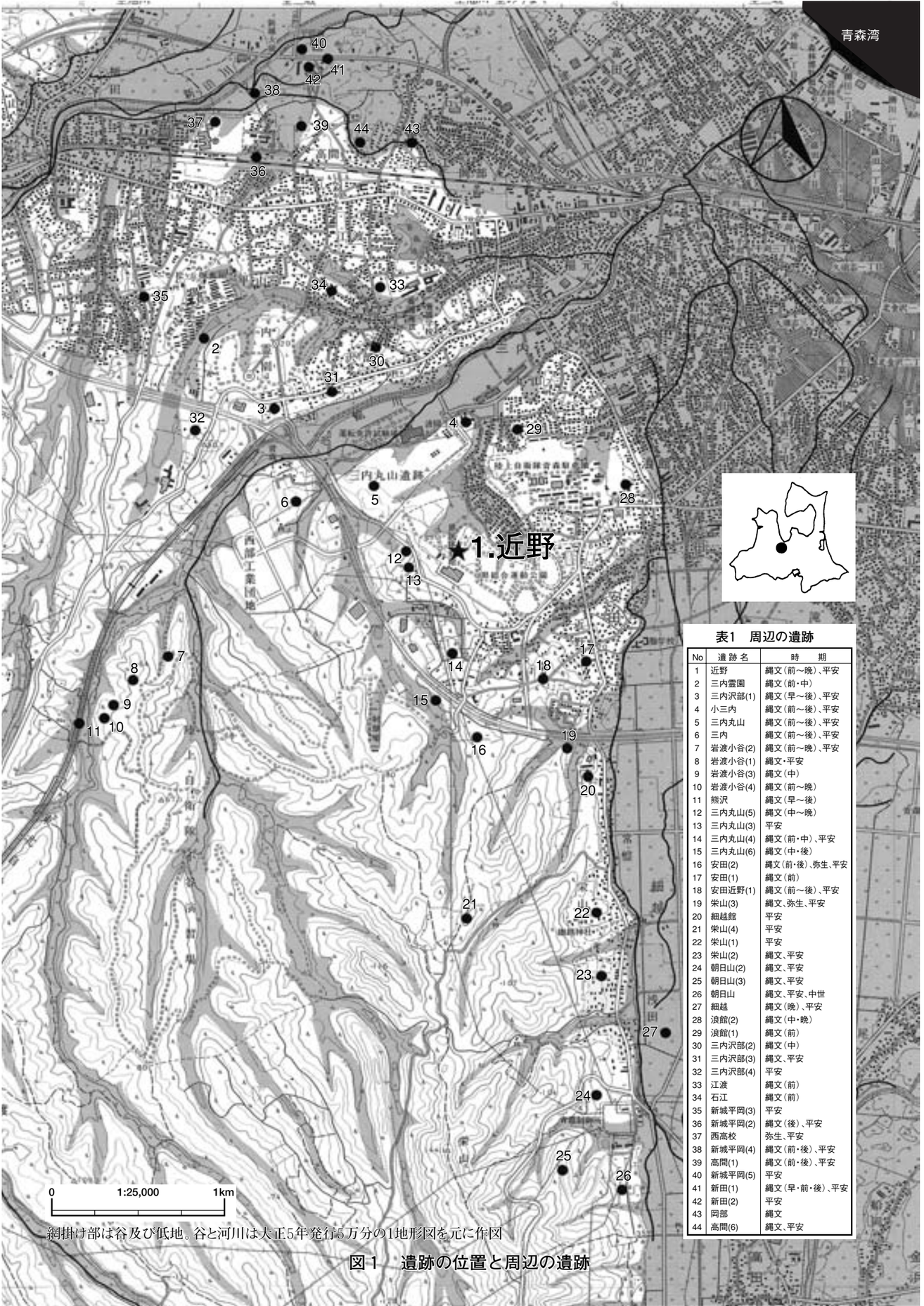
第４章　分析と考察…… 334
　第１節　縄文時代の遺構…… 334
　第２節　縄文土器…… 340
　第３節　剥片石器…… 346
　第４節　礫石器…… 350
　第５節　縄文時代の土・石製品…… 354
　第６節　絵画の可能性のある文様をもつ土器について…… 358
　第７節　平安時代の遺構…… 361
　第８節　土師器・須恵器…… 366
　第９節　古代の土製品…… 377
　第10節　製塩土器…… 378
　第11節　支脚…… 378
　第12節　焼成粘土塊…… 379
　第13節　鉄関連遺物…… 379

引用・参考文献…… 382
遺物観察表…… 387
報告書抄録

図版目次

図1　遺跡の位置と周辺の遺跡
図2　全体図1…… 5
図3　基本層序…… 7
図4　剥片石器の分類…… 9
図5　土師器・須恵器・羽口の分類… 12
図6　全体図2…… 13・14
図7　E区遺構配置図…… 15・16
図8　第E8号竪穴住居跡 …… 17
図9　第E9号竪穴住居跡（1）…… 19
図10　第E9号竪穴住居跡（2）…… 20
図11　第E10号竪穴住居跡（1）…… 21
図12　第E10号竪穴住居跡（2）…… 22
図13　第E10号竪穴住居跡（3）…… 23
図14　第E10号竪穴住居跡（4）…… 24
図15　第E12号竪穴住居跡（1）…… 25
図16　第E12号竪穴住居跡（2）…… 26
図17　第E13号竪穴住居跡（1）…… 27
図18　第E13号竪穴住居跡（2）…… 28
図19　第E14号竪穴住居跡（1）…… 30
図20　第E14号竪穴住居跡（2）…… 31
図21　第E14号竪穴住居跡（3）…… 32
図22　第E14号竪穴住居跡（4）…… 33
図23　第E16号竪穴住居跡（1）…… 33
図24　第E16号竪穴住居跡（2）…… 34
図25　第E18号竪穴住居跡…… 36
図26　第E19号竪穴住居跡（1）…… 37
図27　第E19号竪穴住居跡（2）…… 38
図28　第E22号竪穴住居跡…… 40
図29　第E28号竪穴住居跡（1）…… 42
図30　第E28号竪穴住居跡（2）…… 43
図31　第E28号竪穴住居跡（3）…… 44
図32　第E29号竪穴住居跡（1）…… 46
図33　第E29号竪穴住居跡（2）…… 47
図34　第E29号竪穴住居跡（3）…… 48
図35　第E29号竪穴住居跡（4）…… 49
図36　第E30号竪穴住居跡（1）…… 51
図37　第E30号竪穴住居跡（2）…… 52
図38　第E30号竪穴住居跡（3）…… 53
図39　第E32号竪穴住居跡（1）…… 54
図40　第E32号竪穴住居跡（2）…… 55
図41　第E37号竪穴住居跡…… 57
図42　第E38号竪穴住居跡…… 59
図43　第E45号竪穴住居跡（1）…… 61
図44　第E45号竪穴住居跡（2）…… 62
図45　第E45号竪穴住居跡（3）…… 63
図46　第E45号竪穴住居跡（4）…… 64
図47　第E45号竪穴住居跡（5）…… 65
図48　第E49号竪穴住居跡（1）…… 66
図49　第E49号竪穴住居跡（2）…… 67
図50　第E50号竪穴住居跡（1）…… 68
図51　第E50号竪穴住居跡（2）…… 69
図52　第E52号竪穴住居跡…… 71
図53　第E53号竪穴住居跡（1）…… 72
図54　第E53号竪穴住居跡（2）…… 73
図55　第E54号竪穴住居跡（1）…… 75
図56　第E54号竪穴住居跡（2）…… 76
図57　第E54号竪穴住居跡（3）…… 77
図58　第E54号竪穴住居跡（4）…… 78
図59　第E55号竪穴住居跡（1）…… 79
図60　第E55号竪穴住居跡（2）…… 80
図61　第E56・58号竪穴住居跡（1）…… 82
図62　第E56号竪穴住居跡（2）…… 83
図63　第E56号竪穴住居跡（3）…… 84
図64　第E58号竪穴住居跡（4）…… 85
図65　第E1号掘立柱建物跡…… 86
図66　第E2号掘立柱建物跡…… 88
図67　第E3号掘立柱建物跡…… 89
図68　第E4号掘立柱建物跡（1）…… 90
図69　第E4号掘立柱建物跡（2）…… 91
図70　第E5号掘立柱建物跡…… 92
図71　第E7号掘立柱建物跡…… 93
図72　第E8号掘立柱建物跡…… 95

図73　第E9号掘立柱建物跡…… 96
図74　第E10号掘立柱建物跡（1）……97
図75　第E10号掘立柱建物跡（2）……98
図76　第E11号掘立柱建物跡……99
図77　掘立柱建物跡出土遺物（1）… 100
図78　掘立柱建物跡出土遺物（2）… 101
図79　第E1～3号土器埋設遺構……103
図80　第E1号竪穴住居跡（1）…… 105
図81　第E1号竪穴住居跡（2）…… 107
図82　第E1号竪穴住居跡（3）…… 108
図83　第E2号竪穴住居跡……109
図84　第E3号竪穴住居跡（1）…… 110
図85　第E3号竪穴住居跡（2）…… 111
図86　第E3号竪穴住居跡（3）…… 112
図87　第E4号竪穴住居跡……113
図88　第E5号竪穴住居跡（1）…… 115
図89　第E5号竪穴住居跡（2）…… 116
図90　第E6号竪穴住居跡（1）…… 118
図91　第E6号竪穴住居跡（2）…… 120
図92　第E6号竪穴住居跡（3）…… 121
図93　第E7号竪穴住居跡（1）…… 123
図94　第E7号竪穴住居跡（2）…… 124
図95　第E11号竪穴住居跡（1）……125
図96　第E11号竪穴住居跡（2）……126
図97　第E23号竪穴住居跡…… 127
図98　第E24号竪穴住居跡（1）……129
図99　第E24号竪穴住居跡（2）……130
図100　第E24号竪穴住居跡（3）……131
図101　第E24号竪穴住居跡（4）……132
図102　第E25号竪穴住居跡（1）…… 133
図103　第E25号竪穴住居跡（2）…… 134
図104　第E25号竪穴住居跡（3）…… 135
図105　第E26号竪穴住居跡（1）…… 139
図106　第E26号竪穴住居跡（2）…… 140
図107　第E26号竪穴住居跡（3）…… 141
図108　第E26号竪穴住居跡（4）…… 142
図109　第E26号竪穴住居跡（5）…… 143
図110　第E26号竪穴住居跡（6）…… 144
図111　第E26号竪穴住居跡（7）……145
図112　第E26号竪穴住居跡（8）……146
図113　第E26号竪穴住居跡（9）……147
図114　第E27号竪穴住居跡（1）……149
図115　第E27号竪穴住居跡（2）……150
図116　第E27号竪穴住居跡（3）……151
図117　第E31号竪穴住居跡（1）……153
図118　第E31号竪穴住居跡（2）……154
図119　第E33号竪穴住居跡…… 155
図120　第E35号竪穴住居跡…… 155
図121　第E36号竪穴住居跡（1）……157
図122　第E36号竪穴住居跡（2）……158
図123　第E39号竪穴住居跡（1）……160
図124　第E39号竪穴住居跡（2）……161
図125　第E39号竪穴住居跡（3）……162
図126　第E39号竪穴住居跡（4）……163
図127　第E40号竪穴住居跡（1）……165
図128　第E40号竪穴住居跡（2）……166
図129　第E41号竪穴住居跡（1）……167
図130　第E41号竪穴住居跡（2）……168
図131　第E42号竪穴住居跡（1）……170
図132　第E42号竪穴住居跡（2）……171
図133　第E42号竪穴住居跡（3）……172
図134　第E42号竪穴住居跡（4）……173
図135　第E43号竪穴住居跡（1）……175
図136　第E43号竪穴住居跡（2）……176
図137　第E44号竪穴住居跡（1）…… 179
図138　第E44号竪穴住居跡（2）……180
図139　第E44号竪穴住居跡（3）……181
図140　第E44号竪穴住居跡（4）……182
図141　第E44号竪穴住居跡（5）……183
図142　第E47号竪穴住居跡…… 184
図143　第E48号竪穴住居跡（1）……185
図144　第E48号竪穴住居跡（2）……186
図145　第E51号竪穴住居跡……187
図146　土坑（1）…… 215
図147　土坑（2）…… 216
図148　土坑（3）…… 217
図149　土坑（4）……218
図150　土坑（5）……219
図151　土坑（6）……220
図152　土坑（7）……221
図153　土坑（8）……222
図154　土坑（9）……223
図155　土坑（10）……224
図156　土坑（11）……225
図157　土坑（12）……226
図158　土坑内出土遺物（1）……227
図159　土坑内出土遺物（2）……228
図160　土坑内出土遺物（3）……229
図161　土坑内出土遺物（4）……230
図162　土坑内出土遺物（5）……231
図163　土坑内出土遺物（6）……232
図164　土坑内出土遺物（7）……233
図165　土坑内出土遺物（8）……234
図166　土坑内出土遺物(9)(ESK120－1)‥235
図167　土坑内出土遺物(10)(ESK120－2)…236
図168　土坑内出土遺物(11)(ESK120－3)…237
図169　土坑内出土遺物(12)(ESK120－4)…238
図170　土坑内出土遺物（13）…… 239
図171　土坑内出土遺物（14）…… 240
図172　土坑内出土遺物（15）…… 241
図173　土坑内出土遺物（16）…… 242
図174　土坑内出土遺物（17）…… 243
図175　土坑内出土遺物（18）…… 244
図176　土坑内出土遺物（19）…… 245
図177　土坑内出土遺物（20）…… 246
図178　土坑内出土遺物（21）…… 247
図179　ピット群（1）…… 249
図180　ピット群（2）…… 250
図181　ピット群（3）…… 251
図182　ピット群（4）…… 252
図183　ピット群（5）…… 254
図184　掘立柱建物跡・溝跡・
性格不明遺構・焼土遺構…… 256
図185　遺構外出土縄文土器（1）…… 259
図186　遺構外出土縄文土器（2）…… 260
図187　遺構外出土縄文土器（3）…… 261
図188　遺構外出土縄文土器（4）…… 262
図189　遺構外出土縄文土器（5）…… 263
図190　遺構外出土縄文土器（6）…… 264
図191　遺構外出土土製品（縄文）…… 266
図192　遺構外出土石製品（縄文）…… 267
図193　遺構外出土剥片石器（1）…… 269
図194　遺構外出土剥片石器（2）…… 270
図195　遺構外出土剥片石器（3）…… 271
図196　遺構外出土礫石器（1）…… 272
図197　遺構外出土礫石器（2）…… 274
図198　遺構外出土土師器・須恵器……275
図199　遺構外出土土製品（古代）…… 276
図200　遺構外出土土製品・銭貨
（近世以降）……277
図201　掘立柱建物跡と
大型住居跡の主軸方向…… 336
図202　掘立柱建物跡と
大型住居跡の規模…… 336
図203　縄文時代の遺構配置…… 339
図204　遺構内出土土器共伴関係…… 344
図205　土器集成図…… 345
図206　礫石器組成…… 353
図207　土製品集成図…… 356
図208　石製品集成図…… 357
図209　線刻のある土器…… 360
図210　柱穴配置分類…… 361
図211　平安時代竪穴住居跡の規模と
カマドの位置…… 361
図212　拡張の分類…… 362
図213　平安時代竪穴住居跡主軸方向…… 362
図214　土器の口径器高分布図…… 372
図215　住居跡に共伴する土師器・須恵器－1… 373
図216　住居跡に共伴する土師器・須恵器－2… 374
図217　住居跡に共伴する土師器・須恵器－3… 375
図218　墨書・ヘラ記号土器集成…… 376



網掛け部は谷及び低地。谷と河川は大正5年発行5万分の1地形図を元に作図

図1　遺跡の位置と周辺の遺跡

表1　周辺の遺跡

No	遺跡名	時期
1	近野	縄文（前～晩）、平安
2	三内霊園	縄文（前・中）
3	三内沢部(1)	縄文（早～後）、平安
4	小三内	縄文（前～後）、平安
5	三内丸山	縄文（前～後）、平安
6	三内	縄文（前～後）、平安
7	岩渡小谷(2)	縄文（前～晩）、平安
8	岩渡小谷(1)	縄文・平安
9	岩渡小谷(3)	縄文（中）
10	岩渡小谷(4)	縄文（前～晩）
11	熊沢	縄文（早～後）
12	三内丸山(5)	縄文（中～晩）
13	三内丸山(3)	平安
14	三内丸山(4)	縄文（前・中）、平安
15	三内丸山(6)	縄文（中・後）
16	安田(2)	縄文（前・後）、弥生、平安
17	安田(1)	縄文（前）
18	安田近野(1)	縄文（前～後）、平安
19	栄山(3)	縄文、弥生、平安
20	細越館	平安
21	栄山(4)	平安
22	栄山(1)	平安
23	栄山(2)	縄文、平安
24	朝日山(2)	縄文、平安
25	朝日山(3)	縄文、平安
26	朝日山	縄文、平安、中世
27	細越	縄文（晩）、平安
28	浪館(2)	縄文（中・晩）
29	浪館(1)	縄文（前）
30	三内沢部(2)	縄文（中）
31	三内沢部(3)	縄文、平安
32	三内沢部(4)	平安
33	江渡	縄文（前）
34	石江	縄文（前）
35	新城平岡(3)	平安
36	新城平岡(2)	縄文（後）、平安
37	西高校	弥生、平安
38	新城平岡(4)	縄文（前・後）、平安
39	高間(1)	縄文（前・後）、平安
40	新城平岡(5)	平安
41	新田(1)	縄文（早・前・後）、平安
42	新田(2)	平安
43	岡部	縄文
44	高間(6)	縄文、平安

第１章　調査概要

第１節　調査要項

１　調査目的

県立美術館及び県道里見丸山線建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する近野遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して地域社会の文化財の活用に資する。

２　調査期間　　平成13年4月18日から同年11月22日
　　平成14年4月15日から同年12月20日
　　平成15年4月17日から同年10月22日

３　遺跡名及び所在地　　近野遺跡（青森県遺跡番号01065）
　　青森市大字安田字近野219、外　青森県総合運動公園地内

4　調査面積　　総面積　　72,600平方メートル
　　16,000平方メートル（平成13年）
　　26,600平方メートル（平成14年）
　　30,000平方メートル（平成15年）
　（本書掲載分）E区　　18,200平方メートル（平成13～15年調査）

5　調査委託者　　青森県環境生活部美術館整備・芸術パーク構想推進室
　　青森県県土整備部都市計画課

6　調査受託者　　青森県教育委員会

7　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

8　調査体制

（平成13年度）

調査指導員	村越　潔	青森大学社会学部教授	（考古学）
調　査　員	山口　義伸	青森県文化・スポーツ振興課総括主幹 （現　青森県立浪岡高等学校教諭）	（地質学）
	山田　昌久	東京都立大学人文学部助教授	（考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター		
	所　　長	中島　邦夫　（現　青森県立図書館長）	
	次　　長	成田　誠治　（平成14年３月退職）	

総務課長　西口　良一　（現出納局経理課総括主幹）
調査第二課長　福田　友之　（現　次長）
文化財保護主幹　畠山　昇　（現　総括主幹）
文化財保護総括主査　川口　潤　（現　文化財保護課文化財保護主幹）
文化財保護主事　小笠原　雅行（現　文化財保護主査）
杉野森　淳子、坂本　真弓
調査補助員　浅利　康子、大石　悠治、片岡　典子、後藤　千春
森川　真佐子、藤原　咲子、高橋　明子、
安達　智美、山内　教子、森内　麻美

（平成14年度）
調査指導員　村越　潔　青森大学教授　（考古学）
調　査　員　柴　正敏　弘前大学理工学部教授　（地質学）
葛西　勵　青森短期大学教授　（考古学）
山田　昌久　東京都立大学人文学部助教授　（考古学）
渡辺　誠　元名古屋大学文学部教授　（考古学）
（現　山梨県立考古博物館長）
岡村　道雄　奈良文化財研究所協力調整官　（考古学）
（現　奈良文化財研究所平城京発掘調査部長）
調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　佐藤　良治
次　長　福田　友之
総務課長　工藤　和夫
調査第二課長　成田　滋彦
文化財保護総括主査　川口　潤　（現　文化財保護課文化財保護主幹）
上野　茂樹（現 特別対策局広報広聴室総括主査）
文化財保護主査　木村　高　（現　県立郷土館学芸員）
文化財保護主事　伊藤　由美子、 杉野森　淳子 、坂本　真弓
調査補助員　田中　稔大、嶋中　加那子、片岡　典子、立花　聡美、
森内　麻美、柴田　洋子、木村　友香、小林　いづみ、
佐々木　順子、成田　議謙、佐藤　勝之、田中　綾、
嶋守　亜季子、工藤　豪

（平成15年度）
調査指導員　藤沼　邦彦　弘前大学人文学部教授　（考古学）
調　査　員　柴　正敏　弘前大学理工学部教授　（地質学）
葛西　勵　青森短期大学教授　（考古学）

山田　昌久　東京都立大学人文学部助教授　（考古学）
調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　佐藤　良治
次　長　福田　友之
総務課長　工藤　和夫
調査第三課長　工藤　大
文化財保護主査　小笠原　雅行
文化財保護主事　伊藤　由美子、杉野森　淳子、坂本　真弓、斉藤　慶吏
調査補助員　伏見　友里、片岡　典子、木村　友香、佐々木順子、
成田　議謙、工藤　豪、田中　綾、嶋守亜季子、
沖崎　雅美、荒谷　伸郎、久米田さやか、市川裕子

報告書刊行計画

平成13年度－ 平成12年度調査部分（調査A区・B区・C区・F区の一部）刊行
第315集『近野遺跡Ⅵ』に収録
平成14年度－ 平成13年度調査部分整理作業のみ、報告書刊行なし
＊平成15年度以降は平成13～15年調査部分を区域毎に整理作業・報告書刊行とする。
平成15年度－ 調査西側の台地（調査A区・B区）部分刊行、第370集『近野遺跡Ⅶ』に収録
平成16年度－ 調査中央の台地（調査E区）部分刊行、本書第394集『近野遺跡Ⅷ』に収録
平成17年度－ 谷（調査F区）部分刊行予定
平成18年度－ 南側の台地部分、東側の台地部分と谷（調査C区・D区）部分刊行予定

第２節　調査経過

平成13年（E区西側）

公園内の構造物や立木の撤去作業、植栽に時間がかかったため、E区の調査には２ヶ月程しか期間をあてられなかった。９月12日から重機を用いて公園造成時の盛土と旧表土の除去を行い、遺構確認作業を行った。平成６・７年に行われた試掘調査で、竪穴住居跡24軒、土坑18基、竪穴遺構２基が検出されており、平成13年度は試掘調査の入った台地中央部の西側先端と試掘調査の入っていない谷際の台地を調査することになった。とくに谷際の台地は、幅１m前後の水道管や電線が数条敷設されており、攪乱が多くみられた。造成時の盛土土圧により、通常の土よりも硬くしまる上水分を吸収し難い性質で、確認作業にやや支障を来した。盛土していない部分はスギの根株が密集していたため、手掘りによる作業を行った。これらの根株は非常に大きく、すべてを伐採するのに多大な労力がかかることから、遺構に関わる箇所以外これらを残して調査を行うこととした。10月26日には精査を終了し、遺構配置図作成及び地形測量を行った。11月20日にはラジコンヘリによる空中写真撮影を実施し、平成13年度のE区の調査を終了した。

平成14年（E区中央部）

この年調査予定のE区は、昭和52年の発掘調査で大型竪穴住居跡が検出されたことから遺跡が保存された区域と接している。同じ台地上に拡がることから、これらの時期の集落跡との関連が想定された。また、保存地区を誤って掘削することのないよう、慎重に調査区（E区）との境界を設定した。しかし、試掘調査の結果からある程度は予想されていたが、これら調査区の境界付近は、実際には、公園造成時に大きく削平されていたことが分かった（第４節参照）。

４月15日には100人を超える現場作業員とともに遺構確認作業に入った。平成6・7年に行われた試掘調査により、台地中央部はほとんどが試掘時の埋め戻し土であった。また、５月末まで多くの作業員がE区の精査に入ったために比較的早めに遺構確認を行うことができた。これ以降は他地区の調査に投入されていったため、調査人数は減少していった。逆に工事や調査の進行の状況に合わせて遺構の確認作業が入り，E区内の調査面積が徐々に拡大したため、作業の進行上、支障をきたしていった。

９月24日には、F区（谷）でトチの水さらし場遺構が検出されたこともあり、県内外から注目を浴びた。９月27日には、木村守男県知事（当時）が現地視察し、トチの水さらし場遺構やその周辺の保存のために一部建設計画の変更を示唆した。これを受けて関係機関で協議を行うこととなった。９月29日の日曜日には現地見学会を開催し、雨にもかかわらず、約200人が訪れた。見学会は、F区の水さらし場遺構のほかに、E区では縄文時代及び平安時代の住居跡や掘立柱建物跡などの遺構、遺構内出土遺物を中心に行った。

10月には、調査期間内に今年度調査予定のE区範囲内を終了することが困難と想定されたため、残った調査分を次年度に行うことを決定した。これにより、精査途中の遺構が積雪によって損傷することを防ぐため、板や土嚢で遺構の保護を行った。また、トチの水さらし場遺構に隣接するE区谷際の遺構は保存されることが想定されたため、一部の遺構内に土嚢を入れて充填させ、壁の崩落等を防ぐ処置を行った。10月末にはE区の調査をすべて終了し、11月7日にはラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

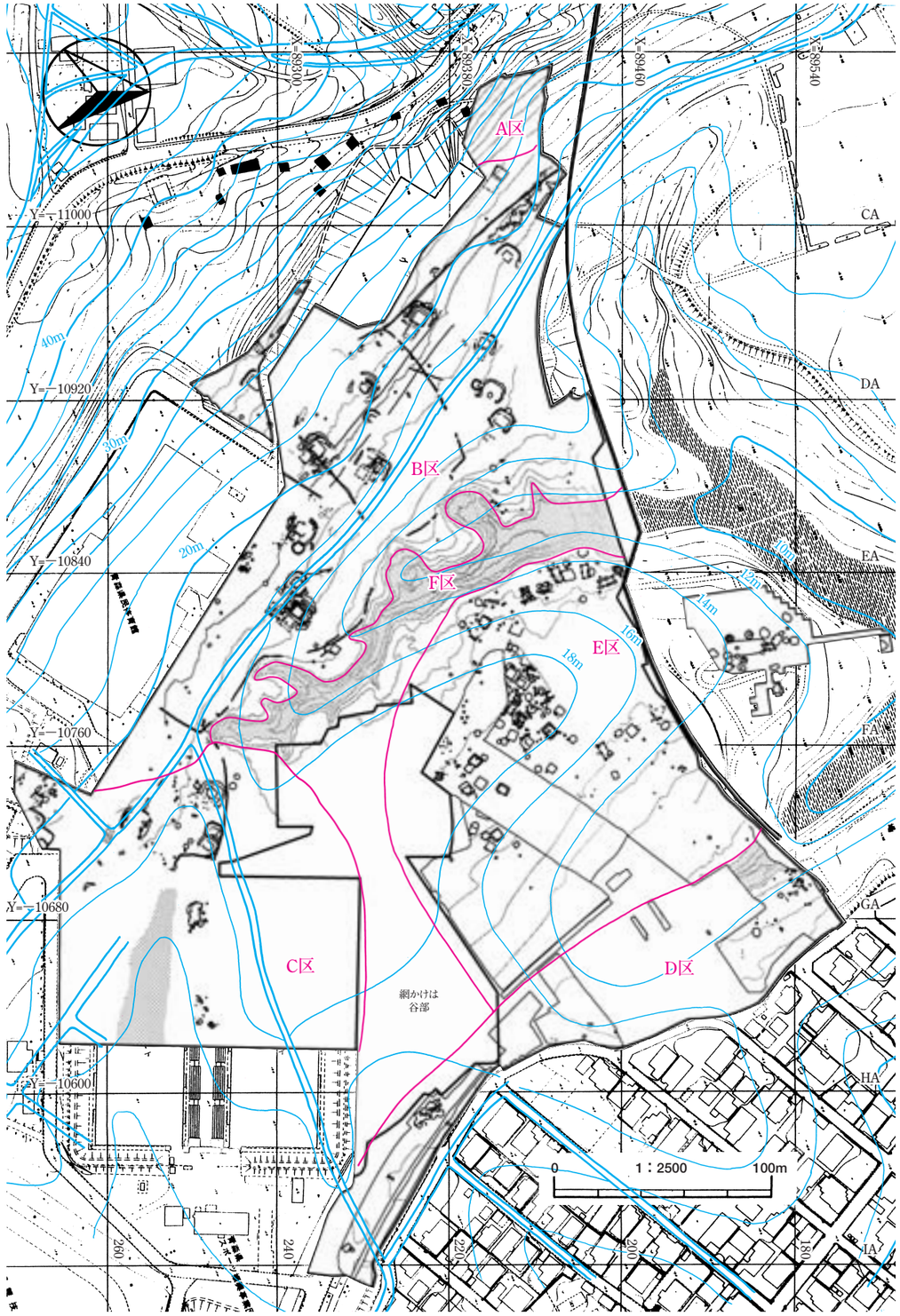


図２　全体図1（青色等高線は運動公園造成前の1972年時点のもの）

12月17日には県教育庁文化財保護課・県土整備部都市計画課から、「トチの水さらし場遺構」とその集落跡全体が保存されることが発表された。これらの保存に至る経緯については『近野遺跡Ⅶ』の第１編第１節で若干触れられている。

平成15年（E区東側・平成14年度の残り・保存区域）

４月17日から平成14年度の残りの調査とE区検出遺構の保存作業を並行して行った。遺構を保存した範囲は、E区谷際および台地中央部で検出された遺構すべてである。保存方法は、内部に細砂を充填させ、遺構を保護した範囲に砂を厚く被覆し、この上にブルーシートを隙間なく敷き詰め、土を盛っている。平成14年度の残りの調査は、前年度行った遺構の保護により、大きな破壊もなく、５月上旬で終了した。

６月上旬からは、E区北東側の支谷（D区谷）までの範囲と支谷の湧水点の位置を確認する調査を行った。盛土直下の第Ⅳ層上面で遺構が確認できなかったことや、遺物の出土も散発的であったことから、一部重機を用いて掘削を行った。支谷の湧水点については、盛土が厚く堆積していたため、試掘坑を２箇所設定し、重機による確認を行った。８月上旬にはE区の調査をすべて終了した。10月上旬には他調査区とともにラジコンヘリ空中写真撮影を行った。（坂本）

第３節　調査方法

調査区名とグリッド設定については、平成12年に設定した新近野グリッド系を使用した（『近野遺跡Ⅵ』参照）。平面直角座標第X系のX＝90260、Y＝-11160を原点AA－000とし、原点から東方向のYラインに二文字のアルファベットを、南方向のXラインには3桁の算用数字を付した。アルファベットはAからTまでの20文字を使用した。Yラインは基点のAAから4m毎にAB・AC・・・ATとし、80m毎に左側文字が繰り上がる（AT・BA・BB）。Xラインは基点のは000から4m毎に001・002とした。グリッドの呼称は北東角の交点の値をアルファベット優先で読むこととした（例：BA－210）。近野遺跡E区は DR～GJライン、185～223ラインに跨る。

標高は運動公園内にある測量基準点から、調査区内に移設した。

遺構確認は随時行い、調査区単位で、検出順に遺構名を付した。遺構名称は頭に調査区、次に遺構種別と番号を付した（例：ESI8＝E区第８号竪穴住居跡）。

実測図の作成は1／20を原則とし、必要に応じて1／10等で行った。

遺構以外の出土遺物はグリッド単位で、原則として層位毎に取り上げた。

調査に当たっては、土層の堆積状況を観察するため適宜セクションベルトを設定し、土層注記は『標準土色帖』を用いた。土層の名称は、基本層序については表土から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を付すことを原則とした。

写真撮影は適宜行うこととし、カラーリバーサル、モノクローム、ネガカラーの各フィルムおよびデジタルカメラを使用した。（杉野森）

第４節　基本層序

近野遺跡の地形や地質については、『近野遺跡Ⅶ』で述べられており、そちらを参照にしていただきたい。支谷を挟んだ西側台地上のB区と堆積状況に大きな違いはない為、層序番号もこれに準拠する。ここでは、E区の層序について概略を述べる。

E区は低位段丘の沖館段丘に位置し、沖館川へと続く谷地形の支谷（F区）と支谷（YS－5[註1]）に挟まれた台地に立地する。標高18～19mの台地中央部分からそれぞれの支谷に向かって緩やかに傾斜する地形であると思われる。E区西側の支谷（F区）は標高14m前後から、東側の支谷（YS－5）は標高12m前後から形成されており、比高差は最大７ｍである。運動公園建設時には、E区も広範な掘削を受けており、基本層序第Ⅱ層または第Ⅲ層にまで達する。最も大きく削平を受けたのは台地中央部分の一部で、2m程削平され、基本層序第Ⅴ層にまで達している（下図）。盛土や構造物を除去した時点で旧表土および第Ⅱ層の黒色土が存在する場所は、FA－195とGK－215グリッドを結んだラインから北東側の標16m以下の地形と削平を免れた台地中央部のみである。標高16m以下の地形では、第Ⅱ層が50㎝程度堆積している。（坂本）

註１『近野遺跡Ⅴ』p44のまとめで、E区西側の支谷（現F区）をYS－4、E区東側(現D区谷)の支谷をYS－5と呼称している。

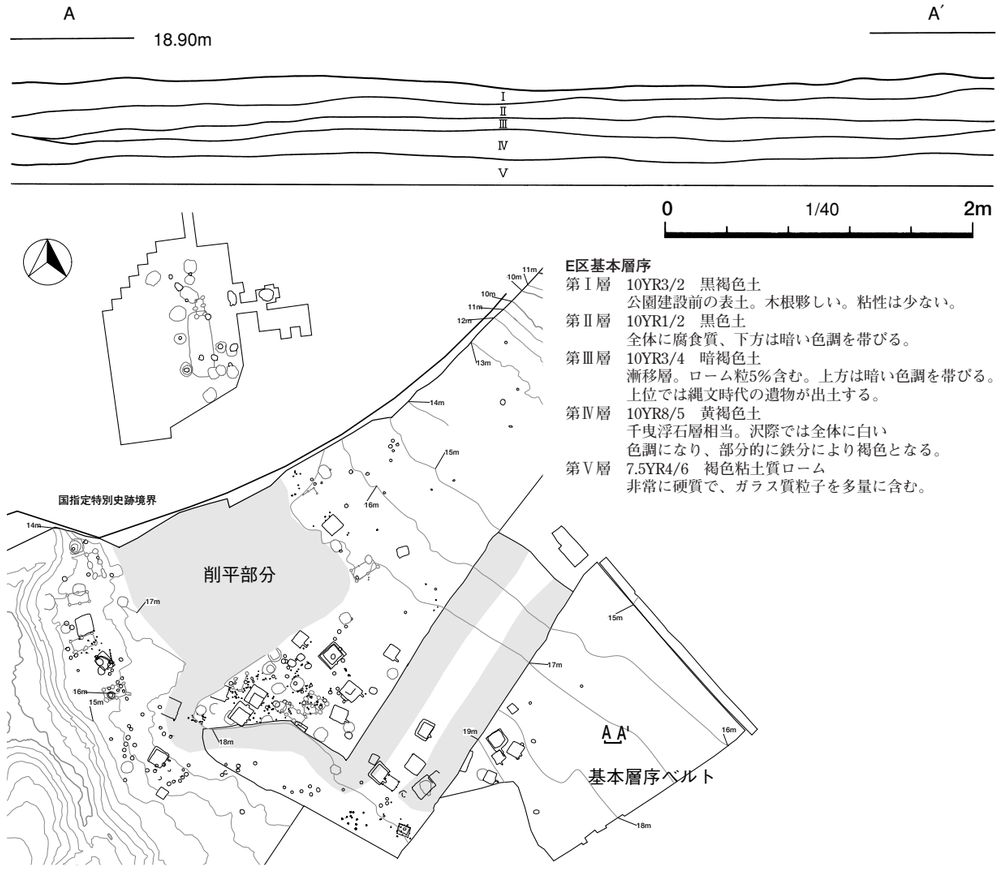


図３　基本層序

第５節　遺物の分類基準

個々の遺物の属性については観察表を参照されたいが、ここでは各遺物がどのような観点で分類されているか、その基準の説明を行う。

縄文土器

土器の分類は土器型式ごとに行っている。数量的に多い土器（特に中期半ば～中期末）について、報告書に使用した型式名を以下に列挙し、その分類基準を掲げておく。なお、今回の調査で出土した土器のうち、数量的に多いのは円筒上層式、中でもｄ式とｅ式とそれに続く大木系土器である。これらの分類に当たっては、村越・三宅・鈴木氏（村越1974、三宅1989、鈴木1998）の研究によるところが大きい。上層ｄ式とｅ式の区別は、従来から言われているとおり、粘土紐の貼付による隆帯によるｄ式と、同じモチーフで沈線化したｅ式ということで概ね理解できる。

円筒上層ｄ式…貼付による文様構成が器高の半分以下まで拡大し、前段階の刺突は見られなくなることを特徴とする。貼付上面は文様が施文されるものと素文のものがある。

円筒上層ｅ式…貼付による文様が置換され沈線となることを特徴とする。文様構成は前段階のものと同様のものである。

円筒上層ｄ・ｅ式…口唇部（突起部も含めて）に円筒上層ｄ式やｅ式に共通する特徴をもつが、胴部に分類指標を持たず、地文のみのものである。これまでの調査でも、共伴関係にあるが、どちらの型式に属するか判断がしにくいものである。本報告書では「円筒上層ｄ・ｅ式」や「円筒上層ｄ式又はｅ式」といった表現をしている。

榎林式…口唇部に太く深い沈線（「凹状沈線」と表記）をもち、山形口縁頂部が渦巻状となり、胴部にも渦巻状に沈線が施文されるものを特徴とする。

最花式…口唇部が無文帯となり、以下に刺突列が巡るものもある。胴部は２～３条の縦位沈線が施文されるのを特徴とする。

大木10式併行期…口縁部が無文帯と縄文が施文されるものがあり、胴部にＪ字やＯ字の文様構成を取ることを特徴とする。

上記以外に、主に胴部破片で地文のみの土器もある。これらは分類指標となりにくく、基準は曖昧である。

円筒上層式土器…結束第一種、同二種、２段原体の横回転のみでも、色調や厚さから判断できるものを指している。後者に関しては次に述べる大木系土器でも見られることから、判断基準としては特に曖昧である。

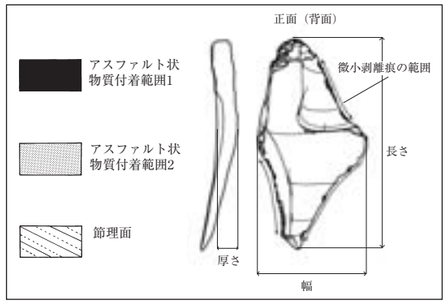
大木系土器…主に分類指標となりにくい胴部破片で用いているが、主に２段原体の縦回転、３段原体、（繊維を含まない土器の）絡条体回転のみの破片を指している。前２者については、円筒土器にも見られ、大木系土器の方が目立つという程度のもので、これも判断基準としてはやや曖昧である。

上記から、さらに不明確な地文のみの胴部片では、中期のものと判断できるものについては、中期としている。

なお、後期の土器については、（成田1989、葛西2002、児玉2003）に拠った。　（小笠原）

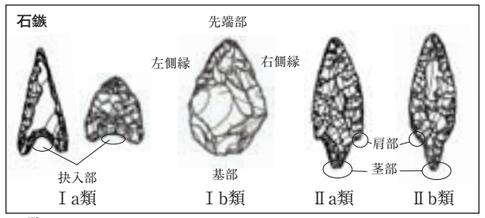
剥片石器

本報告書では石鏃・石槍・石匙・石篦・石錐・異形石器・二次調整のある剥片・微小剥離痕のある剥片・両極加撃痕跡のある剥片・石核・剥片・砕片の12器種に大別している。各器種の類型基準について下記に示す。
法量：長さ（mm）・幅（mm）・厚さ（mm）・重さ（g）を小数点第一位まで計測した。
付着物・使用痕：アスファルト状物質の付着範囲はスクリーントーンを使用し実測図中に表現した。微小剥離痕が観察される側面範囲については右図のような矢印記号を付した。



石鏃

鋭利な先端部が作り出された扁平・小型（長さ55mm未満）で矢尻としての機能が想定される石器。
Ⅰ類　無茎
　a類　凹基　抉入部が作り出されているもの。
　b類　凸基　基部を凸状に加工しているもの。
Ⅱ類　有茎
　a類　平基　肩部が水平に形成されているもの。
　b類　凸基　肩部が張り出さないもの。

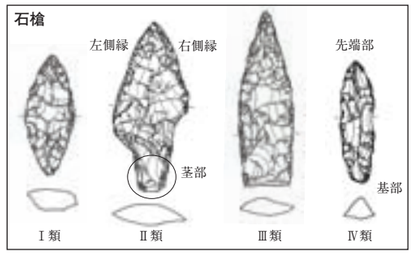


石槍

一端もしくは両端を鋭利に加工し、石鏃よりも大型（長さ55mm以上）で刺突・切断等の機能が想定される石器。
Ⅰ類　長さ55mm程度の小型のもの。両端が鋭利になるものと一端のみが尖るものがある。
Ⅱ類　茎部を有するもの。扁平で体部中央でやや幅広になる。
Ⅲ類　長さ100mmをこえる大型のもの。
Ⅳ類　長さ55mm前後で断面三角形、厚みがあるもの。

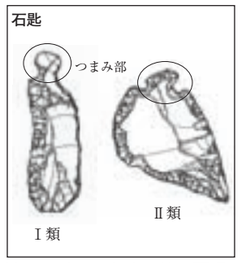
石匙

素材剥片の一端に抉りを加え、つまみ部を作り出している石器。切断・掻き取り等の機能が想定される。
Ⅰ類　縦型　つまみ部に対して刃部が縦長に形成されているもの。
Ⅱ類　斜刃型　つまみ部に対して刃部が斜めに形成されているもの。



石錐

断面円形で棒状の形態をもち、先端部に摩滅・刃こぼれ等の痕跡が認められるもの。穿孔・刺突等の機能が想定される。
Ⅰ類　棒状　断面円形棒状の形態を呈するもの。
Ⅱ類　石鏃転用品　石鏃と同様の形態であるが、先端部に摩滅痕跡がみられるもの。



石篦

比較的粗雑な調整加工が全面にわたって不連続に施され、撥形に整形されているもの。掻き取り・堀具としのて機能が想定される。
Ⅰ類　調整加工が素材剥片の腹面、背面全体に等しく及ぶもの。
Ⅱ類　調整加工が腹面側に及ばないもの。
Ⅲ類　急角度の調整加工が側縁部に施されるもの。

異形石器

背面、腹面に細部調整加工を施し、特異な形状で機能が不明確なもの。

二次調整のある剥片（不定形石器）

調整加工が施されているが、定形的な石器群に該当しないもの。定形石器の未製品・失敗品・破損品等を含む。

微小剥離痕のある剥片・両極加撃痕跡のある剥片

剥離幅が1mmに達しない「微小剥離」が連続的に認められる剥片を「微小剥離痕のある剥片」とし、打面近くに階段状剥離が顕著にみられ、打点が対に複数存在する剥片を「両極加撃痕跡のある剥片」とした。

剥片・砕片・石核

調整加工、微小剥離がなく、最大幅・厚が1cmより大きいものを「剥片」とし、1cm未満を「砕片」とした。素材剥片作出後の原石素材を「石核」とした。
（斉藤）

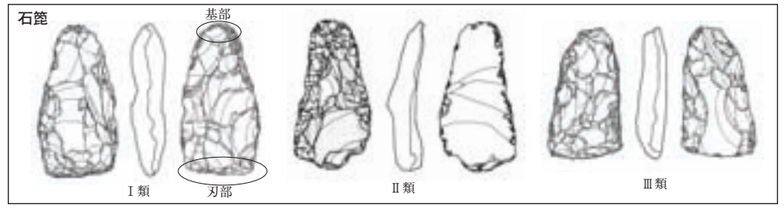


図４　剥片石器の分類

礫石器

敲磨器：（A類：研磨痕、B類：敲打痕、C類：凹み痕）
敲打痕の中で凹みが深く明瞭に表現されるものはC類とした。

北海道式石冠：器面中央に帯状の敲打痕と側面に広い磨り面をなすもの。

扁平打製・磨製石器：（A：打製石器　B：磨製石器）破片資料のため形状を特定出来ないが、いわゆる半円状扁平打製石器・抉入状扁平磨製石器の可能性が高いものを区分した。

加工のある礫：縁辺に剥離加工を有するもの、破片のため形状を特定できないものも含む。

使用痕跡のある礫片：使用痕跡はあるが破片のため器種が特定出来ないもの。

石斧、石皿・台石類、石錘、砥石の説明はとくにないが、遺物観察表に分類されている。

その他：付着物のある自然礫、カマド構築材として使用された礫など。

掲載方法：礫石器は縄文時代と平安時代の遺構から半々の割合で出土している。縄文時代の遺構から出土した礫石器は縄文時代に帰属するものとしたが、平安時代の遺構から出土した礫石器の中で、縄文時代に特定されるもの（石斧、北海道式石冠、扁平打製石器・磨製石器、剥離加工のある礫）は縄文時代の遺構外出土遺物として扱った。この他の器種は平安時代にも使用された可能性があるため、平安時代の遺構内遺物として報告する。遺構外も同様、時代を特定できるもの以外は時代不明として扱った。（杉野森）

凡例）　黒色付着物

土師器・須恵器（図5）

観察表計測値：「口径」については口縁部、「底径」については底部、「器高」については口縁部から底部まで遺存するものの実測値を示している。計測方法は図中に示した通りである。表中の（　）内の数値は、「口径」及び「底径」は推定値を、「器高」については現存値を示している。**層位**：出土位置・出土層位は各遺物破片の出土数が最も多い順に記載している。

土師器

「皿」：器高が口径の1/3以下のもの。**「坏」**：器高が口径の1/3より大きく、2/3未満のもので口径20cm以下のもの。**「甕」**：器高が口径の2/3以上のもので、器高5～10cm未満の**「甕(小)」**、器高10～25cm未満の**「甕(中)」**（器高が不明で判断できないものは甕に含めた）、器高25cm以上の**「甕」**に細分した。**「壷」**：頸部が明確で胴が張る器形のもの。最大径を胴部に持つ。甕同様器高による細分が可能であるが、出土量が少ないため、一括して壷とした。**「鍋」**：器高が口径の1/3より大きく、2/3未満のもので口径が20cmより大きいもの。**「小型土器」**（ミニチュア）：底径が5cm未満のもの。甕・壷・坏（？）が出土しているが、量が少ないため小型土器として一括した。

須恵器

出土量が少ないため、器種分類の大枠については大部分を（五所川原市教委2003）に従った。

「皿」：器高が口径の3/10未満のもの。**「坏」**：器高が口径の3/10以上1/2未満のもの。**「鉢」**：器高が口径の1/2以上2/2前後のもの。**「壷」**：明瞭な頸部をもち、最大径が胴部にあり、平底器形のもの。ほぼ直立する頸部を持ち、頸基部にリング状突帯が巡るものを**「長頸壷」**として分類した。それ以外は

「広口短頸壷」、「短頸壷」等に細分可能であるが、口縁部から底部まで遺存するものがないこと、出土量が少ないことから**「壷」**とした。**「大甕」**：設置型の大型貯蔵具で、原則的に底部が丸底のもの。肩部から底部にかけて、叩き板で叩きしめて整形される。口径30cm以下のものを**「中甕」**として分類可能であるが、胴部片などでは判別できないため文章中では**「大甕」**と総称した。観察表中では分類可能なものを「中甕」として記載している。

調整技法　**「ロクロ」**：土師器皿・坏・甕・鍋、須恵器皿・坏・鉢・壷・大甕にみられる。ロクロを用いて成形、整形されたもの。**「ケズリ」**：削るという明確な意志をもって行われた整形。削られた部分は面を形成し、砂粒が大きめに動く。砂粒の動いた方向に向かって矢印を書き入れたが、単位によっては観察できないものもある。**「ナデケズリ」**：ケズリとナデの中間に見えるもので、本報告で仮称した。砂粒の動きは少ないながらも観察可能である。底部周辺のように径の小さい部位ではケズリの効果が発生するが、膨らんだ部位では表面上を滑るようになでつけられ、やや緻密な粘土が移動して末端に少量溜まる。調整の単位内にはナデ調整にみられるようなスジが観察される。表現方法はケズリと同様単位のみで、方向が推定できるものにも矢印を書き入れないことでケズリと区別した。

「ナデ」：甕・壷・大甕の内面に施される調整で、粘土の移動はみられず、単位内に細いスジが観察できる。ナデ調整を施す工具にはヘラ状工具、布・皮・指などが推定される。『近野遺跡Ⅶ』の報告では単位内のスジの表現方法について、前者では間隔を細かく、後者では広く表現している。本報告では、特に後者と判断できるものについて単位の末端部を丸く表現するのみとした。

「ミガキ」：内面黒色処理の坏の内面に主に施される調整方法で、細い棒状工具で押しつけるように磨いた痕跡。砂粒は胎土内に潜るため、表面は緻密で光沢がみられる。**「タタキ」**：須恵器の大甕（中甕）にみられる叩き成形の痕跡。木目と直行する方向に刻み目を入れた叩き板で叩きしめた**「平行叩きａ類」**と、平行する方向に刻み目を入れた**「平行叩きｂ類」**の２種に細分される。（水谷）

鉄関連遺物（図5）

鉄生産に伴う遺物である鉄滓、金床石、羽口に鉄製品を加えて「鉄関連遺物」と一括した。ここで用いる用語の定義、観察表の項目に関しては、前報告に引き続き、（田口・穴澤1994）に従う。以下、観察表記載項目の計測目的・方法について述べる。

磁着度…対象物の磁着反応の強弱を測定した項目である。

「標準磁石」（穴澤2005）を用いて８段階で評価した。数値が大きいものほど着磁性が強い。計測方法の詳細は（穴澤前掲）の「磁着度」の項を参照のこと。

メタル度…対象物が含む、酸化していない金属鉄の量と位置を測定した項目である。「特殊金属探知機」（穴澤前掲）を用いて、金属鉄を遺存しないものから順に「錆化（△）→H（○）→M（◎）→L（●）→特L（☆）」の５段階で評価した。羽口、金床石については「なし」とした。

溶損角度…羽口の観察項目で用いた。羽口が炉に据えられていた状態を正位と考え、羽口と接する炉壁を垂直と仮定する。そこでは溶損部と還元部の境目についても、炉壁と同様に、垂直に形成されると仮定して計測した羽口の装着角度である。（荒谷）

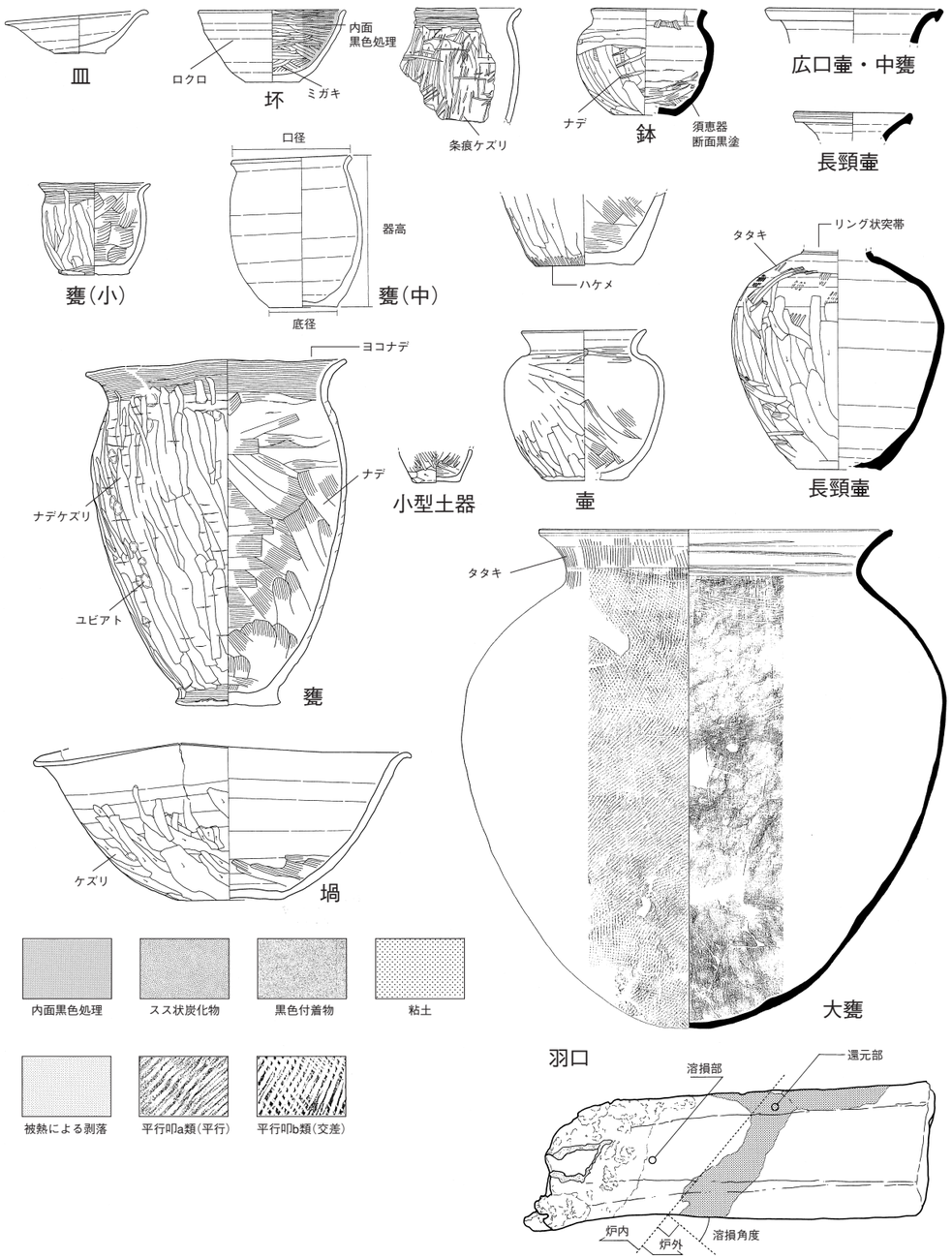


図５　土師器・須恵器・羽口の分類

DA
DF
DK
DP
EA
(Y=-10840)
EF
EK
EP
FA
(Y=-10760)
FF
FK
FP
GA
(Y=-10680)
GF
GK
170
175
180
(X=89540)
185
190
195
200
(X=89460)
205
210
215
220
(X=89380)
225
昭和52年度調査区
（保存区域）
国指定特別史跡境界
削平部分
13m
11m
10m
12m
14m
15m
16m
17m
18m
19m
20m
赤：縄文時代の遺構
黒：平安時代の遺構
（時代不明も含む）
0
1/1000
50m

図 6　全体図 2

DK
DP
EA
EF
EK (Y=-10800)
EP
FA
FF
FK
FP (Y=-10700)
GA
GF
185
(X=89500) 190
195
200
205
210
215
(X=89400)
220
赤　縄文住居跡ESI
緑　平安住居跡ESI
青　土坑ESK
桃　ピットEPIT
橙　掘立柱建物跡ESB
黒　その他の遺構ESR/ESN/ESD/ESX
国指定特別史跡境界
削平部分
0
1/600
50m

図７　Ｅ区遺構配置図

第２章　検出遺構と遺物

第１節　縄文時代の竪穴住居跡

第Ｅ８号竪穴住居跡（図８）

［位置・確認］ＥＪ－212に位置し、南側に向かって緩やかに低くなる地形に立地する。Ⅳ層上面で確認した。

［重複］東側約1/3が風倒木によって壊されている。

［平面形・規模］正確な平面形は不明だが、径3.05ｍほどのほぼ円形を呈するものと思われる。推定床面積は4.8㎡である。

［壁・床面］確認面からの壁高は、北側で19.4㎝、西側で8.1㎝、南側で2.2㎝である。床面は全体的に堅緻である。Ⅳ層をそのまま床にしており、貼床は見られない。

［柱穴］検出されなかった。

［炉］住居跡中央からやや北東寄りに50×48㎝の不整円形の落ち込みが検出された。地床炉と考えられるが、明確な焼け面は検出されず、堆積土中に炭化物が少量混入する。

［堆積土］２層に分層した。１層と２層の層理面には炭化物が混入する。黒褐色～暗褐色土で、ロームが混入する。人為堆積か自然堆積か判断できない。

［出土遺物］床面直上から石英安山岩製の磨り石（５）が出土した。20㎝の楕円形礫を素材とし、両器面ともやや光沢のある平坦面を有する。堆積土から、土器の破片が少量出土した。他の住居跡に比べると出土量は極めて少ない。型式の判明するものは、円筒上層ｄ式期の土器のみである。また、石鏃１点（４）、二次調整のある剥片、微小剥離痕のある剥片３点を含む、総数21点の剥片石器が出土

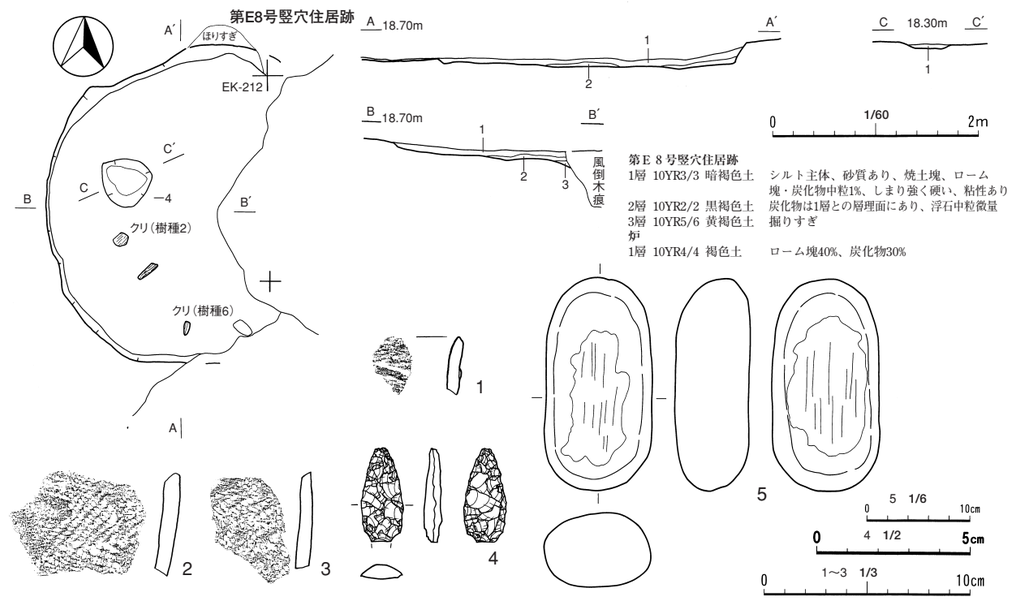


図８　第Ｅ８号竪穴住居跡

している。

［時期］本遺構は円筒上層ｄ式期に近い時期と考えられる。

第Ｅ９号竪穴住居跡（図９・10）

［位置・確認］ＥＮ・Ｏ－212・213に位置し、南側に向かって緩やかに低くなる地形に立地する。Ⅳ層上面で確認した。

［重複］南側約半分を運動公園の園路建設時に壊されている。

［平面形・規模］正確な平面形は不明だが、径3.2ｍほどの円形ないしは楕円形を呈するものと思われる。推定床面積は5.0㎡である。

［壁・床面］確認面からの壁高は、北側で31.2㎝、西側で23.3㎝、東側で40.7㎝である。Ⅳ層をそのまま床にしており、貼床は見られない。床面は堅緻で、特に炉の周辺はそれが顕著である。

［壁溝］幅８～13㎝、深さ2.0～6.0㎝の壁溝が全周する。堆積土は住居跡と共通し、腰板等の痕跡は見られなかった。

［柱穴］掘り方の径が12～16㎝のピットを３個検出した。柱痕は確認できなかったが、配置から主柱穴と判断でき、削平部分も含め、本来は４本柱穴であった可能性が高い。

［炉］住居跡ほぼ中央から土器片敷炉が検出された。径49×60㎝の不整円形の掘り方で、深さは15㎝である。底面から10㎝上に土器片が敷かれている。土器片の上からは炭化物・焼土がわずかに確認された。しかし、土器の下からは焼土等は確認されず、地床炉の造り替えか否かは判断できなかった。また、住居跡北西隅から上面に焼土面がある落ち込みが検出された。掘り方は65×63㎝で深さは15㎝である。住居跡中央側が土手状の高まりをもつ。焼土は２層に分層された上層に、70×54㎝の不整形で厚さは最大７㎝で広がる。焼土層は明赤褐色で純層をなし、廃棄されたものとは考えにくい。この場所で形成されたものと考えられるが、これを炉としてよいか判断に迷う。位置から判断して、この時期に特徴的な付属施設の可能性が高い。

［堆積土］４層に分層した。全体的によく締まり、硬い。黄褐色ローム、焼土粒、炭化物粒などがわずかに含まれる。混入物や遺物から人為堆積の可能性が高い。

［出土遺物］他の住居跡に比べ遺物の出土量は多い。炉に使用された土器は、円筒上層ｅ式土器である。ただし、１は沈線文間に縄文原体による馬蹄形押圧が施文された特殊なものである。堆積土からも円筒上層ｅ式土器が出土した。剥片石器は石鏃４点（24・26～28）、石槍１点（29）、石錐１点（25）、二次調整のある剥片９点（30他）、微小剥離痕のある剥片３点、石核１点を含む、総数89点が出土している。これらのうち石鏃２点（24・26）、石錐１点（25）は床面および炉内からの出土である。礫石器は床面から石皿（31）、堆積土から扁平磨製石器（32）が出土した。32は刃部が鋭利な点と端部の形状から、抉入状扁平磨製石器の破損したものと推測され、石鋸のように使用されたことが想定される。また、右側縁を鋭利な刃物状に研磨し、左側面はやや平坦な磨り面をなす。器面は研磨されているが中央は成形時の敲打痕が残存する。端部は剥離成形によりやや抉りを呈する。他に、２層から有孔石製品（34）、１層からミニチュア土器（33）がそれぞれ１点出土した。

［時期］炉体土器から、本遺構の構築時期は円筒上層ｅ式期である。

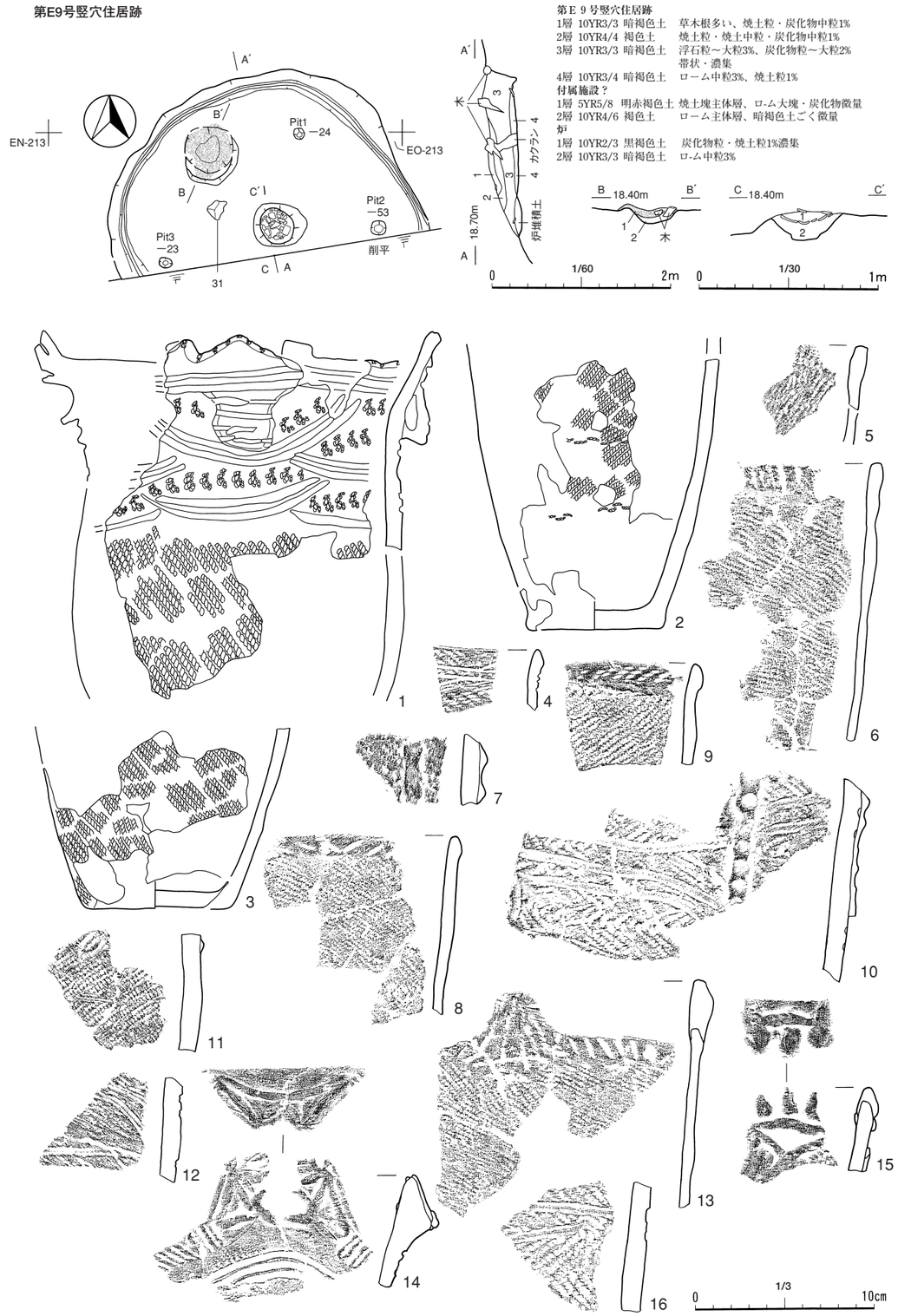


図９　第Ｅ９号竪穴住居跡（１）

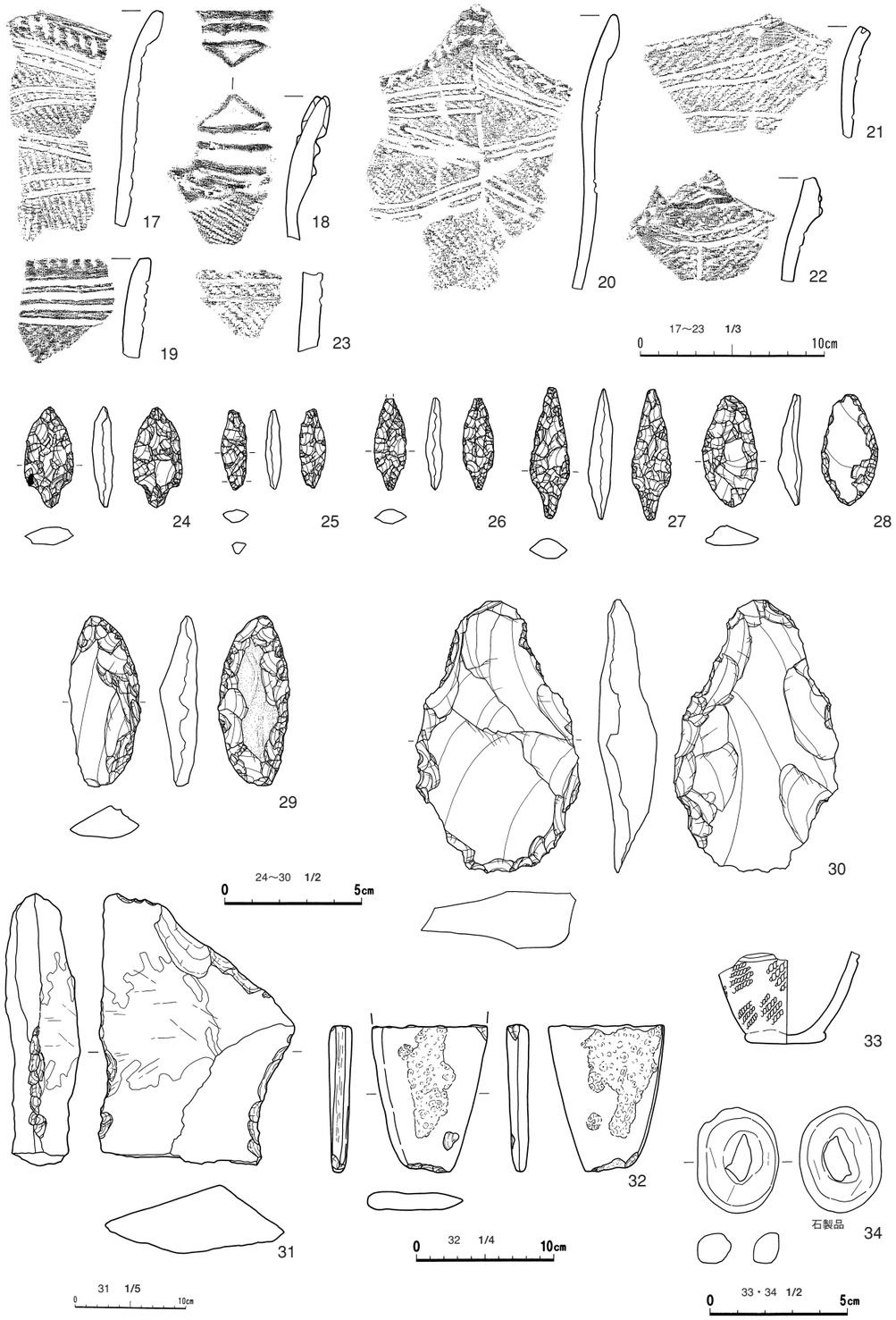


図10　第E９号竪穴住居跡（2）

第Ｅ10号竪穴住居跡（図11～14）

［位置・確認］ＥＰ－211・212に位置し、ほぼ平坦面に立地する。Ⅳ層上面で確認した。

［平面形・規模］南東壁がやや直線的な、径3.19ｍ×3.06ｍのほぼ円形を呈する。床面積は7.2㎡である。

［壁・床面］確認面からの壁高は北側が41.5㎝、東側が33.0㎝、南側が39.0㎝、西側が30.6㎝である。Ⅳ層をそのまま床にしており、床面は平坦で堅緻である。

［壁溝］北側で長さ185㎝にわたり幅５～10㎝、深さ4.0～9.8㎝の壁溝が検出された。

［柱穴］検出されなかった。

［炉］住居跡中央から土器埋設炉が検出された。掘り方は径33×36㎝で、深さは19㎝である。土器の内部上面には厚さ最大６㎝の焼土層が形成される。北東側の半円状の落ち込みは、堆積土に焼土・炭化物が多量に入り、重複関係から本来地床炉だったものを、土器埋設炉に造り替えたものと判断できる。

［その他］柱穴以外のピットが１個検出された。Pit１は径が40×45㎝、深さが24㎝である。壁際の先端部に位置しており、付属施設の一種と考えられる。

［堆積土］３層に分層した。３層はロームブロックなどを多量に含み、人為堆積の可能性が高い。２層も層全体から遺物が出土しており、人為堆積的である。

［出土遺物］２・３層を主体として遺物が多量に出土した。土器は、復元可能なものも含む円筒上層ｅ式が主体で、他の住居跡に比べても出土量は多い。２層からまとまって出土し、取り上げに当たっては便宜的に上・中・下に分けたものの時期差がほとんどない可能性が高い。炉に使用された土器（１）も円筒上層ｅ式土器である。剥片石器は総数427点が出土している。石鏃７点（27・28・30～34）、石錐1点（37）、石篦２点（29他）がみられ、二次調整、微小剥離痕のある剥片（35・36他）は95点にのぼる。堆積土中、特に２層から３層にかけては砕片が多量に出土している。礫石器は床面から石皿片、３層から石皿（38）、２層から器面全体を研磨された磨り石、堆積土から磨り石２点と加工礫（39）が出土した。他に土偶が２点・小型土器が２点の計４点が出土した。41は目・鼻孔・口部が明瞭な作りで、40は眉と鼻部を粘土紐で表した作りである。胴部から口部にかけて孔がみられる。ミニ

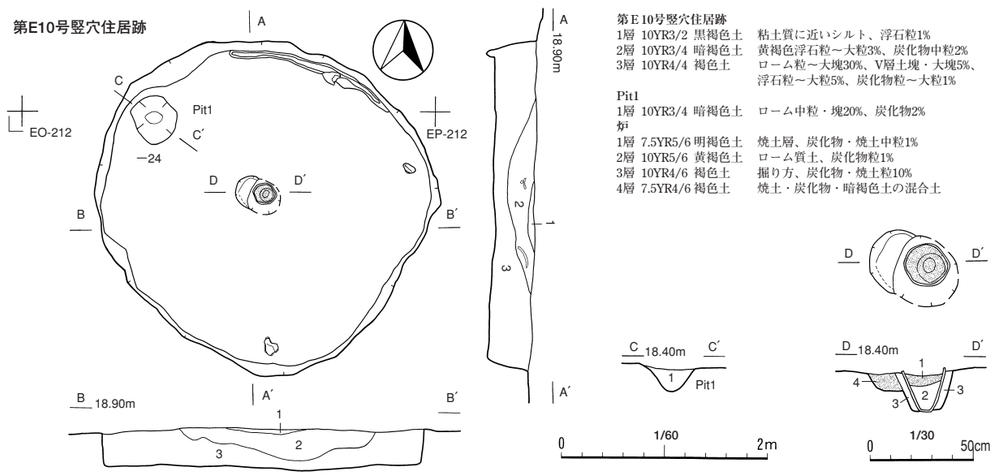


図11　第E10号竪穴住居跡（1）

図12　第E10号竪穴住居跡（2）

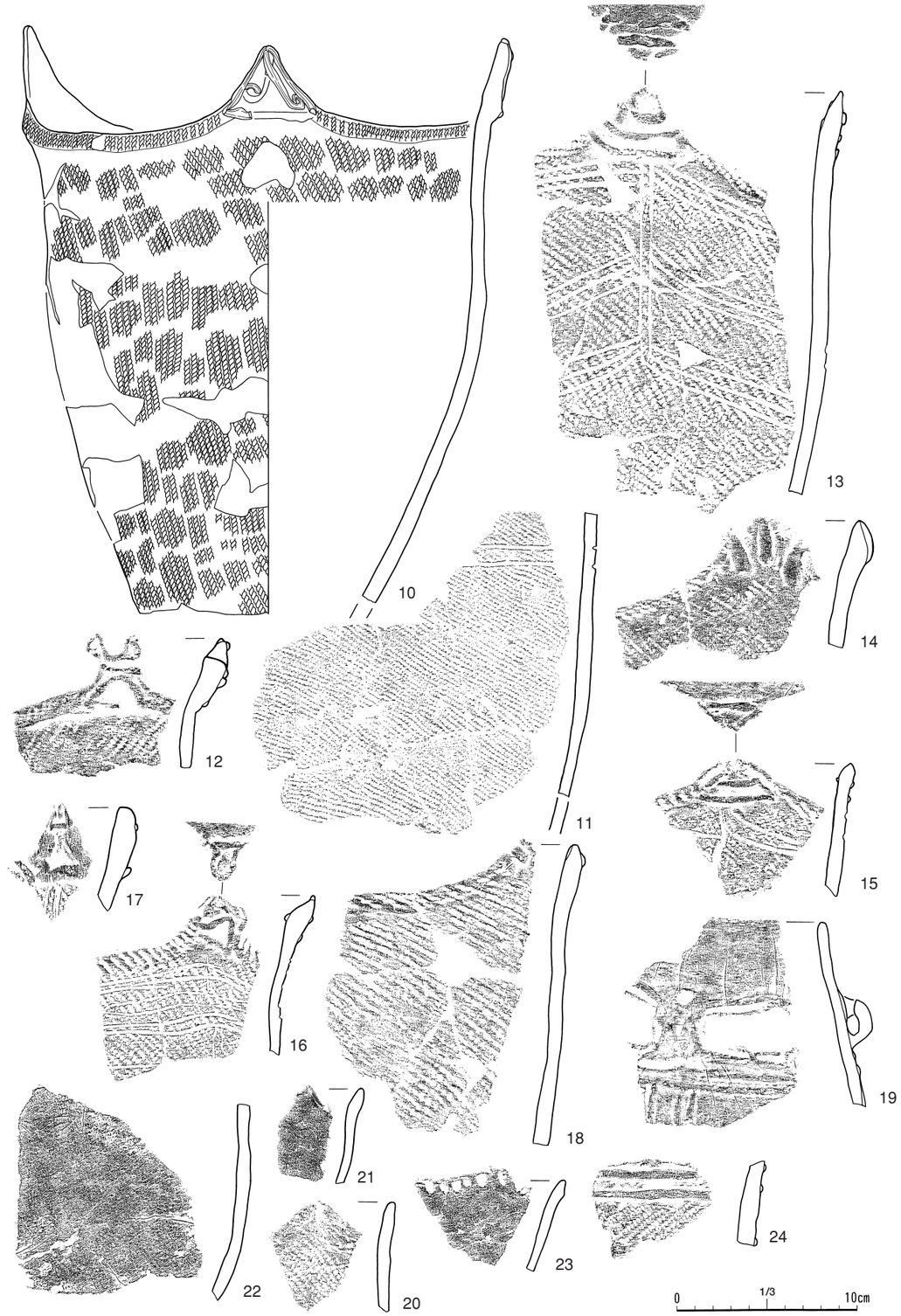


図13　第E10号竪穴住居跡（3）

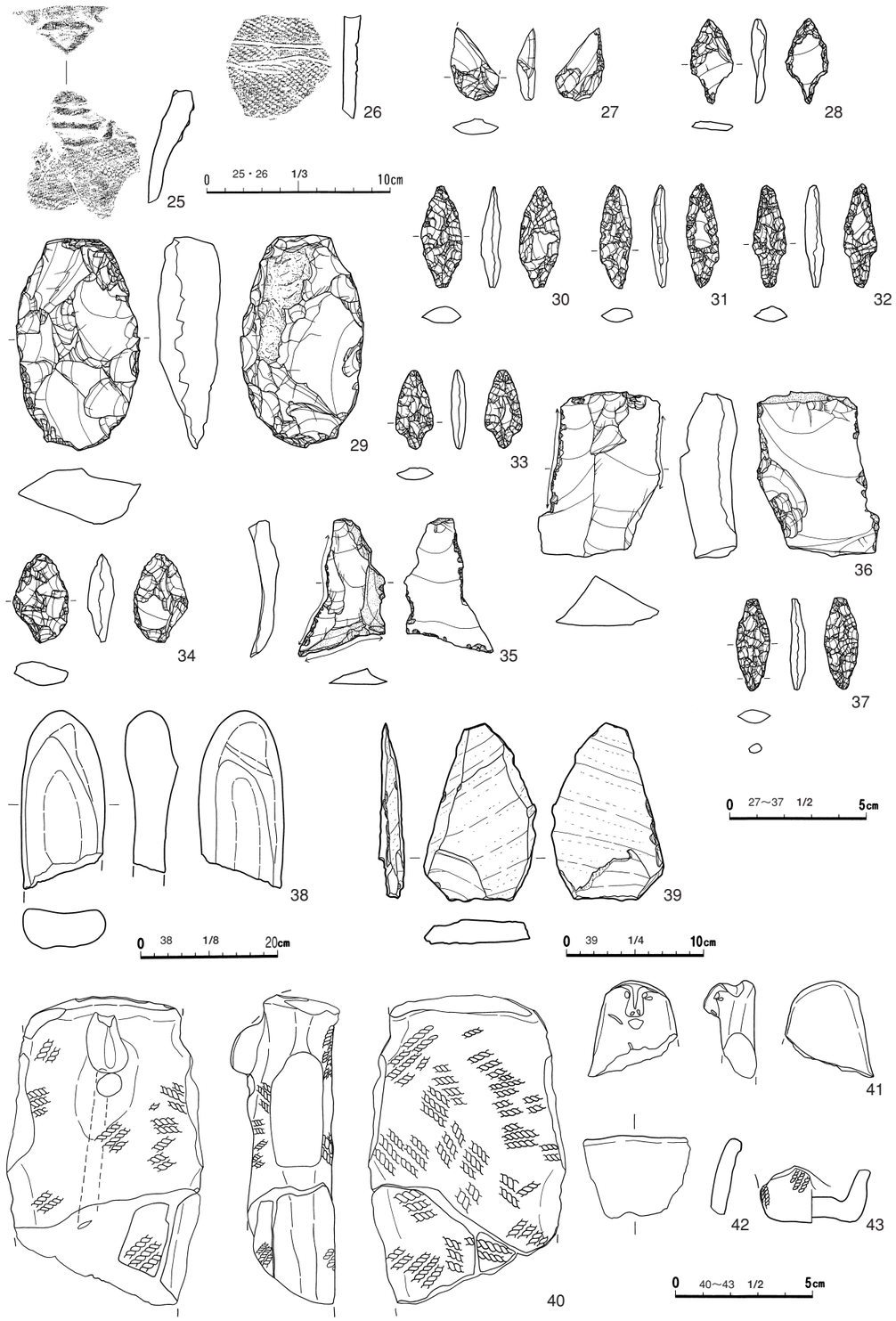


図14　第E10号竪穴住居跡（4）

チュア土器は第２層中から出土し、口縁部と底部破片である。

［時期］炉体土器から本遺構の構築時期は円筒上層ｅ式期である。（小笠原）

第Ｅ12号竪穴住居跡（図15・16）

［位置・確認］ＥＤ・Ｅ－204に位置している。標高16.5m前後の平坦地のⅣ層上面で確認した。

［平面形・規模］　平面形は長・短軸が2.9mの隅丸方形である。床面積は7.1㎡で、長軸方向はＮ－８°－Ｅである。

［壁・床面］北壁30㎝、南壁５～10㎝前後である。床面は凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。また、中央部が硬く踏み締められている。

［柱穴］ピット３個を検出した。壁際に検出したピットは柱穴の可能性がある。Ｐit１は、何らかの施設跡の可能性がある。深さ27㎝である。

［炉］住居中央に土器埋設炉を検出した。底部を欠いた深鉢形土器を、直径33㎝前後、深さ22㎝のピットに埋設し、土器の周縁にはⅣ層土を主体とした褐色土を土手状に貼り付けている。貼り付けた土の幅３～８㎝、高さ５㎝前後である。底面は被熱のため、３㎝ほどの深さまで赤く、酸化していた。

［その他］南壁中央で付属施設を検出した。壁際に掘り込まれた楕円形のピットと壁までの部分とに分かれている。壁は若干外側へ張り出している。壁とピットまでは約30㎝離れているが、この部分は１～３㎝低くなっている。また、楕円形のピットは短軸53㎝、長軸53㎝で、深さ35㎝であるが、底面には粘土質の黄褐色土を充填しており、使用時の深さは27㎝である。ピットの北側（中央側）の縁辺にはⅣ層土を主体とした褐色土の盛り土（高さ３～５㎝）が見られる。また、反対側の壁には２個一対の小ピットが掘り込まれている。

［堆積土］６層に分層した。北東壁側では褐色土の堆積も見られるが、床面に堆積しているのは大半が黒褐色土である。炭化物や焼土などを多量に含んでおり、焼失家屋の可能性も考えられたが、炭化

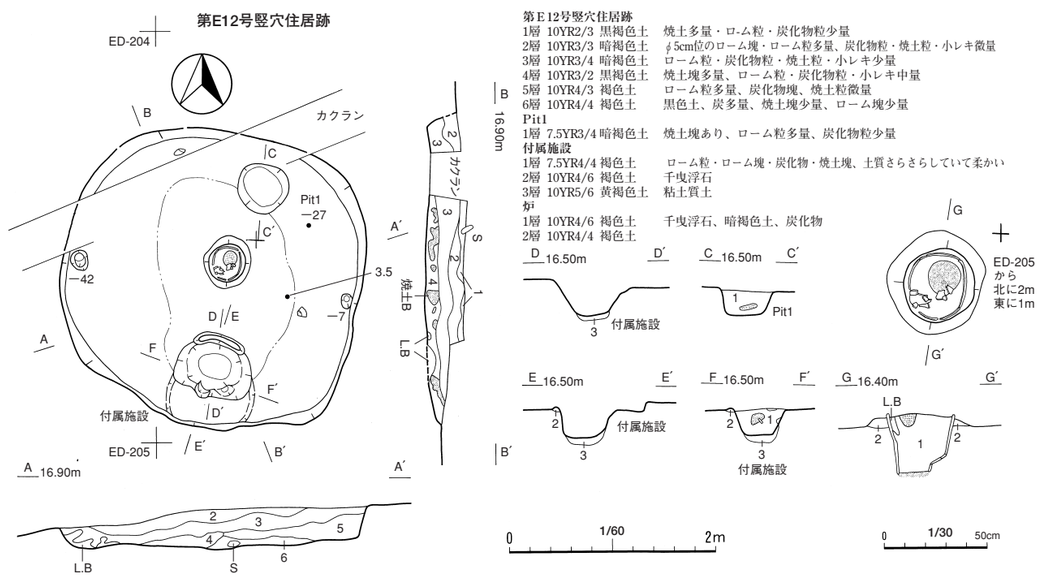


図15　第E12号竪穴住居跡（1）

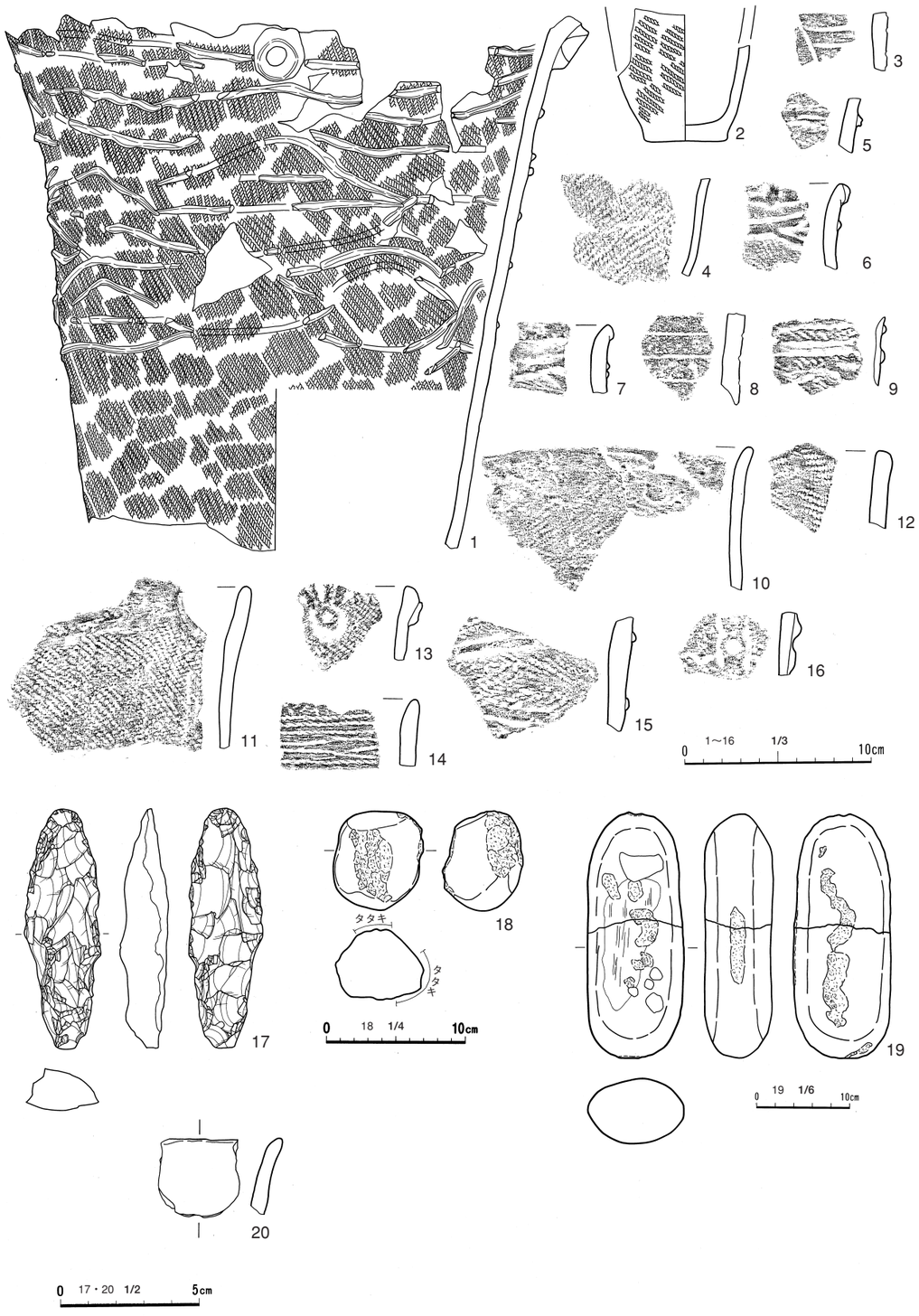


図16　第E12号竪穴住居跡（2）

材はほとんど出土しなかった。

［出土遺物］土器は、堆積土中・炉体土器ともに円筒上層ｄ式土器である。炉内から、小型の土器が１点（2）出土した。無文の口縁部破片である。剥片石器は総数11点が出土している。床面から二次調整のある剥片１点（17）が出土した。礫石器は、床面から磨り石１点（19）、床面直上から敲き石１点（18）と磨り石２点が出土した。19は器面を使用した磨り石であるが、器面のところどころに敲打痕があることから、石棒の未製品の可能性もある。

［時期］炉体土器から本遺構の構築時期は円筒上層ｄ式期である。

第Ｅ13号竪穴住居跡（図17・18）

［位置・確認］ＤＴ・ＥＡ－206に位置している。標高15.2m前後の平坦地のⅣ層上面で確認した。

［重複］第Ｅ45・46号土坑と重複し、これらより古い。

［平面形・規模］平面形は直径2.6m前後の円形である。推定床面積は4.9㎡である。

［壁・床面］西壁は壁を確認できなかったが、ほかは10～20㎝である。床面はほぼ平坦で、中央付近がやや硬く踏み締められている。

［柱穴］東壁付近でピットを１個検出した。深さ９㎝の浅いもので、柱穴かどうか不明である。

［炉］検出されなかった。

［堆積土］７層に分層した。暗褐色土や褐色土、にぶい黄褐色土等の堆積が見られる。

［出土遺物］土器は、堆積土中から円筒上層ｄ式又はｅ式土器が出土した。判明するものでは上層ｅ式期の土器である。また、石鏃１点（15）、二次調整・微小剥離痕のある剥片５点を含む総数16点の剥片石器が出土した。床面からは数点の土器片と２点の礫石器が出土しただけである。堆積土から磨り石２点、敲き石１点が出土した。16は床面近くから出土したもので、器面が研磨されており、石棒の未製品とも考えられる。18は三器面に広範囲に敲打痕を有する。17は稜の部分に磨り面が明瞭に残るほか、器面全体にも若干磨り痕がみられる。

［時期］出土遺物から、本遺構は円筒上層ｅ式期に近い時期のものと考えられる。（畠山）

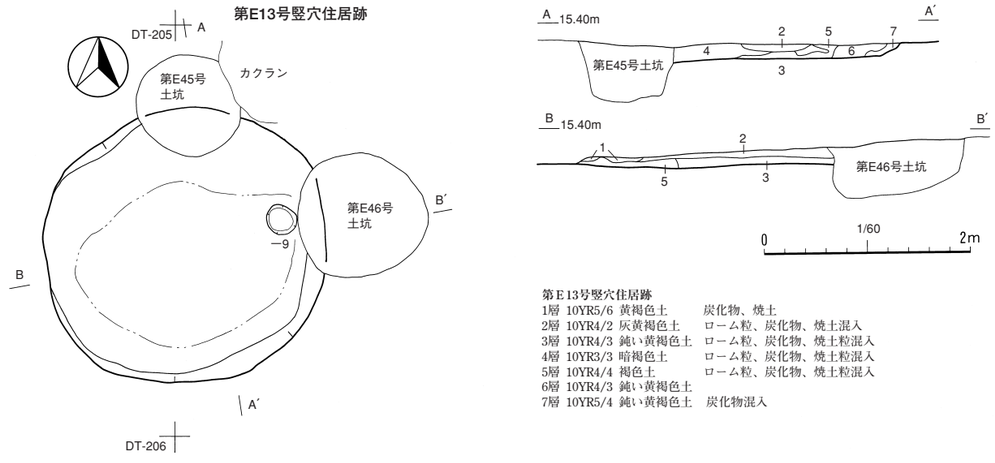


図17　第E13号竪穴住居跡（1）

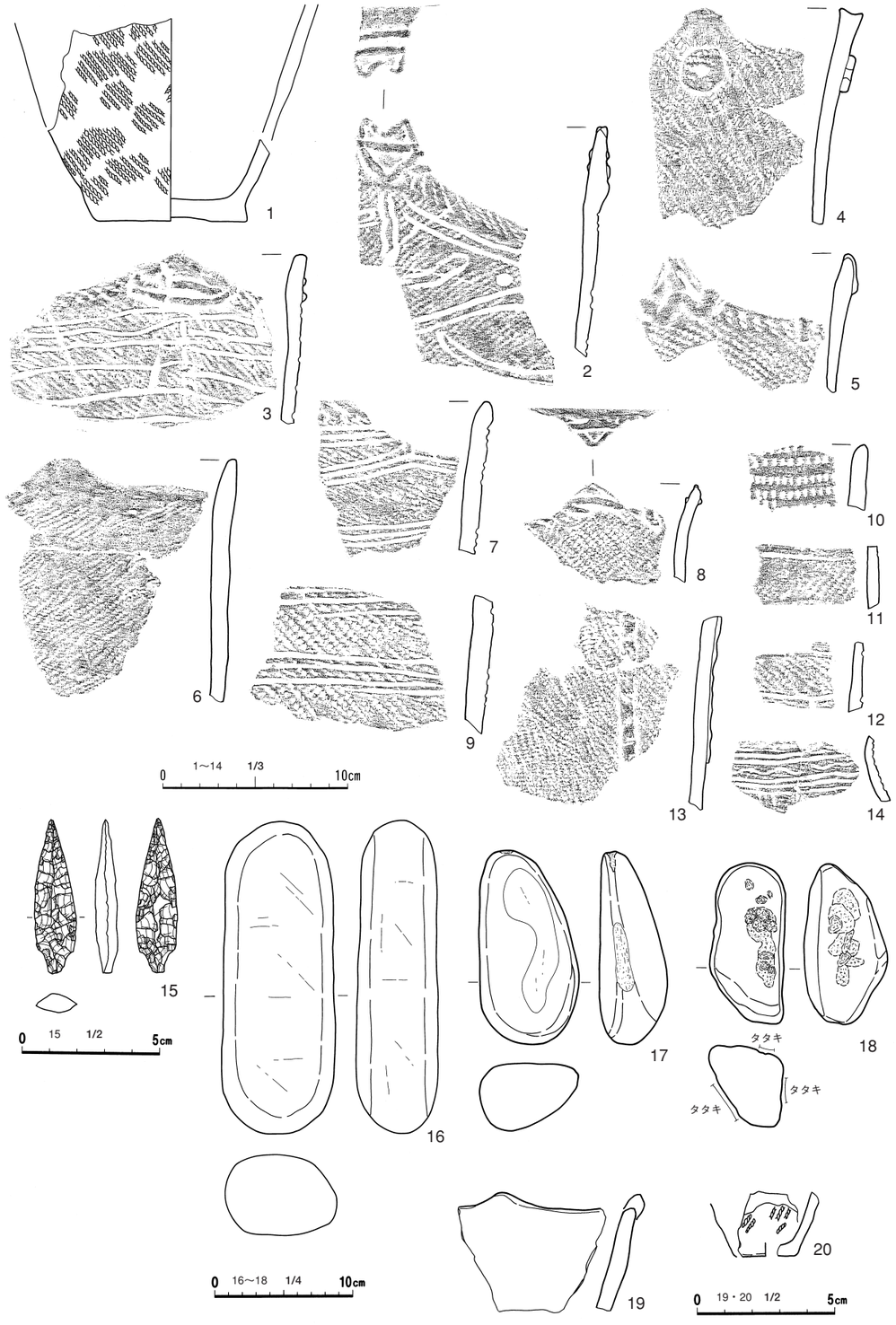


図18　第E13号竪穴住居跡（2）

第Ｅ14号竪穴住居跡（図19～22）

［位置・確認］標高18m前後の平坦地、ＥＯ・ＥＰ－209に位置する住居跡で、Ⅳ層上面で確認した。『近野遺跡Ⅴ』で16Ｈと確認された住居跡である。当初１軒の住居跡として調査したが、床面から、円形に巡る壁溝の痕跡を検出した。床面の高さはほぼ同じであることから、住居跡を拡張したものと考えられる。このため、拡張前と拡張後の二時期に分けて記載する。

第Ⅱ期（拡張後）

［平面形・規模］平面形は隅丸方形で、やや北西側に張り出している。規模は、長軸3.81m、短軸3.36m、床面積は10.2㎡である。

［壁・床面］壁は、床面から直線的に立ち上がる形状である。Ⅳ層を床面とし、全体に平坦である。

［柱穴］壁際・床面・住居外で検出した。柱穴の可能性のあるものはＰit１・６・32・33である。いずれも壁際に接し、黒褐色土主体の堆積土が混入する。

［炉］住居跡中央に周堤炉と土器埋設炉が隣接して検出された。土器埋設炉は土器部分が全周せず５㎝程度で土器が埋設された部分と、その内部の硬化面が残存するのみである。周堤炉は平面形状が楕円形で、規模は48×38㎝、最深約28㎝である。断面形が皿状で深さ約10㎝の部分は被熱しているが、その底面直下には径25㎝のピット状の掘り込みがあり、内部には炭化種子の混入した黄褐色土で埋められている。検出状況から、土器埋設炉は周堤炉よりも古いか同時に使用されていたと思われる。

［その他］北西壁中央で付属施設を検出した。床面よりもやや高い位置で、馬蹄形状に掘り残し、内部にピット状に掘り込んでいる。その内部や周囲からは３個の小ピットが検出された。

［堆積土］暗褐色土主体の堆積土で、ローム土が混入する。床面付近には炭化材が混入する。

第Ⅰ期（拡張前）

［平面形・規模］平面形は円形で、径2.26m、床面積は3.2㎡である。

［壁・床面］拡張後の住居跡と床面の高さがほぼ同じである。床面は、全体に平坦で硬化している。

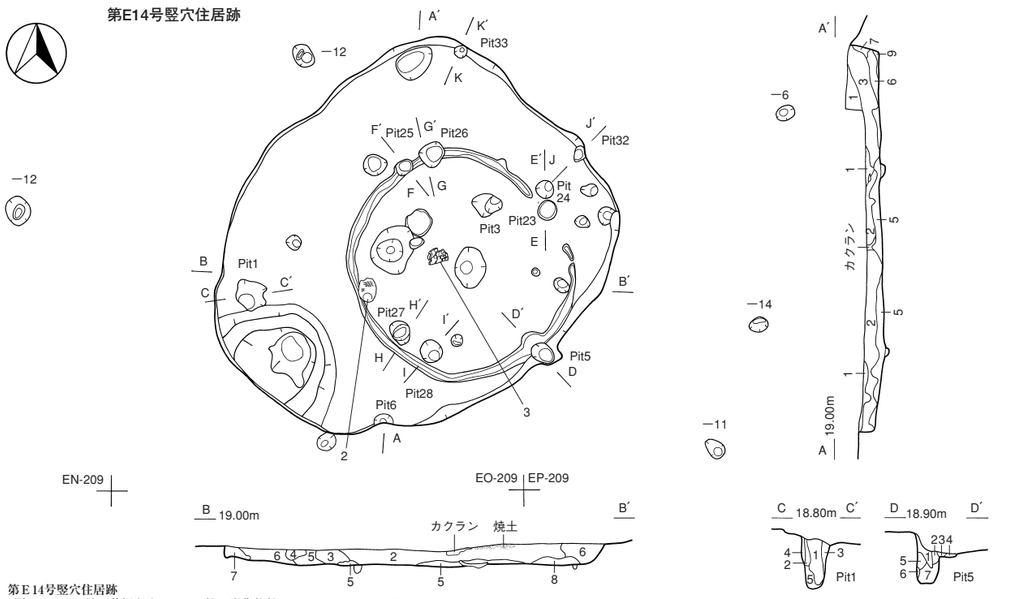
［壁溝］北東側の一部を除き、全周している。断面形はＵ字形で、幅５～15㎝、深さ４～９㎝であり、堆積土は、暗褐色土主体である。

［柱穴］拡張後のピットと重複することも考えられるが、柱穴と思われるのがＰit23～25･27･28である。この内、Ｐit24・28は黄褐色土主体の土で埋められており、Ｐit23・25・27は黒褐色土主体の土が堆積している。

［炉］住居跡中央の床面に土器埋設炉が検出された。埋設された土器は胴部から底部にかけての部位で、胴部が床面から数㎝高く設置されている。炉の設置は、ほぼ土器の形状で掘り込んだ後、土器を埋設し、土器の周囲にⅣ層土を幅４㎝、厚さ２～３㎝程入れて固定させている。炉内の堆積土は最下部に炭化粒の混入した黒褐色土が堆積し、その直上にⅣ層土が床面の高さまで堆積しており、埋め戻された可能性がある。

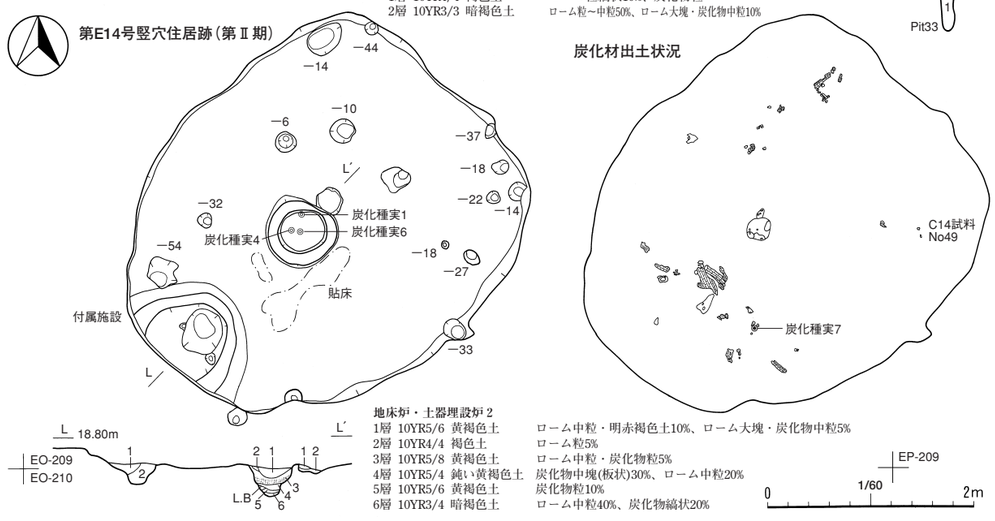
［堆積土］壁溝及び土器埋設炉の堆積土は暗褐色・黒褐色土で、拡張後の堆積土とほぼ同じである。

［出土遺物］２層を主体として遺物が出土した。炉に使用された土器は胴部のみで時期の把握をしにくいが、床面からは円筒上層ｅ式期の土器が出土した。石鏃２点（24・25）、石槍１点、二次調整のある剥片２点を含む総数22点の剥片石器が出土している。床面から敲磨器２点（26・28）、８層から敲き石（29）が出土し、２層から出土した加工礫（27）は板状に割れた砂岩の縁片に剥離加工を施し



第Ｅ14号竪穴住居跡

1層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム粒・炭化物粒5%
2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒～中粒30%、ローム塊・炭化物粒～中塊10%
3層	10YR5/6 黄褐色土	ローム中粒・明赤褐色土10%、ローム大塊・炭化物中粒5%
4層	10YR5/8 黄褐色土	ローム中粒・炭化物粒5%
5層	10YR2/2 黒褐色土	ローム中粒～中塊20%、炭化物粒10%
6層	10YR4/4 褐色土	ローム粒・炭化物粒～中塊5%
7層	10YR6/6 明黄褐色土	ローム粒5%少しもろい
8層	10YR4/6 褐色土	黄橙色土塊状に30%、炭化物粒5%
9層	10YR5/8 黄褐色土	ローム粒5%少しもろい
焼土	7.5YR5/8 明褐色土	明赤褐色土塊状・炭化物中粒50%
Pit1		
1層	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒30%上部濃集、炭化物中粒10%
2層	10YR5/8 黄褐色土	しまりあり
3層	10YR4/6 褐色土	ローム粒10%上部濃集、炭化物粒5%
4層	10YR4/4 褐色土	ローム粒10%、他層よりも脆い
5層	10YR5/6 黄褐色土	よくしまる
Pit5		
1層	10YR4/4 褐色土	ローム中粒10%、炭化物粒5%、カクランあり
2層	10YR4/6 褐色土	ローム中粒5%、よくしまる
3層	10YR5/6 黄褐色土	ローム粒5%、炭化物粒5%
4層	10YR5/8 黄褐色土	よくしまる
5層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム中粒20%
6層	10YR5/6 黄褐色土	よくしまる
7層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒20%、炭化物粒5%
Pit23		
1層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒10%、炭化物粒5%
2層	10YR4/4 褐色土	
Pit24		
1層	10YR3/4 暗褐色土	炭化物粒10%
3層	10YR4/4 褐色土	ローム粒混入
Pit25		
1層	10YR2/2 黒褐色土	ローム中粒20%濃集、炭化物粒10%
Pit26		
1層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒20%上部縞状、焼土中粒5%
2層	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒～中粒5%、炭化物粒5%
Pit27		
1層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒・炭化物粒10%
2層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム中粒30%
Pit28		
1層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒10%、炭化物粒濃集10%
2層	10YR5/8 黄褐色土	白色粘土塊10%
Pit32		
1層	10YR4/6 褐色土	ローム中粒30%、少しぼろぼろしている
2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒5%
Pit33		
1層	10YR4/6 褐色土	ローム中粒10%、炭化物粒5%
壁溝		
1層	10YR3/4 暗褐色土	ローム中粒濃集30%、炭化物中粒20%
2層	10YR4/6 褐色土	ローム粒10%
付属施設		
1層	10YR4/4 褐色土	ローム粒縞状10%、炭化物粒
2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒～中粒50%、ローム大塊・炭化物中粒10%



地床炉・土器埋設炉２

1層	10YR5/6 黄褐色土	ローム中粒・明赤褐色土10%、ローム大塊・炭化物中粒5%
2層	10YR4/4 褐色土	ローム粒5%
3層	10YR5/8 黄褐色土	ローム中粒・炭化物粒5%
4層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	炭化物中塊(板状)30%、ローム中粒20%
5層	10YR5/6 黄褐色土	炭化物粒10%
6層	10YR3/4 暗褐色土	ローム中粒40%、炭化物縞状20%

図19　第E14号竪穴住居跡（1）

たものである。使用痕跡は明瞭ではないが台石・石皿として使用された可能性もある。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土遺物が円筒上層ｅ式土器主体であることや床面出土遺物から、円筒上層ｅ式期と判断される。（坂本）

第Ｅ16号竪穴住居跡（図23・24）

［位置・確認］ＥＬ・Ｍ－212・213に位置する。標高18.5m前後の平坦地で、Ⅳ層上面で確認した。

［重複］第Ｅ６号竪穴住居跡と重複し、これよりも古い。半分以上が破壊されている。

［平面形・規模］平面形は短軸3.45m、長軸3.8mの隅丸長方形と思われる。残存床面積は4.4㎡、推定床面積は9.2㎡で、長軸方向はＮ－37°－Ｅである。

［壁・床面］壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は北壁20～40cm前後である。床面はほぼ平坦である。

［壁溝］一部が途切れているが、幅10～15cm前後、深さ５cm前後の壁溝を検出した。

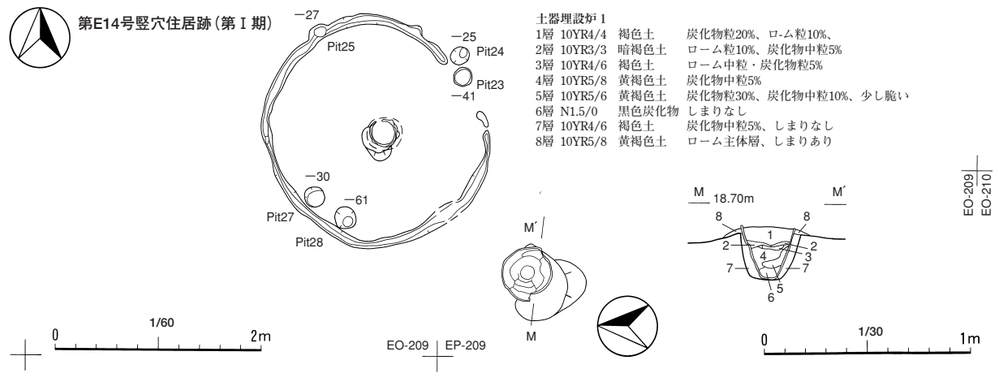
［柱穴］破壊されなかった部分から17個、第Ｅ６号竪穴住居跡の掘り方下部から３個のピットを検出した。Ｐit１・２・４～７の５個とＰit８・９のどちらかと組み合わされるものと考えられる。

［炉］検出できなかった。

［堆積土］４層に分層した。黒褐色土と暗褐色土を主体とした堆積が見られた。４層は掘り方の埋土である。

［出土遺物］床面・堆積土中から土器片が少量出土した。剥片石器は、石鏃２点（9・10）、石篦１点(12)、石槍２点（11他）、異形石器２点（13・14）、微小剥離痕のある剥片５点、両極加撃痕跡のある剥片１点、二次調整のある剥片５点を含む総数52点が出土している。二次調整のある剥片１点は床面からの出土である。礫石器は、堆積土中から両面加工で鋭利な刃部を作出した加工礫（16）と平滑な磨り面を有する石皿（15）が出土した。

［時期］本遺構の時期は床面出土遺物から円筒上層ｅ式期と考えられる。



土器埋設炉１

1層	10YR4/4 褐色土	炭化物粒20%、ロ-ム粒10%、
2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒10%、炭化物中粒5%
3層	10YR4/6 褐色土	ローム中粒・炭化物粒5%
4層	10YR5/8 黄褐色土	炭化物中粒5%
5層	10YR5/6 黄褐色土	炭化物粒30%、炭化物中粒10%、少し脆い
6層	N1.5/0 黒色炭化物	しまりなし
7層	10YR4/6 褐色土	炭化物中粒5%、しまりなし
8層	10YR5/8 黄褐色土	ローム主体層、しまりあり

図20　第E14号竪穴住居跡（2）

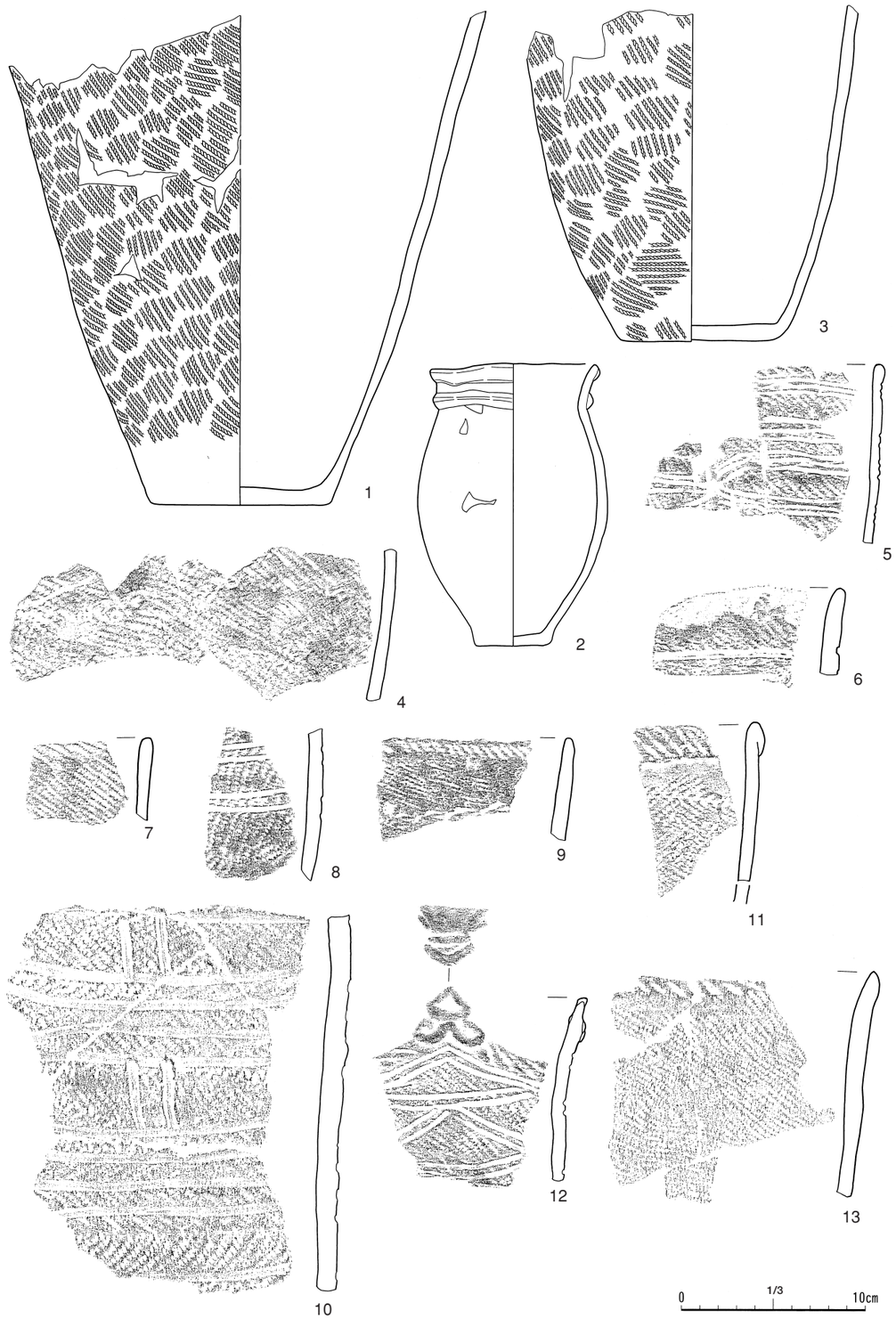


図21　第E14号竪穴住居跡（3）

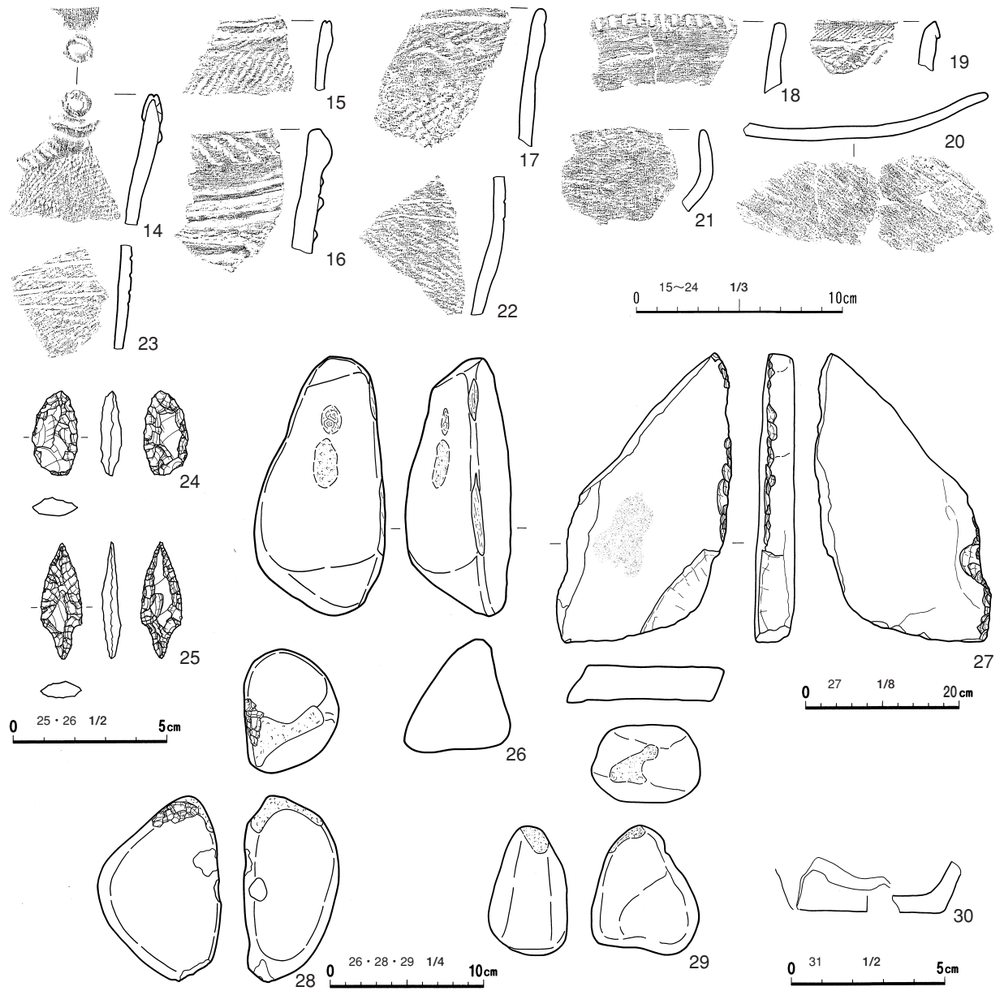


図22　第E14号竪穴住居跡（4）

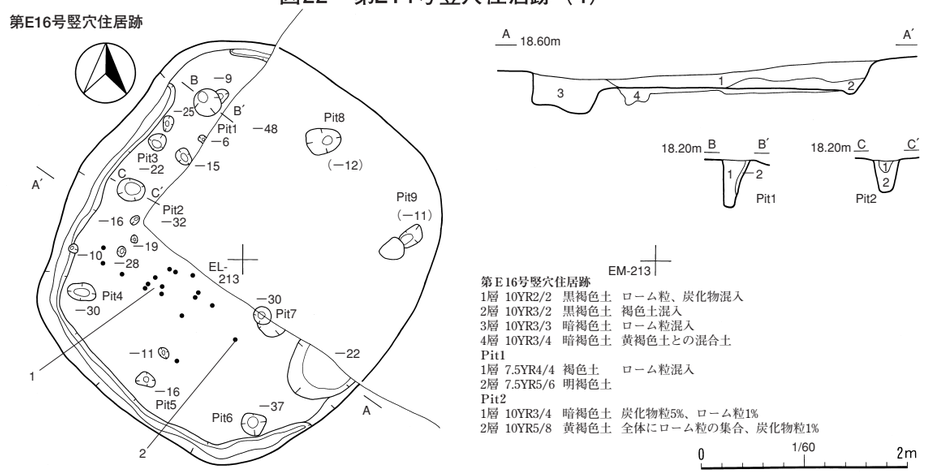


図23　第E16号竪穴住居跡（1）

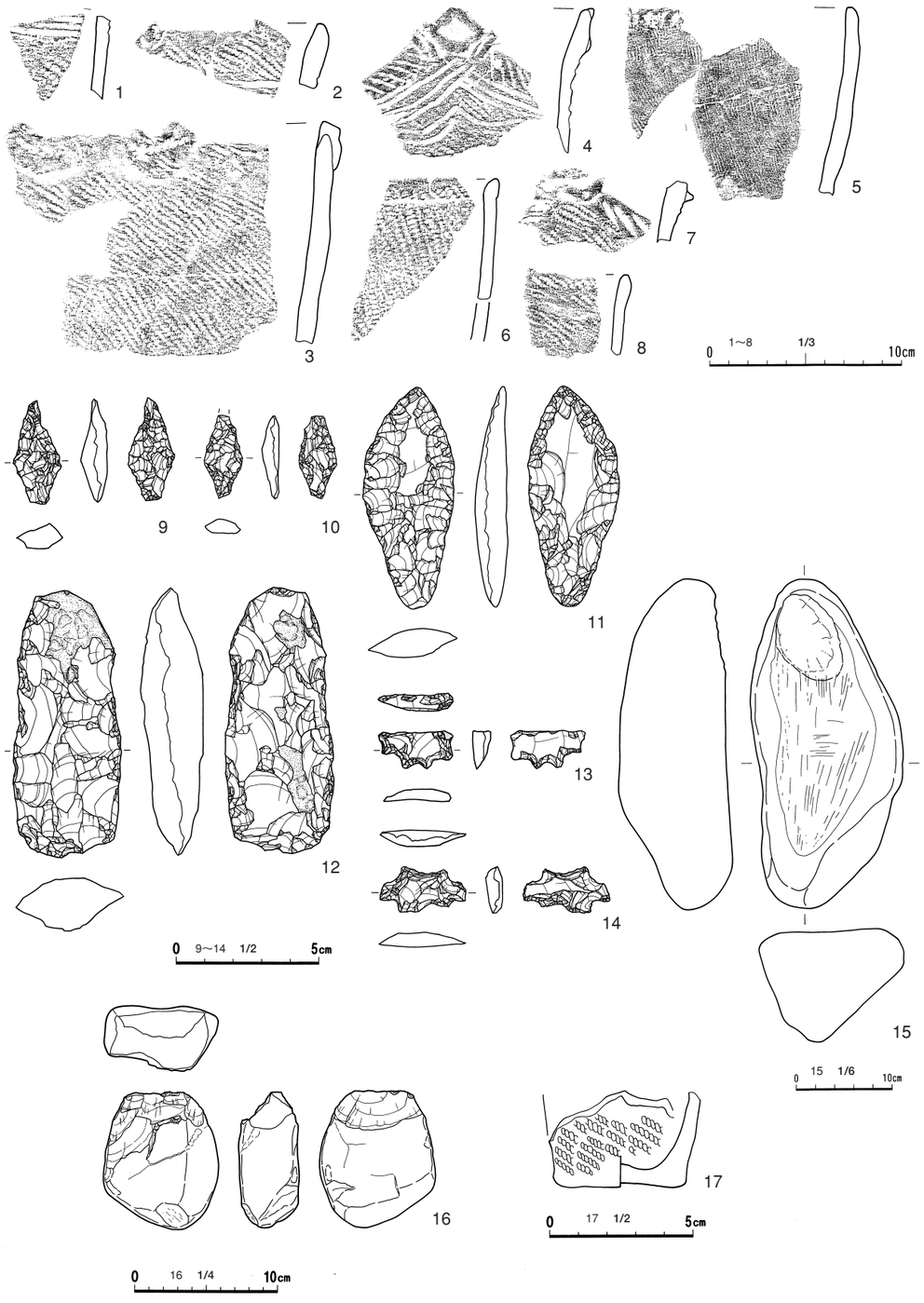


図24　第E16号竪穴住居跡（2）

第Ｅ18号竪穴住居跡（図25）

［位置・確認］ＥＥ－216に位置する。標高15.5m前後の谷に面する緩斜面上のⅣ層上面で確認した。

［平面形・規模］平面形は不明であるが、確認できた部分から推定して、直径３ｍ前後の円形か、楕円形と思われる。床面積は8.9㎡である。

［壁・床面］壁を確認できたのは北から東側にかけての部分で、壁高は０～20㎝である。床面は東側の約半分を確認できた。ほぼ平坦であるが、若干南側が低くなっている。また、西側は壁も床面も確認できなかった。

［柱穴］確認できなかった。

［炉］中央からやや東側に寄ったところで、楕円形の地床炉を検出した。深さ12㎝で弱い酸化面が確認された。

［堆積土］４層に分層した。暗褐色土や黒褐色土がほとんどであるが、壁際ではにぶい黄褐色土の堆積も見られた。

［出土遺物］出土土器は堆積土中からのもののみである。円筒上層ｄ式又はｅ式から榎林式土器で、本遺構の時期もそれに近いものと考えられる。石器は、微小剥離痕のある剥片１点を含む総数４点の剥片石器が出土している。床面から磨り石１点（19）、堆積土から敲磨器２点（18・20）が出土した。19は器面に平滑な磨り面を有する。20は端部の広い敲打痕を有し、２点とも器面は研磨されている。このほか、焼成粘土塊２点が出土している。いずれも粘土をにぎり、丸めたような形状を呈しており、この内１点（写真92－①）には植物繊維状の圧痕が顕著に認められる。

［時期］出土遺物から、縄文時代中期中葉から後葉と考えられる。

第Ｅ19号竪穴住居跡（図26・27）

［位置・確認］ＥＪ・Ｋ－212に位置している。標高18.4m前後の平坦地のⅣ層上面で確認した。

［平面形・規模］平面形は短軸、長軸ともに2.67ｍの隅丸方形で、北東壁の中央が20㎝外方へ張り出している。床面積は5.4㎡で、長軸方向はＮ－46°－Ｅである。

［壁・床面］西側が削平地に面しているため壁高は５㎝前後しか確認できなかったが、北東壁20～40㎝、南東壁30～40㎝、南西壁20㎝である。床面には若干の凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。

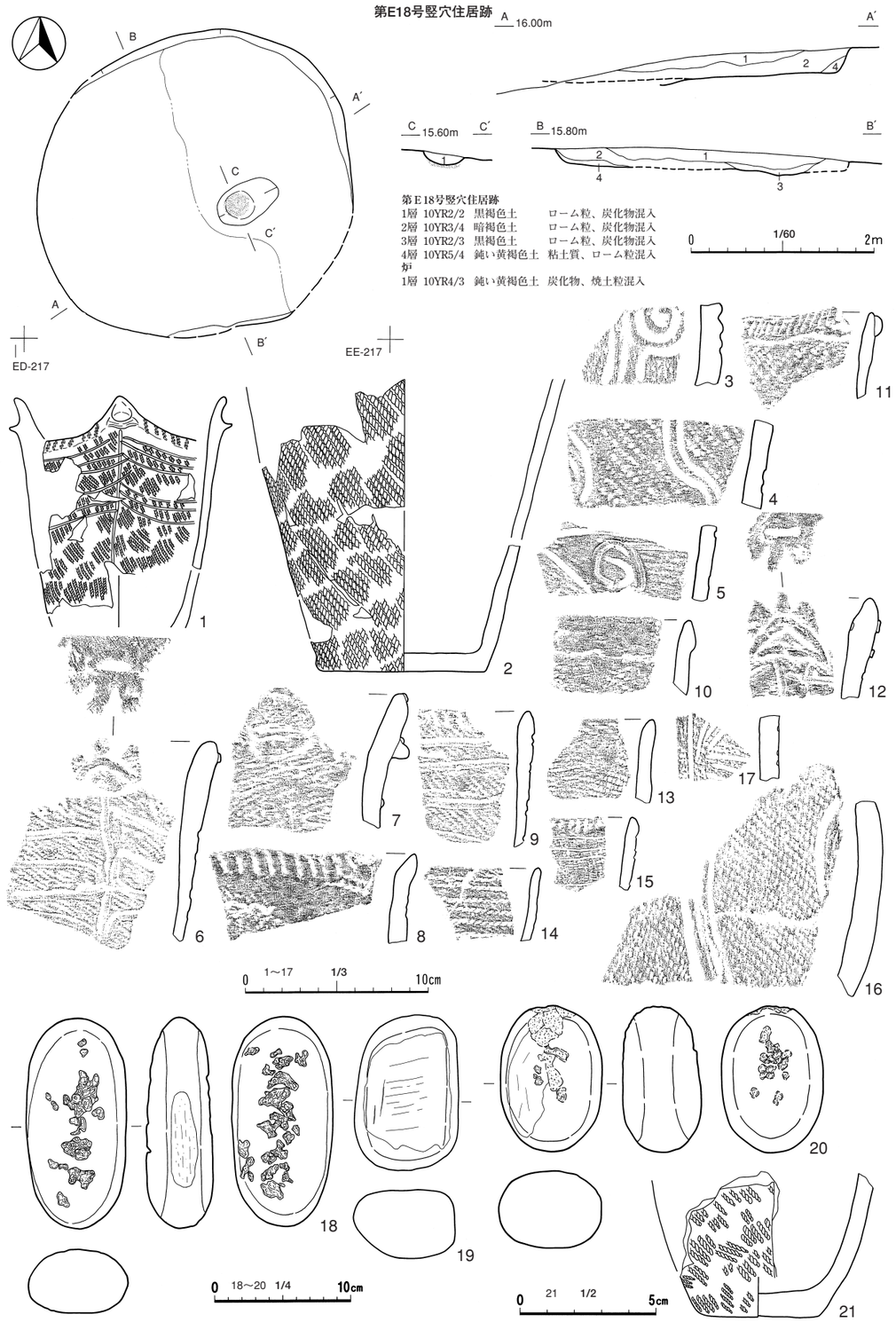
［柱穴］２個検出した。Ｐｉｔ１の堆積状態は人為堆積と思われ、何らかの施設跡の可能性がある。深さ64㎝である。Ｐｉｔ２は深さ11㎝と浅いが、柱穴の可能性がある。

［炉］住居跡中央から若干掘り込まれた地床炉を検出した。長軸35㎝、短軸28㎝、深さ11㎝の規模であるが、焼けた痕跡は弱い。

［その他］北東壁が壁から20㎝張り出している。この張り出した部分に向かい合うように幅16㎝、高さ６㎝の黄褐色土の盛り土が半円状に巡らされている。内部は床面から17㎝の深さがあり、断面は鍋底状である。壁際には２個一対の小ピットが見られる。小ピットはいずれも径10㎝前後で、深さには10㎝のものと20㎝のものがある。

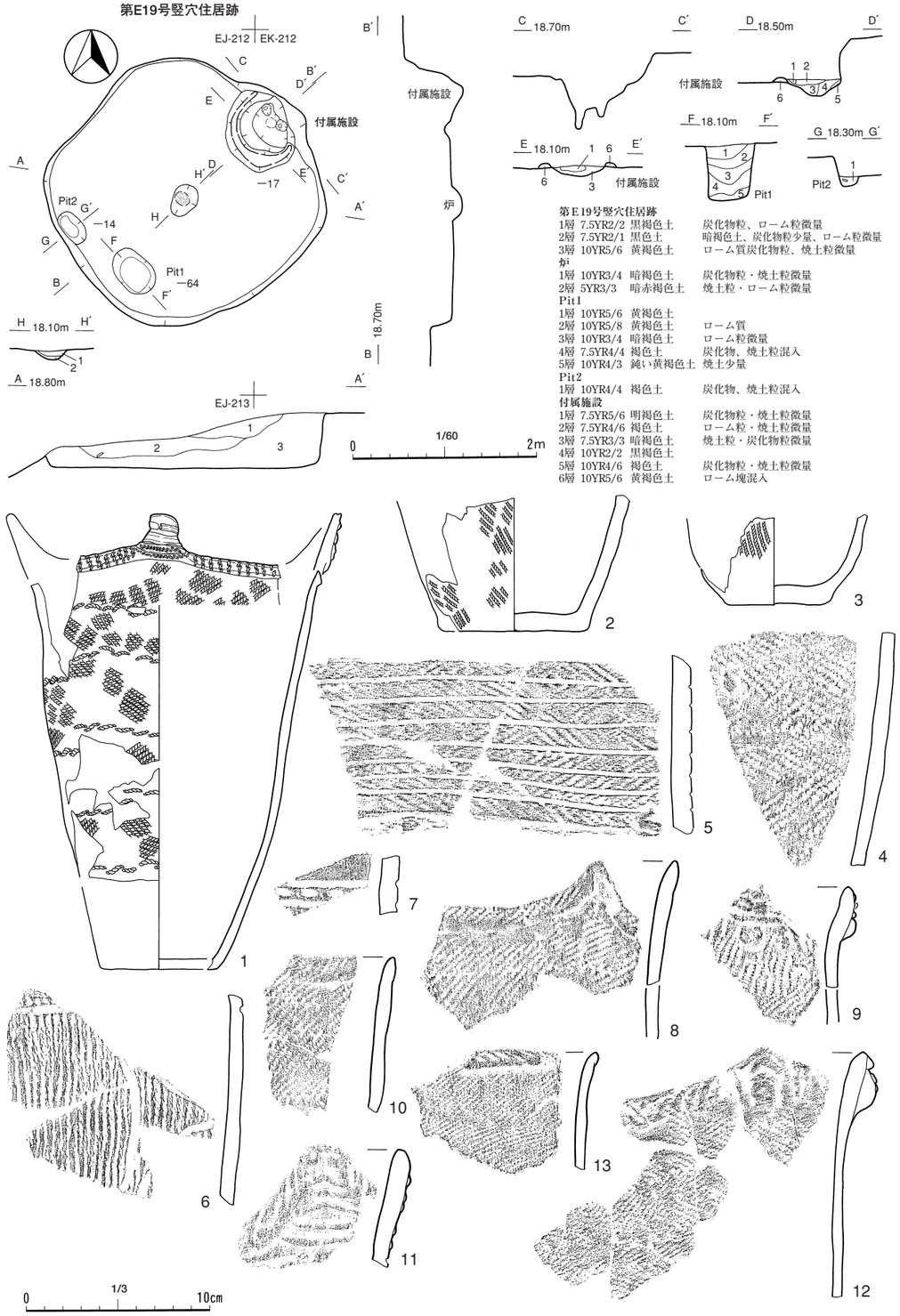
［堆積土］３層に分層した。上部に黒褐色土と黒色土が見られ、下部はローム質の黄褐色土が床面上に厚く堆積している。

［出土遺物］床面・床直や２層を主として土器が出土した。床面・床直遺物は円筒上層ｅ式や榎林式



第E18号竪穴住居跡
1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、炭化物混入
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、炭化物混入
3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、炭化物混入
4層 10YR5/4 鈍い黄褐色土 粘土質、ローム粒混入
炉
1層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 炭化物、焼土粒混入

図25 第E18号竪穴住居跡



第E19号竪穴住居跡
1層 7.5YR2/2 黒褐色土 炭化物粒、ローム粒微量
2層 7.5YR2/1 黒色土 暗褐色土、炭化物粒少量、ローム粒微量
3層 10YR5/6 黄褐色土 ローム質炭化物粒、焼土粒微量
炉
1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒微量
2層 5YR3/3 暗赤褐色土 焼土粒・ローム粒微量
Pit1
1層 10YR5/6 黄褐色土
2層 10YR5/8 黄褐色土 ローム質
3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒微量
4層 7.5YR4/4 褐色土 炭化物、焼土粒混入
5層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 焼土少量
Pit2
1層 10YR4/4 褐色土 炭化物、焼土粒混入
付属施設
1層 7.5YR5/6 明褐色土 炭化物粒・焼土粒微量
2層 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒・焼土粒微量
3層 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒微量
4層 10YR2/2 黒褐色土
5層 10YR4/6 褐色土 炭化物粒・焼土粒微量
6層 10YR5/6 黄褐色土 ローム塊混入

図26 第E19号竪穴住居跡（1）

である。剥片石器は石鏃２点（26、27）、二次調整のある剥片７点（29、30他）、微小剥離痕のある剥片９点（28他）、両極加撃痕跡のある剥片１点を含む総数49点が出土している。礫石器は、付属施設近くから磨り石（石棒未製品？）、床面直上から凹み石（31）、堆積土から磨製石斧片が出土した。31は端部に浅い敲打痕、器面に凹み痕を有する。この他、堆積土中から土器片円盤１点、焼成粘土塊が出土した。

［時期］本遺構の時期は床直出土土器から榎林式期と考えられる。（畠山）

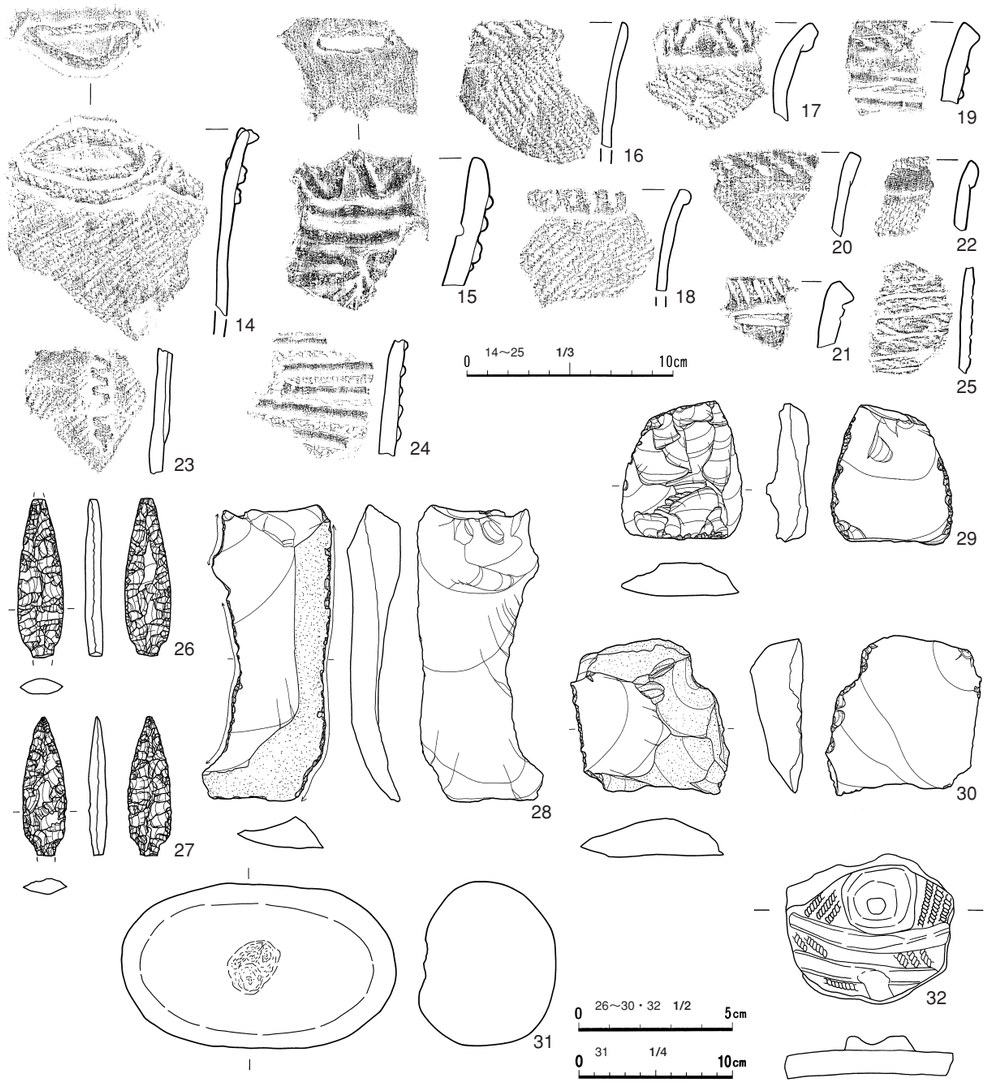


図27　第E19号竪穴住居跡（2）

第Ｅ21号竪穴住居跡　『近野遺跡Ⅴ』で第14号住居跡として報告済み。

第Ｅ22号竪穴住居跡（図28）

［位置・確認］ＥＴ－200に位置し、南西側が大きく削平されている。Ⅴ層上面で確認した。焼失家屋であるが、床面から確認面まで約10㎝の深さであり、上部からの加圧で炭化材が潰れた状態で確認された。

［重複］第Ｅ89号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］規模は長軸3.69ｍ、残存する短軸2.46ｍ、短軸の推定値は2.85ｍで、平面形は楕円形になると思われる。床面積は6.4㎡である。

［壁・床面］壁高はいずれも10㎝未満である。 床面は範囲が明瞭でないが、所々暗褐色土のブロックが広がっている状況が確認されており、全体に平坦で硬化している。

［壁溝］北側の一部、東側で確認された。幅は約５㎝ほど、深さ１～５㎝で、東側は長さ15ｍ程である。

［柱穴］床面で７個、住居外で３個の計10個のピットを検出した。この内主柱穴はＰit１～４の４個と考えられ、うちＰit１・４では柱痕を確認した。柱痕は平面形がＰit１は長軸20㎝の隅丸長方形、Ｐit４は径15㎝の円形で、いずれの掘り方も径39、41㎝である。掘り方埋土にⅣ層のロームブロックを充填させている。対になるＰit２・３には住居跡堆積土と同様の暗褐色土が堆積している。付属施設に隣接して検出されたピット２個は主柱穴の配置から、Ｐit２・３の補助的役割を担うピットの可能性がある。住居外の３個は住居跡との関係は不明であるが、配置や堆積土等から関連する可能性を含めて掲載している。

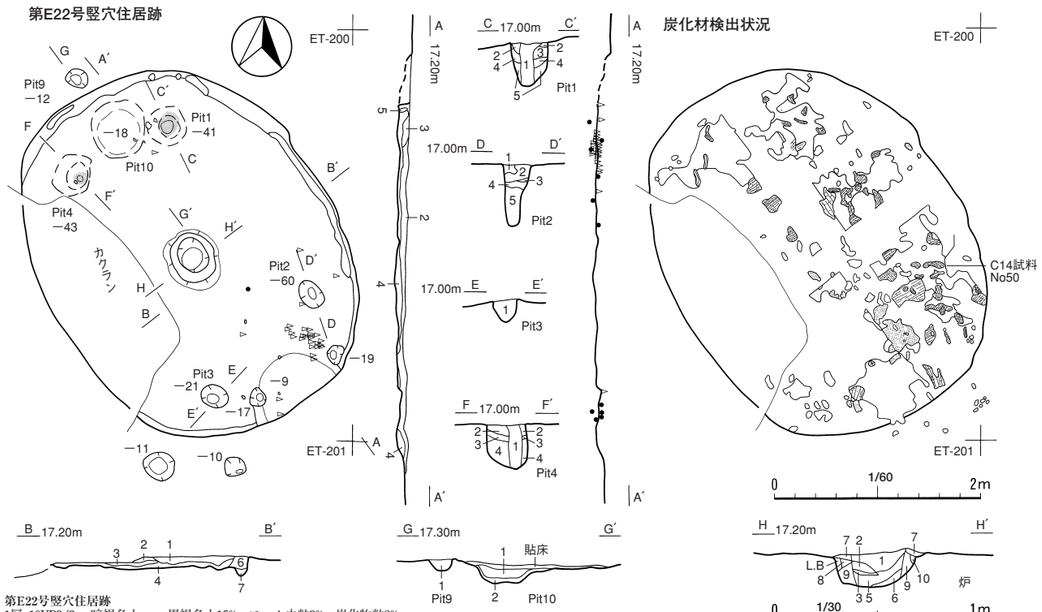
［炉］住居跡中央で楕円形の周堤炉が検出された。規模は、周堤幅５～10㎝、床面からの周堤高最大４㎝、周堤内燃焼部30㎝前後、掘り方60×52㎝で、掘り込んだ後、周堤幅に新たに土を充填させ床面よりも若干高くした後、その内部で燃焼させている。内部には炭化粒を含んだ被熱土が互層になっている。

［その他］南東側の壁際で、径80㎝ほどの半円形をした掘り込みが検出された。壁の立ち上がりは緩やかで、床面から約９㎝の深さである。主柱穴のＰit１・４に挟まれた位置から検出されたＰit10は埋め戻されており、上部には貼床と思われる堆積がみられた。このほか、住居跡ほぼ全面で、炭化材及び炭化範囲を確認した。

［堆積土］上部が暗褐色土で、床面付近では黒褐色土である。

［出土遺物］床面や堆積土中から遺物が少量出土した。床面出土遺物は、胴下半のみで時期認定の根拠に欠ける。剥片・砕片が４層から床面の炭化材に混じって多数出土した。石鏃１点（８）、二次調整のある剥片5点、微小剥離痕のある剥片３点を含む総数77点の剥片石器が出土している。堆積土から敲磨器が２点（９）出土した。このほか、平坦な器面の磨り石片が出土している。

［時期］本遺構の時期は２・４層出土土器から円筒上層ｄ式期に近い時期と考えられる。



第E22号竪穴住居跡

1層 10YR3/3	暗褐色土	黒褐色土15%、ローム中粒3%、炭化物粒2%
2層 10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒20%、炭化物中粒7%
3層 10YR3/4	暗褐色土	ローム大塊・ローム中粒3%、炭化物粒2%
4層 10YR3/3	暗褐色土	黒色土40%、炭化物粒5%、ローム中粒3%
5層 10YR3/4	暗褐色土	ローム中塊30%、焼土10%、炭化物粒2%
6層 10YR2/3	黒褐色土	ローム大塊25%、ローム中粒3%、焼土中粒2%、
7層 10YR3/2	黒褐色土	炭化物中粒・焼土中粒5%、ローム大塊・ローム中粒3%
炉		
1層 10YR1.7/1	黒色土	ローム粒・炭化物粒・焼土粒2%、かたくしまる
3層 10YR3/3	暗褐色土	黒褐色土40%、焼土粒3%、ロ-ム粒・炭化物粒2%
4層 10YR3/4	暗褐色土	炭化物中粒5%、ローム粒3%、焼土粒2%
5層 10YR4/4	褐色土	ローム中粒5%、黒色土・ローム中塊・ローム粒・炭化物中塊・炭化物粒・焼土粒2%
6層 10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム粒5%、ローム中塊3%、炭化物中粒・焼土粒2%
7層 10YR5/8	黄褐色土	ローム粒・炭化物中粒・焼土粒2%
8層 10YR4/6	褐色土	ローム粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
9層 10YR5/6	黄褐色土	ローム中粒5%、炭化物中粒3%、焼土粒2%
10層 10YR5/8	黄褐色土	ローム粒・炭化物粒・焼土粒2%
Pit1		
1層 10YR3/2	黒褐色土	炭化物中粒・焼土中粒5%、ローム大塊・ローム中粒3%
2層 10YR3/3	暗褐色土	焼土中粒5%、ローム中粒3%、炭化物粒2%
3層 10YR4/6	褐色土	ローム中塊20%、ローム粒3%、炭化物中粒・焼土粒2%
4層 10YR5/6	黄褐色土	ローム中粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
5層 10YR5/8	黄褐色土	ローム中粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
Pit2		
1層 10YR3/2	黒褐色土	暗褐色土40%、炭化物中粒3%、ローム粒・焼土粒2%
2層 10YR4/6	褐色土	ローム大塊5%、ローム粒・炭化物中粒・焼土粒2%、V層土で埋める
3層 10YR3/4	暗褐色土	炭化物中粒3%、ローム粒・焼土粒2%
4層 10YR5/6	黄褐色土	ローム大塊15%、ローム粒・炭化物粒2%
5層 10YR5/8	黄褐色土	ローム粒・炭化物粒2%
Pit3		
1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム中塊10%、炭化物粒・ローム中粒5%、炭化物中塊・焼土粒3%
Pit4		
1層 10YR5/4	鈍い黄褐色土	ローム中粒5%、炭化物中塊・焼土粒・粘土中粒3%
2層 10YR5/6	黄褐色土	ローム中粒20%、焼土粒3%、粘土粒・炭化物粒2%、
3層 10YR5/8	黄褐色土	黒褐色土40%、炭化物中粒3%、ローム粒・焼土粒2%
4層 10YR6/4	鈍い黄橙色土	ローム中粒10%、炭化物中粒3%、焼土粒2%
Pit9		
1層 10YR3/3	暗褐色土	ローム塊・ローム粒・炭化物粒・焼土粒2%
Pit10		
貼床 10YR4/4	褐色土	黒色土40%、ローム中粒10%、焼土粒5%、炭化物中粒3%、ローム中塊2%
1層 10YR5/4	鈍い黄褐色土	黒褐色土30%、ローム中粒5%、ローム中塊3%、炭化物粒・焼土粒2%
2層 10YR3/3	暗褐色土	ローム中塊・炭化物中塊5%、ローム中粒3%、焼土大粒・粒2%

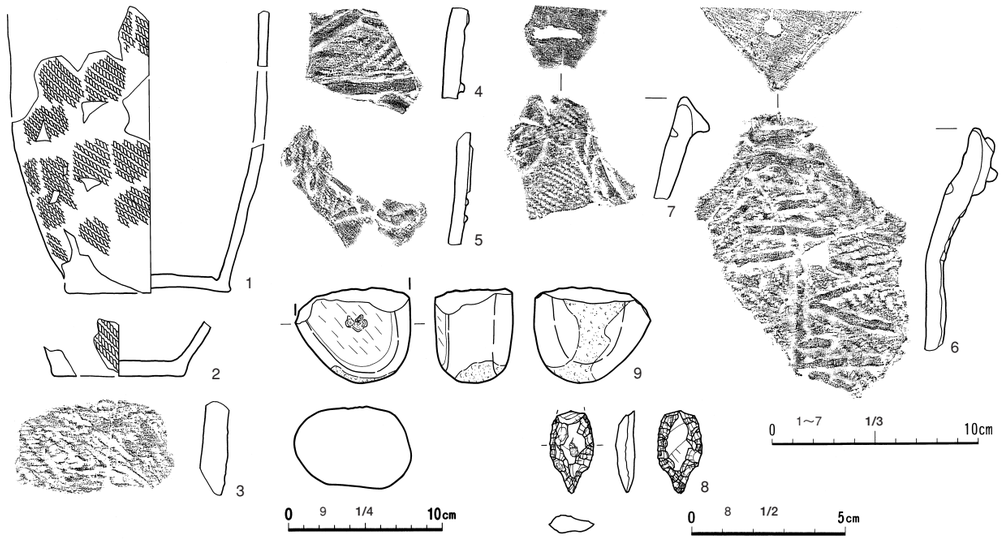


図28　第E22号竪穴住居跡

第Ｅ28号竪穴住居跡（図29～31）

［位置・確認］標高18m前後の平坦地ＥＯ・Ｐ－208に位置する。Ⅳ層上面で確認した。『近野遺跡Ⅴ』で22Ｈとされた住居跡である。住居跡北側は大きく削平されている。当初、１軒の住居跡として調査したが、床面から、方形に巡る溝の痕跡を検出した。床面の高さはほぼ同じであることから、住居跡を拡張したものと考えられる。このため、拡張前と拡張後の二時期に分けて記載する。

第Ⅱ期（拡張後）

［平面形・規模］規模は、残存する東西方向の長さ3.26ｍ、南北方向の長さ3.8ｍで、残存する形状から平面形はやや南北に長い楕円形と推定される。床面積は9.2㎡である。

［壁・床面］壁は、床面から直線的に立ち上がる形状である。Ⅳ層とⅤ層の層理面を床面としている。全体に平坦で、とくに炉の周囲に黄褐色ローム土を主体とした貼床が施されている。

［壁溝］東西壁の一部で検出され、幅５㎝前後、深さ２～３㎝である。堆積土は、暗褐色土主体である。

［柱穴］床面・壁際・住居外で検出した。柱穴の可能性のあるものは床面のＰit１～３・６・９・10の６個と壁際のＰit7・14の２個で、後者は壁を斜めに掘りこんでいる。ほとんどのピットは黄褐色ローム土で埋め戻されている。

［炉］住居跡中央からやや北に寄った位置で周堤炉が検出された。平面形状は楕円形で、規模は75×69㎝、周堤部からの深さ約11㎝である。周堤の南側及び炉底面は被熱している。炉の設置は、楕円形に掘り込んだ後、その上端周囲の貼床上に軽石質粘土を幅５～10㎝、高さ約２㎝ほど巡らせている。炉壁からは炭化材が検出され、炉内の堆積土は炭化粒や焼土塊の混入した褐色土が堆積している。炉は埋め戻された可能性がある。

［堆積土］最上部は黒褐色土の堆積土で、中位から下位にかけて褐色土と暗褐色土が互層となる。中位から下位にかけては人為による埋め戻しの可能性が高い。

第Ⅰ期（拡張前）

［平面形・規模］規模は、残存する東西方向の長さ2.5ｍ、南北方向の長さ2.4ｍで、残存する形状から平面形は方形と推定される。床面積は5.4㎡である。

［壁・床面］壁は確認されなかった。床面は平坦である。

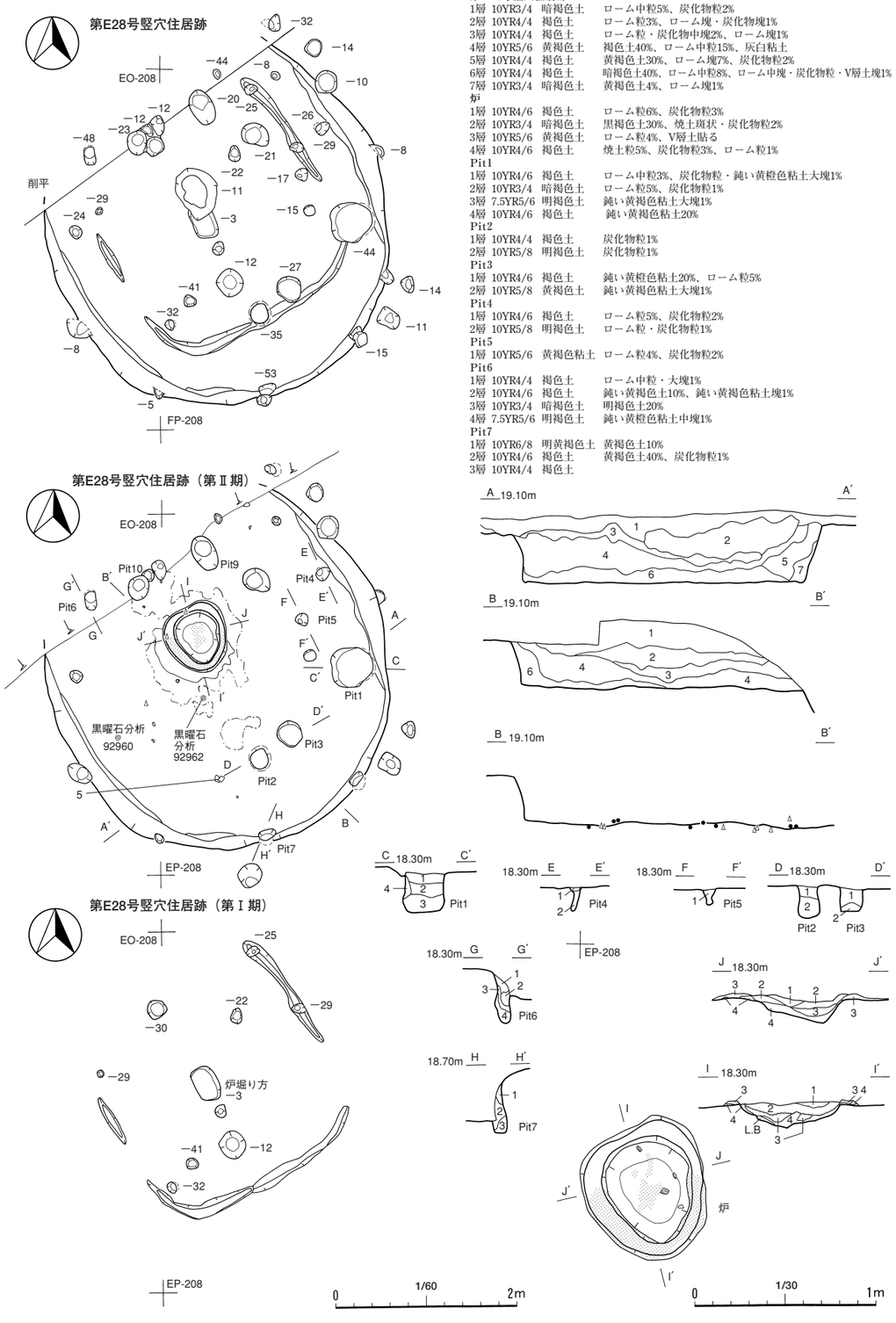
［壁溝］南壁全体、東壁・西壁の一部で検出され、幅８～16㎝、深さ２～９㎝である。

［柱穴］貼床下やピットの重複関係から、９個が相当する。柱穴は、床面で７個、壁溝で２個が検出されている。第Ⅱ期の竪穴住居跡のピットと共通するものもあると考えられる。

［炉］第Ⅱ期竪穴住居跡の周堤炉と重複して、住居跡中央から地床炉が検出された。平面形状は隅丸長方形で、規模は41×27㎝、深さ３㎝である。底面は平坦で硬化しており、炭化粒の混入した堆積土が厚さ２㎝程度堆積している。

［堆積土］第Ⅱ期拡張後の貼床下、地山面の床面と共通している。ピットや壁溝の堆積土は褐色土・黄褐色土主体で、第Ⅱ期住居跡とほとんど違いがない。

［出土遺物］１・３層を主体として遺物が多量に出土した。床面出土土器は円筒上層ｅ式である。堆積土出土遺物は床面から３層では円筒上層ｄ・ｅ式で、１層では榎林式土器が混在する。１層中から小型土器の底部が１点出土した。器表面にスス状炭化物の付着が見られる。剥片石器は石鏃６点（39～41・43・45・46）、石槍１点、石錐１点（44）、二次調整のある剥片17点（42他）、微小剥離痕のあ



第E28号竪穴住居跡

1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒5%、炭化物粒2%
2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒3%、ローム塊・炭化物塊1%
3層 10YR4/4 褐色土 ローム粒・炭化物中塊2%、ローム塊1%
4層 10YR5/6 黄褐色土 褐色土40%、ローム中粒15%、灰白粘土
5層 10YR4/4 褐色土 黄褐色土30%、ローム塊7%、炭化物粒2%
6層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土40%、ローム中粒8%、ローム中塊・炭化物粒・V層土塊1%
7層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土4%、ローム塊1%

炉

1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒6%、炭化物粒3%
2層 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土30%、焼土斑状・炭化物粒2%
3層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒4%、V層土貼る
4層 10YR4/6 褐色土 焼土粒5%、炭化物粒3%、ローム粒1%

Pit1

1層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒3%、炭化物粒・鈍い黄橙色粘土大塊1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒5%、炭化物粒1%
3層 7.5YR5/6 明褐色土 鈍い黄褐色粘土大塊1%
4層 10YR4/6 褐色土 鈍い黄褐色粘土20%

Pit2

1層 10YR4/4 褐色土 炭化物粒1%
2層 10YR5/8 明褐色土 炭化物粒1%

Pit3

1層 10YR4/6 褐色土 鈍い黄橙色粘土20%、ローム粒5%
2層 10YR5/8 黄褐色土 鈍い黄褐色粘土大塊1%

Pit4

1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒5%、炭化物粒2%
2層 10YR5/8 明褐色土 ローム粒・炭化物粒1%

Pit5

1層 10YR5/6 黄褐色粘土 ローム粒4%、炭化物粒2%

Pit6

1層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒・大塊1%
2層 10YR4/6 褐色土 鈍い黄褐色土10%、鈍い黄褐色粘土塊1%
3層 10YR3/4 暗褐色土 明褐色土20%
4層 7.5YR5/6 明褐色土 鈍い黄橙色粘土中塊1%

Pit7

1層 10YR6/8 明黄褐色土 黄褐色土10%
2層 10YR4/6 褐色土 黄褐色土40%、炭化物粒1%
3層 10YR4/4 褐色土

図29 第E28号竪穴住居跡（1）

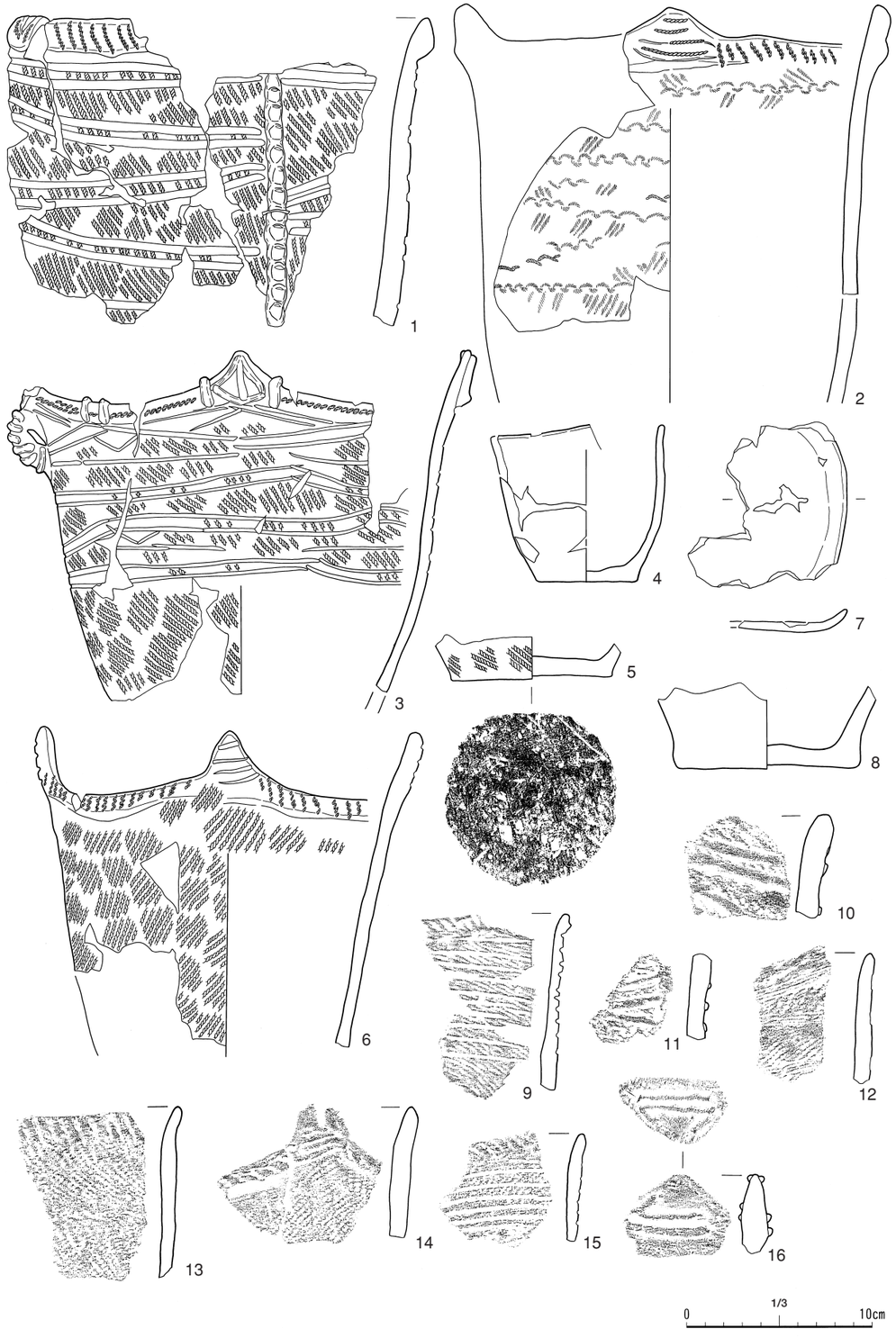


図30 第E28号竪穴住居跡（2）

る剥片９点を含む総数151点が出土している。このほか堆積土から敲磨器１点（47)、磨り面を持つ礫片３点が出土した。

［時期］本遺構の時期は、第Ⅱ期床面出土遺物から円筒上層ｅ式期と考えられる。（坂本）

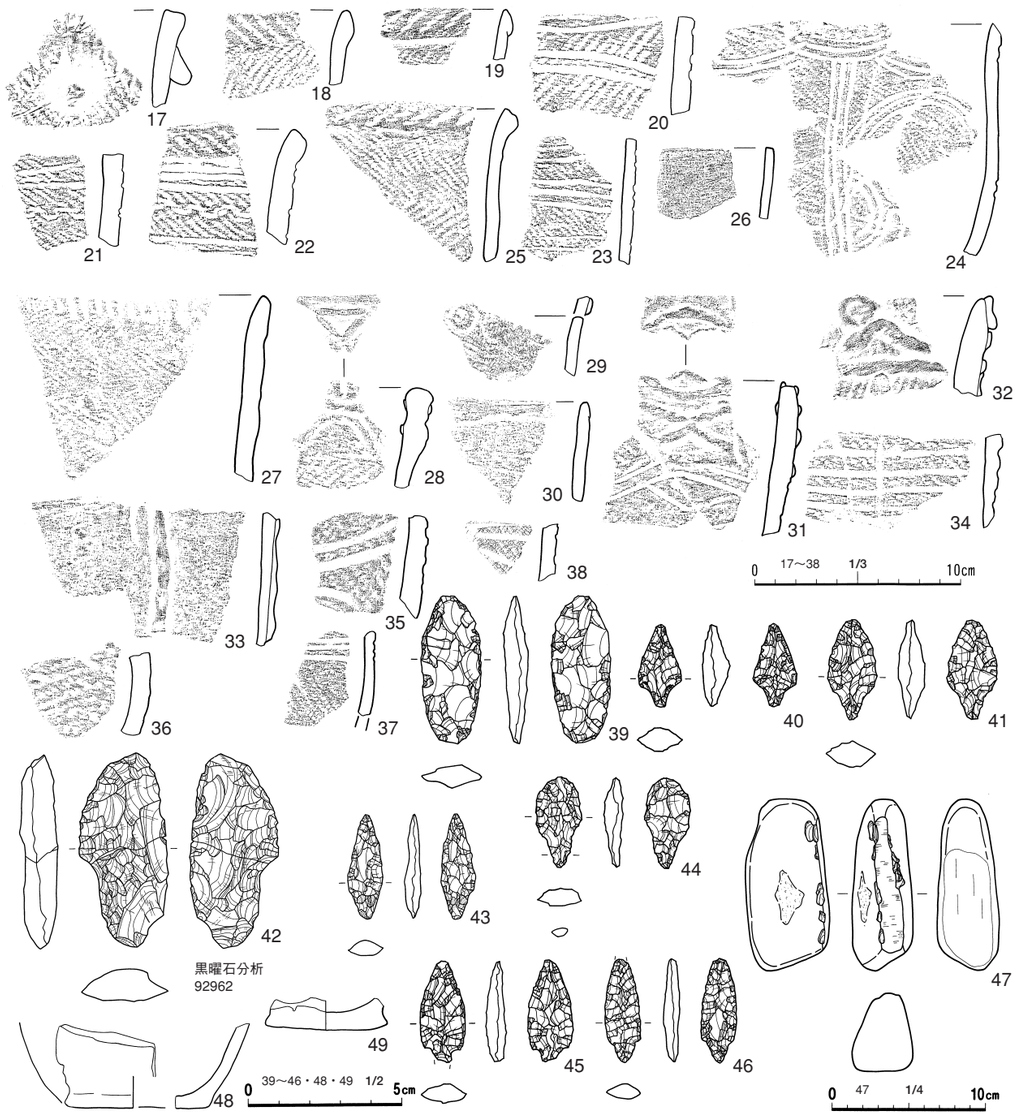


図31　第E28号竪穴住居跡（3）

第Ｅ29号竪穴住居跡（図32～35）

［位置・確認］調査区南側のＥＳ－213・214に位置し、Ⅳ層で黒褐色土の円形プランを確認した。

［平面形・規模］平面形はほぼ円形で、規模は長軸3.74ｍ、短軸が3.57ｍである。床面積は10.3㎡である。

［壁・床面］確認面からの壁高は北で26㎝、南で51㎝である。床面は平坦で硬くしまり、Ⅳ層をそのまま床にしている。

［柱穴］床面からピットを５個検出した。炉を中心にPit１・２・４・５が主柱穴を構成する可能性が高い。

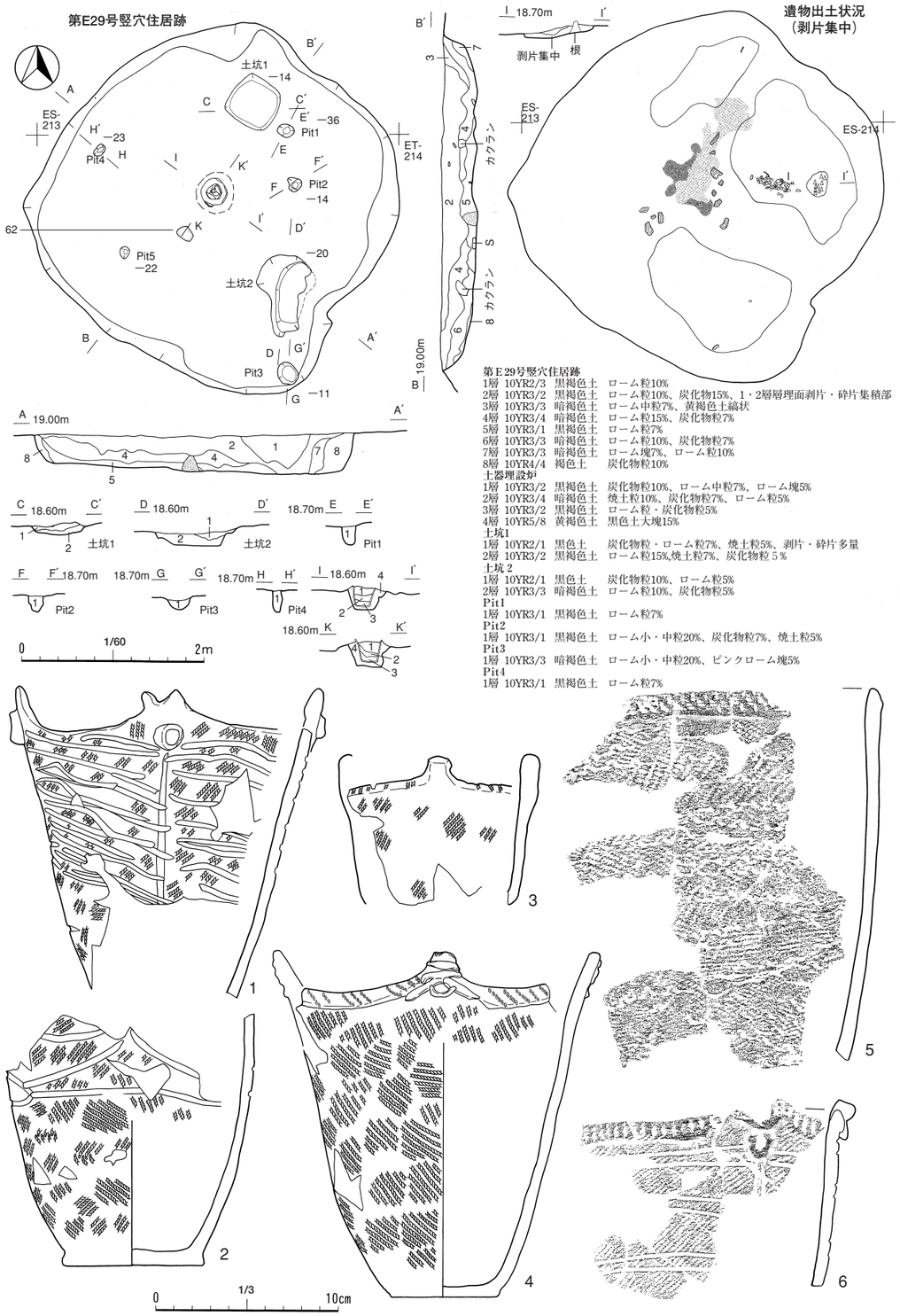
［炉］中央部に円形の土器埋設炉を検出した。掘り方は径43㎝×46㎝で、深さは27㎝である。土器の内部中程に厚さ最大２㎝程度の焼土層が形成される。

［その他］床面から土坑を２基検出した。土坑１は住居北寄りに位置する。隅丸方形で規模は長さ55㎝、幅53㎝、深さ12㎝である。堆積土は黒褐色土を主体とする２層に分層し、１層では剥片と砕片の集積を検出した。２層は焼土粒を多く含む。土坑２は住居南寄りに位置する。南北に長い不整形で、長軸90㎝、短軸54㎝、深さ16㎝である。堆積土は黒褐色土を主体とする２層に分層した。

［堆積土］黒褐色土を主体とする８層に分層した。２層と３層は炭化物、ローム小粒を多く含み、遺物も多く出土していることから人為堆積である可能性が高い。

［出土遺物］１～３層中から土器と剥片などが極めて多量に出土した。土器は円筒上層ｄ式やｅ式で後者が多い。炉に使用された土器も同じ時期のものである。礫石器は床面から石皿１点（62)、堆積土から敲磨器片４点、土坑１から玉髄の小円礫が出土した。剥片石器は２層で剥片集中ブロックが検出され、土壌篩別によって約1,500点の砕片を回収した。石鏃7点（48・49・52～55・61)、石篦１点(60)、石匙１点（56)、石槍１点、二次調整のある剥片21点（50・58・59他)、微小剥離痕のある剥片１点、石核８点（51・57他）を含む2,600点が出土している。３層に砕片1,338点が含まれており、２層では定形石器、石核が多く出土している。土製品は１～３層中から小型土器が８点（64他)、３層中から土偶１点（63)・土玉が１点（72）の計10点が出土した。土偶は頭頂部に対の貫通孔が見られる。

［時期］本遺構の時期は炉体土器や堆積土出土土器から、円筒上層ｅ式期と考えられる。（伊藤）



第E29号竪穴住居跡
1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒10%
2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒10%、炭化物15%、1・2層層理面剥片・砕片集積部
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒7%、黄褐色土縞状
4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒15%、炭化物粒7%
5層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒7%
6層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒10%、炭化物粒7%
7層 10YR3/3 暗褐色土 ローム塊7%、ローム粒10%
8層 10YR4/4 褐色土 炭化物粒10%
土器埋設炉
1層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物粒10%、ローム中粒7%、ローム塊5%
2層 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒10%、炭化物粒7%、ローム粒5%
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒5%
4層 10YR5/8 黄褐色土 黒色土大塊15%
土坑1
1層 10YR2/1 黒色土 炭化物粒・ローム粒7%、焼土粒5%、剥片・砕片多量
2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒15%,焼土粒7%、炭化物粒５%
土坑２
1層 10YR2/1 黒色土 炭化物粒10%、ローム粒5%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒10%、炭化物粒5%
Pit1
1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒7%
Pit2
1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム小・中粒20%、炭化物粒7%、焼土粒5%
Pit3
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム小・中粒20%、ピンクローム塊5%
Pit4
1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒7%

図32　第E29号竪穴住居跡（1）

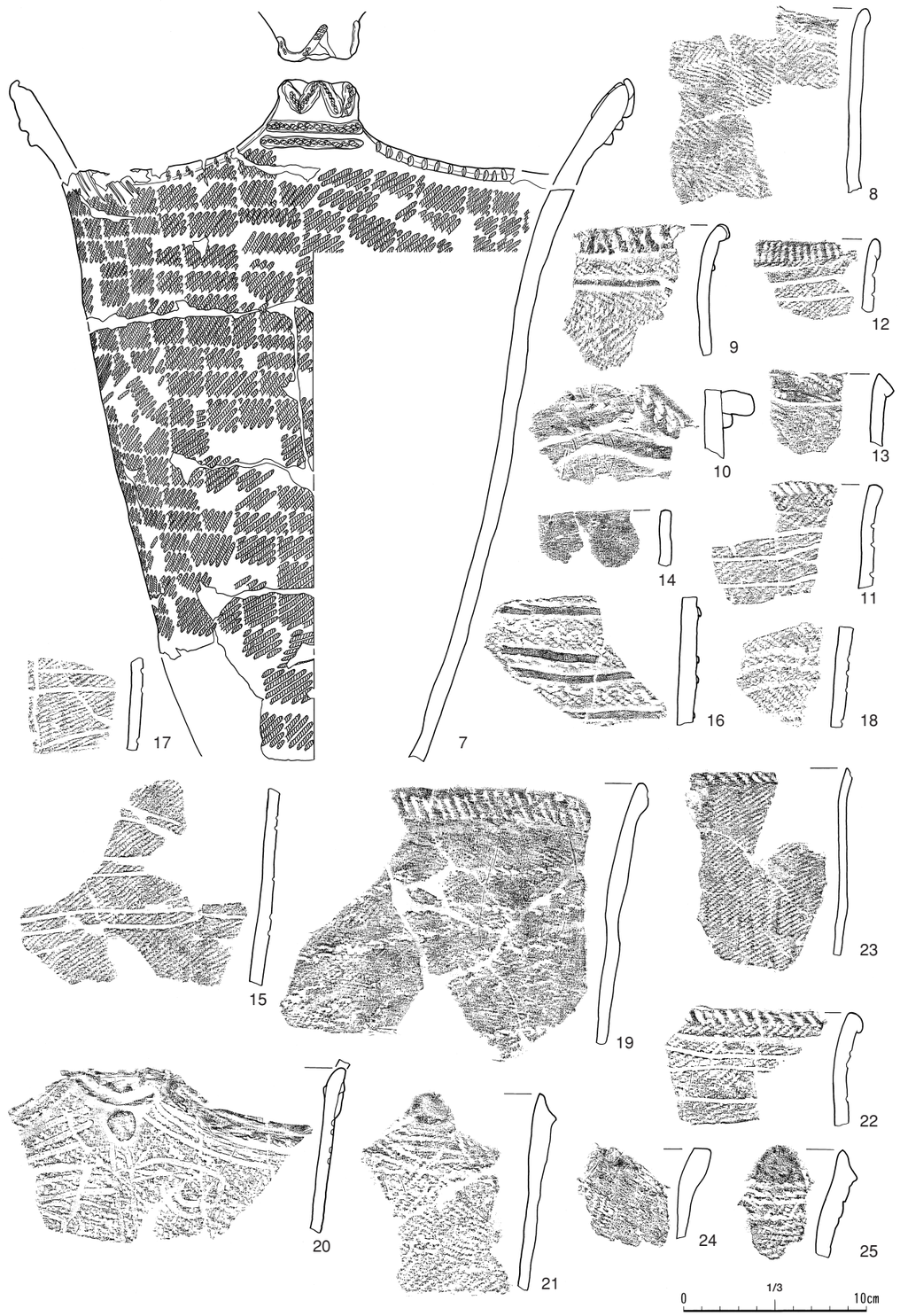


図33　第E29号竪穴住居跡（2）

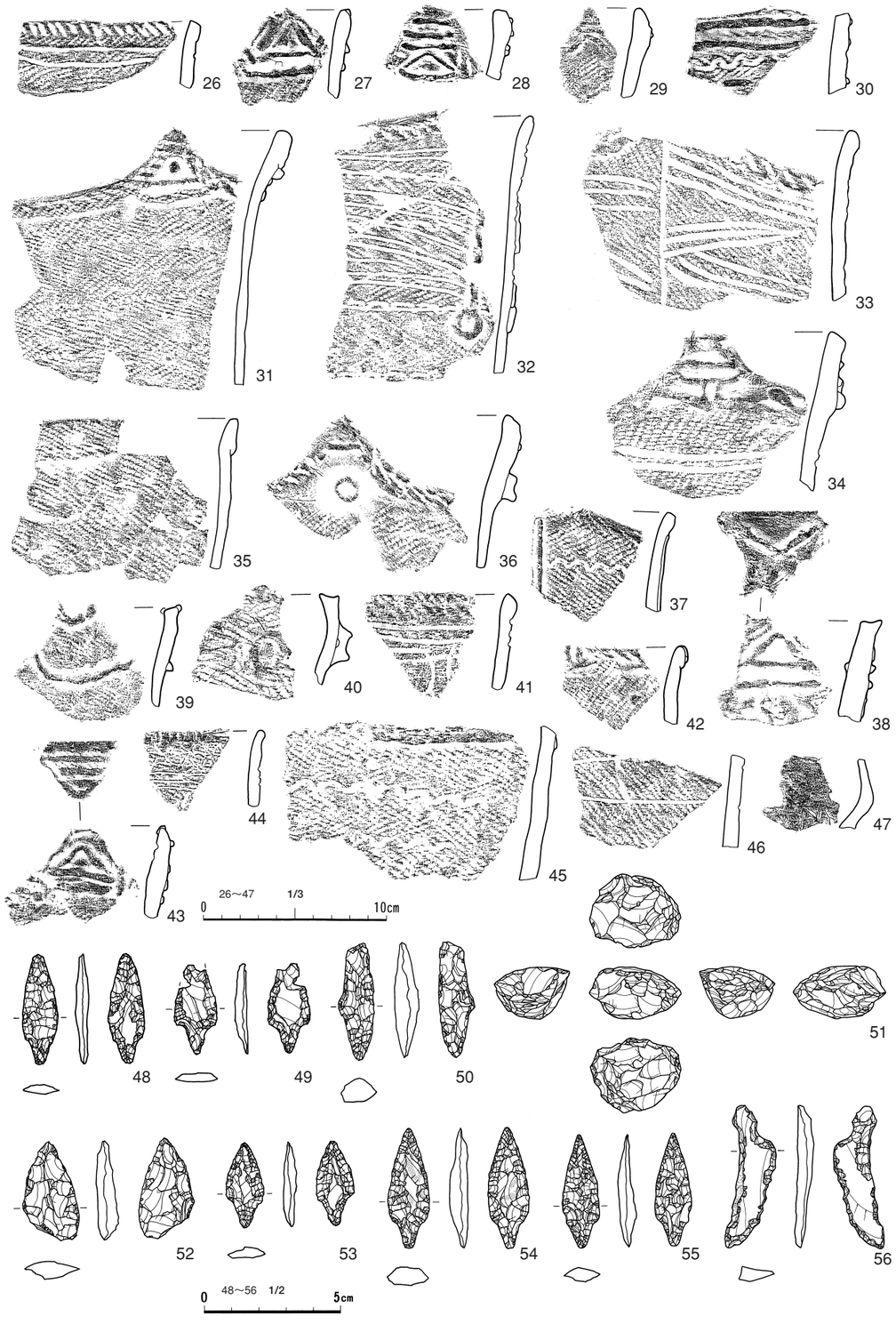


図34　第E29号竪穴住居跡（3）

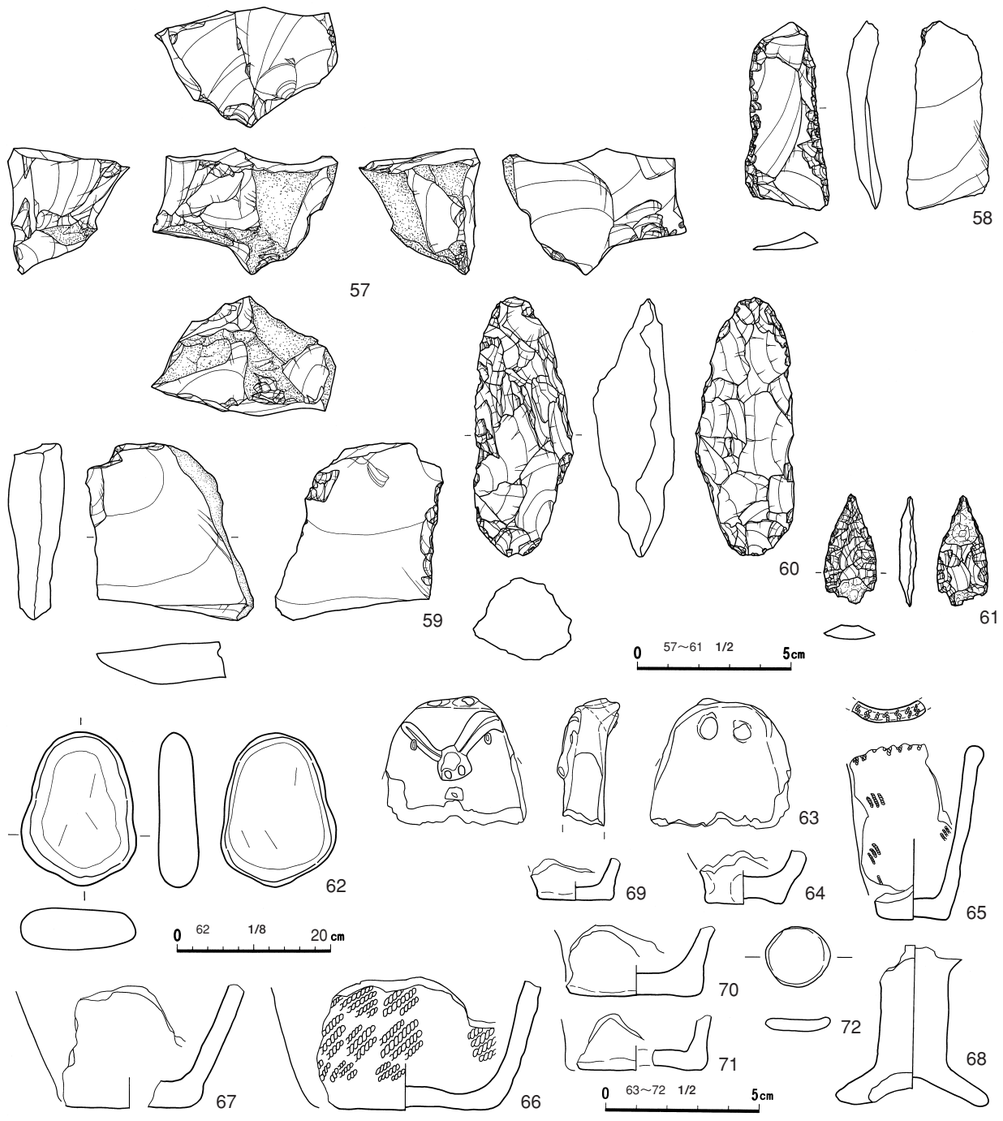


図35　第E29号竪穴住居跡（4）

第Ｅ30号竪穴住居跡（図36～38）

［位置・確認］『近野遺跡Ⅴ』で18Ｈとされた住居跡である。ＥＱ・Ｒ－210に位置する。Ⅳ層上面で確認した。

［重複］第Ｅ126号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は楕円形に近く、規模は長軸4.07ｍ、短軸3.71ｍで、床面積は10.4㎡である。

［壁・床面］壁は床面からやや開いた状態で直線的に立ち上がる。床面は、Ⅳ層とⅤ層の層理面に作られており、平坦である。貼床は炉の周辺に暗褐色土の広がりが確認される程度である。

［壁溝］床面と壁の接する部分が全体的に床面よりも低くなっているが、溝としては確認出来なかった。

［柱穴］床面・壁中・住居外でピットを検出した。このうち、主柱穴は配置や規模により、床面から検出されたＰit４・５・12・14・15である。柱痕は確認できなかった。ピット堆積土全体に褐色土・暗褐色土主体で、埋め戻された可能性が高い。これと別に壁中から検出されたＰit10・11、やや不明瞭なＰit６･22は住居跡の上屋との関連が考えられる。

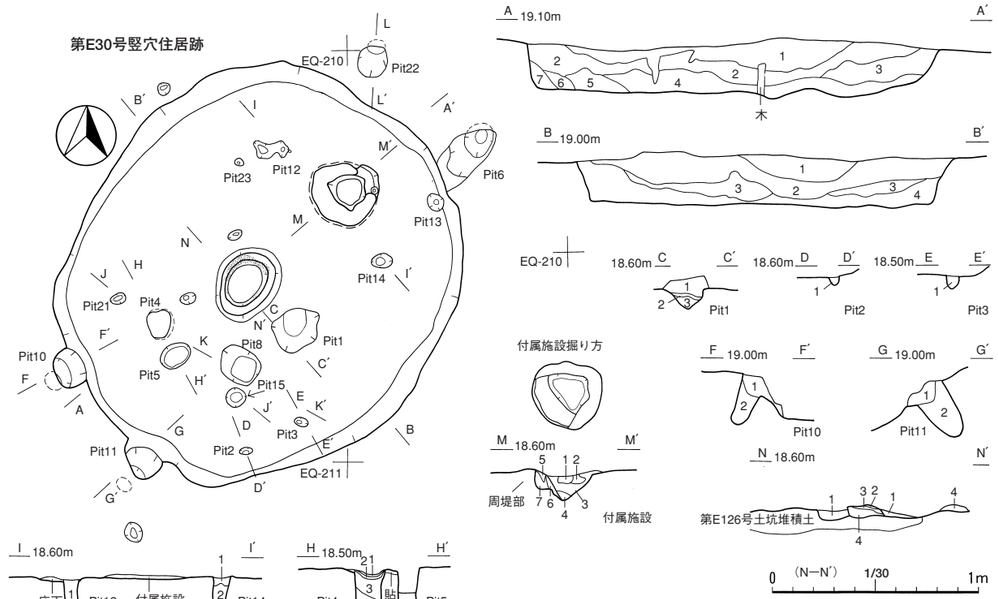
［炉］住居跡中央の床面に不整な楕円形の周堤炉が検出された。規模は、78×62㎝、周堤幅数㎝、周堤高最大３㎝、周堤内燃焼部48×36㎝である。炉の北側周囲は床面よりも２㎝程低くなっている。ここを掘り込みその周囲にローム土を主体とした土を巡らしている。炉の南東側の部分には軽石質粘土が用いられている。底面は被熱し下部には炭化粒を含んだ土が薄く堆積するが、上部は住居跡と同じ堆積土である。

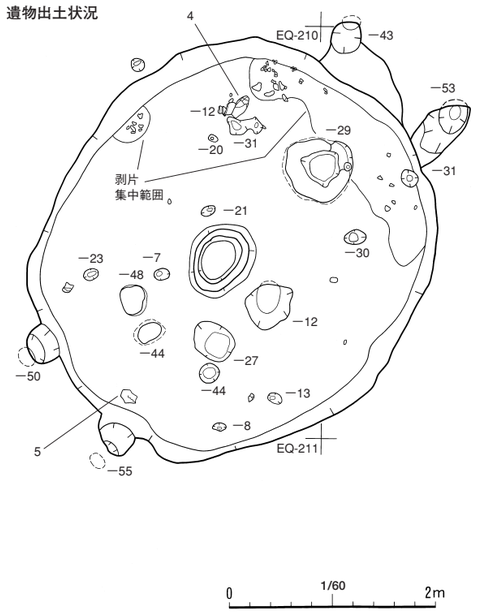
［その他］北東側の壁近くで、不整な円形をしたピット状の掘り込みと段状の付属施設が検出された。規模は径36㎝、深さ29㎝である。壁の立ち上がりは緩やかで、底面にはやや起伏があり、全体に硬化している。堆積土は暗褐色土主体で上部にローム塊が混入していることから、人為的に埋められた可能性がある。内部からは砕片が出土した。この付属施設の構築方法は径66㎝、深さ29㎝ほど円形に掘り込んだ後、その中に馬蹄状に粘土をいれた状態にしている。粘土は南西側に最も貼り付けられ、底面から上部にまで及ぶが、ここ以外の場所では上部にのみ使用されている。粘土は褐色土との混合土で、白色粘土を用いている。

［堆積土］暗褐色土主体だが、黒褐色土やロームブロックが混在した堆積状況であり人為堆積の可能性が高い。

［出土遺物］堆積土中を主として土器が出土した。床面から出土した円筒上層ｄ式又はｅ式土器は２層出土土器と接合している（5）。また、炭化材に混じって剥片が多数出土した。石鏃４点（20･21･23･25）、異形石器１点（24）、石核２点、二次調整のある剥片７点（22他）、微小剥離痕のある剥片９点、両極加撃痕跡のある剥片１点を含む総数431点の剥片石器が出土した。床面で石鏃２点（20･21）及び砕片217点が確認されている。 礫石器は、床面から敲き石２点（31･32）、黒色物付着の礫（29）、堆積土から石皿２点（27･33）、敲磨器４点（26･28･30）、付属施設から敲き石、Pit４から敲磨器２点の計12点出土した。このほか、２層中から小型土器が１点、６層中から土偶が１点出土した。小型土器は、底面に弧状文と直線を組み合わせて全面に施文し、器表面には底辺部寄りに横位と斜位を、その上に縦位の沈線を施文している。

［時期］本遺構の時期は、床面出土土器から円筒上層ｄ式又はｅ式に近い時期と考えられる。（坂本）





第Ｅ30号竪穴住居跡

1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム大塊30%、ローム中粒・炭化物粒5%、炭化物中塊・焼土粒2%
2層	10YR3/4	暗褐色土	ローム中粒30%、ローム中塊・暗褐色土10%、炭化物中塊5%、焼土中粒3%
3層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒・ローム中塊・黒褐色土10%、炭化物粒・焼土粒・粘土粒2%
4層	10YR3/3	暗褐色土	ローム中粒・中塊10%、粘土大塊10%、炭化物中粒5%、焼土粒2%
5層	10YR3/4	暗褐色土	ローム中粒10%、炭化物粒・焼土粒2%
6層	10YR3/2	黒褐色土	ローム中塊・黄褐色土10%、ローム中粒5%、炭化物粒・焼土粒2%
7層	10YR4/4	褐色土	黄褐色土40%、ローム粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
貼床	7.5YR5/8	明褐色土	ローム粒25%、炭化物粒10%、焼土粒5%、鈍い黄褐色土一部、粘土大塊
炉			
1層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
2層	5YR4/6	赤褐色土	焼土、暗褐色土塊、かたくしまる
3層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒2%、かたくしまる
4層	10YR5/6	黄褐色土	暗褐色土粒、かたくしまる
付属施設			
1層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	黄褐色土30%、ローム中粒10%、粘土中粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
2層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒・焼土粒5%、炭化物粒・粘土粒2%
3層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒・炭化物粒粒・焼土粒3%
4層	10YR4/4	褐色土	ローム粒3%、炭化物中塊・焼土粒2%
5層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	粘土中塊15%、焼土粒5%、ローム粒・炭化物粒2%
6層	10YR5/6	黄褐色土	粘土中塊5%、ローム粒・炭化物粒・焼土粒2%
7層	10YR4/6	褐色土	焼土粒・粘土中塊3%、ローム粒・炭化物粒2%
Pit1			
1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム中粒5%、ローム中塊・炭化物粒・焼土粒2%
2層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム中粒・炭化物粒・焼土粒2%
3層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
Pit2			
1層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム中粒10%、炭化物粒・焼土粒2%
Pit3			
1層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒10%、焼土粒3%、炭化物粒2%
Pit4			
1層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒25%、炭化物粒5%
2層	10YR5/6	黄褐色土	ローム大塊50%、炭化物粒5%
3層	10YR5/8	黄褐色土	炭化物粒3%、粘土質土大粒1%
4層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム粒50%、炭化物粒25%
Pit5			
1層	10YR5/6	黄褐色土	暗褐色土30%、ローム中粒・粘土中粒5%、焼土粒3%、炭化物粒2%
Pit8			
1層	10YR3/3	暗褐色土	褐色土40%、ローム中粒・焼土粒3%、炭化物粒・粘土中粒2%
2層	10YR3/4	暗褐色土	黄褐色土40%、ローム中粒5%、炭化物粒・焼土中粒2%
3層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム中粒5%、炭化物粒3%、焼土粒2%
4層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
5層	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒・焼土粒10%、炭化物粒2%
Pit10			
1層	10YR4/4	褐色土	ローム粒・炭化物粒・焼土粒2%
2層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒5%、炭化物粒2%
Pit11			
1層	10YR4/4	褐色土	ローム粒・ローム塊・炭化物粒・焼土粒2%
2層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒・ローム塊5%、炭化物粒2%
Pit12			
1層	10YR4/6	褐色土	ローム中粒・粘土中粒5%、炭化物粒・焼土粒2%
Pit14			
1層	10YR4/6	褐色土	焼土粒3%、ローム粒・炭化物粒2%
2層	10YR5/6	黄褐色土	暗褐色土20%、焼土粒3%、ローム粒・炭化物粒2%
Pit15			
1層	10YR5/6	黄褐色土	ローム中粒5%、炭化物粒・焼土粒3%、粘土中粒2%
2層	10YR4/6	褐色土	ローム粒・炭化物中粒・焼土中粒・粘土中塊5%
Pit21			
1層	10YR4/6	褐色土	焼土粒3%、ロ-ム粒・炭化物粒2%
Pit22			
1層	10YR4/4	褐色土	ローム中塊10%、炭化物中粒5%、焼土粒3%

図36　第E30号竪穴住居跡（1）

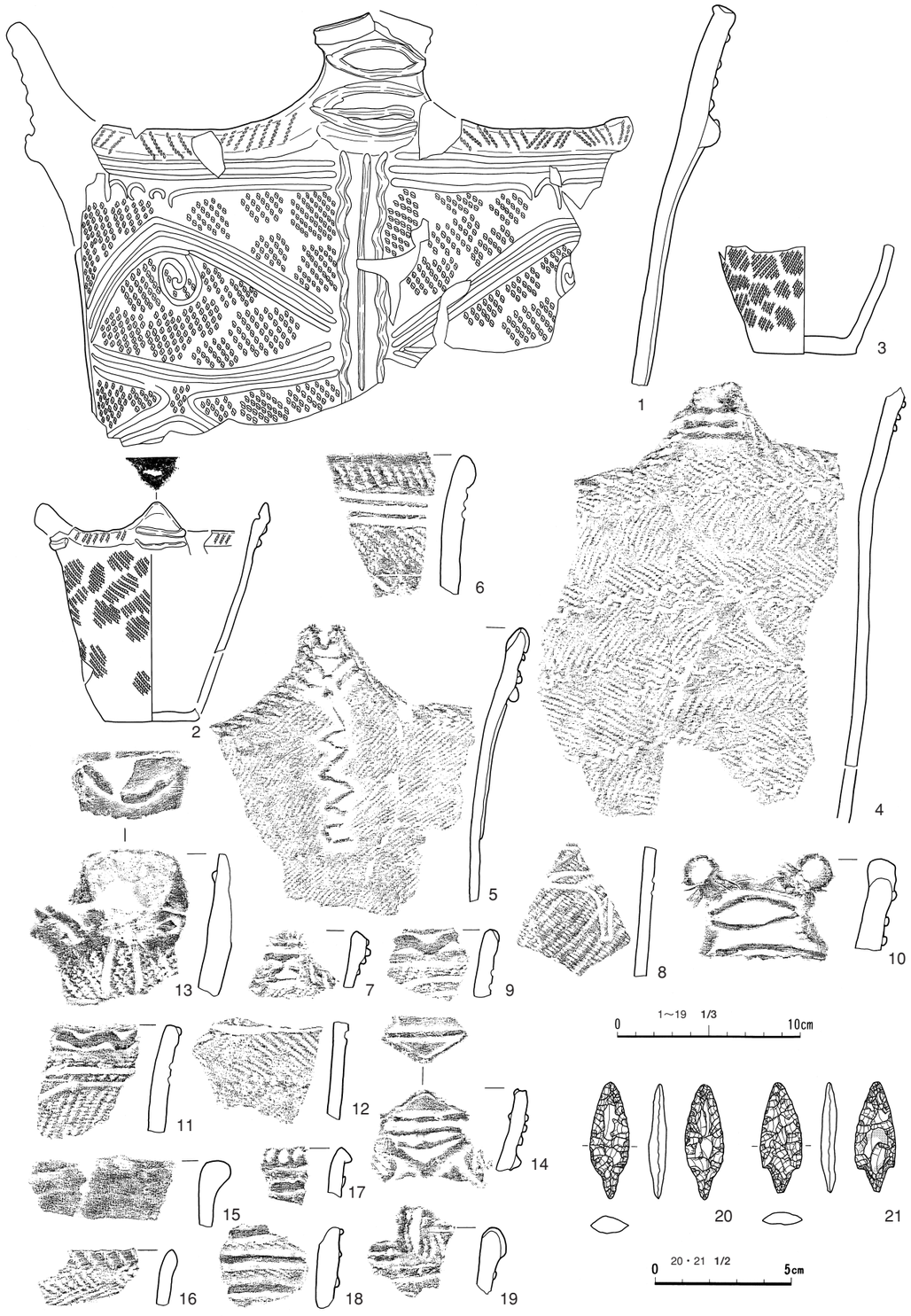


図37　第E30号竪穴住居跡（2）

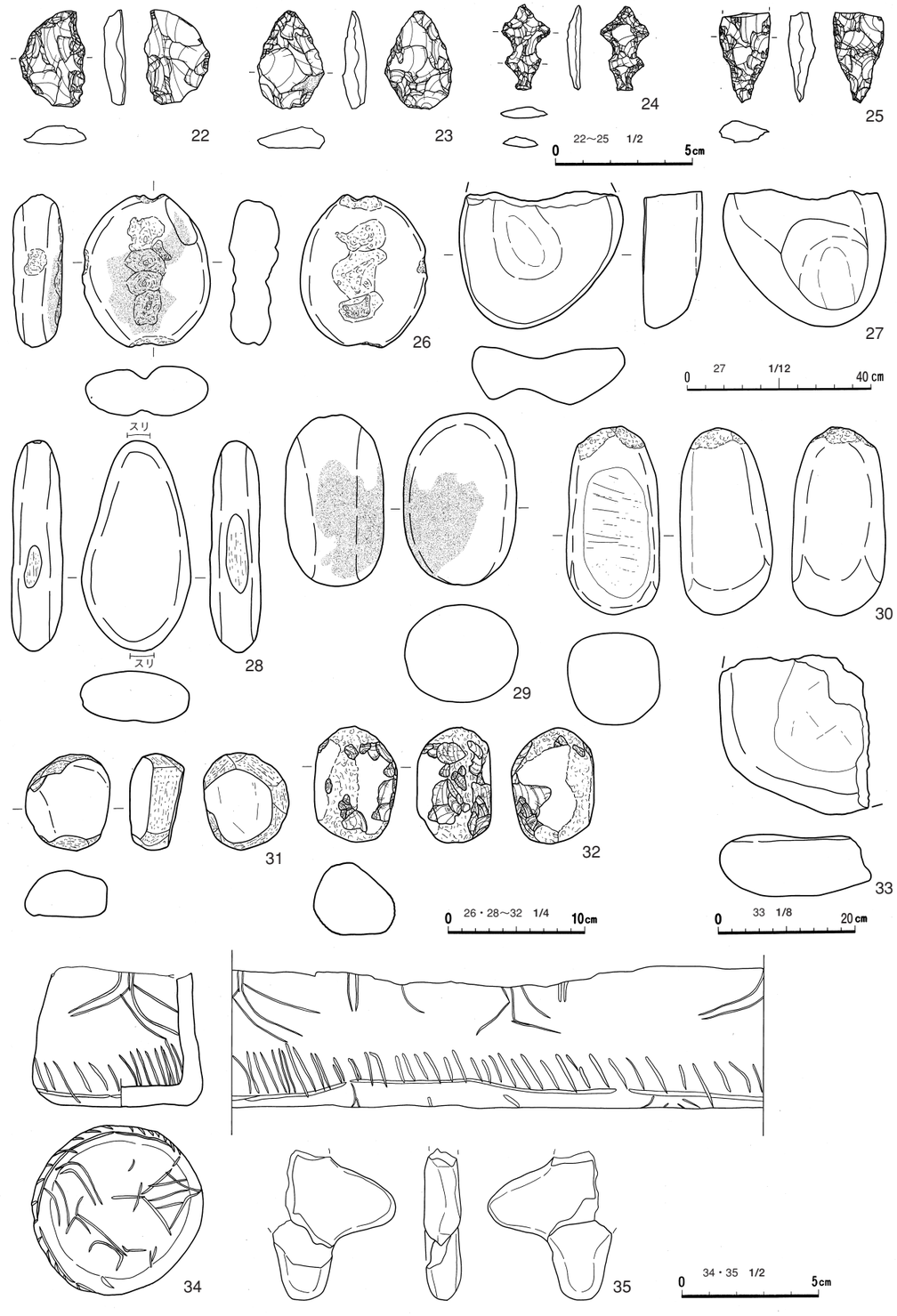


図38　第E30号竪穴住居跡（3）

第Ｅ32号竪穴住居跡（図39・40）

［位置・確認］調査区中央よりやや南東寄りのＦＤ－209・210に位置する。Ⅳ層で確認した。

［重複］東壁の一部が公園造成時に削平されている。

［平面形・規模］平面形は円形を呈し、規模は長軸3.14m、短軸3.1mである。床面積は6.9㎡である。

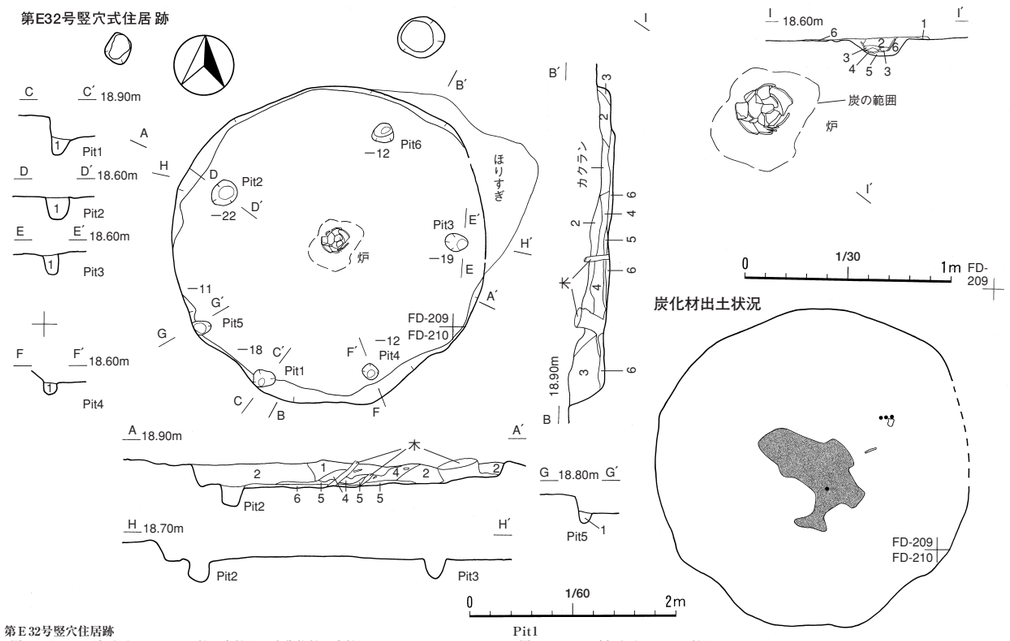
［壁・床面］確認面からの壁高は北壁14㎝、南壁27㎝、西壁21㎝である。Ⅳ層をそのまま床面にしている。床面は硬く締まっている。

［柱穴］床面からピットを６個検出した。Pit２・３・５・６は配置から主柱穴と考えられる。Pit１・５も柱穴となる可能性もあるが、壁際から検出されたことから、出入り口の施設を構成するピットの可能性が高い。住居外にピット２個を検出したが、住居に伴うものか不明である。

［炉］住居跡ほぼ中央部から土器片敷炉が検出された。長軸60㎝、短軸52㎝の不整形の掘り方で、深さは26㎝である。掘り方底面から６㎝上に土器片が敷かれている。土器片の上には厚さ４㎝ほどの焼土層がある。土器の下からは焼土は確認されなかった。炉の上面に炭の広がりが検出された。

［堆積土］６層に分層した。黒褐色土を主体とし、全体にローム粒が混じる。

［出土遺物］堆積土中から主に土器が少量出土した。円筒上層ｄ式又はｅ式土器である。炉に使用された土器も円筒上層ｄ式又はｅ式土器である。礫石器は堆積土から石棒の破片（14）と両端を使用し



第Ｅ32号竪穴住居跡
1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・中粒5%、炭化物粒・中粒3%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中塊7%、炭化物中粒・中塊7%
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中塊7%、炭化物中粒3%
4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒・大粒10%、炭化物中粒・大粒7%、しまりあり
5層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物濃集
6層 10YR3/3 暗褐色土
炉
1層 10YR4/4 褐色土 ローム粒10%、浮石粒・中粒7%、炭化物粒3%
2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物粒25%、ローム粒7%
3層 10YR4/6 褐色土 浮石粒・中粒7%、ローム粒・焼土粒7%、炭化物層
4層 10YR4/4 褐色土 炭化物粒15%、焼土粒10%
5層 5YR5/8 明赤褐色土 焼土層
6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒20%、炭化物10%
Pit1
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒5%
Pit2
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒5%、ローム中粒3%
Pit3
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム大塊20%、ローム粒7%斑状
Pit4
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大塊30%、ローム中粒7%、
Pit5
1層 10YR4/6 褐色土 暗褐色土大塊40%、橙褐色ローム大粒30%、ローム中粒3%

図39 第E32号竪穴住居跡（1）

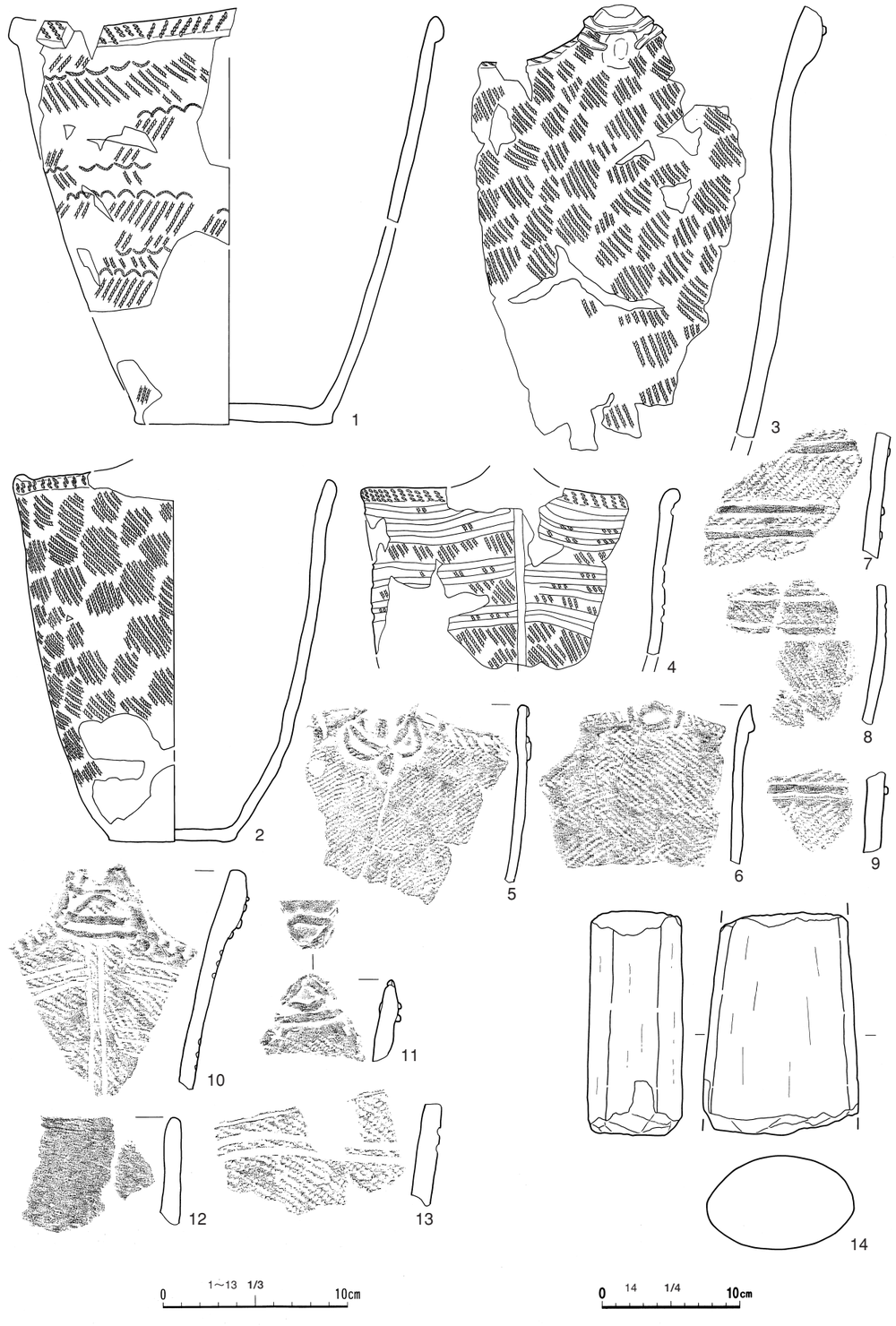


図40 第E32号竪穴住居跡（2）

た敲き石１点が出土した。剥片石器は微小剥離痕のある剥片２点を含む総数７点が出土している。

［時期］炉に使用された土器から円筒上層ｄ式又はｅ式期であると判断できる。

第Ｅ37号竪穴住居跡（図41）

［位置・確認］ＦＡ－205に位置する。『近野遺跡Ⅴ』で「第１号竪穴遺構」として報告された遺構底面の黄褐色粘土から円形のプランを確認した。

［重複］第Ｅ125号土坑と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形はほぼ円形で、規模は長軸3.2ｍ、短軸3.16ｍである。床面積は7.2㎡である。

［壁・床面］壁高は南壁63㎝、北壁44㎝、東壁51㎝、西壁55㎝である。Ⅳ層をそのまま床面にしている。床面は平坦で硬く締まっている。

［柱穴］床面から柱穴状のピットを５個検出した。Pit３は規模・深さから柱穴と考えられるが、主柱穴配置は不明である。

［炉］住居中央部から長軸69㎝、短軸66㎝のほぼ円形の周堤炉を検出した。周堤は幅約６㎝で褐色粘土を主体とし、周堤部から底面までの深さは約10㎝である。

［堆積土］５層に分層した。１層は黄褐色粘土を主体とし、暗褐色土粒、焼土、炭化物を多く含み、また砕片が多く混入する。２～５層も暗褐色土を主体とし、ローム粒、焼土粒、炭化物粒などを多量に含むことから、人為堆積と考えられる。

［その他］住居西壁から付属施設を２基検出した。付属施設１は長軸1.1m、短軸1.02ｍのほぼ円形で、西側を壁と接し、他は馬蹄形状の周堤をもつ。周堤は幅４㎝～10㎝で、黄褐色粘土を主体とし堅緻である。堆積土は褐色土を主体とする４層に分層した。付属施設２は長軸52㎝、短軸40㎝の楕円形である。堆積土は１・４層が黄褐色土、２・３層は暗褐色土を主体とする。

［出土遺物］堆積土中から土器が少量出土した。床面出土土器は円筒上層ｄ式又はｅ式土器である。堆積土出土土器のうち、型式把握できるものは円筒上層ｅ式が多いが、５層から前期初頭の土器も出土している。礫石器は床面から磨り石１点（12）、付属施設２から石皿（11）１点が出土した。磨り石は底面を使用したもので、非常に滑らかである。石皿は中央が浅く凹む。剥片石器は石鏃１点（10）、二次調整のある剥片２点、微小剥離痕のある剥片３点、石核２点を含む総数210点出土している。

また、住居中央部の床面から多量の炭化材が出土した。現存する規模で、長さ20～30㎝の丸材又は角材と、幅約15～20㎝、長さ30～40㎝の板材が多いが、住居の構造材として特定するまでは至らなかった。炭化材の周りに焼土もあり、本住居跡は焼失家屋であると考えられる。

［時期］本遺構の時期は、床面・付属施設堆積土出土土器から円筒上層ｅ式期と考えられる。

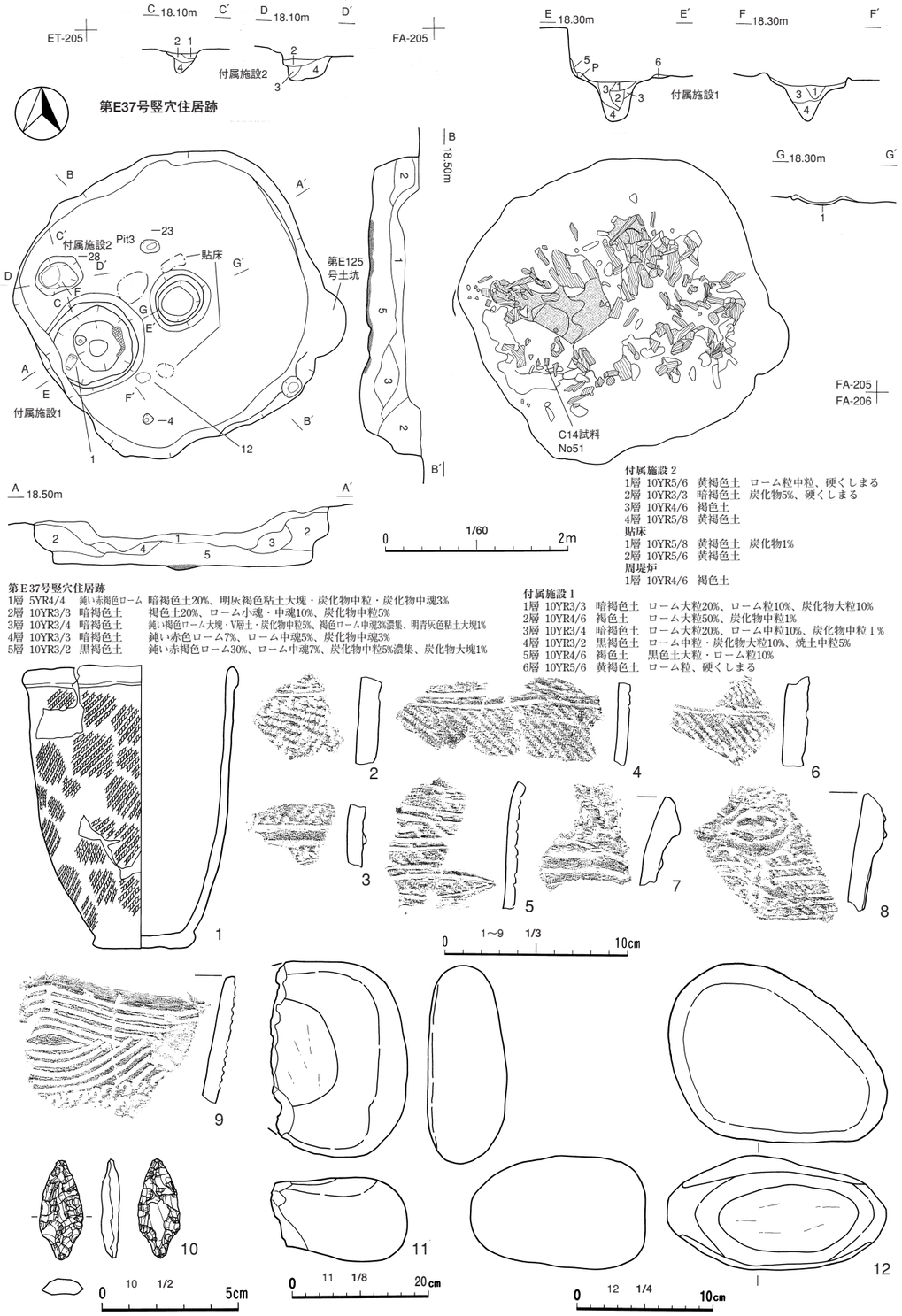


図41　第E37号竪穴住居跡

第Ｅ38号竪穴住居跡（図42）

［位置・確認］ＦＡ－213・214に位置する。Ⅳ層で確認した。

［重複］第Ｅ24号竪穴住居跡と第Ｅ100号土坑と重複し、本遺構が最も古い。

［平面形・規模］平面形はほぼ円形で、規模は長軸3.24ｍ、短軸3.18ｍである。床面積は8.0㎡である。

［壁・床面］確認面からの壁高は南壁36㎝、北壁32㎝、東壁28㎝、西壁30㎝である。Ⅳ層をそのまま床面にしているが、一部貼床を施している。床面は平坦で硬く締まっている。

［柱穴］床面からピットを13個検出した。Pit１・２は規模・深さから主柱穴と考えられ、Pit３・４・９・10は壁柱穴の可能性がある。Pit３～８はピットとしたものの、壁溝あるいはそれに関連するものの可能性が高い。

［炉］住居中央部から炉とおもわれる長軸55㎝、短軸34㎝の焼土の広がりを検出した。焼土層は厚さ８㎝、暗赤褐色土で純層をなす。

［堆積土］10層に分層した。３層から９層は暗褐色土を主体とし、いずれもローム粒、炭化物を多量に含むことから、人為堆積と考えられる。

［その他］住居北西壁から付属施設１基を検出した。長軸１ｍ、短軸93㎝で、幅10～14㎝の周堤をもつ。堆積土は暗褐色土を主体とする。Pit11～13はこの付属施設に関連するものである可能性が高い。

［出土遺物］床面・堆積土中から遺物が少量出土した。床面出土土器は円筒上層ｄ式又はｅ式土器に比定されるものであるが、堆積土中からは前期の土器片も出土している。礫石器は床面から石皿（８）が出土した。１器面に丁寧な磨り面を有する。剥片石器は石鏃２点（６・７）、砕片２点が出土している。３層中から小型土器が１点出土した（９）。無文で口頸部のくびれ部に約２㎜の円形の貫通孔が見られる。

［時期］本遺構の時期は、床面出土土器から円筒上層ｄ式又はｅ式期のいずれかに位置づけられる。

（伊藤）

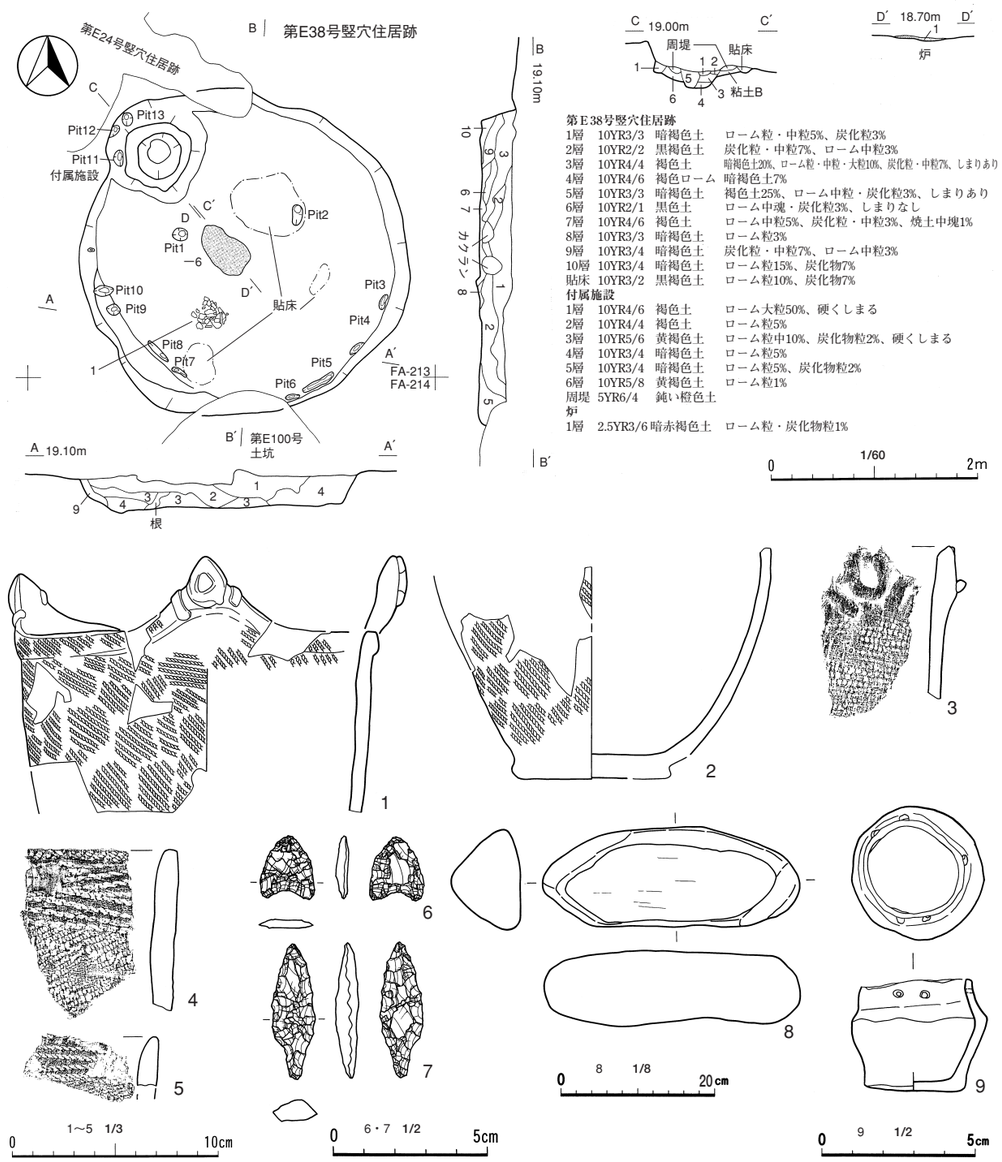


図42　第E38号竪穴住居跡

第Ｅ45号竪穴住居跡（図43～47）

［位置・確認］ＥＳ－194・195に位置し、Ⅳ層上面で確認した。焼失家屋であり、北側壁の一部が削平を受けている。

［重複］第Ｅ３号土器埋設遺構が隣接し、本遺構廃絶後に埋設されており、本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形は隅丸長方形に近く、規模は長軸4.16ｍ、短軸3.14ｍで、床面積は8.9㎡である。

［壁・床面］壁は底面からやや開くように直線的に立ち上がる。Ⅳ層を床面としており、全体に平坦

で硬化している。一部でローム土主体の貼床が確認された。

［壁溝］壁溝と確認されるものは明確には検出されなかったが、北東側と南東側の一部で幅８cm、深さ１～３cmほど窪んでいる。

［柱穴］床面で７個、住居外で３個の計10個のピットを検出した。このうち主柱穴はＰｉｔ１～４の４個と考えられ、いずれも柱痕を確認した。柱痕は平面形が円形で、径10～16cm、Ｐｉｔ２・４の柱痕はやや斜めに傾斜し、Ｐｉｔ１・３はほぼ直立している。いずれの掘り方も楕円形状で、長軸24～34cmで、深さ37～46cmで、掘り方埋土にＶ層の軽石質粘土を充填させている。

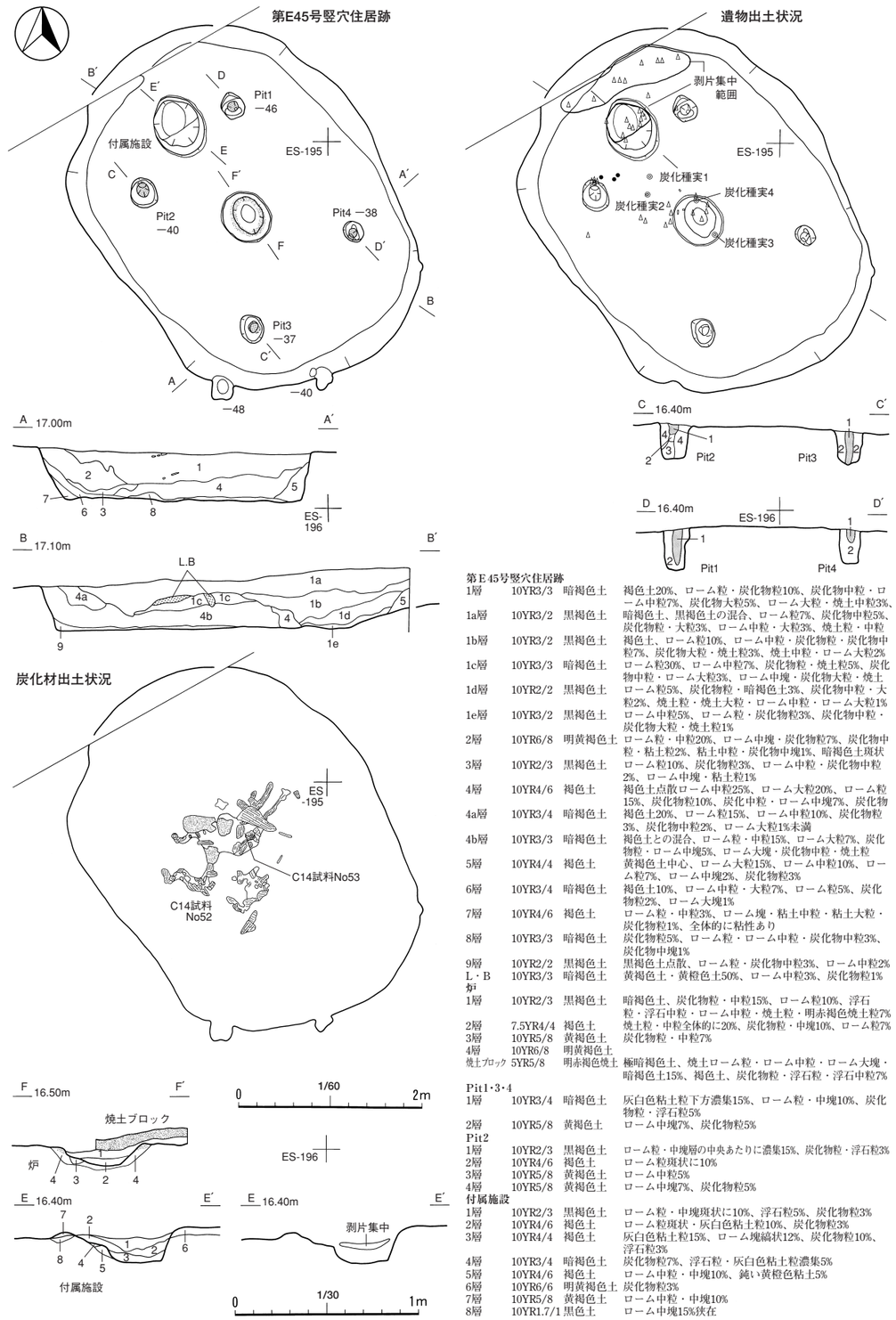
［炉］住居跡床面中央から楕円形の周堤炉が検出された。規模は、長軸56×50cm、深さ９cm、周堤幅５～10cm、床面からの周堤高最大４cm、周堤内燃焼部30cm前後である。床面を掘り込んだ後、周堤幅に新たに土を充填させ床面よりも若干高くした後、その内部で燃焼させている。内部には炭化物粒を含んだ被熱土が互層になっている。掘り方規模は60×52cmである。

［その他］北側の壁際で、一部を土手状に巡らせた楕円形状の付属施設が検出された。規模は67×38cm、深さ14cm、土手状部分幅２～８cm、高さ約２cmである。構築方法は床面を楕円形状に掘り込み、黄褐色ローム土主体の土で馬蹄状に土手を巡らし、掘り込み内部には段状に土を入れる。壁は緩やかに立ち上がるが、南側の壁には土を入れて固めた段が見られる。底面はほぼ平坦で硬化しており、２カ所に円形の掘り込みが見られる。堆積土は上部が黒褐色土主体で住居跡堆積土と同様であるが、中位から底面にかけてはローム土と黒褐色土の互層になっている。内部の底面及び段上からは剥片が数点出土した。このほか、住居跡中央付近で、炭化材と焼土を検出した。現場での所見では、炭化材は棒状・板状で、木取りは不明である。年輪の様子から異なった樹種が使用されたと思われる。

［堆積土］上部が黒褐色土で、ローム土主体の土が壁際に厚く、中央付近では薄く堆積している。このローム土は炭化材と混在した状態で検出されている。床面直上には黒褐色土が全体に堆積している。

［出土遺物］堆積土中から復元可能なものを含む土器が、極めて多量に出土した。円筒上層ｄ式又はｅ式期のいずれかに位置づけられるものであるが、時期認定可能なものでは円筒上層ｄ式土器が主体を占める。また、異層位間での接合例も多い。このほか、炭化材に混じって剥片が多数出土した。石鏃８点（38～41・44・45・47・48）、異形石器１点（37）、石匙２点（46他）、石篦１点（49）、二次調整のある剥片25点（42・43他）、微小剥離痕のある剥片36点、両極加撃痕跡のある剥片２点、石核３点を含む総数668点の剥片石器が出土している。また、炉および焼土ブロック土壌サンプルより黒曜石の砕片が多量に検出されている。礫石器は、床面から敲き石が２点（53・54）出土した。堆積土からは北海道式石冠（51）、加工のある礫（55）、敲磨器４点（50・52）の計８点が出土した。付属施設からは石英安山岩・玉髄・珪質頁岩の小礫片が出土している。このほか、１層中から有孔石製品が１点・小型土器３点、堆積土中から有孔土製品が１点の計５点が出土した。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土土器及びＥＳＲ３との重複関係から円筒上層ｄ式期かそれ以前と考えられる。



第E45号竪穴住居跡

1層	10YR3/3	暗褐色土	褐色土20%、ローム粒・炭化物粒10%、炭化物中粒・ローム中粒7%、炭化物大粒5%、ローム大粒・焼土中粒3%、
1a層	10YR3/2	黒褐色土	暗褐色土、黒褐色土の混合、ローム粒7%、炭化物中粒5%、炭化物粒・大粒3%、ローム中粒・大粒3%、焼土粒・中粒
1b層	10YR3/2	黒褐色土	褐色土、ローム粒10%、ローム中粒・炭化物粒・炭化物中粒7%、炭化物大粒・焼土粒3%、焼土中粒・ローム大粒2%
1c層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒30%、ローム中粒7%、炭化物粒・焼土粒5%、炭化物中粒・ローム大粒3%、ローム中塊・炭化物大粒・焼土
1d層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒5%、炭化物粒・暗褐色土3%、炭化物中粒・大粒2%、焼土粒・焼土大粒・ローム中粒・ローム大粒1%
1e層	10YR3/2	黒褐色土	ローム中粒5%、ローム粒・炭化物粒3%、炭化物中粒・炭化物大粒・焼土粒1%
2層	10YR6/8	明黄褐色土	ローム粒・中粒20%、ローム中塊・炭化物粒7%、炭化物中粒・粘土粒2%、粘土中粒・炭化物中塊1%、暗褐色土斑状
3層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒10%、炭化物粒3%、ローム中粒・炭化物中粒2%、ローム中塊・粘土粒1%
4層	10YR4/6	褐色土	褐色土点散ローム中粒25%、ローム大粒20%、ローム粒15%、炭化物粒10%、炭化中粒・ローム中塊7%、炭化物
4a層	10YR3/4	暗褐色土	褐色土20%、ローム粒15%、ローム中粒10%、炭化物粒3%、炭化物中粒2%、ローム大粒1%未満
4b層	10YR3/3	暗褐色土	褐色土との混合、ローム粒・中粒15%、ローム大粒7%、炭化物粒・ローム中塊5%、ローム大塊・炭化物中粒・焼土粒
5層	10YR4/4	褐色土	黄褐色土中心、ローム大粒15%、ローム中粒10%、ローム粒7%、ローム中塊2%、炭化物粒3%
6層	10YR3/4	暗褐色土	褐色土10%、ローム中粒・大粒7%、ローム粒5%、炭化物粒2%、ローム大塊1%
7層	10YR4/6	褐色土	ローム粒・中粒3%、ローム塊・粘土中粒・粘土大粒・炭化物粒1%、全体的に粘性あり
8層	10YR3/3	暗褐色土	炭化物粒5%、ローム粒・ローム中粒・炭化物中粒3%、炭化物中塊1%
9層	10YR2/2	黒褐色土	黒褐色土点散、ローム粒・炭化物中粒3%、ローム中粒2%
L・B	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土・黄橙色土50%、ローム中粒3%、炭化物粒1%
炉			
1層	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土、炭化物粒・中粒15%、ローム粒10%、浮石粒・浮石中粒・ローム中粒・焼土粒・明赤褐色焼土粒7%
2層	7.5YR4/4	褐色土	焼土粒・中粒全体的に20%、炭化物粒・中塊10%、ローム粒7%
3層	10YR5/8	黄褐色土	炭化物粒・中粒7%
4層	10YR6/8	明黄褐色土	
焼土ブロック	5YR5/8	明赤褐色焼土	極暗褐色土、焼土ローム粒・ローム中粒・ローム大塊・暗褐色土15%、褐色土、炭化物粒・浮石粒・浮石中粒7%
Pit1・3・4			
1層	10YR3/4	暗褐色土	灰白色粘土粒下方濃集15%、ローム粒・中塊10%、炭化物粒・浮石粒5%
2層	10YR5/8	黄褐色土	ローム中塊7%、炭化物粒5%
Pit2			
1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒・中塊層の中央あたりに濃集15%、炭化物粒・浮石粒3%
2層	10YR4/6	褐色土	ローム粒斑状に10%
3層	10YR5/8	黄褐色土	ローム中粒5%
4層	10YR5/8	黄褐色土	ローム中塊7%、炭化物粒5%
付属施設			
1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒・中塊斑状に10%、浮石粒5%、炭化物粒3%
2層	10YR4/6	褐色土	ローム粒斑状・灰白色粘土粒10%、炭化物粒3%
3層	10YR4/4	褐色土	灰白色粘土粒15%、ローム塊縞状12%、炭化物粒10%、浮石粒3%
4層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物粒7%、浮石粒・灰白色粘土粒濃集5%
5層	10YR4/6	褐色土	ローム中粒・中塊10%、鈍い黄橙色粘土5%
6層	10YR6/6	明黄褐色土	炭化物粒3%
7層	10YR5/8	黄褐色土	ローム中粒・中塊10%
8層	10YR1.7/1	黒色土	ローム中塊15%狭在

図43　第E45号竪穴住居跡（1）

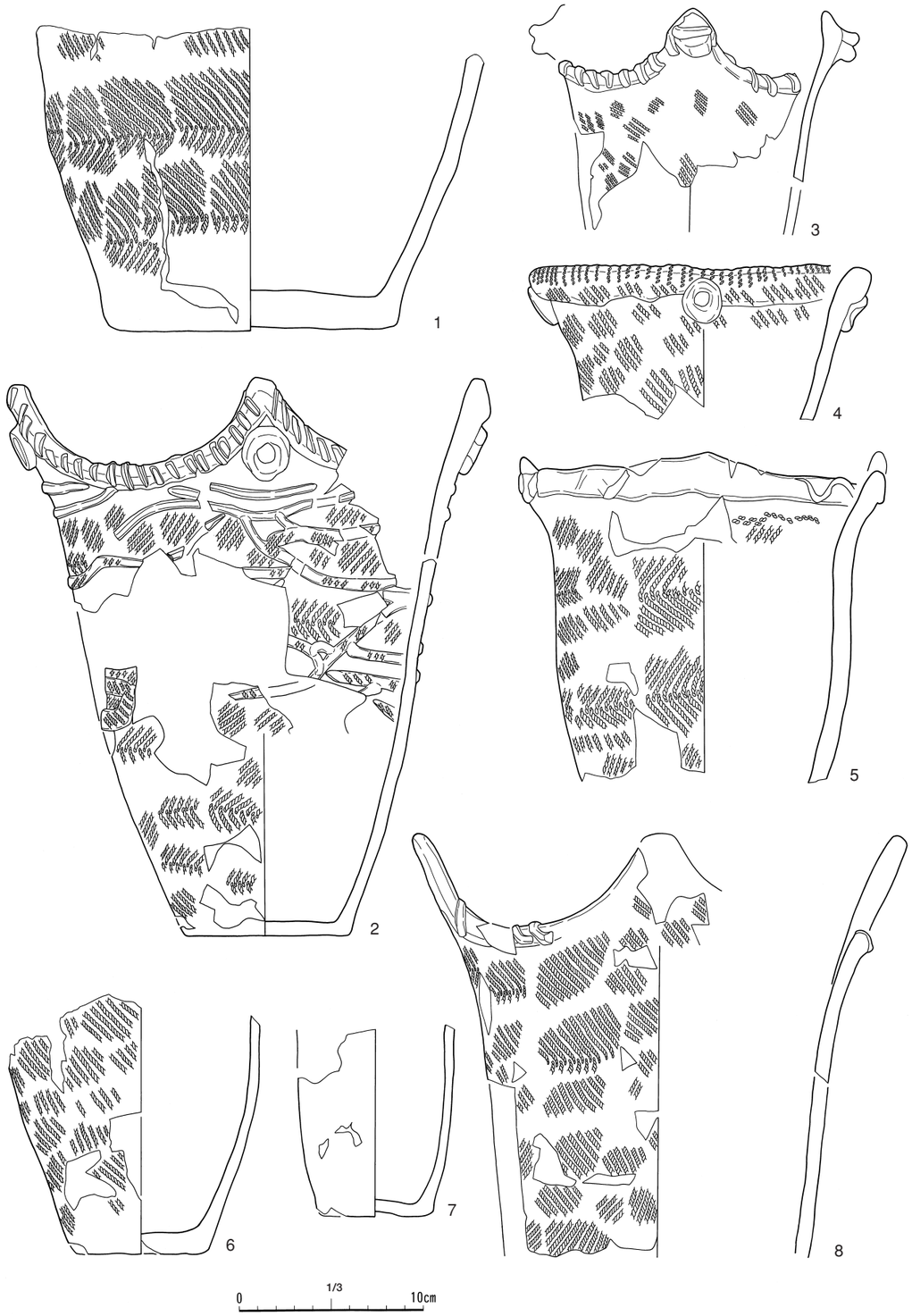


図44　第E45号竪穴住居跡（2）

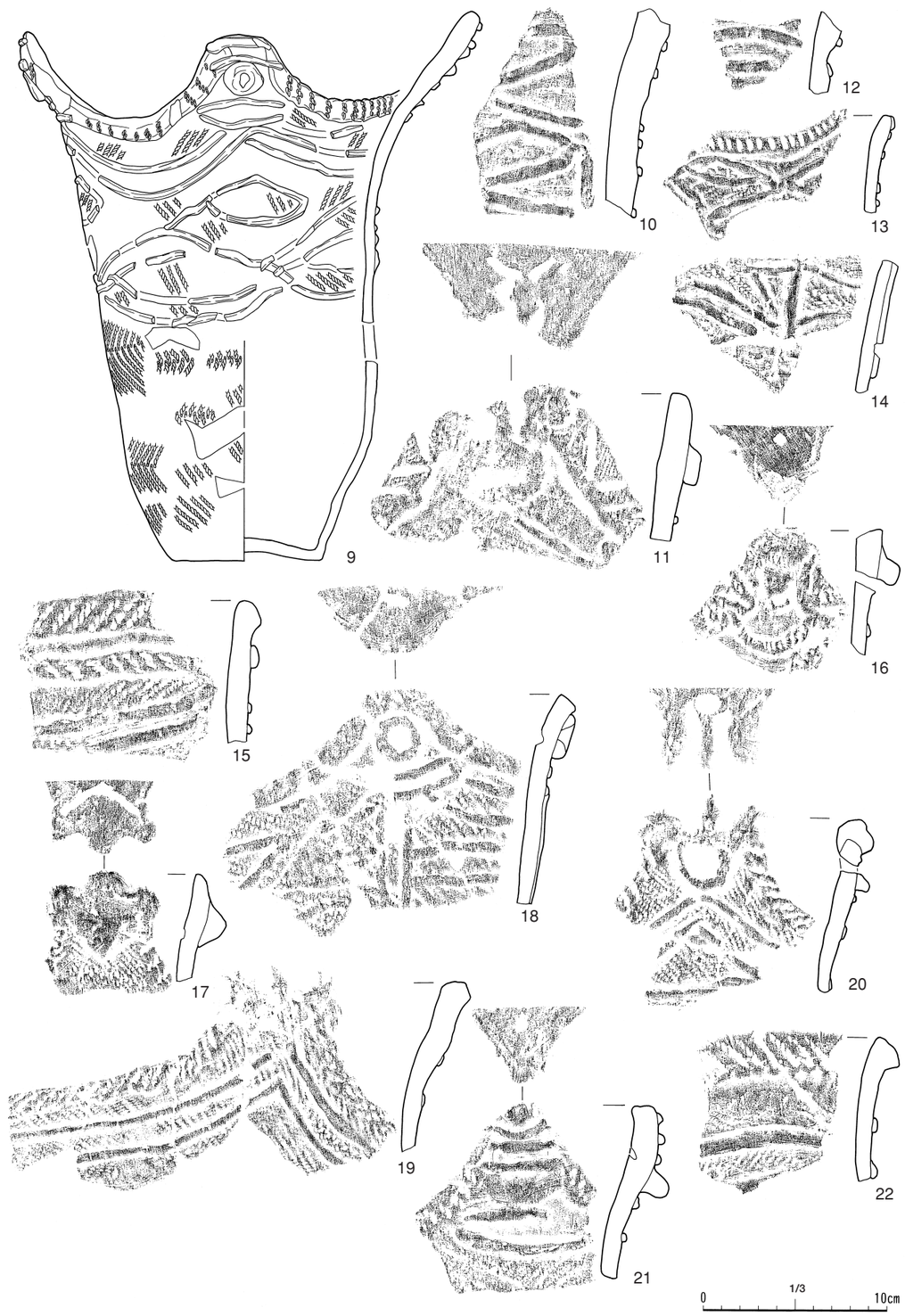


図45　第E45号竪穴住居跡（3）

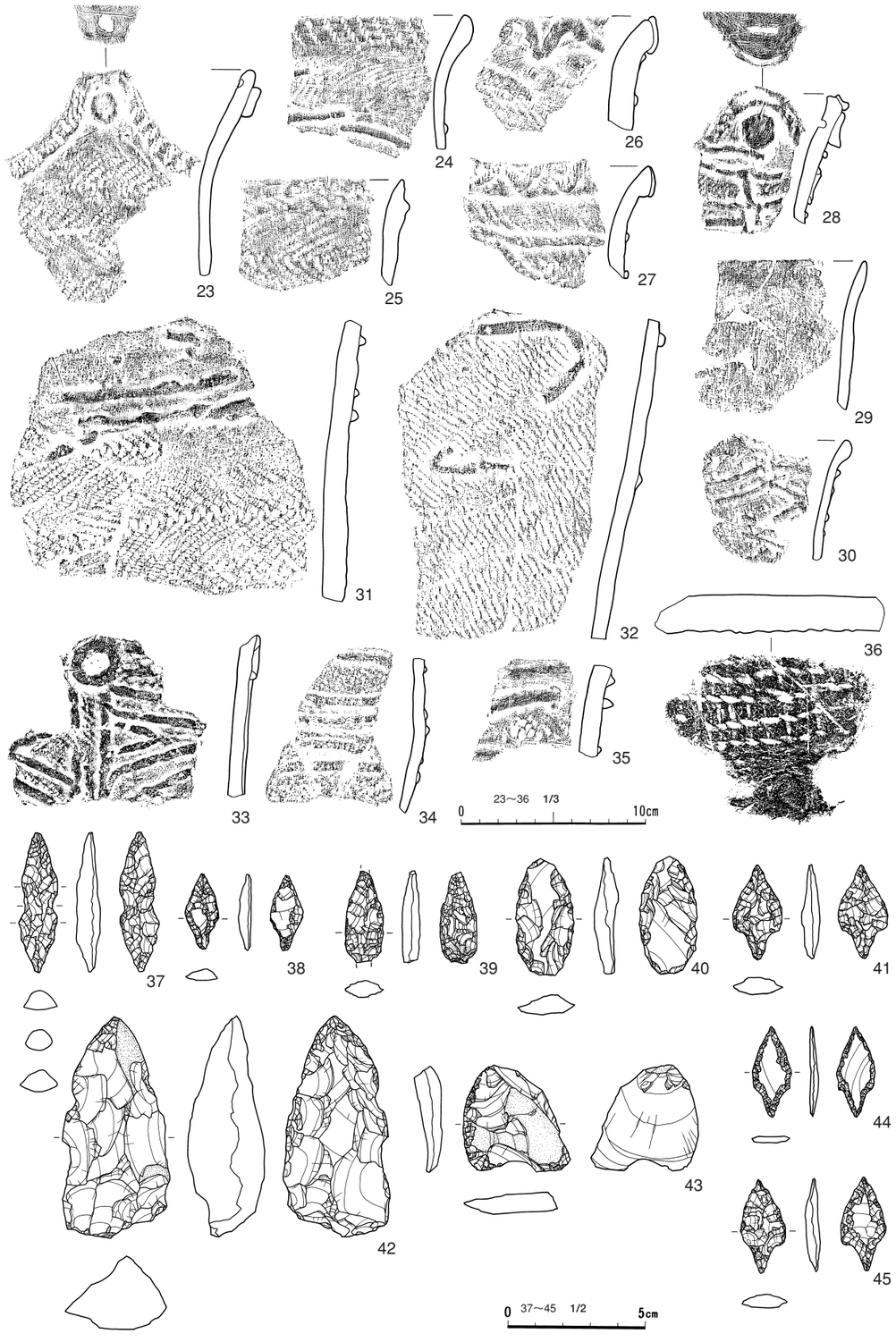


図46　第E45号竪穴住居跡（4）

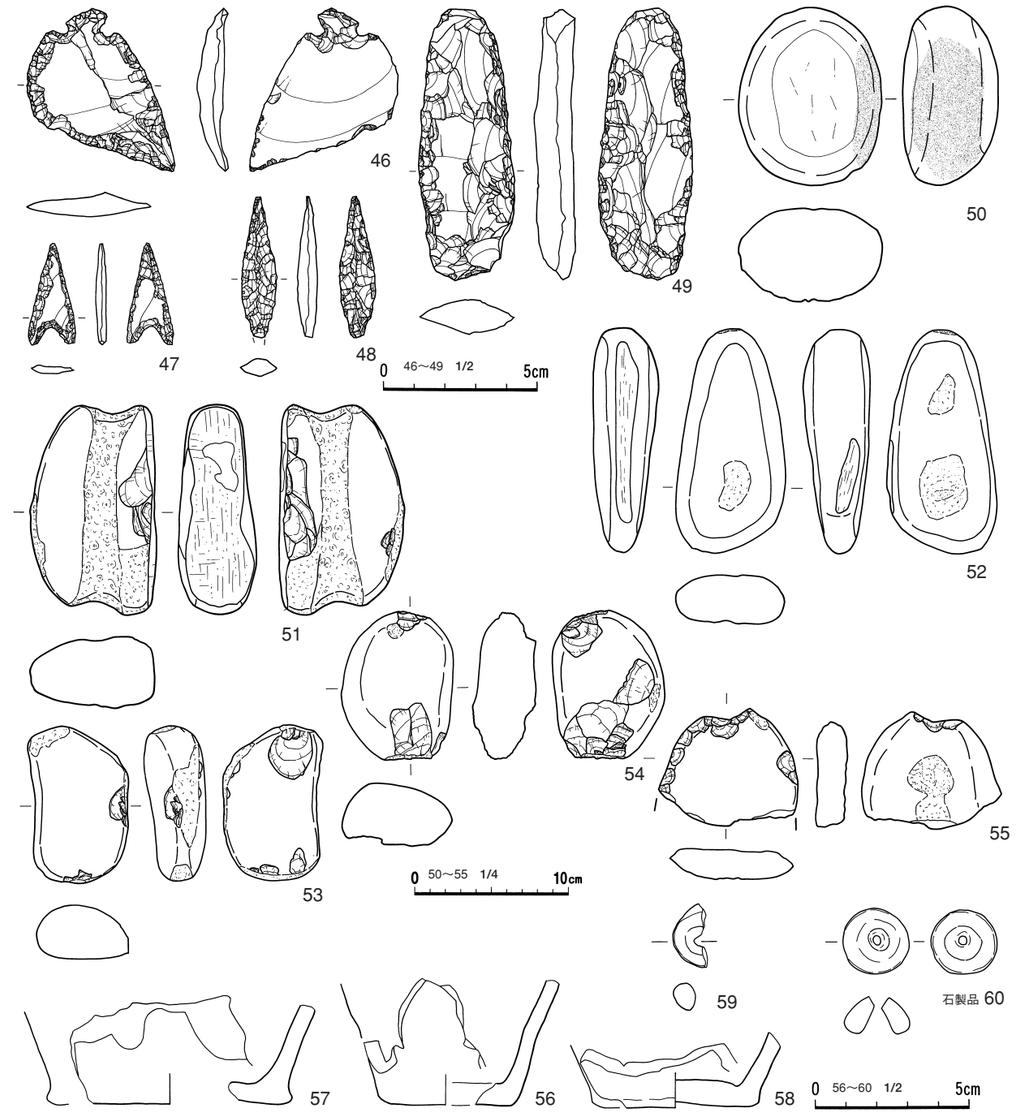


図47　第E45号竪穴住居跡（5）

第Ｅ49号竪穴住居跡（図48・49）

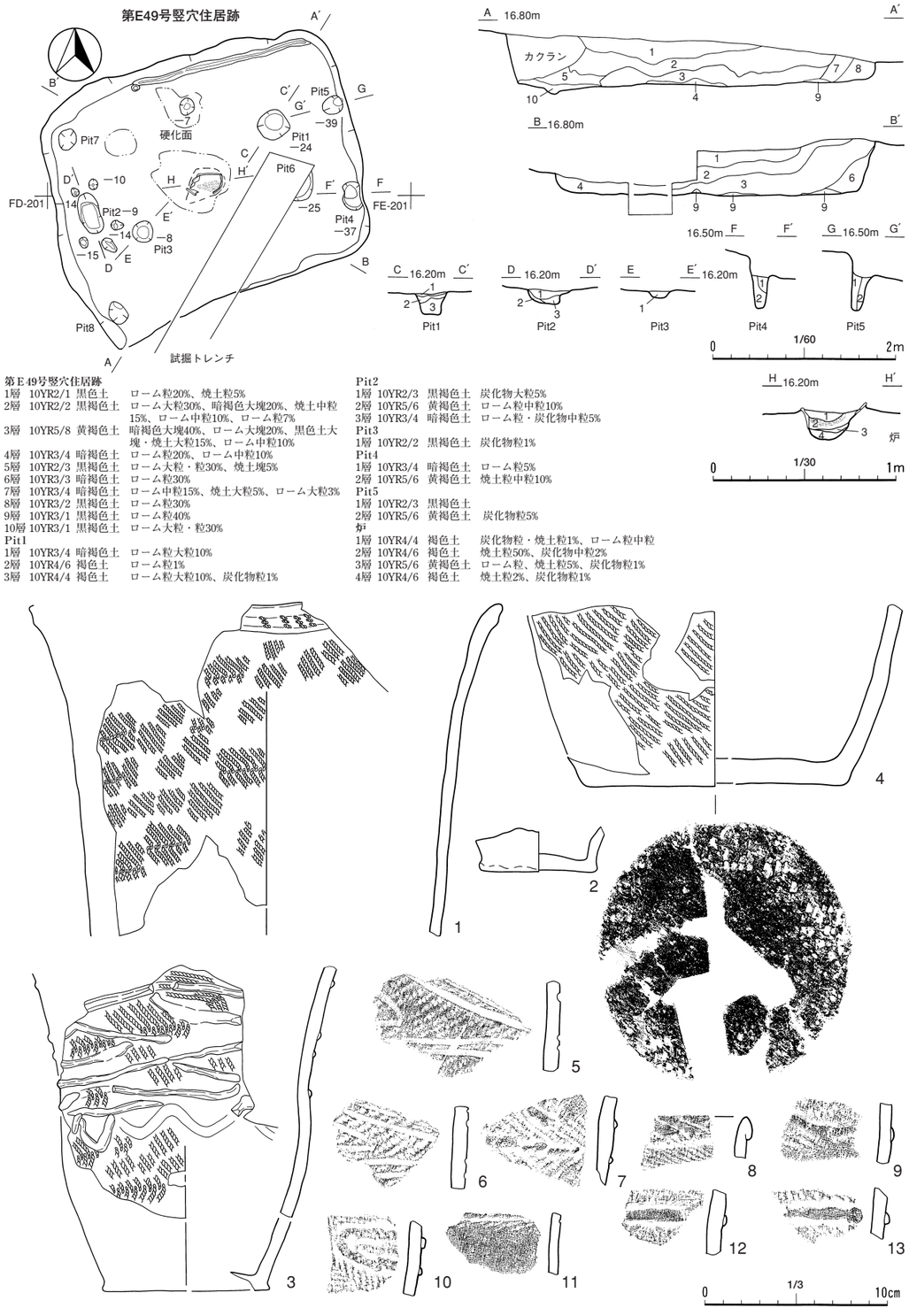
［位置・確認］『近野遺跡Ⅴ』で21Ｈとされた住居跡である。遺構確認時のトレンチにより削平され、南側で風倒木による攪乱を受ける。ＦＥ－200・201に位置し、Ⅳ層上面で確認した。

［平面形・規模］平面形は隅丸長方形で、規模は長軸3.42m、短軸2.68m、床面積は7.8㎡である。

［壁・床面］残存する壁は床面からほぼ直線的に立ち上がる。Ⅳ層を床面としており、全体に平坦で硬化している。

［壁溝］北側の一部で確認された。長さ1.9m、幅7～９㎝、深さ１～５㎝である。

［柱穴］床面で８個のピットと小ピットを検出した。このうち主柱穴はPit１・６、隅に位置するPit



第E49号竪穴住居跡

1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒20%、焼土粒5%
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム大粒30%、暗褐色大塊20%、焼土中粒15%、ローム中粒10%、ローム粒7%
3層	10YR5/8	黄褐色土	暗褐色大塊40%、ローム大塊20%、黒色土大塊・焼土大粒15%、ローム中粒10%
4層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒20%、ローム中粒10%
5層	10YR2/3	黒褐色土	ローム大粒・粒30%、焼土塊5%
6層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒30%
7層	10YR3/4	暗褐色土	ローム中粒15%、焼土大粒5%、ローム大粒3%
8層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒30%
9層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒40%
10層	10YR3/1	黒褐色土	ローム大粒・粒30%

Pit1

1層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒大粒10%
2層	10YR4/6	褐色土	ローム粒1%
3層	10YR4/4	褐色土	ローム粒大粒10%、炭化物粒1%

Pit2

1層	10YR2/3	黒褐色土	炭化物大粒5%
2層	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒中粒10%
3層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒・炭化物中粒5%

Pit3

1層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物粒1%

Pit4

1層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒5%
2層	10YR5/6	黄褐色土	焼土粒中粒10%

Pit5

1層	10YR2/3	黒褐色土	
2層	10YR5/6	黄褐色土	炭化物粒5%

炉

1層	10YR4/4	褐色土	炭化物粒・焼土粒1%、ローム粒中粒
2層	10YR4/6	褐色土	焼土粒50%、炭化物中粒2%
3層	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒、焼土粒5%、炭化物粒1%
4層	10YR4/6	褐色土	焼土粒2%、炭化物粒1%

図48　第E49号竪穴住居跡（1）

７・８、壁際に位置するＰit４・５などと思われる。柱痕は確認できず、Ｐit１・６は上部にローム土が堆積し、埋め戻しされた可能性が高い。Ｐit４・５は柱抜き取りの堆積状況を示す。

［炉］住居跡中央の床面に楕円形の土器埋設炉が検出された。規模は38×26㎝、床面を土器よりも広く掘り込んだ後、約10㎝大の土器片を掘り方壁面に貼り巡らしている。土器を２枚重ねて貼り付けている箇所もあるが、底面には土器片の設置はなく、土器内の堆積土には被熱土と炭化物粒が含まれる。

［その他］西側の壁際で、楕円形状のＰit２とその周囲に５個の小ピットを確認した。いずれのピットも堆積土は暗褐色土主体である。小ピットは径９～12㎝、深さ９～12㎝である。

［堆積土］上部が黒褐色土の堆積で、壁際から床面にかけては黄褐色ローム土主体の土が30～50㎝程の厚さでレンズ状に堆積しており、人為堆積の可能性が高い。また、床面から壁際にかけてはごく薄く黒褐色土が堆積している。

［出土遺物］床面・堆積土中から遺物が出土した。炉から出土した土器は円筒上層ｄ式期の土器で、

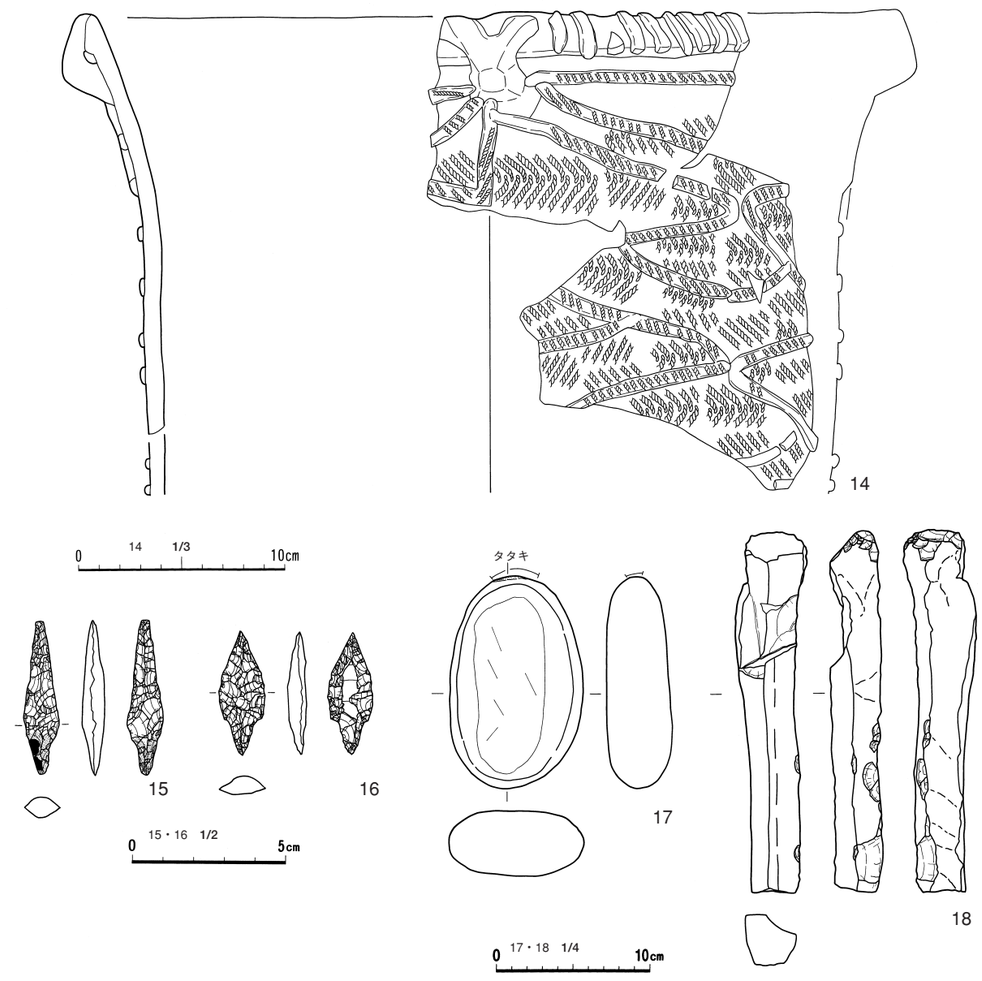


図49　第E49号竪穴住居跡（2）

堆積土中出土土器も同式が主体である。ローム土に混じって剥片が多数出土した。石鏃２点（15･16）、二次調整のある剥片７点、微小剥離痕のある剥片３点、石核１点を含む総数57点の剥片石器が出土している。礫石器は９層から敲磨器１点（17）、床面から棒状の加工礫（18）１点が出土した。

［時期］本遺構の時期は円筒上層ｄ式期である。（坂本）

第Ｅ50号竪穴住居跡（図50・51）

［位置・確認］ＦＦ・Ｇ－217・218に位置し、第Ｅ48号住居跡の下位で検出した。

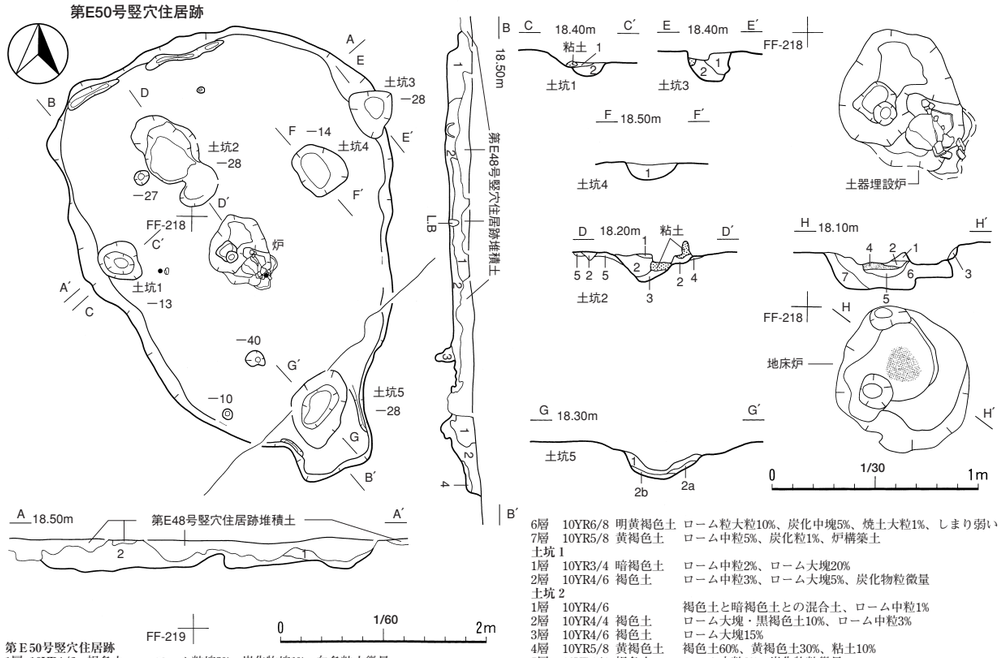
［重複］平安時代の第Ｅ48号竪穴住居跡に本遺構の上部を切られている。

［平面形・規模］平面形は長軸約4.5ｍ、短軸約3.3ｍの不整な楕円形で、南東側が一部長軸方向に張り出している。床面積は約9.4㎡である。

［壁・床面］壁の上部はほとんど残っていないが、現存する壁高は11～29㎝前後である。床面は中央付近では平坦であるが、部分的にやや凹凸がみられる箇所もある。床面は、全体として少し北西に傾斜している。

［壁溝］住居跡の長軸方向にあたる箇所、北西壁側と南東側の張り出し施設で部分的に検出した。北西壁側の壁溝は、幅６～12㎝、深さ３～25㎝、南東側の壁溝は、幅４～12㎝、深さ２～15㎝である。

［柱穴］ピットは竪穴内の床面で８個、北東側の壁面で１個検出したが、主柱穴・配置等は不明であ



第Ｅ50号竪穴住居跡
1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒塊3%、炭化物塊1%、白色粘土微量
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒塊2%、炭化物塊1%、浮石微量
3層 10YR4/4 褐色土 ローム粒中塊2%、炭化物微量
4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・塊・大塊5%、炭化物微量
炉
1層 2.5YR3/6 暗赤褐色土 層下部に粘土5%、ローム粒1%、黄色粘土赤化物
2層 7.5YR5/6 明褐色土 粘土主体、焼土下部1%、黄色粘土
3層 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒10%、やや被熱
4層 7.5YR6/8 橙色土 ローム粒2%、炭化大粒1%、火床面
5層 7.5YR5/8 明褐色土 焼土粒～塊全体、炭化粒5%、ローム粒2%、
6層 10YR6/8 明黄褐色土 ローム粒大粒10%、炭化中塊5%、焼土大粒1%、しまり弱い
7層 10YR5/8 黄褐色土 ローム中粒5%、炭化粒1%、炉構築土
土坑１
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒2%、ローム大塊20%
2層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒3%、ローム大塊5%、炭化物粒微量
土坑２
1層 10YR4/6 褐色土と暗褐色土との混合土、ローム中粒1%
2層 10YR4/4 褐色土 ローム大塊・黒褐色土10%、ローム中粒3%
3層 10YR4/6 褐色土 ローム大塊15%
4層 10YR5/8 黄褐色土 褐色土60%、黄褐色土30%、粘土10%
5層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒3%、炭化物粒微量
土坑３
1層 10YR5/8 黄褐色土 ローム大塊80%、粘土塊微量、炭化物粒微量
2層 10YR4/6 褐色土 ローム中塊15%、炭化物粒微量
土坑４
1層 10YR4/6 褐色土 ローム中塊15%、炭化物粒微量
土坑５
1層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒7%、浮石粒微量
2a層 10YR4/4 褐色土 ローム中塊10%、炭化物粒1%
2b層 10YR4/6 褐色土 ローム中塊・大塊2%、ローム粒・炭化物塊1%

図50　第E50号竪穴住居跡（1）

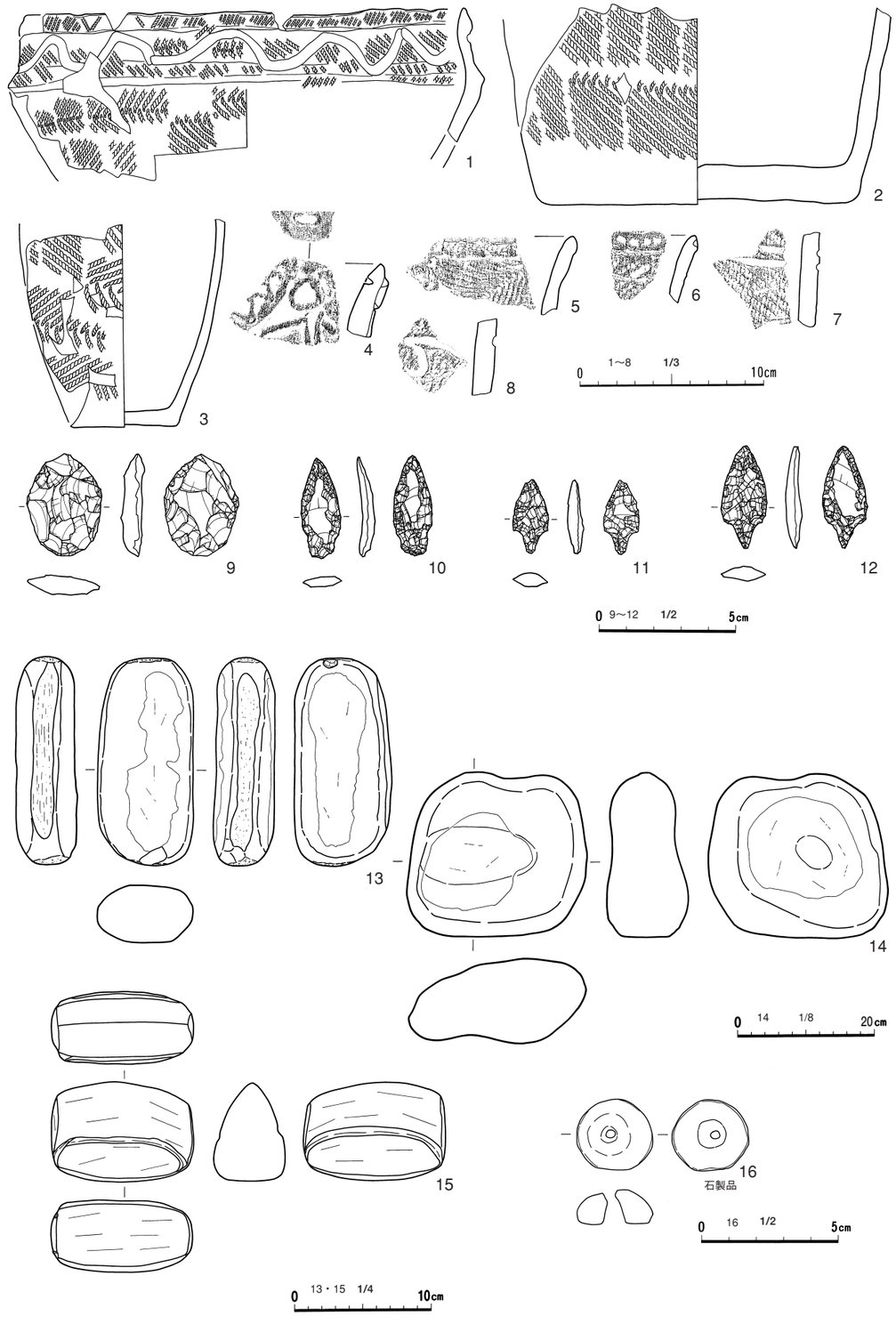


図51　第E50号竪穴住居跡（2）

る。竪穴内に散在する比較的大きめの土坑（土坑１～５）は、粘土のブロック等が出土したものもあるが（土坑１・２）、いずれも掘り方のはっきりしないものである。

［炉］床面の中央部に設置されているが、地床炉から土器埋設炉に造り替えられたようである。古い地床炉の中央部には火床面がみられ、土器埋設炉は鉢形の口縁と深鉢形の底部が残っている。

［その他］住居跡の南東側に、方形に近い形態の張り出し施設が設けられていた。踏み締められたような痕跡も確認されているので、出入り口的な施設とみられるが、施設自体の掘り方は不明瞭で、さらに掘り方のはっきりしないピット（土坑５）が重複している。

［堆積土］堆積土の上部はほとんど残っていない。残存する部分では暗褐色土と褐色土を主体として、ロームの土の他、炭化物粒等が少量混入している。

［出土遺物］炉・床面・堆積土中から縄文土器・石器・石製品が出土した。土器は少量である。炉・床面から出土した土器（1）は、口縁部に太い波状沈線を施文した鉢形になるものと思われる。沈線という手法よりも文様モチーフを重視すれば、円筒上層ａ式土器の特徴があり、当該時期のものと考えられる。堆積土からは中期中頃の土器が出土した。石器・石製品は、炉堆積土から剥片が１点、床面から二次調整のある剥片が１点、微小剥離痕のある剥片が１点、砕片が１点出土した。また、堆積土から石鏃が３点（10～12）、二次調整のある剥片が４点（９他）、微小剥離痕のある剥片が５点、石核が１点、剥片が８点、砕片が10点、磨製石斧の頭部が１点、敲磨器が２点、石皿が１点、石冠（15）が１点、有孔石製品が１点（16）出土した。石皿（14）は、搬入された状態のものを器面成形せずに利用しており、両面とも中央部が凹んでいる。13は、器面・側面を磨り石として使用しているが、端部には敲打痕がみられる。

［時期］本遺構の構築時期は、炉・床面出土土器から判断して円筒上層ａ式期と考えられる。

第Ｅ52号竪穴住居跡（図52）

［位置・確認］ＦＪ・Ｋ－216・217に位置し、重複する第Ｅ36号竪穴住居跡精査中に北西側で確認した。

［重複］平安時代の第Ｅ36号竪穴住居跡に本遺構の南東側を切られている。また、北西側も広く攪乱を受けている。

［平面形・規模］平面形は直径約3.5ｍの不整な円形となるものと思われるが、攪乱等により、全体形は不明である。残存床面積は6.2㎡である。

［壁・床面］壁高は15～45㎝前後である。床面はほぼ平坦に作られているが、全体として南に傾斜している。

［柱穴］ピットは北側の壁寄りで１個検出したが、主柱穴等については不明である。

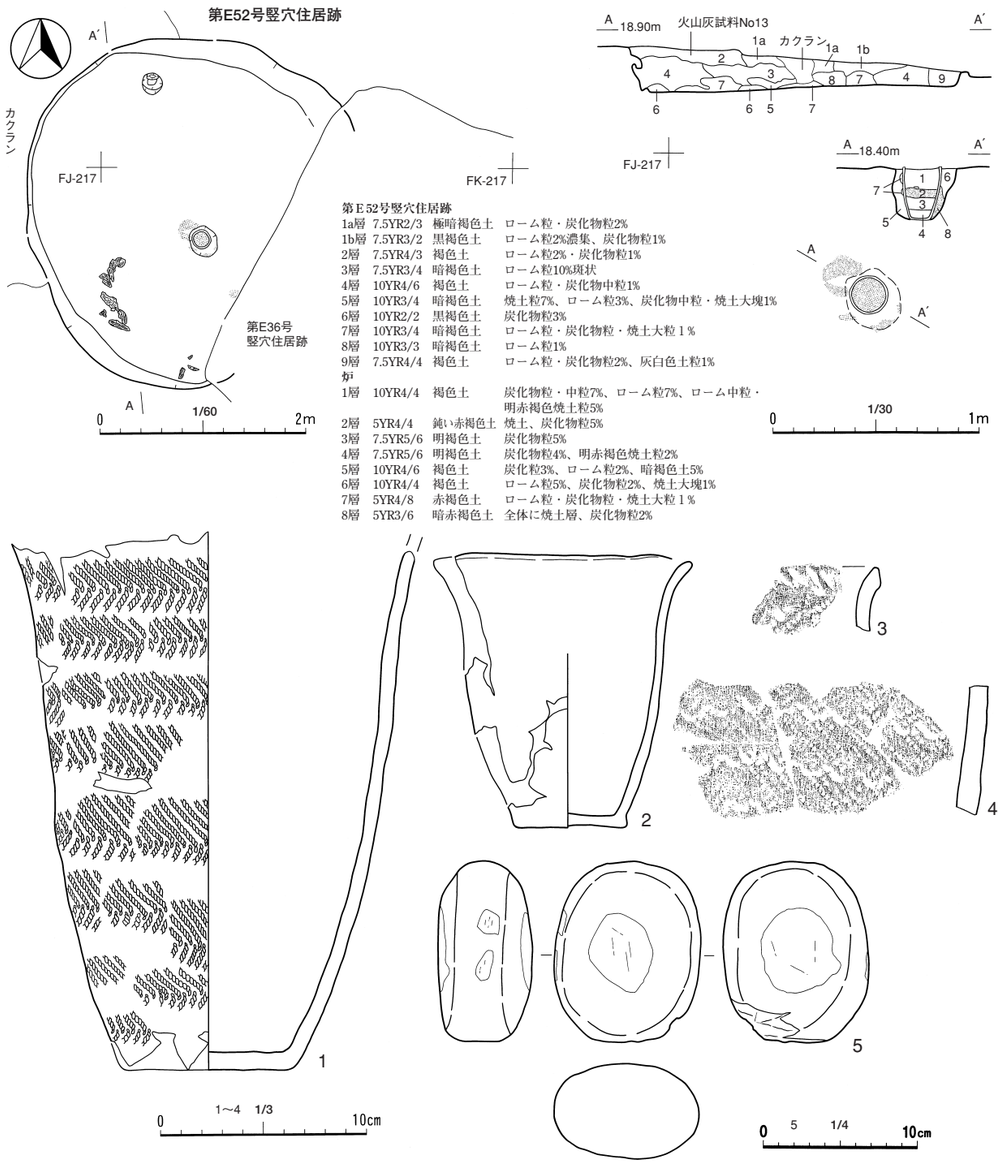
［炉］床面の中央部から土器埋設炉を検出した。床面を20㎝ほど掘り込み、完形の深鉢形土器を正立状態で埋設している。埋設した土器の周囲には火熱を受けた痕跡がある。また、掘り方や埋設土器内の堆積土中にも焼土がみられる。

［堆積土］堆積土は褐色土と暗褐色土を主体として、ローム質の土の他、炭化物粒や焼土等が下部に多く混入している。

［出土遺物］炉・堆積土中等から縄文土器・石器等が出土した。土器は極めて少量である。炉に埋設された土器は円筒上層式（1）で、堆積土から出土した土器も同時期のものとみられる。確認面から

出土した土器は、円筒上層ｄ式又はｅ式土器である。石器は、堆積土から剥片が２点、磨り石が１点、敲き石が１点出土した。磨石（５）の両器面と側面には、滑らかな使用面がみられる。確認面からは微小剥離痕のある剥片が１点、砕片が１点出土した。なお、本遺構の南西側の床面近くから、板材の一部とみられる炭化材が出土している。

［時期］本遺構の構築時期は、炉に埋設された土器から判断して中期中葉と考えられる。　（工藤）



第Ｅ52号竪穴住居跡

1a層	7.5YR2/3	極暗褐色土	ローム粒・炭化物粒2%
1b層	7.5YR3/2	黒褐色土	ローム粒2%濃集、炭化物粒1%
2層	7.5YR4/3	褐色土	ローム粒2%・炭化物粒1%
3層	7.5YR3/4	暗褐色土	ローム粒10%斑状
4層	10YR4/6	褐色土	ローム粒・炭化物中粒1%
5層	10YR3/4	暗褐色土	焼土粒7%、ローム粒3%、炭化物中粒・焼土大塊1%
6層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物粒3%
7層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒・炭化物粒・焼土大粒１%
8層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒1%
9層	7.5YR4/4	褐色土	ローム粒・炭化物粒2%、灰白色土粒1%
炉			
1層	10YR4/4	褐色土	炭化物粒・中粒7%、ローム粒7%、ローム中粒・明赤褐色焼土粒5%
2層	5YR4/4	鈍い赤褐色土	焼土、炭化物粒5%
3層	7.5YR5/6	明褐色土	炭化物粒5%
4層	7.5YR5/6	明褐色土	炭化物粒4%、明赤褐色焼土粒2%
5層	10YR4/6	褐色土	炭化粒3%、ローム粒2%、暗褐色土5%
6層	10YR4/4	褐色土	ローム粒5%、炭化物粒2%、焼土大塊1%
7層	5YR4/8	赤褐色土	ローム粒・炭化物粒・焼土大粒１%
8層	5YR3/6	暗赤褐色土	全体に焼土層、炭化物粒2%

図52　第E52号竪穴住居跡

第Ｅ53号竪穴住居跡（図53・54）

［位置・確認］標高15ｍほどの谷際ＤＳ・Ｔ－204に位置し、Ⅳ層上面で確認した。西側は住居跡の痕跡を確認出来なかった。

［平面形・規模］規模は長軸4.58ｍ、残存する短軸４ｍで、平面形はほぼ円形になると思われる。残存床面積は13.4㎡である。

［壁・床面］残存する壁は北～東～南側のみで、壁高は12～34㎝である。床面から緩やかに立ち上がるが、明瞭でない箇所もある。床面は、斜面と同様に東から西に向かって傾斜している。植物による攪乱が著しいが、住居跡中央付近の攪乱を受けていない部分は周辺よりも硬化している状況が確認できた。

［柱穴］床面の壁に近い部分と壁際付近でピットを検出した。壁際付近には径・深さとも10㎝前後の小ピットが多く検出されている。柱穴と考えられるのは配置や規模からPit１～３である。西側ではピットが確認出来なかった。

［炉］住居跡西側の壁際で楕円形の被熱範囲が確認された。規模は径34㎝ほどで、被熱した深さは確認面から１㎝にも満たない。被熱範囲内で焼土がブロック状に確認されており、起伏が見られる。

［堆積土］上部が黒褐色土の堆積で、以下は暗褐色土主体であり、床面付近ではローム粒がやや混入している。堆積状況は、自然堆積と思われる。

［出土遺物］１層及び４層から土器が出土した。１は両層間で接合したもので、欠損しているが台付鉢形土器である。内外面に部分的ではあるが赤色顔料が観察される。堆積土出土土器は中期中頃のものと、後半のものがある。石篦１点（10）、二次調整のある剥片３点（11･12他）、微小剥離痕のある剥片５点を含む総数12点の剥片石器が出土している。礫石器は、４層から石皿の破片を転用した凹み石が出土した。13は破損した石皿片を転用したもので、表に浅い敲打痕、裏面に深い凹み痕がみられる。このほか、４層中から有孔石製品が１点・小型土器が２点、第５層中から小型土器が１点、底面から小型土器が１点の計５点が出土した。

［時期］本遺構の時期は、４層出土土器から最花式期に近い時期と考えられる。（坂本）

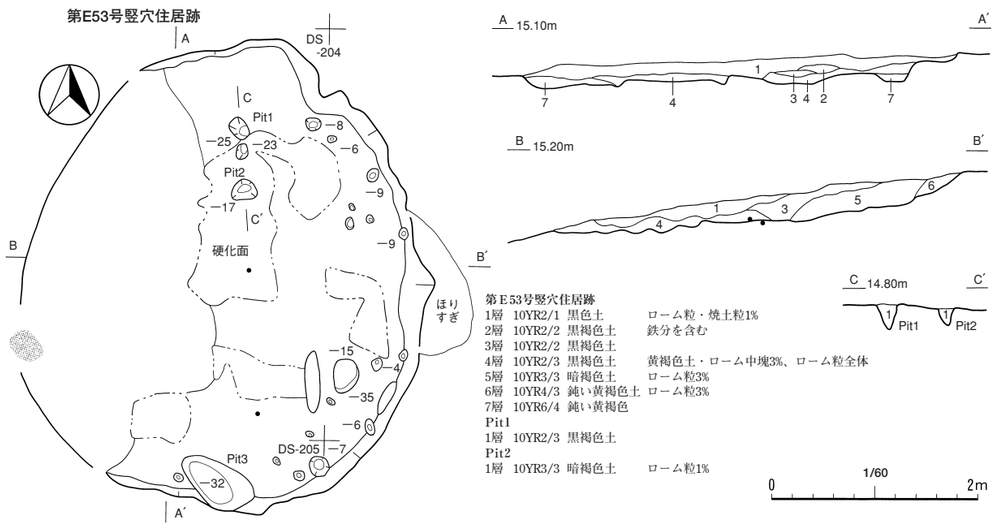


図53　第E53号竪穴住居跡（1）

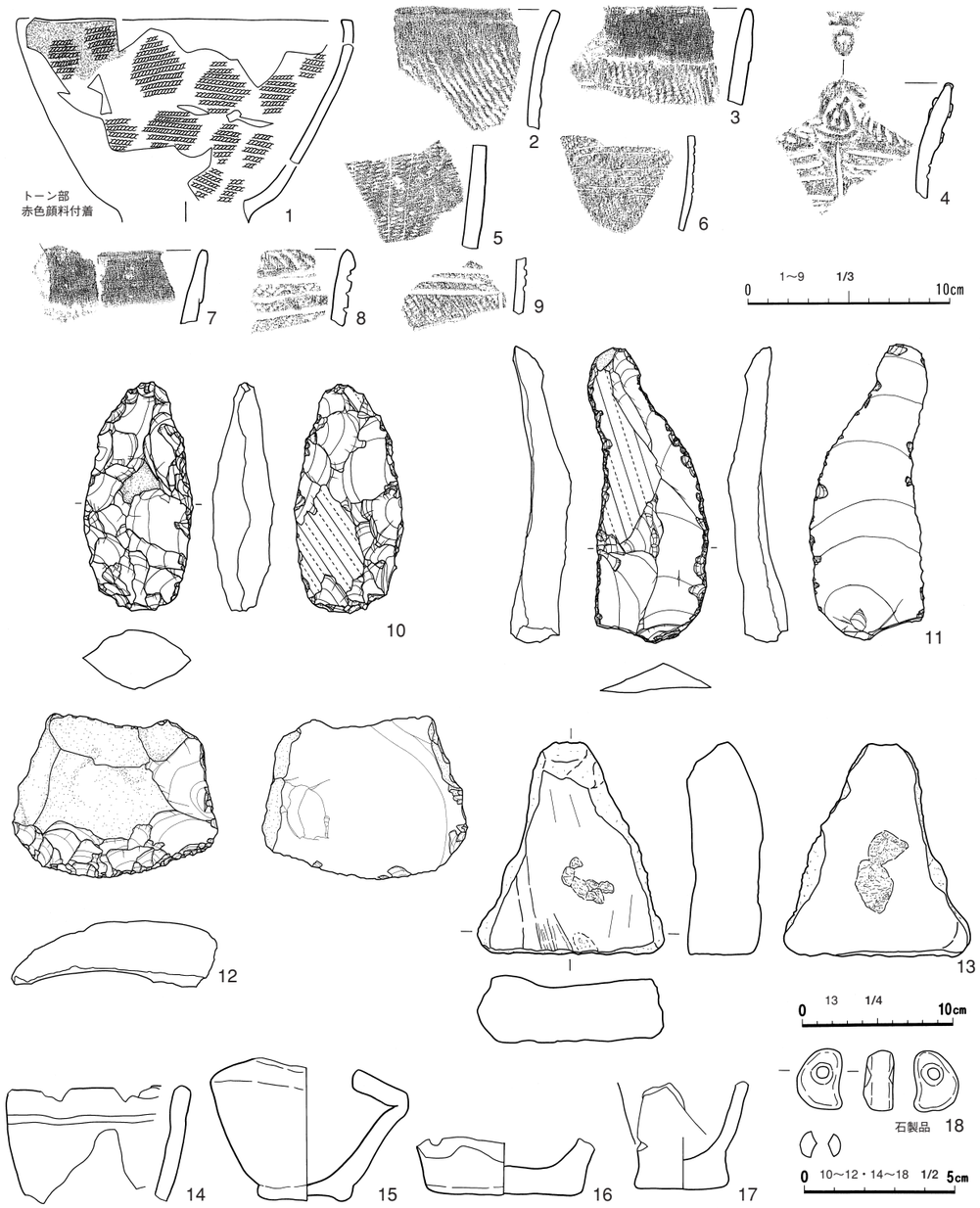


図54　第E53号竪穴住居跡

第Ｅ54号竪穴住居跡（図55～58）

［位置・確認］ＥＡ･Ｂ－204・205に位置し、Ⅳ層上面で確認した。

［重複］第Ｅ11号掘立柱建物跡PIT５と重複、PIT６と隣接し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は隅丸方形で、規模は長軸3.64ｍ、短軸3.44ｍ、床面積は9.2㎡である。

［壁・床面］壁は底面からやや開くように立ち上がり、壁高は９～45㎝である。 Ⅳ層を床面としており、床面の南西側を中心に硬化している。床面はやや起伏がある。

［柱穴］床面で10個のピットを検出した。ほとんどが壁際での検出で、平面規模はPit１の長軸50㎝を除くと径14～24㎝である。深さは５～27㎝であり、Pit１～４が主柱穴になる可能性がある。

［炉］住居跡中央の床面に土器埋設炉が検出された。規模は、長軸40×34㎝、焼土の厚さ12㎝、床面から焼土上面までの深さ最大７㎝、掘り方は48×32㎝、深さ24㎝である。床面を掘り込んだ後、土器胴部下半の破片を掘り方底面に敷き詰めた上に口縁～胴部上半の部位を埋設している。炉底面から７㎝の厚さで被熱している。

［その他］北側の壁際で、掘り込みの周囲を土手状に巡らせた楕円形状の付属施設が検出された。規模は50×44㎝、深さ14㎝、土手状部分幅２～８㎝、高さ約２㎝である。土手状部分上部や底面には小ピットも検出されており、径10㎝前後、深さ20㎝前後である。構築方法は床面を楕円形状に掘り込み、黄褐色ローム土主体の土で土手を巡らしている。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。このほか、円形と台形を合わせた形状の掘り込みが検出された。円形部分がやや深く、台形部分は浅い掘り込みである。規模は、炉の東側で長軸1.02ｍ、短軸最大80㎝、円形部分の径56㎝、円形部分の深さ20㎝、台形部分の深さ５㎝である。堆積土は、黒褐色土主体である。

［堆積土］上部が黒褐色土主体で自然堆積の様相である。住居跡西側の確認面には焼土が広がる。下部は褐色土主体で白色粘土塊や焼土塊が混在し、人為堆積の可能性が高い。

［出土遺物］１・２層を主体に遺物が極めて多量に出土した。１・２層では中期中頃と後半のものが混在し、３層以下では中頃のものが主体である。炉に使用された土器は円筒上層ｅ式土器（1）である。剥片石器は、石鏃１点（29）、石槍２点（30･31）、二次調整のある剥片11点、微小剥離痕のある剥片10点を含む総数741点が出土している。礫石器は、８層から磨り石、７層から敲磨器３点（34・36・38）、６層から敲磨器２点（33・35）、１層から磨製石斧頭部片・敲磨器５点（32・37）・石皿２点（39）の計14点が出土した。このほか１層中から有孔石製品が１点、小型土器が２点、７層中から土偶が２点・方形土製品が１点の計６点が出土した。ミニチュア土器４点いずれも胴下半部である。有孔石製品（47）は、中央部に楕円形の孔が見られるものである。

［時期］本遺構の時期は、炉出土土器から円筒上層ｅ式期である。

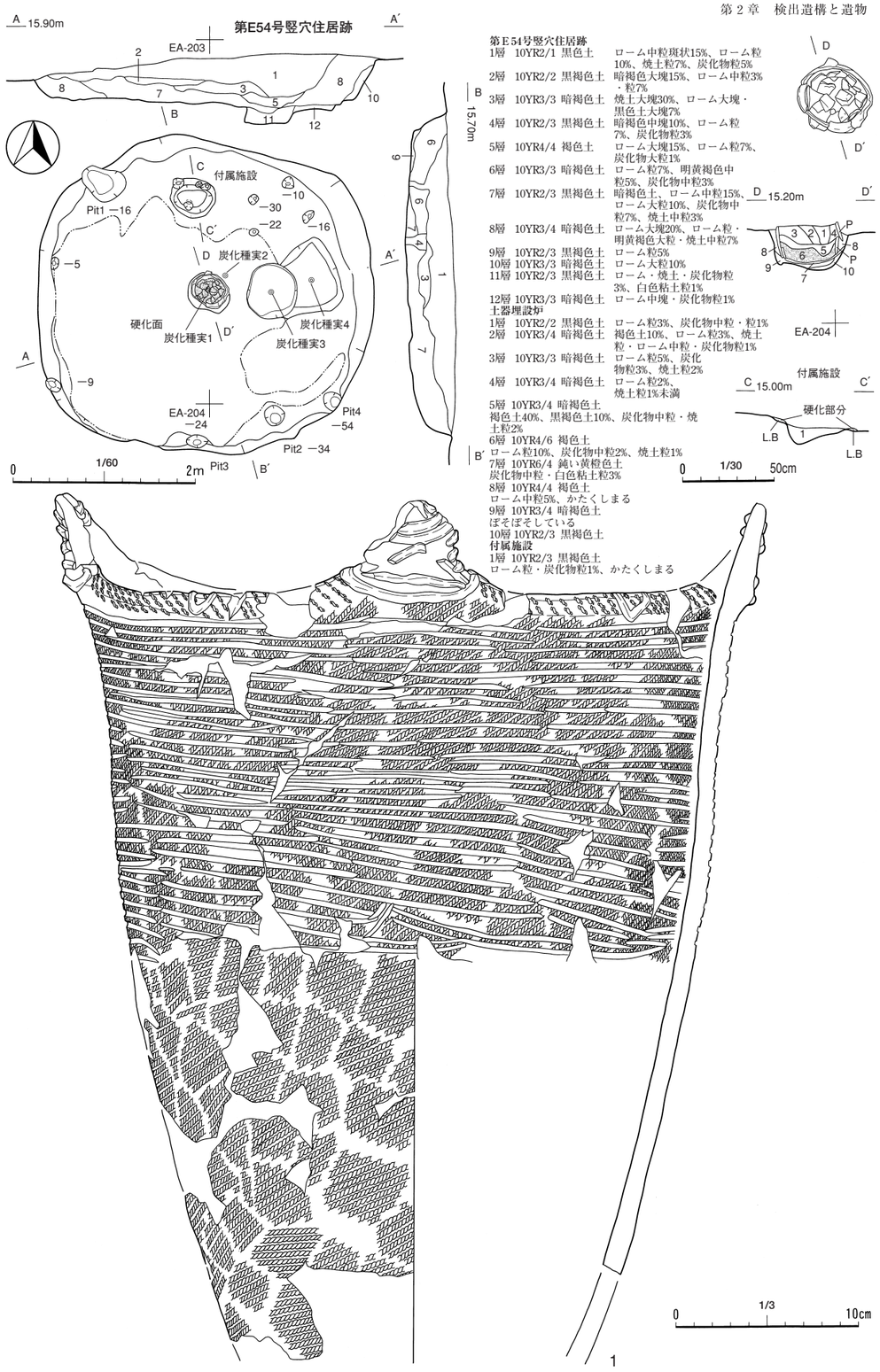


図55　第E54号竪穴住居跡（1）

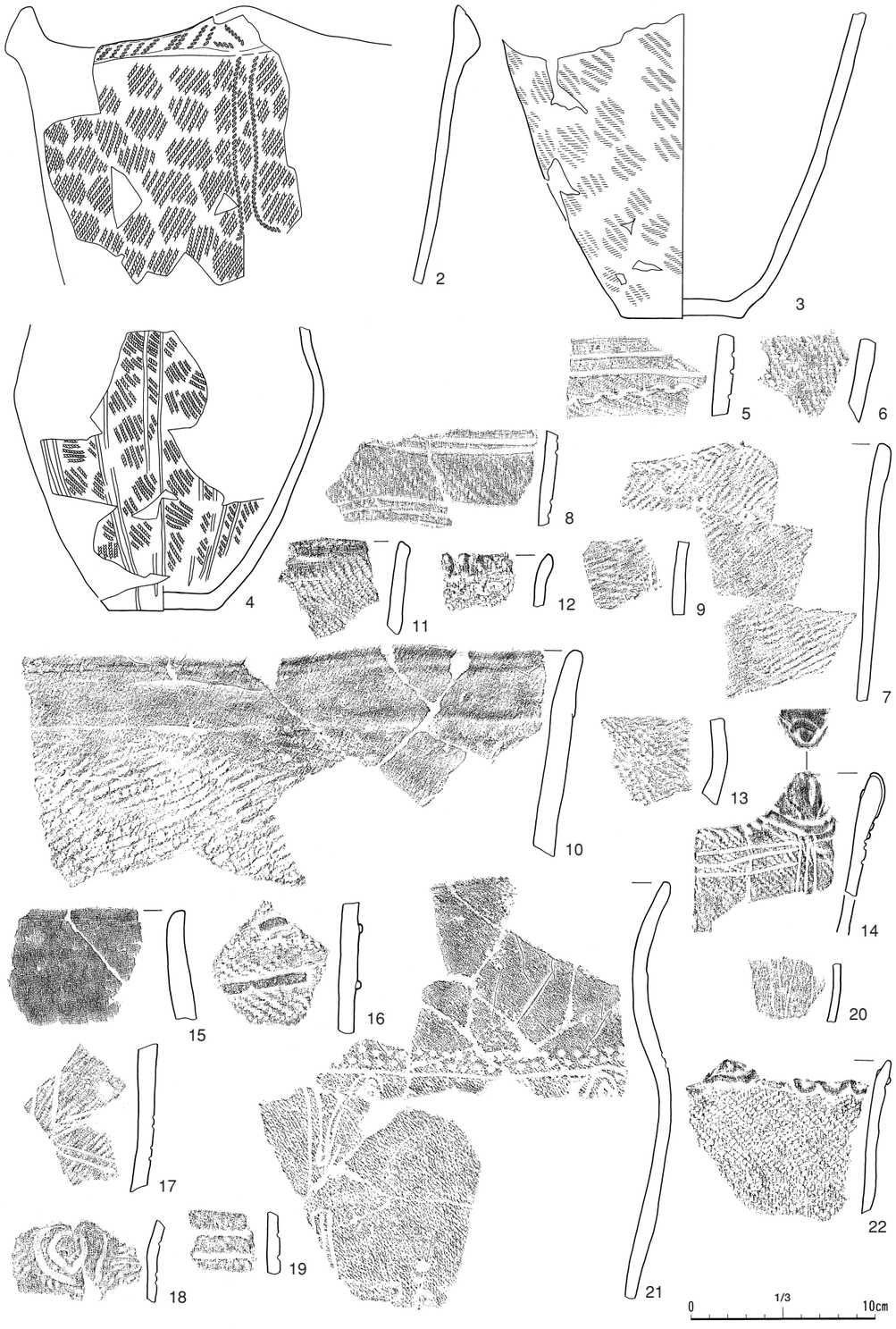


図56　第E54号竪穴住居跡（2）

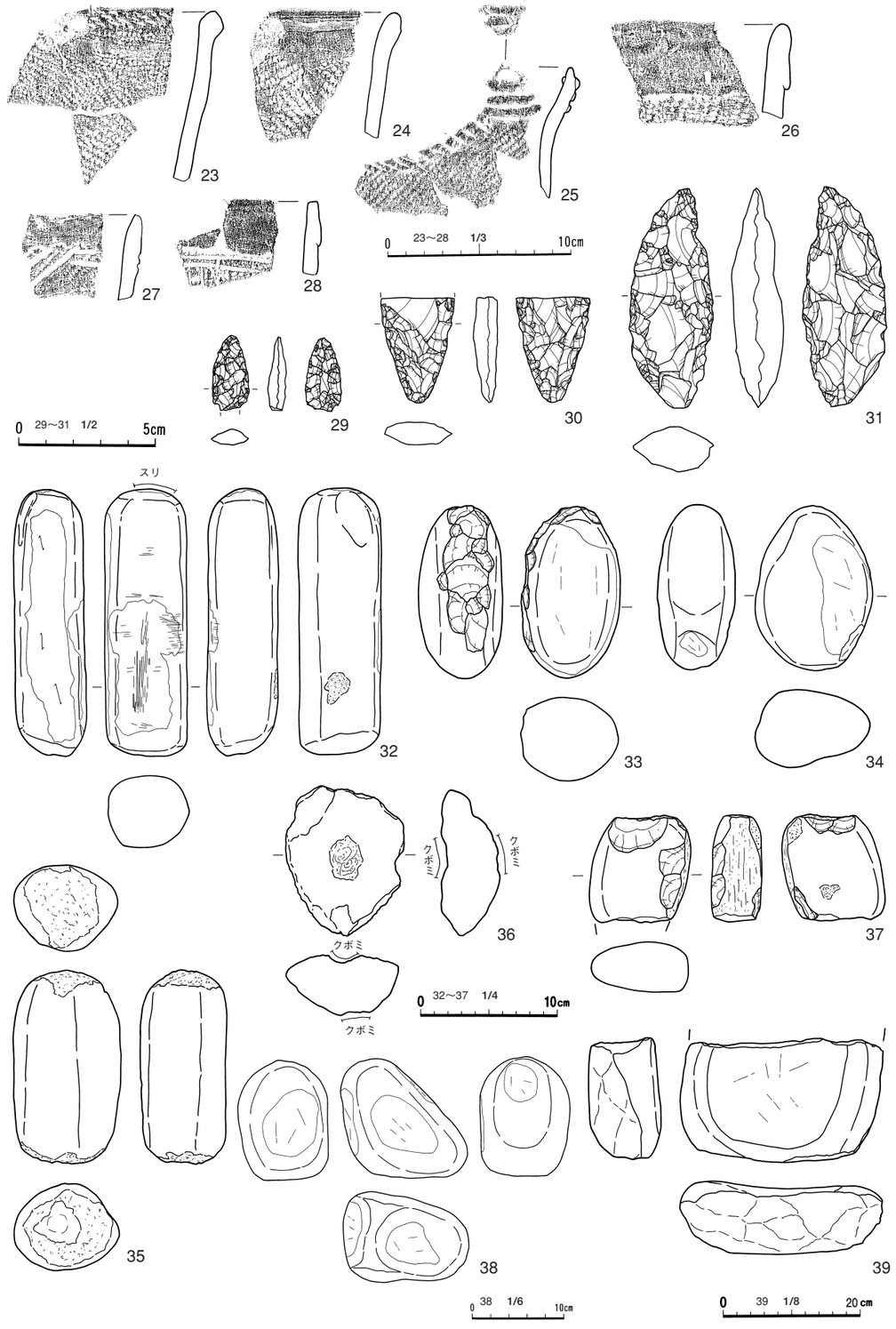


図57　第E54号竪穴住居跡（3）

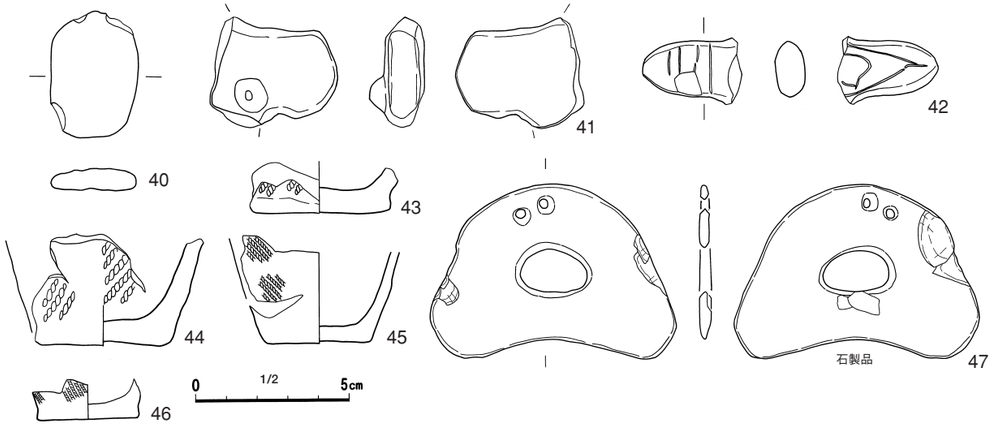


図58　第E54号竪穴住居跡（4）

第Ｅ55号竪穴住居跡（図59・60）

［位置・確認］ＥＴ－216に位置し、Ⅳ層上面で確認した。住居跡西側の壁は攪乱で壊されている。

［平面形・規模］竪穴部分とテラス部分があり、全体形は隅丸長方形、竪穴部は隅丸方形である。北から東にかけてテラスが広がり、全体の規模は長軸2.88m、短軸2.26mで、竪穴部長軸2.4m、短軸2.28m、床面積は3.7㎡である。テラス部は南東部で若干外側に張り出す形状で、面積は2.04㎡である。

［壁・床面］壁は竪穴部分床面から直線的に立ち上がり、テラス部分床面からの壁高は16～22㎝である。テラス部分の壁はやや開くように立ち上がる。テラス部分床面は北側が比較的平坦であるが、東側は起伏が大きい。竪穴部分はⅣ層を床面としており、全体に平坦で硬化している。

［柱穴］テラス部分床面から多数のピットを、竪穴部分床面から５個のピットを検出した。このうち主柱穴はＰit１～３と考えられる。柱穴の配置から攪乱部分にも柱穴の存在した可能性が想定される。規模は、18～28㎝、深さ32～43㎝で、Ｐit２には柱抜き取り時の浅い掘り込みが確認された。ピット内の堆積土は住居内堆積土と同様に暗褐色土主体である。このほか竪穴部分床面・壁際、テラス部分壁際で径10㎝以下の小ピットを確認している。

［炉］住居跡中央の床面に楕円形の地床炉と土器埋設炉が検出された。検出状況から、土器埋設炉を埋めてその隣に地床炉を構築している。地床炉の規模は長軸38×30㎝、深さ５㎝で、レンズ状に窪んだ断面形である。堆積土は上部では炭化物粒を多量に混入し、下部では焼土粒を多量に含む。土器埋設炉は径18㎝で、掘り方径約20㎝、深さ12㎝の中に埋設されている。使用された土器は胴部から底部にかけての部位で、土器内部は黄褐色ローム土主体の土が堆積している。

［その他］テラス上で、張り出し部分左右に地山をカマドの袖状にし、その内部から径35㎝の大型ピット１個と径12㎝の小型ピット２個で構成される付属施設を検出した。袖状部分は長軸約50㎝、幅約30㎝、高さ約15㎝で、上部からテラス床面に向かって緩やかに傾斜している。大型ピットはこれらの袖状部分中央に位置し、内部の堆積土は埋められたような堆積状況である。袖状部分から大型ピットの壁は連続しており、この壁際で底部を欠失した土器１個体が倒立斜位の状態で検出された。掘り方は平面的に確認出来なかったが、断面で観察すると、土器下半部から口縁部を埋めている土と大型ピット上部に堆積している土は同じであり、大型ピット埋め戻し時に埋設された可能性が高い。これらのことを加味し、位置関係から、この張り出し部は出入口の可能性が考えられる。

［堆積土］上部が黒褐色土で、下部は褐色土にロームブロック・炭化粒や粘土塊が混入している。テラス部分はローム土主体の土が堆積している。いずれも人為堆積の可能性がある。

［出土遺物］堆積土を主体として土器が少量出土した。型式認定できるものは全て円筒上層ｄ式である。埋甕は円筒上層ｄ式又はｅ式土器である。炉に使用された土器は円筒上層ｄ式土器である。剥片石器は二次調整のある剥片１点、微小剥離痕のある剥片２点を含む総数33点が出土している。礫石器は４層から磨り石（14）、７層から敲き石が出土した。このほか４層中から石冠が１点（15）出土した。

［時期］本遺構の時期は炉出土土器から円筒上層ｄ式期である。

第Ｅ56・58号竪穴住居跡（図61～64）

［位置・確認］標高14mのＥＡ・Ｂ－200に位置し、Ⅳ層上面で確認した。１回の建て替えが行われている住居跡と、それより古い段階の住居跡（それぞれに遺構番号を付した）・土坑が重複した遺構群である。

各時期に分けて記載する。

第Ｅ56号竪穴住居跡

第Ⅱ期（拡張後）

［重複］第Ｅ58号竪穴住居跡・第Ｅ183号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］西側壁が検出されなかったが、平面形は楕円形と推定される。規模は長軸5.1m、残

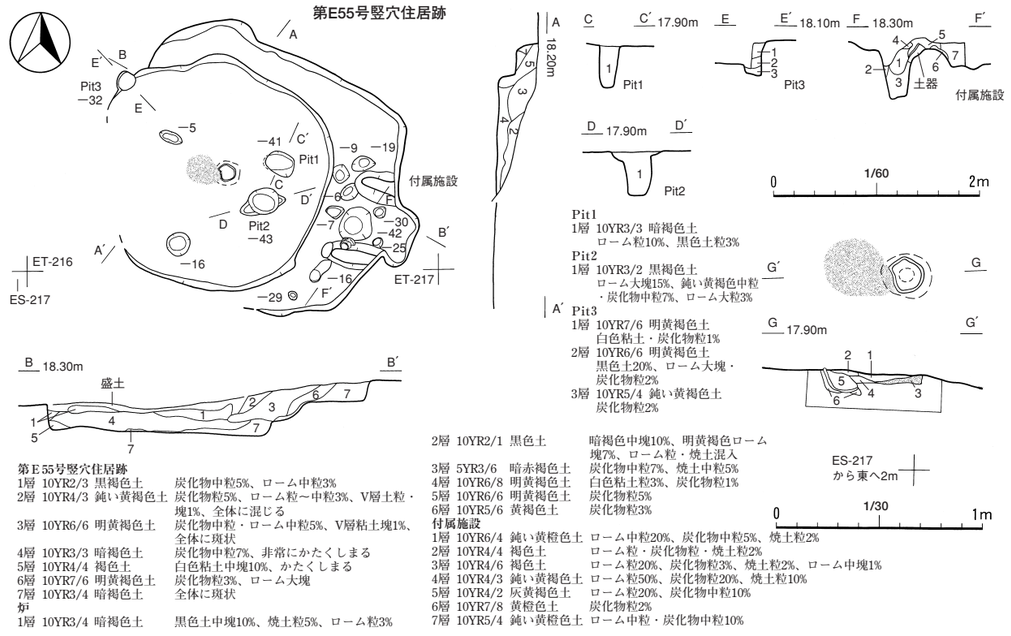


図59　第E55号竪穴住居跡（1）

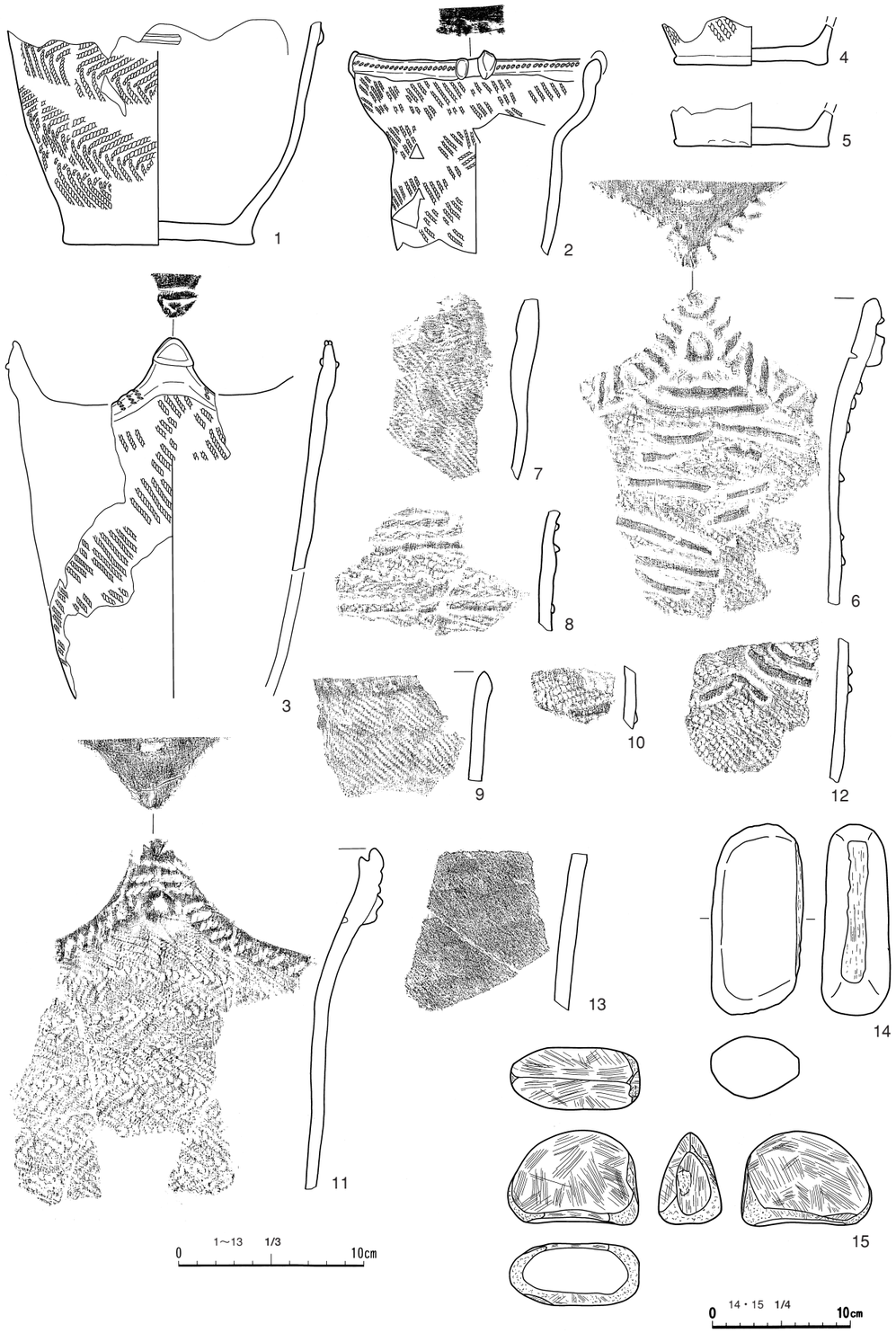


図60　第E55号竪穴住居跡（2）

存する短軸3.6ｍ前後、残存床面積は14㎡である。住居跡の長軸方向は、Ｎ－58°－Ｅである。

［壁・床面］壁は底面からやや開くように立ち上がり、壁高は23～33㎝である。Ⅳ層を床面としており、とくに拡張前の住居跡と床面が共通している部分を中心に硬化している。

［柱穴］本遺構に伴うものと、拡張前の住居跡に伴うピットかどうか区別がつかないものを掲載した。壁際よりもやや中央寄りに位置するピットのうち、Ｐit５～８･11･15は柱穴の可能性がある。規模は、径21～28㎝で、深さ19～32㎝である。これらのピット堆積土は黒褐色主体である。

［炉］南側で確認された径20㎝程の不整形な被熱範囲が炉として使用された可能性がある。

［その他］住居跡中央で５点の炭化材を検出した。いずれも角材と思われる。

［堆積土］上部が黒褐色土主体で自然堆積の様相である。それ以下は褐色土主体であり、床面付近ではロームブロックを混入する。

第Ⅰ期（拡張前）

［重複］第Ｅ58号竪穴住居跡・第Ｅ183号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］残存するピットや壁溝から平面形は楕円形と推定される。推定規模は長軸3.6ｍ、短軸3.2ｍ、床面積は7.8㎡である。住居跡の長軸方向はＮ－100°－Ｅである。

［壁・床面］壁は確認出来なかった。床面は第Ⅱ期と共通している。

［壁溝］北側から東側の一部で確認した。幅13㎝、深さ３～５㎝である。

［柱穴］壁際付近・壁溝内でピットを検出した。ピットの堆積土や配置からＰit３・４・６・12・13・15・16～18や壁溝に伴った壁柱穴が柱穴になる可能性がある。径19～28㎝、深さ19～42㎝である。

［炉］住居跡中央からやや南の位置で石組炉を検出した。平面形は楕円形で、掘り方規模は72×58㎝、深さ27㎝で、この内部に石や土器胴部片を設置している。炉石や土器は北側・西側にのみ残存しているが、南側でも掘り方が確認されており、コの字形をした配置の可能性がある。炉の内部は被熱した痕跡がみられる。また、炉内には２個体分の土器片が廃棄された出土状況であった。

［出土遺物］堆積土中から土器が少量出土し、中期中頃と末葉のものがある。炉内からは大木10式併行期の大型破片が出土している。石篦１点（16）、微小剥離痕のある剥片１点を含む総数７点の剥片石器が出土している。床面から端部を使用した敲き石（18）と磨り石（21）が出土した。21の磨り石は一面が平坦に研磨されており、石棒の未製品の可能性も考えられる。ほかに、堆積土から石皿片３点（20）、磨り石・凹み石（17）、磨製石斧（19）が出土した。土製品では筒状土製品が出土した。屈曲部側を上部とすると、横断面は扁平な蒲鉾形で、上部で約65°で屈曲する。下から５㎝ほどの側面には先端が欠損しているが小突起が１対付けられる。

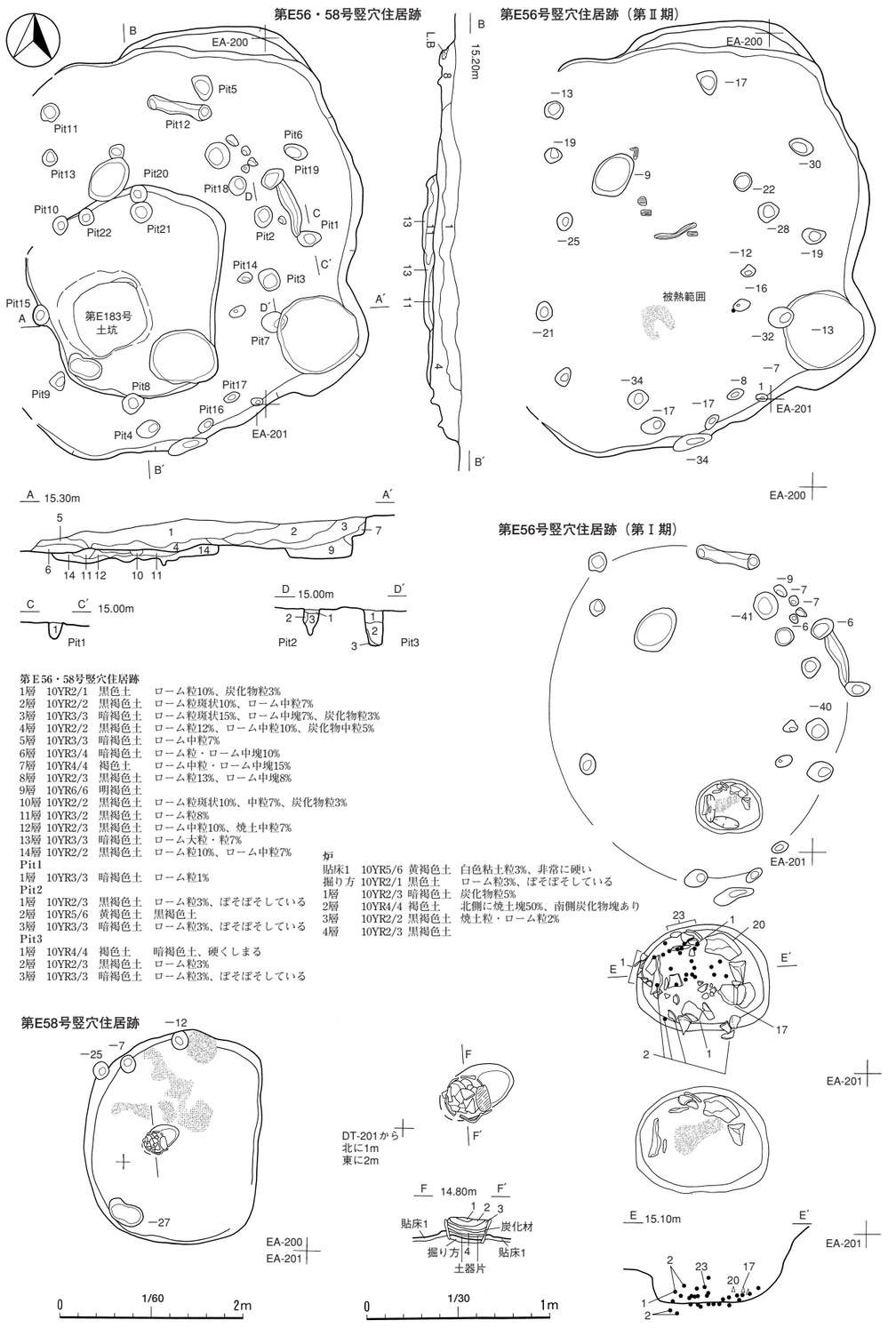
［時期］本遺構の時期は堆積土出土土器から縄文時代中期末に近い時期と考えられる。

第Ｅ58号竪穴住居跡（図61・64）

［重複］第Ｅ56号竪穴住居跡、第Ｅ183号土坑と重複し、第Ｅ56号竪穴住居跡より古く、第Ｅ183号土坑より新しい。

［平面形・規模］平面形は不整隅丸方形で、規模は長軸2.13m、短軸2.12m、床面積は3.62㎡である。

［壁・床面］壁高は最大16㎝で、床面から直線的に立ち上がる。Ⅳ層を床面とし、平坦である。炉の直下の第Ｅ183号土坑の上面を厚さ２～９㎝のローム土で覆っている。



第E56・58号竪穴住居跡

1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒10%、炭化物粒3%
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒斑状10%、ローム中粒7%
3層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒斑状15%、ローム中塊7%、炭化物粒3%
4層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒12%、ローム中粒10%、炭化物中粒5%
5層	10YR3/3	暗褐色土	ローム中粒7%
6層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒・ローム中塊10%
7層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒・ローム中塊15%
8層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒13%、ローム中塊8%
9層	10YR6/6	明褐色土	
10層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒斑状10%、中粒7%、炭化物粒3%
11層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒8%
12層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中粒10%、焼土中粒7%
13層	10YR3/3	暗褐色土	ローム大粒・粒7%
14層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒10%、ローム中粒7%
Pit1			
1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒1%
Pit2			
1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒3%、ぼそぼそしている
2層	10YR5/6	黄褐色土	黒褐色土
3層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒3%、ぼそぼそしている
Pit3			
1層	10YR4/4	褐色土	暗褐色土、硬くしまる
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒3%
3層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒3%、ぼそぼそしている

炉

貼床1	10YR5/6	黄褐色土	白色粘土粒3%、非常に硬い
掘り方	10YR2/1	黒色土	ローム粒3%、ぼそぼそしている
1層	10YR2/3	暗褐色土	炭化物粒5%
2層	10YR4/4	褐色土	北側に焼土塊50%、南側炭化物塊あり
3層	10YR2/2	黒褐色土	焼土粒・ローム粒2%
4層	10YR2/3	黒褐色土	

図61　第E56・58号竪穴住居跡（1）

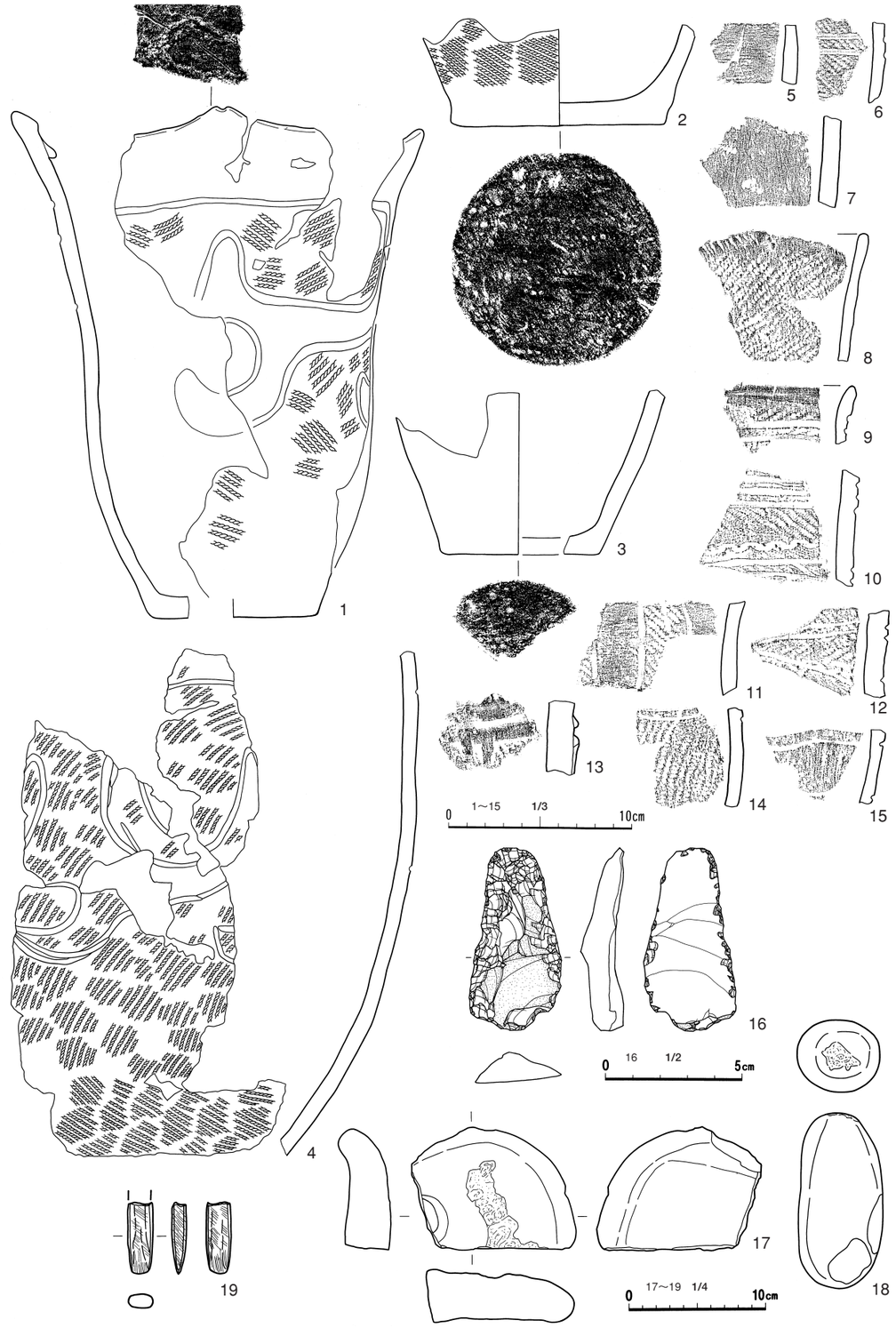


図62　第E56号竪穴住居跡（2）

［柱穴］北側壁・床面でピットを３個検出した。径18～23㎝、深さ７～12㎝である。

［炉］住居跡中央付近で土器埋設炉が検出された。焼土は土器埋設炉の上面及びその周辺に広がっている。炉の構築は、床面に浅い楕円形状のピットを掘り込んだ後、南西側に土器片を敷き詰め、これを囲うように掘り方壁面に１個体の土器を埋設している。掘り方や土器内部には炭化物を主体とした層が広がっている。

［堆積土］第Ｅ56号竪穴住居跡の床下で検出された。床面直上から確認面の北側にかけて、焼失によるものと考えられる焼土範囲が広がる以外は、黒褐色土主体の堆積土である。

［出土遺物］14層中から土器が少量出土した。いずれも地文のみの胴部片で、型式把握しにくいものである。

［時期］本遺構の時期は縄文時代中期後半のものと思われる。（坂本）

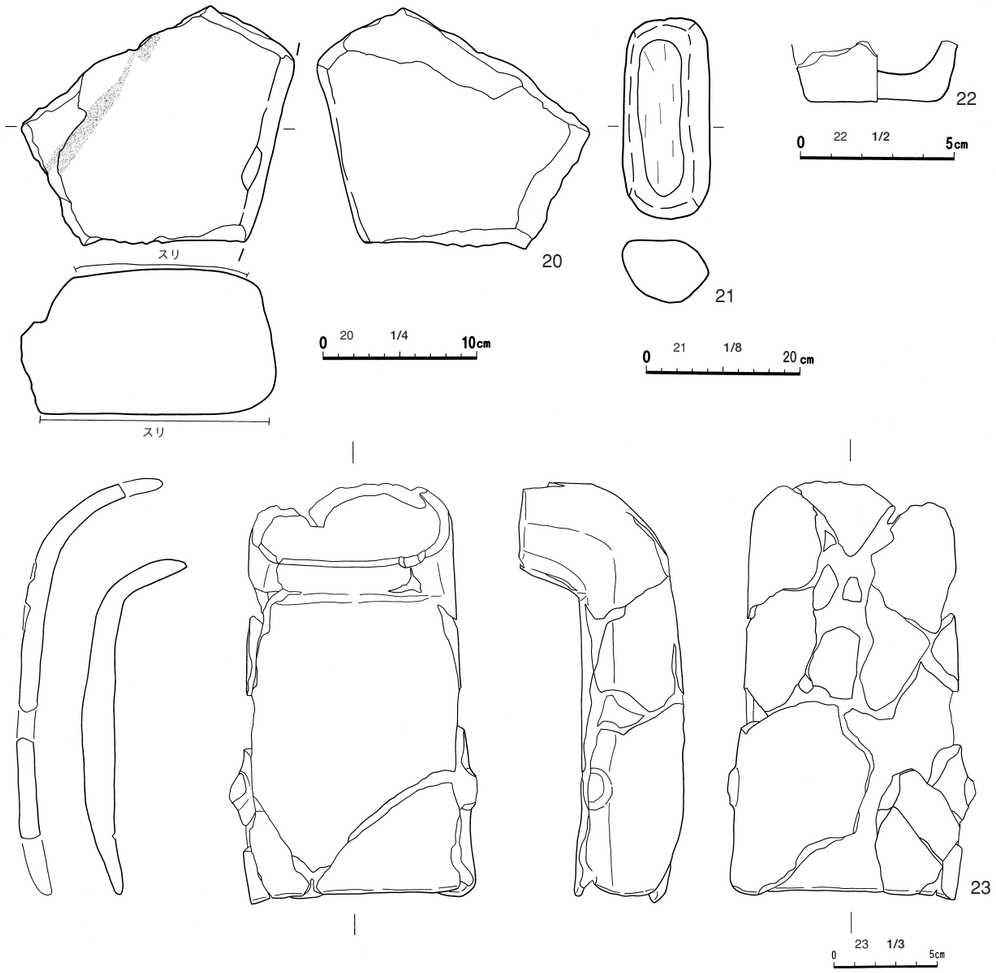


図63　第E58号竪穴住居跡（3）

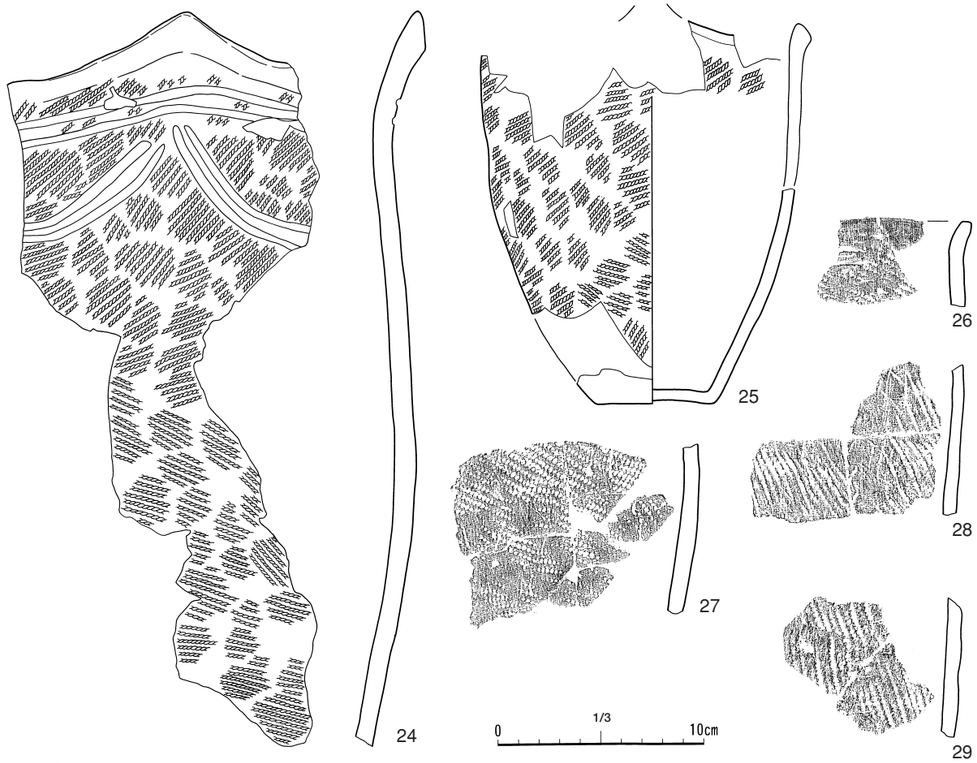


図64　第E58号竪穴住居跡（4）

第２節　縄文時代の掘立柱建物跡

第Ｅ１号掘立柱建物跡（図65･77）

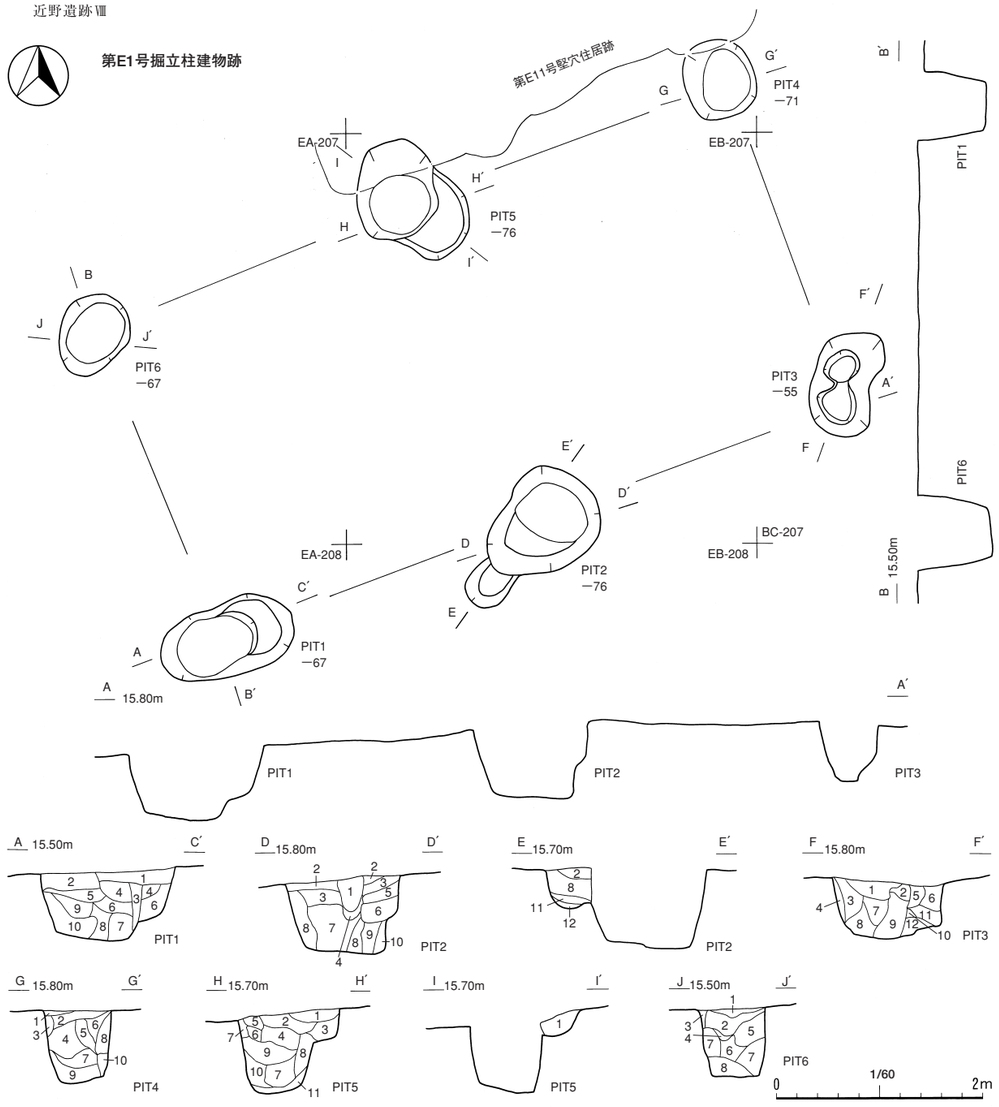
［位置・確認］標高15ｍの緩傾斜地で、ＥＡ・Ｂ－207・208に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－68°－Ｅである。

［重複］第Ｅ11号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］東西方向柱列、南北方向柱列で２間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形である。規模は、桁行長6.48ｍ、梁行長3.17ｍ、柱穴間隔は、3.17ｍ～3.38ｍである。掘り方は、平面形が円形のもの・楕円形のものに分かれ、円形のものは、PIT４・６が相当する。楕円形のものは、上位に段を持つPIT５、下位に段を持つPIT１・２、底面の平面形が８の字状の形態になるPIT３がみられる。規模は長軸及び径が78～158㎝、深さ55～76㎝である。断面形状は、底面から開口部に向かって緩やかに立ち上がる形状で、底面は、やや起伏がみられるものの全体的に平坦である。

［堆積土］PIT１・２・４・５・６は上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。全体でみれば同じ色調の堆積土であり、埋め戻しの可能性が高い。PIT６は壁際に白色粘土塊が混入しており、抜き取りによる掘り方埋土が移動したものと思われる。

［出土遺物］PIT５の上位段から径数㎝の礫がまとまって出土した。そのなかには、土器の胴部から



第Ｅ１号掘立柱建物跡

PIT1
1層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・大粒1%
2層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・塊1%、粘土塊1%
3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒1%
4層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒・塊1%
5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・中塊7%、炭化粒・中粒3%、焼土粒1%
6層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊5%、炭化粒1%
7層 10YR5/4 鈍い黄褐色土 褐灰色土15%
8層 10YR4/1 褐灰色土 ローム中粒・塊20%
9層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・粘土塊3%
10層 10YR3/1 黒褐色土 粘土塊3%、ローム粒1%

PIT2
1層 10YR7/6 明黄褐色土 ローム粒・中塊7%
2層 10YR5/2 灰黄褐色土 ローム粒・炭化物粒1%
3層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・塊1%
4層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒1%
5層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・塊1%
6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム塊1%
7層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・塊5%、炭化物中塊5%
8層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒5%、炭化物粒・塊3%
9層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊15%、炭化物中粒2%
10層 10YR4/1 褐灰色土 炭化物大粒3%、ローム粒・塊3%
11層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒1%
12層 10YR4/1 褐灰色土

PIT3
1層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・塊1%
2層 10YR6/3 鈍い黄橙色土 灰黄褐色土10%
3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒・中塊3%
4層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒・塊5%
5層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒・塊
6層 10YR3/1 黒褐色土 黒色土5%、ローム粒・大粒2%、
7層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊1%
8層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・大塊5%
9層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊15%
10層 10YR4/6 褐色土 ローム粒1%
11層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・大塊10%、黒色土3%
12層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・黒色土3%

PIT4
1層 10YR3/1 黒褐色土 暗灰色土10%、ローム粒1%
2層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 ローム粒・炭化物中粒1%
3層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・塊7%
4層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒3%、粘土塊1%
5層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・粘土塊1%
6層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒1%
7層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒1%
8層 10YR4/4 褐色土 ローム大粒・大塊10%
9層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒・塊3%
10層 2.5YR6/1 黄灰色土 黒褐色土10%

PIT5
1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土大粒・ローム粒1%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒・塊5%、炭化物粒1%
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒・中塊7%、粘土中塊3%
4層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒・粘土塊1%
5層 10YR7/1 灰白色土塊 炭化物粒1%
6層 10YR6/4 鈍い黄橙色土 褐灰色土5%
7層 10YR6/4 鈍い黄橙色土 黒色土3%
8層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒～塊5%、粘土塊・炭化物粒・塊1%
9層 10YR2/1 黒色土 炭化物大粒・ローム粒1%
10層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒～塊5%、炭化物粒3%
11層 10YR2/1 黒色土 炭化物大粒・焼土粒1%

ＰＩＴ５礫出土土層
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒1%

PIT6
1層 10YR4/1 褐灰色土 灰黄褐色土10%
2層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・塊1%、炭化物粒1%
3層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム中粒3%
4層 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒・中塊15%
5層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒・中塊10%、粘土塊2%
6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒～中塊7%、炭化粒～中粒3%、焼土粒1%
7層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・塊5%
8層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒・中塊5%

図65　第E1号掘立柱建物跡

底部にかけての部分が出土しており、埋め戻しにあたって何らかの意図的行為があった可能性がある。ＰＩＴ１の２・４層から円筒上層ｅ式の口縁部片、胴部片が出土し、ＰＩＴ５の４層から円筒上層式の胴～底部片が出土した。

［時期］本遺構の時期は、円筒上層ｅ式期に近い時期と考えられる。

第Ｅ２号掘立柱建物跡（図66･77）

［位置・確認］標高16m前後の緩傾斜地で、ＥＣ～ＥＥ－210・211に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－72°－Ｅである。

［平面形・規模］東西方向柱列、南北方向柱列で２間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形であるが、北西の梁行きが内側に偏り、若干狭くなっている。規模は、桁行長6.34m、梁行長3.15m、柱穴間隔は、2.70m～3.36mである。掘り方は、平面形が円形のもの・楕円形のものに分かれる。円形のものは片側の開口部が広がる形態で、PIT２・５・６が相当する。楕円形のものは、中位に段を持つPIT１、底面の平面形が８の字状の形態になるPIT３・４がみられる。

規模は長軸及び径が96～146cm、深さ70～103cmである。断面形状は、底面から開口部に向かって緩やかに立ち上がる形状で、底面は、やや起伏がみられるものの全体的に平坦である。

［柱痕］柱痕と思われる痕跡はPIT４・６に堆積土中から確認できた。

［堆積土］柱痕と思われる黒褐色土と掘り方土と思われるローム主体土が堆積している状況が確認できた。これらは、PIT４・６に見られる。このほか、PIT５は柱の抜き取り後、埋め戻されたと思われる。

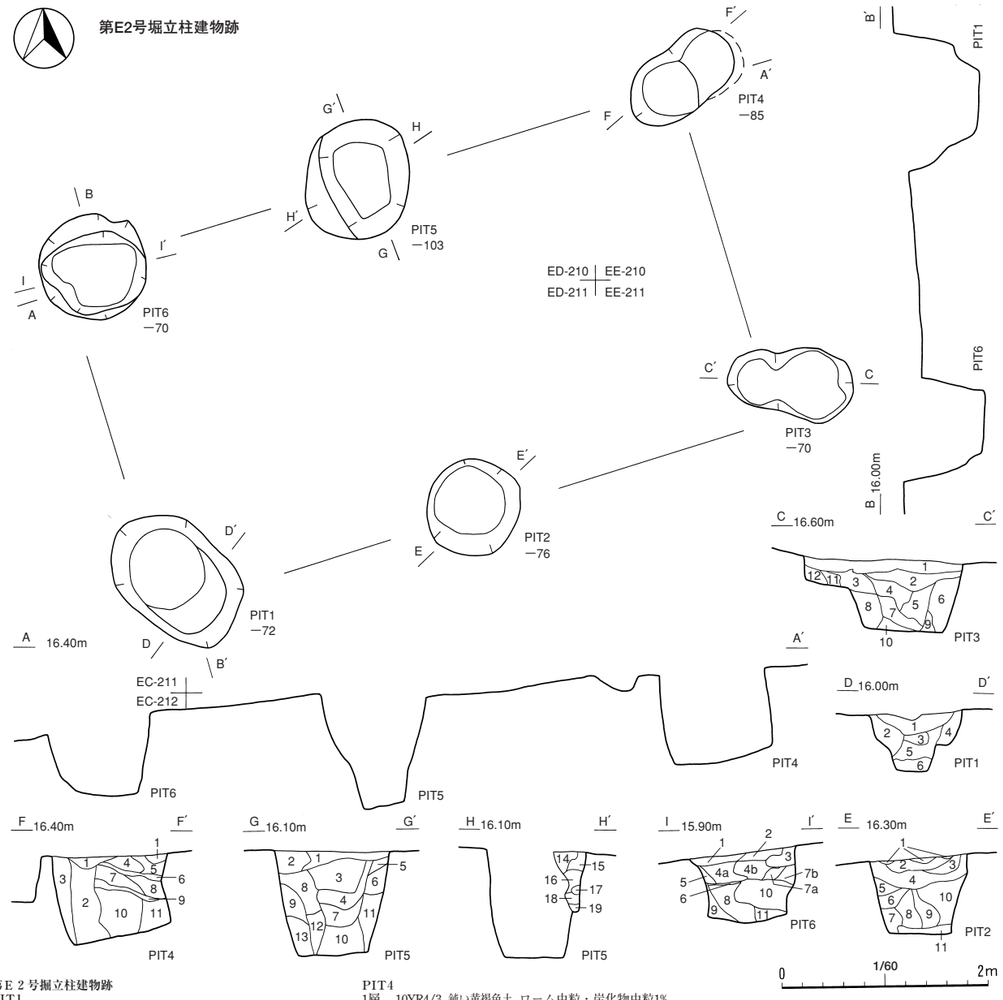
［出土遺物］PIT６の１層から円筒上層ｄ式の口縁部片などが、PIT５の１層から円筒上層式の胴部片が出土した。中期前半のものである。このほか、PIT６堆積土中から剥片１点が出土している。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土土器から、中期中葉かそれ以前と考えられる。　（坂本）

第Ｅ３号掘立柱建物跡（図67・77）

［位置・確認］ＥＭ－210で確認した。確認面の標高は18.8m前後である。北東部が大きく削平されていて柱穴を１個検出できなかったが、本来は６本の柱で構成される１間×２間の建物跡であったと考えられる。

［平面形・規模］PIT１は楕円形で、掘り方の中央からやや西側に柱痕が確認されている。確認面から54cm下位で確認した柱痕は30cm前後の楕円形で、底面にまで達している。この部分は周辺よりわずかにくぼんでおり硬い。PIT２の平面形は二つのピットで構成される８の字形で、西側は直径80cmほどの円形、東側は直径60cmの円形が組合わされたものである。西側は深さ30cm、東側は70cmで東側が深い。柱痕は確認されなかったが、東側のピットが柱のたっていた柱穴と考えられる。PIT３は長円形で西側が深さ10cmと浅く、東側楕円形で、深さ101cmである。柱痕は東側の掘り方中央から東側に偏った場所に確認され、23×30cmの楕円形を呈していた。柱が立っていたと思われる部分の底面は、わずかに窪んでおり、硬い。PIT４の柱痕は掘り方の北側に偏った場所に確認され、径25cm前後と思われた。底面はほぼ平坦である。PIT５はややいびつな楕円形で、中央部分が若干深くなっており、硬い。確認された柱痕はおおむね径30cm前後の大きさであることがわかるが、掘り方内の堆積土や底



第E２号掘立柱建物跡

PIT1

1層	10YR4/4 褐色土	ローム粒・塊2%
2層	10YR4/6 褐色土	炭化物中粒3%、ローム粒・中粒2%
3層	10YR4/3 鈍い暗褐色土	ローム大塊25%、炭化物中粒5%
4層	10YR5/6 黄褐色土	ローム粒・炭化物粒1%
5層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム粒・中塊15%、炭化物中粒7%
6層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒・大塊10%、炭化物粒1%

PIT2

1層	10YR6/2 灰黄褐色土	ローム粒・中塊15%、粘土塊5%
2層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム大粒7%、粘土塊3%、炭化物中粒1%
3層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	粘土塊7%、ローム中粒・大粒3%、炭化物中粒1%
4層	10YR5/6 黄褐色土中塊	褐灰色土15%、粘土塊7%、炭化物粒1%
5層	10YR5/6 黄褐色土	黒褐色土3%、粘土塊1%
6層	10YR2/1 黒色土	ローム粒・中粒5%
7層	10YR4/2 灰黄褐色土	炭化粒・ローム粒2%
8層	10YR4/1 褐灰色土	ローム中粒10%
9層	10YR5/6 黄褐色土	粘土塊1%
10層	10YR5/6 黄褐色土	灰黄褐色土20%、粘土大塊1%
11層	10YR3/1 黒褐色土	粘土塊1%、ローム粒・中塊1%

PIT3

1層	10YR4/2 灰黄褐色土	炭化物粒・ローム粒・焼土粒３%
2層	10YR5/6 黄褐色土	ローム大粒15%、褐灰色土5%、焼土粒・炭化物粒3%
3層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム大粒・焼土粒・褐灰色土5%、炭化物粒7%
4層	10YR4/4 褐色土	ローム中粒10%、炭化物粒5%、焼土粒3%
5層	10YR5/3 鈍い黄褐色土	ローム粒7%、炭化物粒5%、焼土粒3%
6層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム粒・中粒3%、焼土粒・炭化粒3%
7層	10YR4/6 褐色土	炭化粒・ローム粒3%、焼土粒2%
8層	10YR5/6 黄褐色土	ローム粒・炭化粒3%、焼土粒2%
9層	10YR4/4 褐色土	炭化物粒3%、ローム粒・中粒2%、焼土粒2%
10層	10YR6/6 明黄褐色土	炭化物粒・焼土粒1%
11層	10YR4/6 褐色土	ローム主体
12層	10YR4/4 褐色土	ローム大塊主体

PIT4

1層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム中粒・炭化物中粒1%
2層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム粒3%、炭化物大粒1%
3層	10YR4/4 褐色土	ローム塊3%、炭化物粒1%
4層	10YR4/6 褐色土	ローム塊3%、炭化物粒1%
5層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム塊・炭化物大粒1%
6層	10YR4/2 灰黄褐色土	炭化粒・ローム粒1%
7層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム塊7%、炭化物中粒1%
8層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	炭化物大粒・ローム塊1%
9層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム塊10%、炭化物大粒3%
10層	10YR5/3 鈍い黄褐色土	ローム大塊5%、炭化物大粒3%
11層	10YR4/4 褐色土	ローム粒1%

PIT5

1層	10YR3/3 暗褐色土	炭化物粒・ローム中粒1%
2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒・大塊・炭化物粒1%
3層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム中粒～中塊20%・塊1%、
4層	10YR4/4 褐色土	ローム中粒5%、炭化物粒1%
5層	10YR5/2 灰黄褐色土	ローム粒・中塊7%、炭化物粒1%
6層	10YR2/3 黒褐色土	ローム中粒・大塊10%、炭化粒1%
7層	10YR3/2 黒褐色土	ローム大粒5%、炭化物大粒1%
8層	10YR4/1 褐灰色土	炭化物大粒・ローム大粒1%
9層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム中粒3%、炭化物大粒1%
10層	10YR3/1 黒褐色土	ローム粒・中塊10%
11層	10YR5/3 鈍い黄褐色土	ローム中粒5%、焼土中塊2%、炭化物中粒1%
12層	10YR3/2 黒褐色土	ローム大粒3%
13層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム大粒3%、粘土大塊1%
14層	10YR4/4 褐色土	炭化物粒2%、焼土粒1%
15層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム粒2%、炭化物粒1%
16層	10YR3/4 暗褐色土	明黄褐色粒25%、炭化物粒2%、焼土粒1%
17層	10YR5/8 黄褐色土	明黄褐色15%、炭化物粒・焼土粒2%
18層	10YR3/3 暗褐色土	明黄褐色土15%、炭化物粒3%
19層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	明黄褐色土7%、炭化物粒・大粒3%、焼土粒2%

PIT6

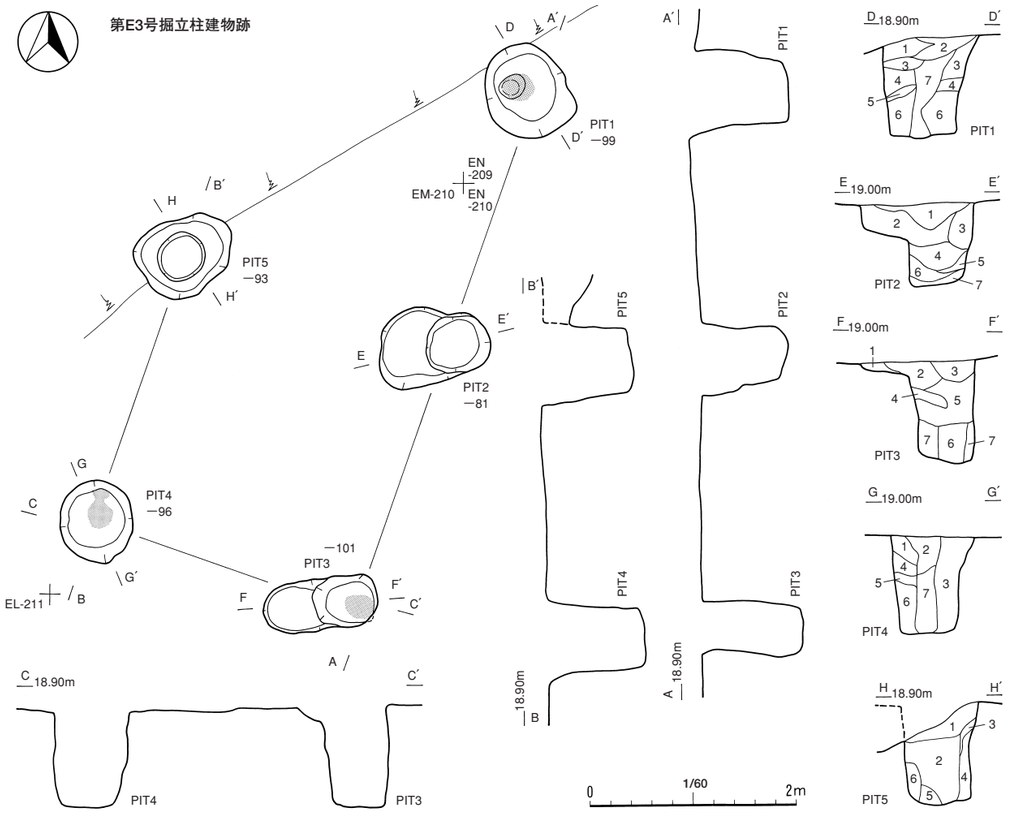
1層	10YR2/1 黒色土	ローム粒・塊2%、炭化物中粒1%
2層	10YR6/6 明黄褐色土	炭化物粒3%、ローム粒・焼土粒2%
3層	2.5YR7/3 浅黄色土	灰黄褐色土10%
4ａ層	10YR3/1 黒褐色土	ローム中粒・炭化物中粒・粘土大粒1%
4ｂ層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	焼土粒・中粒3%、炭化物粒・中粒3%
5層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム粒・中粒5%、焼土粒3%、炭化物粒2%
6層	10YR7/6 明黄褐色土	炭化粒・ローム粒2%
7ａ層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム粒・大粒3%
7ｂ層	10YR5/2 灰黄褐色土	ローム粒・中粒20%、炭化物大粒1%
8層	10YR2/1 黒色土	ローム粒・炭化物粒1%
9層	10YR4/3 鈍い黄褐色土	ローム粒・炭化物粒2%
10層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒・塊15%、炭化物大粒3%
11層	10YR2/2 黒褐色土	ローム中塊10%、炭化物大粒3%

図66　第E2号掘立柱建物跡

面の硬化面の大きさから、これより若干大きめの丸太状のものと思われる。

各柱間の寸法は、南北列の東側は2.60m、西側は2.60m、東西列は南側及び中央ともに2.70mである。また、主軸方向はN－16°－Eである。

［出土遺物］PIT１堆積土中から円筒上層ｄ式又はｅ式土器の胴部片が出土した。このほか両極加撃痕跡のある剥片１点、二次調整のある剥片１点が出土している。PIT５堆積土中から無文の胴部片が出土した。PIT２堆積土中から円筒上層ｄ式又はｅ式土器の胴部片や剥片２点が出土している。PIT４の



第E３号掘立柱建物跡

PIT1

1層	10YR4/6 褐色土	硬い
2層	無注記	
3層	10YR5/6 黄褐色土	黒褐色土1%
4層	10YR3/4 暗褐色土	褐色土30%
5層	10YR4/6 褐色土	明黄褐色土20%、硬い
6層	10YR4/6 褐色土	
7層	10YR3/4 暗褐色土	暗褐色土20%、粘土5%、炭化物粒1%

PIT2

1層	10YR4/6 褐色土	ローム塊5%、焼土中粒1%、炭化物粒1%
2層	10YR3/4 暗褐色土	ローム中粒3%、炭化物塊1%
3層	10YR4/6 褐色土	ローム中粒7%、炭化物粒1%
4層	10YR5/6 黄褐色土	ローム中粒3%、炭化物粒1%
5層	10YR4/6 褐色土	ローム粒2%、炭化物中粒1%
6層	10YR5/4 鈍い黄褐色土	ローム粒1%
7層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒1%

PIT3

1層	10YR4/4 褐色土	黄褐色土粒10%、炭化物粒1%
2層	10YR4/6 褐色土	炭化物中塊・粘土1%、褐色土斑状
3層	7.5YR5/8 明褐色土	褐色土30%、粘土10%、焼土粒1%未満
4層	10YR4/6 褐色土	黄褐色土30%、炭化物中粒3%、炭化物粒1%
5層	7.5YR5/8 明褐色土	褐色土30%、炭化物粒1%
6層	10YR4/6 褐色土	
7層	7.5YR4/6 褐色土	

PIT4

1層	10YR3/4 暗褐色土	ローム塊・炭化物粒1%
2層	10YR4/6 褐色土	ローム塊7%、粘土大粒3%、炭化物粒1%
3層	10YR3/3 暗褐色土	ローム塊5%、炭化物粒1%
4層	10YR4/6 褐色土	ローム塊3%、炭化物粒1%
5層	10YR3/4 暗褐色土	ローム塊5%
6層	10YR3/4 暗褐色土	
7層	10YR4/6 褐色土	ローム塊

PIT5

1層	7.5YR4/3 褐色土	浮石粒3%、炭化物粒1%未満
2層	10YR3/4 暗褐色土	褐色土粒・塊10%、炭化物粒1%
3層	7.5YR4/4 褐色土	褐色土40%、粘土10%
4層	7.5YR5/4 鈍い褐色土	粘土質
5層	10YR4/6 褐色土	粘性あり
6層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒3%

図67　第E3号掘立柱建物跡

堆積土中から円筒上層ｄ式又はｅ式土器の胴部片が出土した。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土遺物から円筒上層ｄ式又はｅ式期に近い時期と考えられる。（畠山）

第Ｅ４号掘立柱建物跡（図68･69･77）

［位置・確認］ＦＡ～ＦＣ－201・202に位置し、Ｖ層上面で検出した。長軸方向はＮ－56°－Ｅである。北側が攪乱を受ける。

［平面形・規模］北東方向柱列、北西方向柱列で２間×１間の建物跡で、一部削平を受けているが、平面形はほぼ長方形であると推定される。規模は、桁行長7.40ｍ、梁行長3.45ｍ、柱穴間隔は、桁行きの桁行間隔が広く、梁行きは若干短い。掘り方は、平面形が円形のものがほとんどで、72～100㎝、深さ34～88㎝である。断面形状は、底面から開口部に向かって直線的な形状がほとんどであるが、PIT１は底面から緩やかに立ち上がる。PIT６は開口部が大きく漏斗状に開く形状である。底面は、やや起伏がみられるものの全体的に平坦である。

［柱痕］柱痕と思われる痕跡はPIT１・２内の堆積土中から確認できた。

［堆積土］柱痕と思われる黒褐色土とローム主体の掘り方土と思われる堆積状況がPIT１・２・４に見られる。柱の抜き取りの可能性がある。PIT６はロームブロック混じりの褐色土や黒褐色土が交互に堆積している。

［出土遺物］ＰＩＴ２から円筒下層式土器片が出土している。また、ＰＩＴ４の１層から地文のみの胴部片、ＰＩＴ６の15層から円筒上層ｄ式の胴部片が出土した。また、堆積土中から二次調整のある剥片１点、砕片１点が出土している。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土遺物から円筒上層ｄ式かそれ以前の時期と思われる。

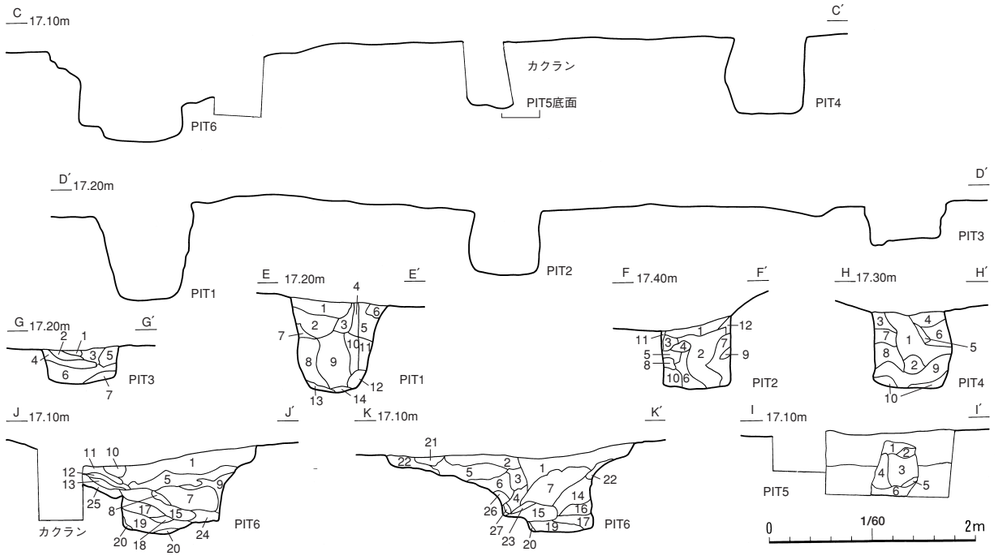
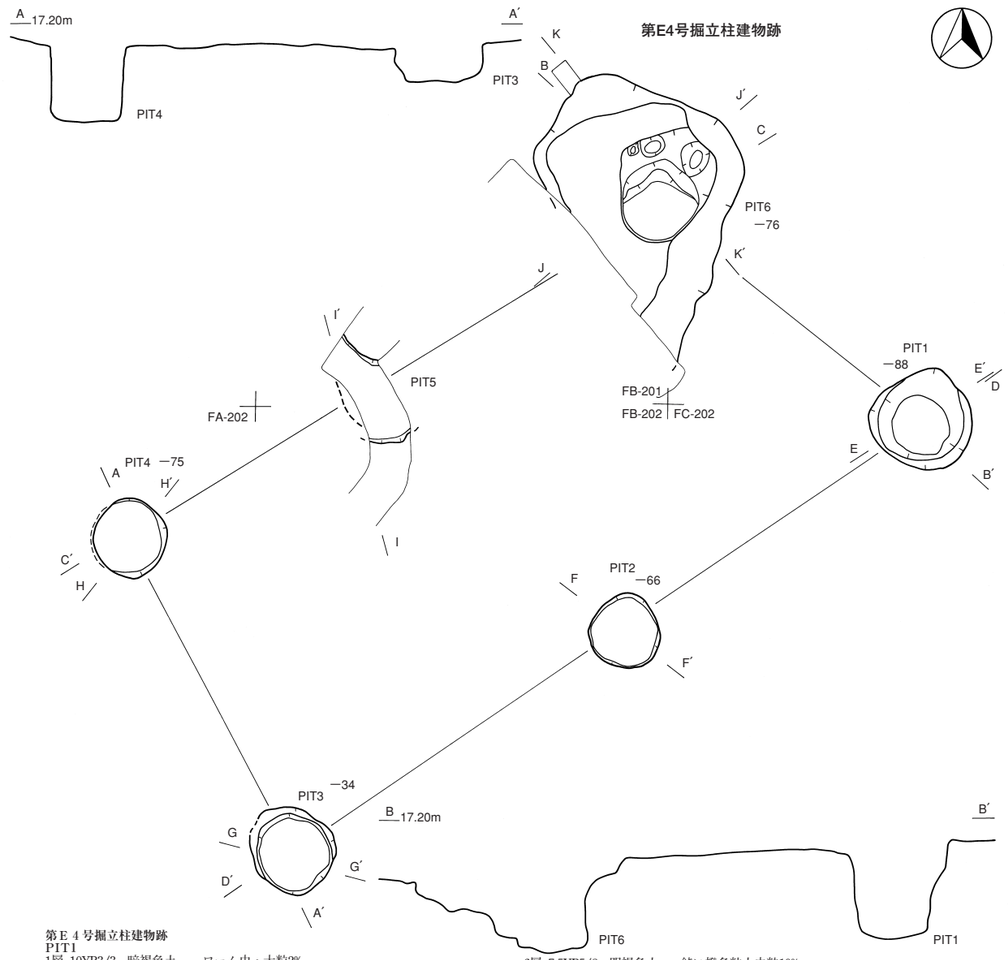


図68　第E4号掘立柱建物跡（1）



第Ｅ４号掘立柱建物跡

PIT1			
1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム中・大粒2%
2層	10YR3/4	暗褐色土	黒色土中塊10%、ローム中粒5%、ローム大粒3%
3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒・大粒2%
4層	10YR4/6	褐色土	ローム中粒2%
5層	10YR5/8	黄褐色土	ローム粒1%
6層	10YR2/3	黒褐色土	黄褐色土大塊20%、ローム中粒2%
7層	10YR2/2	黒褐色土	ローム大粒20%、
8層	10YR3/3	暗褐色土	V層土大塊50%
9層	10YR2/2	黒褐色土	ローム大粒5%、ローム中粒3%、焼土粒1%
10層	10YR3/4	暗褐色土	ローム大粒2%
11層	10YR4/6	褐色土	ローム中粒3%
12層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中粒2%
13層	10YR2/2	黒褐色土	ローム大粒1%
14層	10YR2/1	黒色土	ローム中粒2%
PIT2			
1層	10YR5/6	黄褐色土	粘土大塊3%、ローム粒・大塊2%、炭化物中粒・灰白色土粘土粒1%
2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒・塊7%、炭化物粒・塊2%、粘土中粒2%
3層	10YR4/6	褐色土	炭化物粒2%、黄褐色土粘土との混合土
4層	10YR5/4	鈍い黄褐色土	粘土層、炭化物粒2%、灰白色粘土中粒1%
5層	10YR4/4	褐色土	粘土大塊5%、炭化物大粒3%
6層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム粒・大粒10%、炭化物粒2%
7層	10YR4/6	褐色土	炭化物中粒5%、ローム中粒・大塊2%
8層	10YR5/6	黄褐色土	ローム主体層、暗褐色土大塊10%、粘土大塊5%
9層	10YR4/6	褐色土	黒褐色土5%、ローム中粒・大塊3%、炭化物中粒3%
10層	10YR2/2	黒褐色土	褐色土15%、ローム中粒・大塊10%、炭化物粒・中塊5%
11層	10YR5/8	黄褐色土	ローム主体土
12層	10YR4/6	褐色土	ローム塊・炭化物粒2%
PIT3			
1層	10YR3/4	暗褐色土	黒色土塊10%、ローム粒斑状3%
2層	10YR3/3	暗褐色土	黒色土塊・ローム中粒斑状3%
3層	10YR2/3	黒褐色土	黒色土中塊30%、ローム中粒斑状2%
4層	10YR3/2	黒褐色土	黒色土中塊20%、V層粘土大粒5%、ローム粒3%
5層	10YR4/6	褐色土	V層粘土大粒10%、ローム中粒斑状3%、
6層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒10%、黒色土中粒3%
7層	10YR2/1	黒色土	ローム粒3%
PIT4			
1層	10YR3/4	暗褐色土	明褐色土15%、褐灰色粘土10%
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中粒50%、ローム大粒10%
3層	10YR4/6	褐色土	黒褐色土40%、鈍い橙色粘土塊
4層	7.5YR4/6	褐色土	黄褐色土20%縞状、鈍い褐色粘土・ローム中粒10%
5層	7.5YR5/6	明褐色土	鈍い黄褐色土と混合土、炭化物粒3%
6層	7.5YR5/8	明褐色土	鈍い橙色粘土中粒10%
7層	10YR5/8	黄褐色土	暗褐色土・ローム粒10%
8層	10YR2/2	黒褐色土	黄褐色土30%斑状、ローム中粒5%
9層	10YR4/6	褐色土	明黄褐色粘土30%縞状、ローム中粒10%
10層	10YR2/1	黒色土	黄褐色土塊20%
PIT5			
1層	10YR5/6	黄褐色土	浮石中粒5%、炭化物中塊2%、粘土中塊1%
2層	10YR5/4	鈍い黄褐色土	炭化物中粒・ローム粒2%、
3層	7.5YR5/4	鈍い褐色土	黒褐色土10%、ローム中塊3%、V層粘土主体、炭化物粒・浮石中粒1%
4層	7.5YR5/4	鈍い褐色土	V層粘土主体、黒褐色土10%、炭化物粒・浮石粒・ローム粒1%
5層	10YR3/2	黒褐色土	粘土主体、ローム塊・炭化物粒1%
6層	10YR4/4	褐色土	V層粘土主体、黒褐色土5%、炭化物粒1%
PIT6			
1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒30%、白色浮石粒・炭化物粒20%
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒20%、炭化物粒10%
3層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒10%、炭化物粒5%
4層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中粒5%
5層	10YR3/4	暗褐色土	ローム中粒30%、炭化物粒5%
6層	10YR3/3	暗褐色土	ローム大粒10%
7層	10YR3/4	暗褐色土	ローム中粒・炭化物中粒30%、V層土中粒10%
8層	10YR4/4	褐色土	ローム粒50%
9層	10YR5/8	黄褐色土	ローム粒10%
10層	7.5YR5/6	明褐色土	V層土主体層、ローム中塊10%
11層	10YR4/6	褐色土	ローム大塊10%、明黄褐色粘土との混合層
12層	10YR5/8	黄褐色土	V層土中塊30%
13層	10YR4/4	褐色土	黒褐色土との混合層
14層	10YR4/6	褐色土	V層土中塊30%、ローム粒縞状10%
15層	10YR5/6	黄褐色土	V層土中塊40%、非常にかたくしまる
16層	7.5YR5/8	明褐色土	V層土主体層
17層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム中粒50%、明褐色粘土中粒20%
18層	10YR5/8	黄褐色土	V層土主体層
19層	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土との混合層、V層土大塊30%、ローム粒・炭化物粒10%、かたくしまる
20層	10YR2/1	黒色土	ローム中粒10%
21層	10YR6/6	明黄褐色土	ローム中粒30%、炭化物粒10%
22層	10YR7/8	黄橙色土	ローム粒5%
23層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒2%、非常にかたくしまる
24層	10YR4/4	褐色土	ローム中粒3%
25層	10YR5/8	黄褐色土	ローム粒5%
26層	10YR5/6	黄褐色土	ローム中粒20%、暗褐色土塊10%
27層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中塊10%、ローム大粒5%

図69　第E4号掘立柱建物跡（2）

第Ｅ５号掘立柱建物跡（図70）

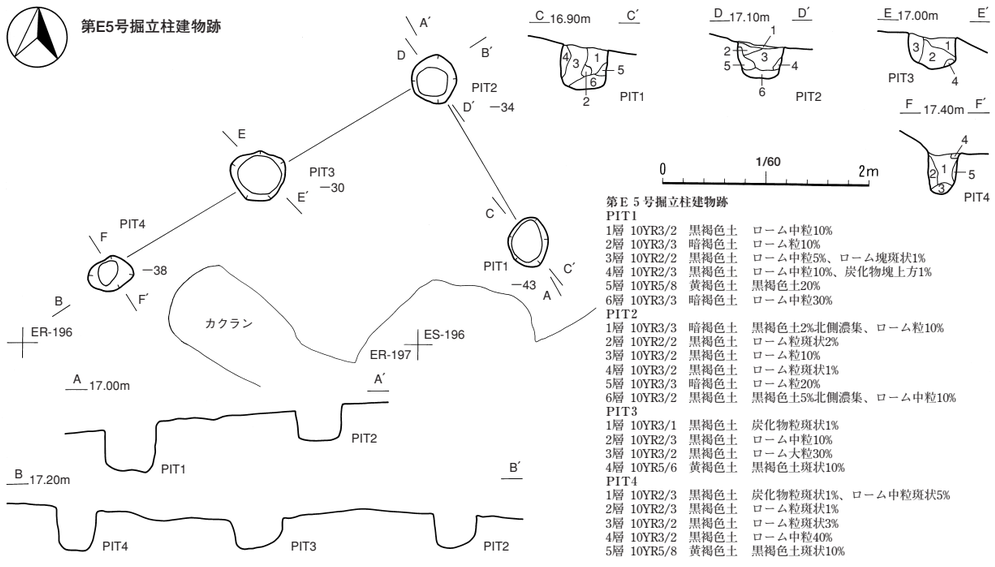
［位置・確認］標高18m前後の平坦地で、ＥＲ・Ｓ－196に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－79°－Ｅである。南側が大きく削平されており、ピット等は検出されなかった。

［平面形・規模］北東方向柱列、北西方向柱列で２間×１間の建物跡で、平面形は長方形と推定される。桁行長3.70m、梁行長1.86ｍ、柱穴間隔は、1.74ｍ～1.96ｍである。掘り方は、平面形が円形で、径44～52㎝、深さ30～44㎝である。PIT１～４は中位から下位に段を持ち、とくにPIT１・６は底面に柱痕が残存する。断面形状は、すべて底面から開口部に向かって直線的な形状である。底面は、やや起伏がみられる。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒が混入する。

［時期］本遺構の時期は、出土遺物がないため、時期決定の根拠に欠けるが、第Ｅ４号掘立柱建物跡と主軸方向がほぼ同じであるため、円筒上層ｄ式期かそれ以前の時期である可能性が高い。

第Ｅ６号掘立柱建物跡　欠番



第Ｅ５号掘立柱建物跡
PIT1
1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒10%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒10%
3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒5%、ローム塊斑状1%
4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中粒10%、炭化物塊上方1%
5層 10YR5/8 黄褐色土 黒褐色土20%
6層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒30%
PIT2
1層 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土2%北側濃集、ローム粒10%
2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒斑状2%
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒10%
4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒斑状1%
5層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒20%
6層 10YR3/2 黒褐色土 黒褐色土5%北側濃集、ローム中粒10%
PIT3
1層 10YR3/1 黒褐色土 炭化物粒斑状1%
2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中粒10%
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム大粒30%
4層 10YR5/6 黄褐色土 黒褐色土斑状10%
PIT4
1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物粒斑状1%、ローム中粒斑状5%
2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒斑状1%
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒斑状3%
4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒40%
5層 10YR5/8 黄褐色土 黒褐色土斑状10%

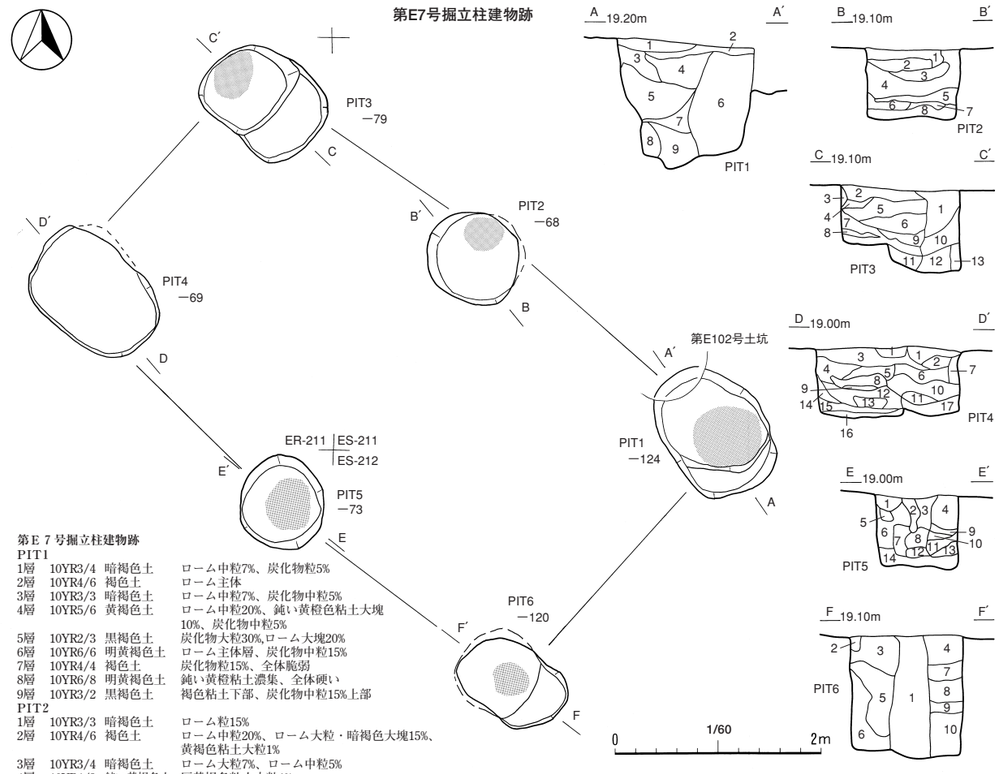
図70　第E5号掘立柱建物跡

第Ｅ７号掘立柱建物跡（図70）

［位置］標高18m前後の平坦地で、ＥＲ・Ｓ－211・212に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－133°－Ｅである。

［重複］第Ｅ102号土坑と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］北西方向柱列、北東方向柱列で２間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形であるが、中央のPIT２・５の柱痕が外側に広がる。桁行長5.52m、梁行長3.11m、柱穴間隔は、2.64m～3.25mである。掘り方は、平面形が円形のもの（PIT２・５）、隅丸長方形のもの（PIT１・３・４・６）で、円形のものが径92～94㎝、隅丸方形のものが最大1.32m、深さ69～124㎝である。PIT１～４は中



第Ｅ７号掘立柱建物跡
PIT1
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒7%、炭化物粒5%
2層 10YR4/6 褐色土 ローム主体
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒7%、炭化物中粒5%
4層 10YR5/6 黄褐色土 ローム中粒20%、鈍い黄橙色粘土大塊10%、炭化物中粒5%
5層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物大粒30%,ローム大塊20%
6層 10YR6/6 明黄褐色土 ローム主体層、炭化物中粒15%
7層 10YR4/4 褐色土 炭化物粒15%、全体脆弱
8層 10YR6/8 明黄褐色土 鈍い黄橙粘土濃集、全体硬い
9層 10YR3/2 黒褐色土 褐色粘土下部、炭化物中粒15%上部
PIT2
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒15%
2層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒20%、ローム大粒・暗褐色大塊15%、黄褐色粘土大粒1%
3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒5%
4層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 灰黄褐色粘土中粒1%
5層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒15%
6層 10YR4/6 褐色土 ローム粒10%
7層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒10%
8層 10YR5/8 黄褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒5%
PIT3
1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒10%、ローム大粒・炭化物中粒1%
2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒・黒色土大塊5%
3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム大粒1%
4層 10YR4/6 褐色土 暗褐色中塊7%、ローム中粒5%、
5層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土大塊10%、ローム大粒5%、ローム中粒5%
6層 10YR3/4 暗褐色土 褐色粘土大粒10%、ローム中粒7%
7層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土中粒3%、ローム粒7%、鈍い黄褐色粘土大粒1%
8層 10YR2/3 黒褐色土 鈍い黄褐色粘土大粒1ヶ、ローム粒7%
9層 10YR3/3 暗褐色土 ローム大粒10%、中粒5%
10層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中粒7%、褐色粘土大粒10%
11層 10YR4/6 褐色土 ローム粒7%、ローム大粒3%
12層 10YR4/4 褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒5%
13層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒10%
PIT4
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒10%、ローム中粒7%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大塊20%、ローム中粒10%、黄褐色粘土大粒7%
3層 10YR4/6 褐色土 ローム大粒30%、黒色土
4層 10YR4/4 褐色土 暗褐色大塊・ローム大粒20%、ローム中粒10%
5層 10YR5/8 黄褐色土 褐色粘土40%、ローム中粒10%
6層 10YR4/6 褐色土 黄褐色粘土30%、ローム中粒15%
7層 10YR3/4 暗褐色土 褐色粘土40%、ローム中粒10%
8層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒15%、黒褐色土中粒・ローム大粒10%、炭化物粒3%、褐色粘土大粒1%
9層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒7%
10層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒10%、黒色土粒7%、ローム大粒5%、鈍い黄褐色粘土大粒1%
11層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大塊10%、ローム中粒7%、炭化物粒3%
12層 10YR4/4 褐色土 ローム大粒40%、中粒10%、黒色土中粒5%
13層 10YR3/3 暗褐色土 ローム大粒30%
14層 10YR3/2 黒褐色土 褐色粘土40%、ローム中粒10%
15層 10YR5/8 黄褐色土 暗褐色粒7%
16層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大塊20%
17層 10YR4/4 褐色土 暗褐色大塊20%、ローム中粒7%、黄褐色粘土大粒1%
PIT5
1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒7%
2層 10YR4/4 褐色土 ローム大塊40%、鈍い黄褐色粘土大粒5%
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒15%、ローム大粒7%、
4層 10YR4/6 褐色土 鈍い黄褐色粘土大塊20%、ローム中粒15%、暗褐色中塊5%
5層 10YR5/4 鈍い黄褐色土
6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒10%、ローム大粒3%
7層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒7%、ローム大粒3%
8層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大粒3%、中粒10%、鈍い黄褐色粘土中粒1%
9層 10YR5/4 鈍い黄褐色土 暗褐色土大粒10%
10層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒7%
11層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒5%、鈍い黄褐色粘土大粒1%
12層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒5%、鈍い黄褐色粘土大粒1%
13層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中粒
14層 10YR4/6 褐色土 暗褐色中塊15%、鈍い黄褐色粘土大粒10%
PIT6
1層 10YR2/3 黒褐色土 中粒20%、ローム大粒10%、焼土大粒1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒3%
3層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 ローム大塊20%、ローム中粒10%、黒色土大粒5%
4層 10YR4/4 褐色土 ローム大塊30%、ローム粒7%、黒色土大粒1%
5層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒10%、黒色土大粒1%
6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒10%、ローム粒5%
7層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土大塊20%、ローム中粒15%
8層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒10%、黒色土大粒5%
9層 10YR2/2 黒褐色土 ローム大塊15%、ローム中粒7%、
10層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土大塊30%、ローム大粒20%、中粒7%、

図71　第E7号掘立柱建物跡

位から下位に段を持ち、とくにPIT１・６は底面に柱痕が残存する。断面形状は、すべて底面から開口部に向かって直線的な形状である。底面は、やや起伏がみられるものの全体的に平坦である。

［柱痕］柱痕と思われる痕跡はPIT４を除いたピットで確認されている。

［堆積土］最上部は黒褐色土主体であるが、堆積状況から、ロームブロック混じりの褐色土が堆積しているPIT１・５、柱痕と掘り方土が堆積しているPIT３・６、褐色土や黒褐色土が水平に堆積するPIT２・４に分けられる。PIT１・２・４・５は埋め戻された可能性がある。

［出土遺物］PIT２の１層から復元可能な円筒上層ｄ式又はｅ式土器が出土した。この土器はＥＳＢ９PIT２出土土器と接合した。PIT５の１層や堆積土中から円筒上層ｅ式や榎林式土器の口縁部片や胴部片が出土した。PIT６からも中期後葉の胴部片が出土した。

［時期］本遺構の時期は、榎林式期に近い時期と考えられる。堆積土中の柱痕の痕跡や底面の掘り込みから、概ね30～50㎝の丸木を柱としたことが想定される。柱を立てた後、周囲をローム混じりの土で固定したと思われる。PIT１・３・４・６の平面形状から立て替え等が行われた可能性がある。

第Ｅ８号掘立柱建物跡（図72・77）

［位置・確認］標高18m前後の平坦地で、ＥＰ～Ｒ－212・213に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－125°－Ｅである。

［重複］第Ｅ10・23号竪穴住居跡、第Ｅ63号土坑と重複し、第Ｅ10・23号竪穴住居跡より古く、第Ｅ63号土坑より新しい。

［平面形・規模］北西方向柱列、北東方向柱列で３間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形であるが、北西の梁行きが内側に偏り、若干狭くなっている。規模は、桁行長6.80m、梁行長2.77m、柱穴間隔は、北西側の桁行間隔が短く、1.60m～1.75m、これ以外は2.35m～2.71mである。掘り方は、平面形が円形のものがほとんどで、隅丸長方形基調のものはPIT７・８である。規模は長軸及び径が69～104㎝、深さ72～118㎝である。PIT１・６は底面がやや凹んで円形状になっている。断面形状は、すべて底面から開口部に向かって直線的な形状である。底面は、やや起伏がみられるものの全体的に平坦である。

［柱痕］柱痕と思われる痕跡はPIT１・２・４・６に堆積土中から確認できた。

［堆積土］柱痕と思われる黒褐色土とローム主体の掘り方土と思われる堆積状況がPIT１～４・６に見られる。柱の抜き取りの可能性がある。PIT５・７はロームブロック混じりの褐色土や黒褐色土が交互に堆積している。

［出土遺物］PIT１の２層から地文のみの胴部片が、PIT２の８・２層から円筒上層ｄ式土器の口縁部片が、１層などで円筒上層式や以後の大木系土器片が出土した。PIT３の２層から円筒上層ｅ式の胴部片などが、PIT６の７層から地文のみの胴部片が出土した。PIT４は胴部片の土器と剥片１点が出土している。

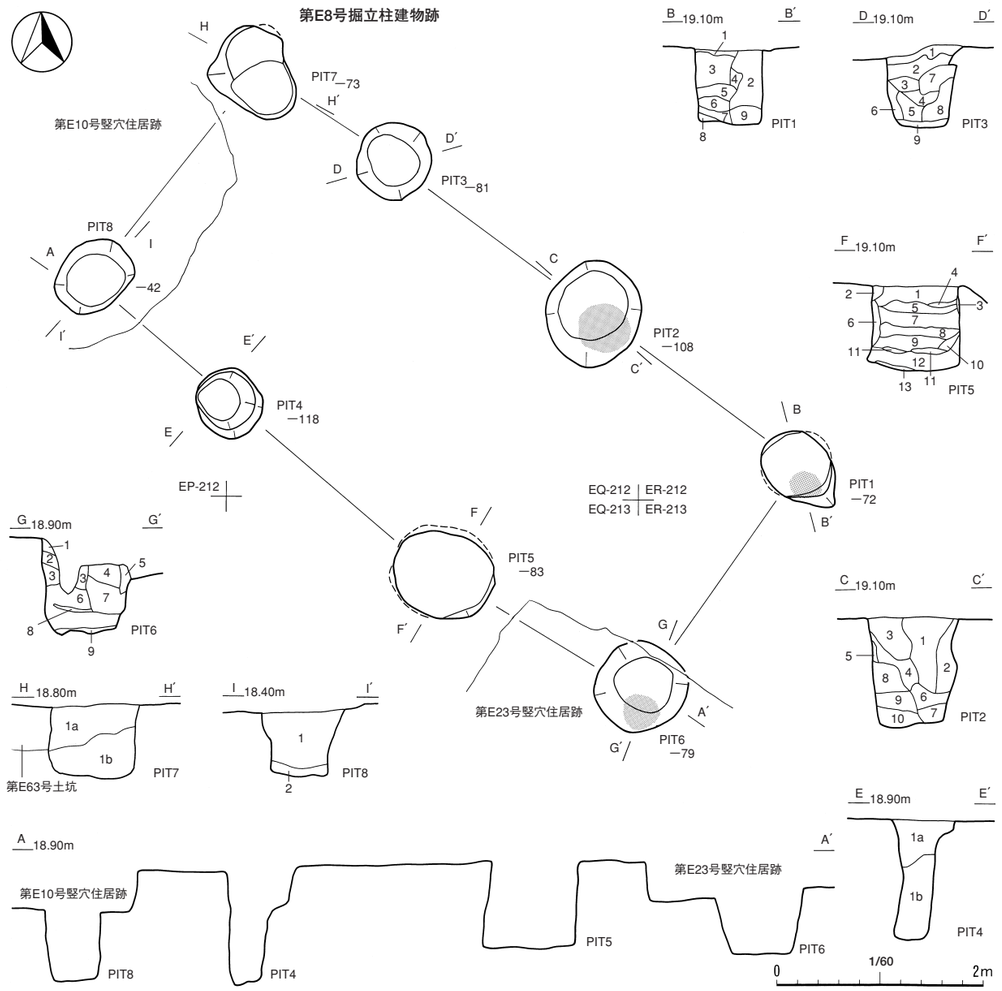
［時期］本遺構の時期は、堆積土出土遺物から、円筒上層ｄ・ｅ式期に近い時期と考えられる。（坂本）

第Ｅ９号掘立柱建物跡（図73・77・78）

［位置・確認］標高18m前後の平坦地で、ＥＲ・Ｓ－212に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－89°－Ｅである。

［重複］第Ｅ153号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］東西方向柱列、南北方向柱列で１間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形である。桁行長3.54m、梁行長2.76mである。掘り方は、平面形が円形のもの（PIT１・３・４）、隅丸長方形のもの（PIT２）で、円形のものが径59～87㎝、隅丸方形のものが98×64㎝で、深さ71～88㎝である。PIT２は下位に段を持ち、断面形状は、底面から開口部に向かって直線的な形状であるが、PIT１はやや開く。底面はほぼ平坦である。



第Ｅ８号掘立柱建物跡

PIT1
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒5%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒5%、炭化物粒3%
3層 10YR5/8 黄褐色土 ローム中粒・暗褐色大粒10%、鈍い黄褐色ローム大粒7%
4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒5%、ローム大粒3%
5層 10YR5/3 鈍い黄褐色土 粘土主体層、ローム粒10%
6層 10YR3/2 黒褐色土 ローム大粒20%
7層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒5%
8層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒3%
9層 10YR2/3 黒褐色土 ローム大粒5%、ローム中粒3%

PIT2
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒15%、ローム中粒・炭化物中粒2%、ローム大粒1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒20%、ローム中粒15%、ローム塊2%、ローム中塊・炭化物中粒1%
3層 10YR4/4 褐色土 ローム粒20%、ローム中粒15%、ローム大粒5%、粘土中塊・粒2%、粘土中粒・ローム中塊・炭化物中粒1%
4層 10YR4/4 褐色土 ローム粒15%、ローム中粒5%
5層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 ローム粒15%、ローム中粒5%
6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒15%、ローム中粒1%
7層 10YR5/3 鈍い黄褐色土 ローム粒15%、ローム中粒5%
8層 10YR4/6 褐色土 粘土大塊30%、粘土大粒・ローム中粒10%、ローム粒7%
9層 7.5YR4/6 褐色土 ローム中粒10%、ローム粒15%、粘土中粒3%、粘土大塊1%
10層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒15%、ローム粒・黒褐色土10%、粘土大塊1%

PIT3
1層 10YR4/4 褐色土 ローム粒7%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒15%、ローム中粒5%、粘土粒3%、炭化物粒2%、炭化物中粒・粘土大粒1%
3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒5%
4層 7.5YR4/3 褐色土 ローム粒20%
5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒7%
6層 10YR4/6 褐色土 ローム粒15%、ローム中粒5%、粘土粒3%、炭化物粒2%、炭化物中粒・粘土大粒1%
7層 10YR4/6 褐色土 ローム粒30%、ローム中粒3%、粘土中粒2%、粘土大粒1%
8層 10YR4/6 褐色土 ローム粒15%、ローム中粒10%、粘土中粒2%
9層 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土30%

PIT4
1a層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒15%、炭化物粒5%
1b層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒粒～大粒10%、炭化物粒3%

PIT5
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒10%
2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒5%
3層 10YR5/8 黄褐色土
4層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒3%
5層 10YR4/4 褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒10%
6層 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒3%
7層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒10%、ローム大粒7%、黒色中粒3%、鈍い黄褐色粘土大粒1%
8層 10YR3/3 暗褐色土 ローム大粒10%、ローム中粒7%
9層 10YR4/6 褐色土 ローム大粒7%、ローム中粒・黒色土中粒5%
10層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒5%、黒色土中粒1%
11層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒3%
12層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒3%
13層 10YR5/8 黄褐色土

PIT6
1層 10YR6/4 鈍い黄褐色土
2層 10YR6/8 明黄褐色土 ローム中粒30%、黒褐色土粒10%
3層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒20%、黒褐色土粒10%、炭化物中粒5%
4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒25%、炭化物粒10%
5層 10YR5/8 黄褐色土 ローム塊斑状
6層 7.5YR5/6 明褐色土 全体にローム質、黒色土10%
7層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中塊20%、炭化物粒15%
8層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒3%
9層 10YR2/2 黒褐色土

PIT7
1a層 10YR4/4 褐色土 暗黄褐色土10%、焼土5%、炭化物粒1%
2b層 10YR4/4 褐色土 炭化物粒・粘土1%

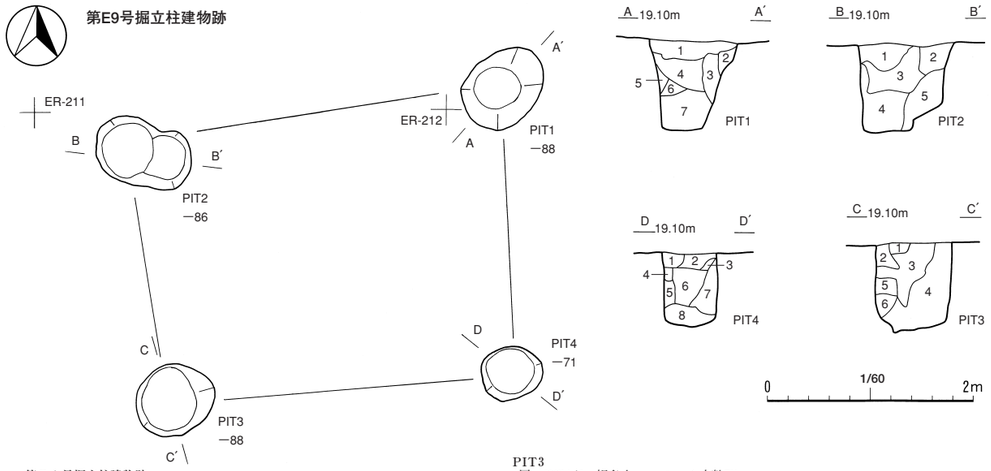
PIT8
1層 10YR4/6 褐色土 ローム塊主体層、浮石中粒～大塊30%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒5%

図72　第E8号掘立柱建物跡

［堆積土］PIT２～４は柱の抜き取り後、埋め戻しされた可能性がある。

［出土遺物］PIT１の１層から復元可能な円筒上層ｄ式又はｅ式土器や地文のみの胴部片と敲磨器１点(９)が出土した。PIT２からは地文のみの胴部片、PIT３からは円筒上層ｅ式の胴部片が出土した。

［時期］本遺構の時期は、円筒上層ｅ式期に近い時期と考えられる。（坂本）



第Ｅ９号掘立柱建物跡

PIT1
1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒10%、ローム中粒5%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム中粒3%、黒色土中塊5%
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒10%
4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒7%、黒色土粒3%
5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・大粒5%
6層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒5%
7層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中粒7%、ローム粒3%

PIT2
1層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒25%、炭化物粒3%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大塊下部濃集、炭化物粒3%
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒25%、炭化物粒15%、ローム中塊下部濃集
4層 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム中粒斑状、炭化物中粒10%
5層 7.5YR5/8 明褐色土 明褐灰色土粘土中粒1%、下部粘土大塊

PIT3
1層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒7%
2層 10YR4/4 褐色土 ローム大粒3%、中粒5%
3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大粒10%、ローム中粒15%
4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒・暗褐色大塊10%、ローム大塊7%、ローム大粒5%
5層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒10%、ローム大粒7%、黒色土大粒3%
6層 10YR2/3 黒褐色土 ローム大塊10%、大粒3%

PIT4
1層 10YR3/4 暗褐色土 黒色土大粒10%、ローム中粒3%、鈍い黄褐色粘土大粒1%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒7%
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒3%
4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒3%、ローム大粒1%
5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中粒3%
6層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒7%、ローム中粒3%
7層 10YR3/4 暗褐色土 ローム大塊20%、ローム中粒10%
8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒7%

図73　第E9号掘立柱建物跡

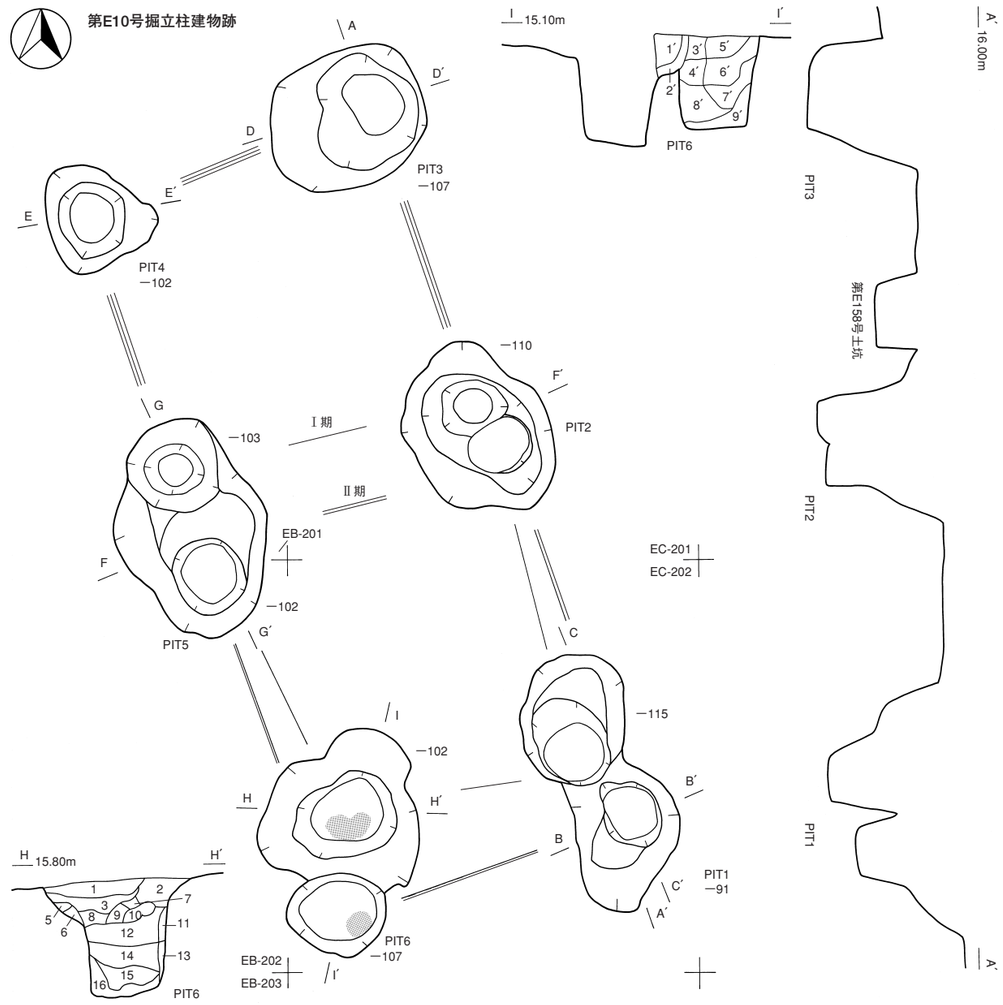
第Ｅ10号掘立柱建物跡（図74・75・78）

［位置・確認］標高15～16m前後の緩傾斜地で、ＥＢ・Ｃ－201・202に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－68°－Ｅである。２間×１間の建物跡で、一部共通の柱穴掘り方を使用し、ほぼ同じ位置に作り替えている。堆積状況から明確に新旧関係を把握できなかった。位置関係から推定される各期を便宜的にⅠ・Ⅱ期とする。

［平面形・規模］南北方向柱列、東西方向柱列で２間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形である。Ⅱ期の桁行長6.82m、梁行長2.90mである。Ⅰ期の桁行長6.3m、梁行長2.90mである。掘り方は、PIT3・4を除いて柱穴の作り替えがあり底面の規模は、ほぼ径34～75㎝で、深さは91～110㎝である。掘り方の断面形状は、すべてが上位から中位にかけて一部もしくは全体に段を持つ。底面から直線的に立ち上がる形状とやや開くように立ち上がる形状の２つのタイプがみられる。すべての掘り方底面はほぼ平坦である。

［柱痕］柱痕と思われる痕跡は、PIT６で確認され、径25～40㎝である。

［堆積土］すべてピット上位は黒褐色土主体であるが、中位から下位にかけてロームブロック・白色粘土ブロックを多量に混入した褐色土主体の堆積土であり、埋め戻しの可能性が高い。壁際にロームブロック混じりの堆積がみられる。PIT４は黒褐色土がほぼ水平に堆積する。



第Ｅ１０号掘立柱建物跡

PIT1
1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物粒10%、ローム粒5%
2層 10YR7/6 明黄褐色土 ローム層、焼土中粒5%、炭化物粒2%
3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム中粒50%、炭化物粒25%、焼土粒5%
4層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物粒下部20%、ローム粒10%、焼土粒3%
5層 10YR5/6 黄褐色土 ローム大塊30%、炭化物中粒・焼土粒10%
6層 10YR4/6 褐色土 ローム大塊50%、炭化物粒20%、焼土粒15%
7層 10YR6/8 明暗褐色土 白色粘土斑状、ローム大塊70%、下部黒色土
1′層 10YR4/4 褐色土 ローム25%、灰白色粘土中塊10%
2′層 10YR4/4 褐色土 ローム中粒10%、ローム中塊8%、灰白色粘土塊7%
3′層 10YR4/6 褐色土 ローム粒18%、ローム大塊15%、灰白色粘土塊5%、炭化物粒3%
4′層 10YR4/6 褐色土 ローム中塊13%、ローム中粒10%
5′層 10YR4/6 褐色土 ローム中塊10%、黒色土5%
6′層 10YR5/8 黄褐色土 鈍い黄褐色粘土大塊30%
7′層 10YR5/4 鈍い黄褐色粘土
8′層 10YR4/4 褐色土 ローム粒斑状12%、灰白色粘土塊8%、赤褐色焼土粒3%
9′層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒8%、ローム大塊5%、灰白色粘土中塊3%

PIT2
1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒3%
2層 10YR5/6 黄褐色土 炭化物中粒・焼土粒3%、ローム中粒2%
3層 10YR4/6 褐色土 ローム中粒・炭化物中粒・焼土中粒10%
4層 10YR7/8 黄橙色土 白色粘土大塊・ローム大粒25%、焼土中粒10%
5層 10YR4/4 褐色土 ローム大塊15%、炭化物中粒・焼土大粒5%、白色粘土大塊1%
6層 10YR6/6 明黄褐色土 白色粘土大塊・ローム中塊15%、炭化物粒10%、焼土粒5%
7層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 ローム中塊20%、焼土中粒1%、白色粘土大塊上部1%
8層 10YR6/4 鈍い黄橙色土 白色粘土大塊20%、炭化物粒・焼土粒5%

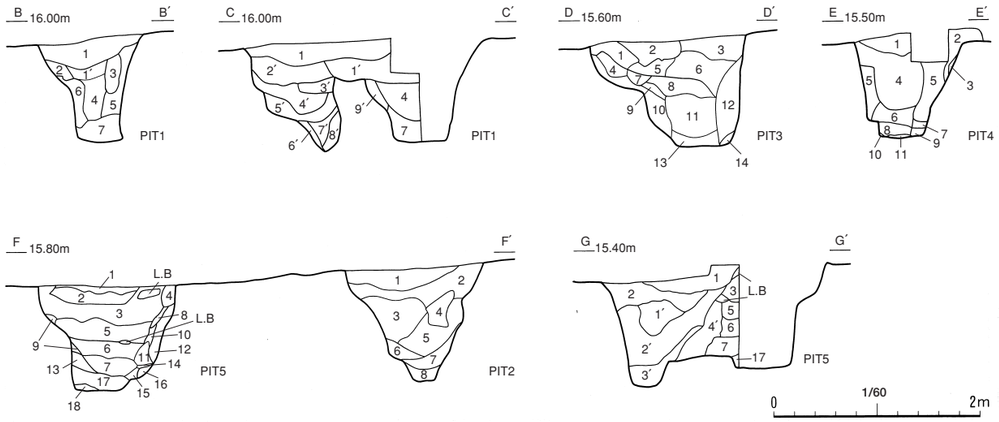
PIT3
1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒5%
3層 10YR4/6 褐色土 ローム層、炭化物粒5%
4層 10YR4/4 褐色土 ローム粒3%、炭化物粒2%、下部に焼土粒
5層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 炭化物粒5%、白色粘土・焼土粒3%
6層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム中粒10%、炭化物中粒5%
7層 10YR5/3 鈍い黄褐色土 焼土中粒3%、炭化物粒・ローム大塊1%
8層 10YR5/3 鈍い黄褐色土 白色粘土大粒・ローム大粒20%、炭化物中粒・焼土中粒10%
9層 10YR7/8 黄橙色土 炭化物粒1%、黒色土
10層 10YR7/6 明黄褐色土 ローム層、白色粘土塊1%
11層 10YR5/4 鈍い黄褐色土 白色粘土大粒・焼土大粒・ローム大塊20%、炭化物粒10%
12層 10YR8/8 黄橙色土 白色粘土、ローム層
13層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒3%
14層 10YR2/2 黒褐色土

PIT4
1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒3%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒2%・炭化物粒・焼土粒2%
3層 10YR4/6 褐色土 ローム層、炭化物粒2%
4層 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土中粒・ローム大塊20%、炭化物粒15%、白色粘土粒10%、炭化物粒濃集
5層 10YR4/3 鈍い黄褐色土 焼土粒25%、白色粘土塊・ローム中粒・焼土中粒20%、炭化物粒15%
6層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒濃集、炭化物粒・焼土粒10%
7層 7.5YR3/2 黒褐色土 炭化物粒5%、ローム粒・焼土粒3%、黒色土
8層 10YR4/2 灰黄褐色土 下部ローム層、炭化物粒15%、炭化物挟在
9層 7.5YR3/2 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒20%
10層 10YR3/1 黒褐色土 黒色土・ローム塊1%
11層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム層、黒色土

図74　第E10号掘立柱建物跡（1）

［出土遺物］ＰＩＴ１の２層から円筒上層ｄ式、ｅ式の土器片が出土した。PIT２の確認面から球状の敲き石や地文のみの胴部片が出土した。PIT３確認面からは円筒上層ｄ式又はｅ式土器の口縁部片や、断面形状が五角形の棒状の磨り石が出土した。PIT５底面からは無文の胴部片、１層からは円筒上層ｄ式又はｅ式土器の胴部と底部片が出土した。このほか縁辺を使用した敲き石、器面全体を研磨された小型球状円礫が出土した。PIT６の１層から円筒上層ｅ式土器の胴部片が出土した。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土遺物から、円筒上層ｄ・ｅ式期に近いと考えられる。　（坂本）



PIT5
1層　10YR2/2　黒褐色土　　ローム粒5%、炭化物粒・焼土粒3%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色土
3層　10YR3/3　暗褐色土　　全体的に白色粘土5%、ローム粒10%、炭化物粒10%、焼土粒5%
4層　10YR4/6　褐色土　　焼土粒上部濃集、ローム粒・炭化物粒3%
5層　10YR3/4　暗褐色土　　黒色土、焼土粒上部50%
6層　10YR6/8　明黄褐色土　　ローム大塊・白色粘土大塊50%、炭化物中粒20%、焼土粒10%、黒色土
7層　10YR3/2　黒褐色土　　ローム大塊20%、白色粘土中塊10%、炭化物粒2%、焼土粒20%
8層　10YR7/6　明黄褐色土　　白色粘土・ローム大粒50%、焼土粒10%、炭化物粒5%
9層　10YR3/2　黒褐色土　　ローム粒3%、炭化物粒・焼土粒2%
10層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　　ローム中塊50%、炭化物粒5%
11層　10YR4/2　灰黄褐色土　　ローム大塊50%、炭化物粒30%、焼土粒15%
12層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　　上部ローム層、ローム粒・炭化物粒・焼土粒2%
13層　10YR8/6　黄橙色土　　全体ローム層、白色粘土20%、焼土中粒5%、炭化物粒3%
14層　10YR4/2　灰黄褐色土　　上部に炭化中粒
15層　7.5YR4/2　灰褐色土　　ローム粒10%、炭化物粒10%、焼土粒下部濃集
16層　10YR7/6　明黄褐色土　　ローム中粒50%、炭化物粒3%、焼土粒3%
17層　7.5YR3/3　暗褐色土　　ローム中塊・炭化物粒20%、白色粘土大塊左側
18層　7.5YR2/3　極暗褐色土　　炭化物中粒下部・焼土中粒20%、ローム粒3%
1′層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム粒12%、ローム中塊・灰白色粘土塊7%
2′層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム粒12%、灰白色粘土塊7%、ローム中粒5%、炭化物中粒3%
3′層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム中粒12%、炭化物粒5%
4′層　10YR4/4　褐色土　　ローム中粒15%、灰白色粘土塊10%

PIT6
1層　10YR2/1　黒色土　　炭化物粒30%、焼土粒20%、ローム粒5%
2層　10YR4/4　褐色土　　ローム中粒20%、炭化物粒・焼土粒15%
3層　10YR5/3　鈍い黄褐色土　　ローム中粒・炭化物粒15%、焼土粒10%
5層　10YR4/2　灰黄褐色土　　炭化物粒5%、焼土粒2%、ローム粒1%
6層　10YR6/8　明黄褐色土　　ローム主体
7層　10YR4/6　褐色土　　ローム粒20%、炭化物粒5%、焼土粒2%
8層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　焼土中粒10%、ローム大塊・中粒・炭化物中粒5%
9層　10YR6/6　明黄褐色土　　灰白色粘土下部濃集、炭化物・焼土粒2%
10層　10YR8/6　黄橙色粘土　　白色粘土
11層　10YR5/8　黄褐色土　　ローム層
12層　10YR3/3　暗褐色土　　焼土粒20%、ローム中塊・炭化物粒15%
13層　10YR7/8　黄橙色土　　白色粘土大塊、焼土粒3%
14層　10YR5/6　黄褐色土　　ローム大塊上部濃集、白色粘土大塊上部狭在、焼土大塊20%、炭化物中粒15%
15層　10YR3/2　黒褐色土　　ローム大塊50%、黒色土全体、炭化物粒・焼土粒10%
16層　7.5YR4/4　褐色土　　ローム層主体、ローム中塊50%、炭化物粒・焼土中粒15%、黒色土
1′層　10YR6/4　鈍い黄橙色土　　白色粘土中塊3%
2′層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　白色粘土大塊～粒7%
3′層　10YR3/4　暗褐色土　　白色粘土塊5%、炭化粒1%
4′層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム粒・炭化物粒1%
5′層　10YR4/4　褐色土　　V層土塊・白色粘土塊7%、炭化粒1%
6′層　10YR4/4　褐色土　　白色粘土中塊・炭化粒1%
7′層　10YR4/4　褐色土　　炭化粒1%
8′層　10YR4/4　褐色土　　ローム塊1%
9′層　10YR4/4　褐色土　　ローム粒・炭化粒1%

図75　第E10号掘立柱建物跡（2）

第Ｅ11号掘立柱建物跡（図76・78）

［位置・確認］標高15～16ｍ前後の緩傾斜地で、ＥＡ・Ｂ－204に位置する。Ⅳ層上面で検出した。長軸方向はＮ－82°－Ｅである。

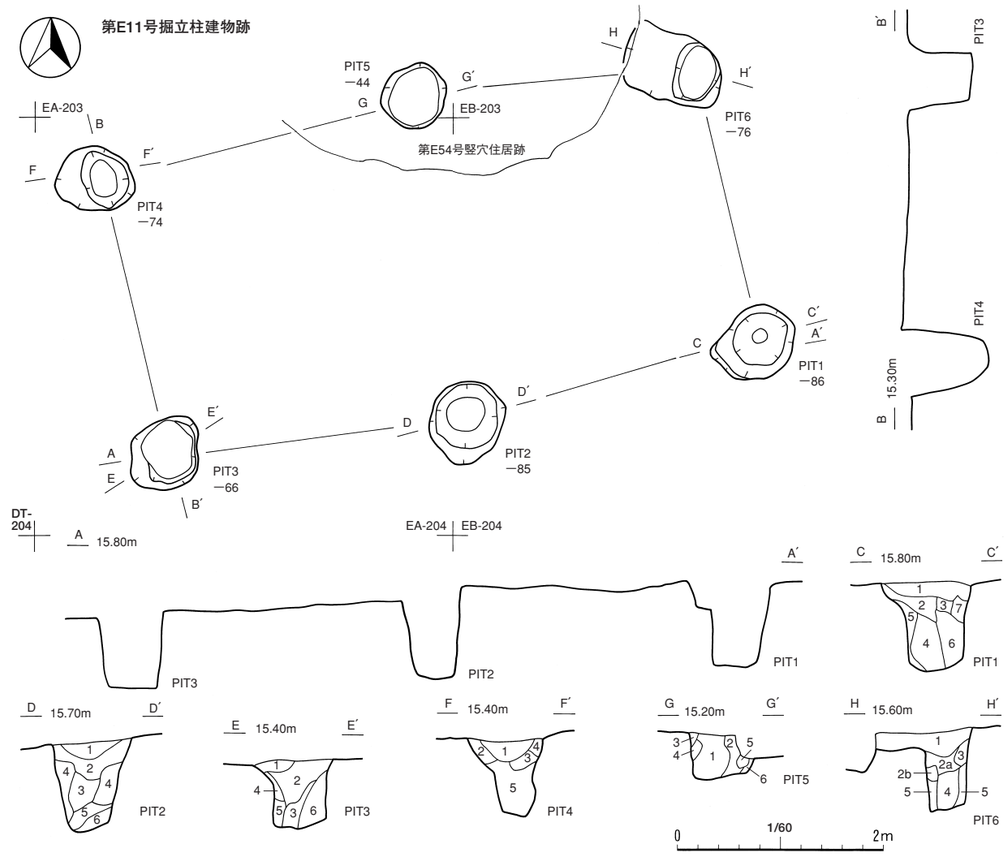
［重複］第Ｅ54号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］東西方向柱列、南北方向柱列で２間×１間の建物跡で、平面形はほぼ長方形であるが、ややPIT６が内側に偏る。桁行長5.84ｍ、梁行長2.68ｍ、柱穴間隔は、2.46ｍ～3.22ｍである。掘り方は、平面形がほぼ円形で、径64～84㎝、確認面からの深さ66～86㎝である。PIT1～4・6の上部に段を持ち、中位から底面にかけてほぼ直線的に掘り込まれる。底面は、柱痕のあったと推定される場所を中心に凹んでいる。

［柱痕］柱痕と思われる痕跡はPIT１～３に底面が凹んだ状態になっているのが確認されている。このほか、堆積土中から確認できるものがPIT６である

［堆積土］黒褐色土主体であるが、中位から下位にかけてPIT１・３・６に柱痕を抜きとった痕跡及び壁際にロームブロック混じりの堆積がみられる。PIT４は黒褐色土がほぼ水平に堆積する。

［出土遺物］PIT１の１・２層から円筒上層ｅ式土器片が、PIT２からは円筒上層ｄ式の胴部片が出土した。PIT５の２層、PIT６の14・16層からは円筒上層ｄ式又はｅ式土器片が出土した。また、PIT



第Ｅ11号掘立柱建物跡
PIT1
1層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム粒3%、根のカクラン若干あり
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　　ローム土との混合土、炭化粒1%
3層　10YR4/6　褐色土　　ロームとの混合土
4層　10YR2/3　黒褐色土　　炭化粒1%
5層　10YR3/4　暗褐色土　　炭化粒・ローム中塊1%
6層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　ローム中塊と黒褐色土が全体に混じる
7層　10YR5/6　黄褐色土　　壁の崩落土
PIT2
1層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム粒3%、炭化粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　　ローム中塊・炭化粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム粒3%
4層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　ローム中塊と黒褐色土の混合土
5層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム粒1%
6層　10YR2/3　黒褐色土
PIT3
1層　10YR6/4　鈍い黄橙色土　　ローム大塊
2層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム中塊～粒5%
3層　10YR3/4　暗褐色土　　ローム粒5%
4層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　ローム粒全体に
5層　10YR6/6　明黄褐色土　　ローム粒5%
6層　10YR5/3　鈍い黄褐色土　　炭化粒1%
PIT4
1層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム中塊1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　　ローム中塊3%
3層　10YR4/4　褐色土　　黒褐色土との混合土
4層　10YR4/6　褐色土
5層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム粒1%
PIT5
1層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム中粒3%、黒色土斑状、上部ローム硬化面
2層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム中粒3%
3層　10YR3/4　暗褐色土　　ローム粒全体
4層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　ローム主体、暗褐色土
5層　10YR6/4　鈍い黄橙色土　　ローム主体
6層　10YR3/4　暗褐色土　　ローム中粒3%
PIT6
1層　10YR3/3　暗褐色土　　ローム粒3%、黄褐色土との混合土
2a層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム粒5%、炭化粒3%
2b層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム粒3%
3層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　　ローム中粒7%
4層　10YR2/1　黒色土　　ローム粒1%
5層　10YR2/3　黒褐色土　　ローム粒～中粒3%

図76　第E11号掘立柱建物跡

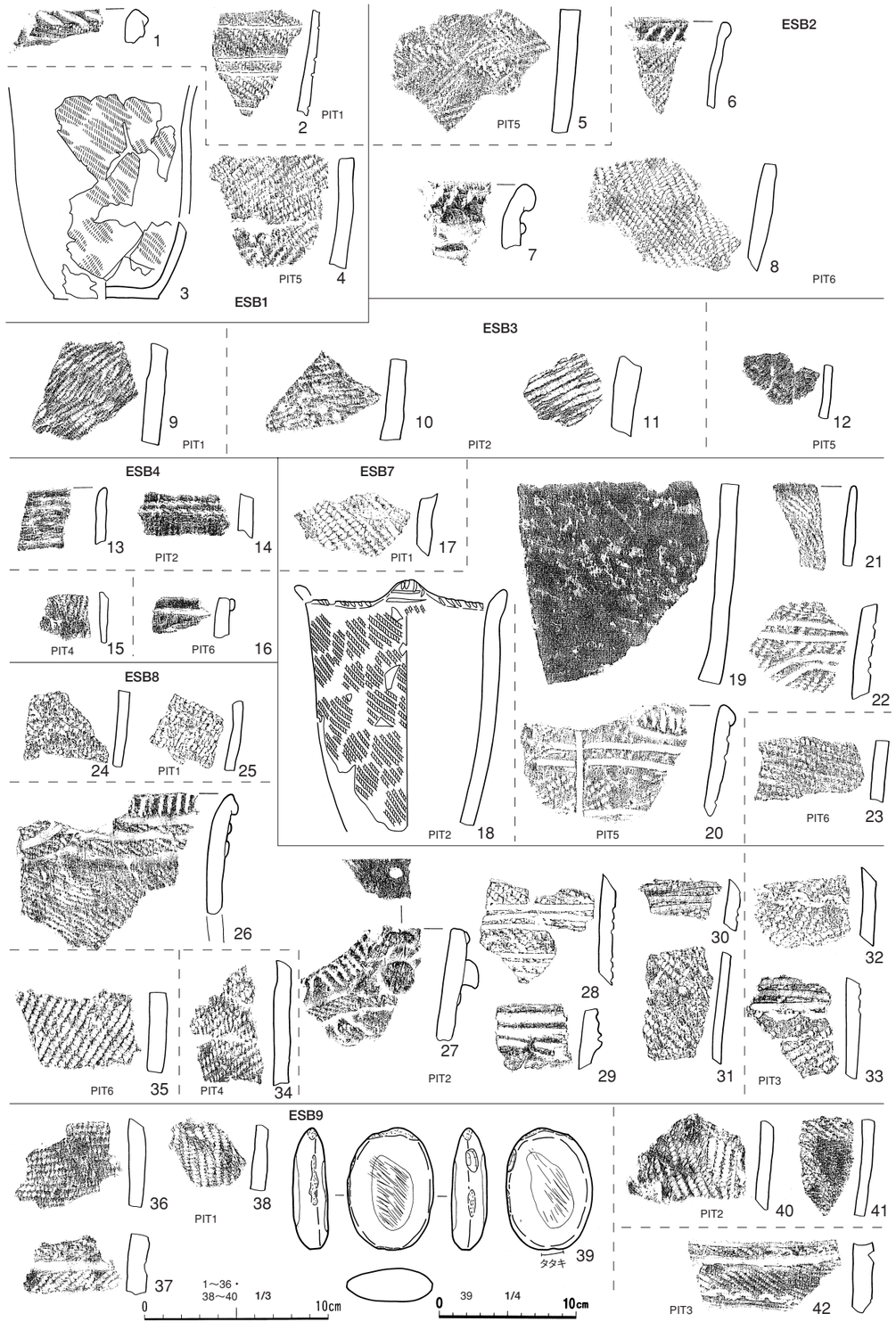


図77　掘立柱建物跡出土遺物（1）

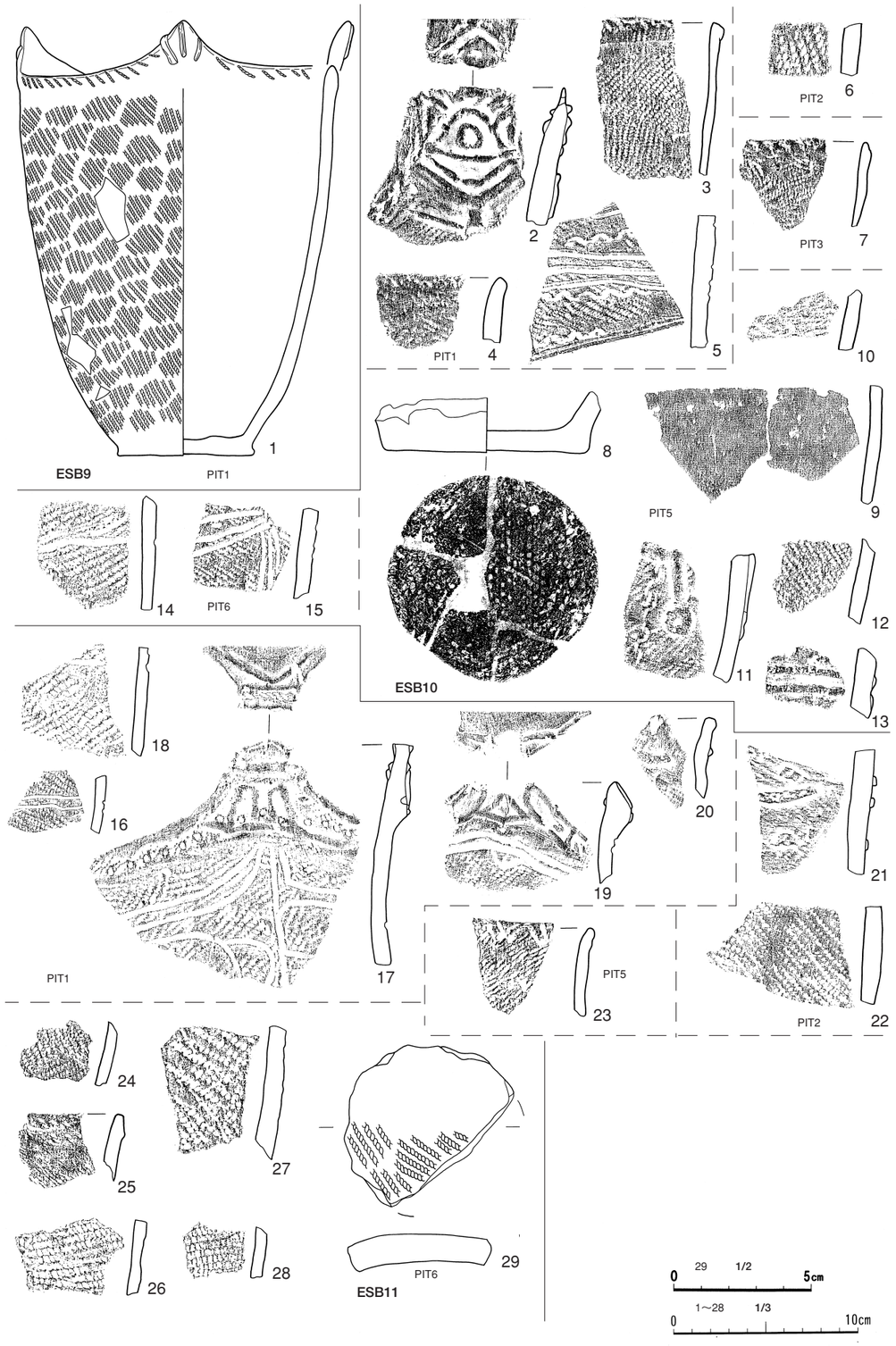


図78　掘立柱建物跡出土遺物（2）

６の２層中から、土器片円盤が１点出土した。深鉢形の胴部破片を用いており、周縁を打ち欠いている。器表面には炭化物の付着が見られる。

［時期］本遺構の時期は、堆積土出土遺物から円筒上層ｄ式又はｅ式期と考えられる。　（坂本）

第３節　縄文時代の土器埋設遺構

第Ｅ１号土器埋設遺構（図79）

［位置・確認］ＦＢ－203に位置する。Ⅲ層上面で輪状の土器胴部を検出し確認した。

［掘り方・堆積土］　径約30㎝の円形に掘り込んだ後、掘り方底面に接して土器を埋設させている。土器内堆積土及び掘り方埋土は黒褐色土主体で周辺の土と類似している。

［土器］　深鉢形土器の胴部下から底部が正位状態で埋設されている。土器内から遺物は出土せず、底部や胴部に穿孔は見られない。

［時期］本遺構の時期は、土器の特徴から縄文時代前期後半と考えられる。

第Ｅ２号土器埋設遺構（図79）

［位置・確認］ＦＢ－202に位置する。Ⅲ層上面で輪状の土器割れ口を検出した。

［掘り方・堆積土］　径約35㎝の楕円形状に掘り込んだ後、掘り方底面に厚さ５㎝程土を入れて埋設させている。上部の状態は明瞭ではないが、おそらく壁と土器の隙間にも土を入れて埋設させたと思われる。土器内堆積土と掘り方埋土の区別はつかなかった。

［土器］　深鉢形土器の底部が、やや傾いた正位状態で埋設されている。土器内から遺物は出土せず、底部には穿孔などはみられない。

［時期］本遺構の時期は、土器の特徴から縄文時代前期後半と考えられる。

第Ｅ３号土器埋設遺構（図79）

［位置・確認］ＥＴ－195に位置する。Ⅲ層上面で輪状の土器口縁部を検出した。

［重複］第Ｅ45号竪穴住居跡と隣接する。第Ｅ45号竪穴住居跡の廃絶後に埋設されており、本遺構が新しい。

［掘り方・堆積土］　径約35㎝の円形に掘り込んだ後、掘り方底面に接して土器を埋設させている。土器内堆積土及び掘り方埋土は黒褐色土主体で周辺の土と類似しているが、土器内堆積土の確認面及び中位で焼土粒が混入している。

［土器］　土器は深鉢形土器の口縁から底部にかけての部位でほぼ完形である。検出時は５～10㎝の破片状態であった。正位で埋設されており、底部や胴部に穿孔はみられない。１層からは二次調整のある剥片１点、４層より剥片１点、片面が丁寧に研磨された磨り石（79－4）が出土した。

［時期］本遺構の時期は、土器の特徴から円筒上層ｄ式期である。　（坂本）

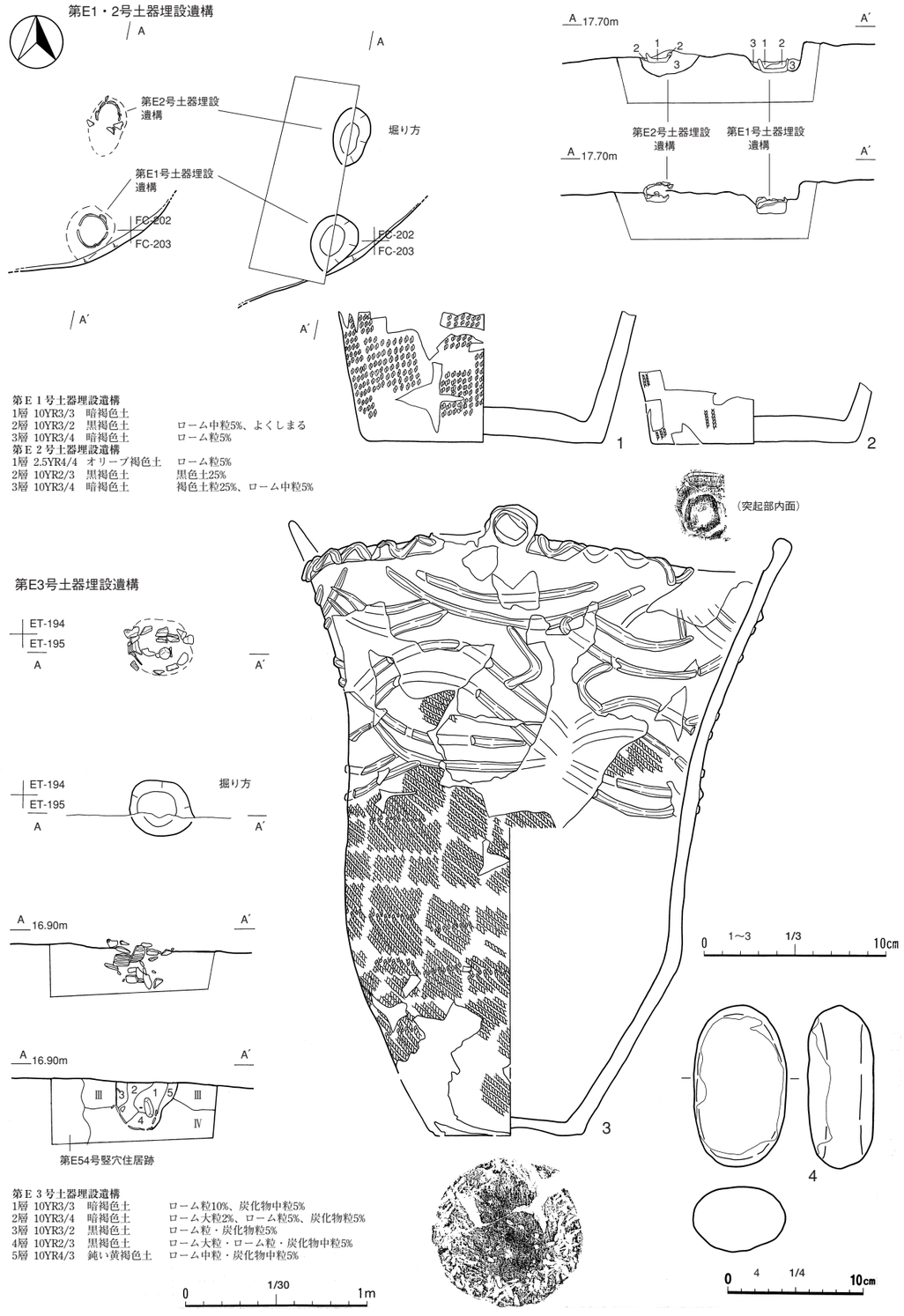


図79　第E1～3号土器埋設遺構